熊本県文化財調査報告第273集

花岡古町遺跡

芦北球磨線緊急地方道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

2012. 3

熊本県教育委員会

熊本県文化財調査報告第273集

花岡古町遺跡

芦北球磨線緊急地方道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

2012. 3

熊本県教育委員会

花岡古町遺跡の発掘調査でわかったこと

花岡古町遺跡で調査をした場所は、新しく南九州西回り自動車道路をつくるために、今まであった道路を新たにつくったり、広くしたりするところです。それらをつくることで、地面の下にある昔の人たちが生活したあとがなくなってしまうので、その前に発掘調査をしました。

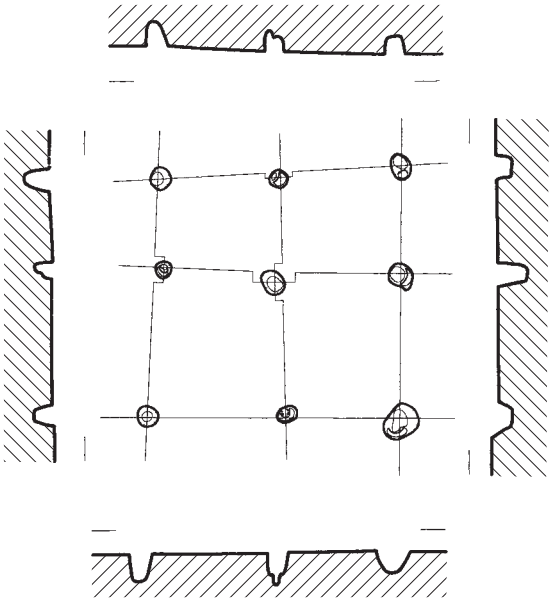
花岡古町遺跡は、薩摩街道と相良街道の交わる所で、古くから陸と海の交通の要となっていたところです。発掘調査では、中世の集落跡が見つかりました。遺跡内からは地面に穴を掘り、そこに柱を立てた掘立柱建物や井戸のあと、溝や大きい穴などのほかに、この集落で生活をしていた人々のお墓がありました。また、食器や煮炊きに使われた土師器という素焼きした赤褐色の土器や、輸入陶磁器や古銭も多数出土しました。これらの遺物はこの集落に住んでいた人々が日常的に使っていたものと考えられます。

これらのことから、花岡古町遺跡が、当時さかんに貿易をしていた港町として賑わっていた様子を知ることができます。

遺構のせつめい

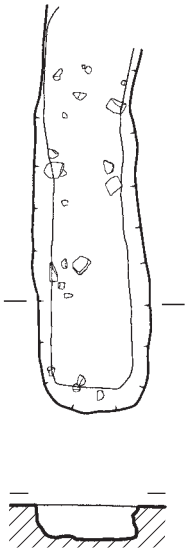
【掘立柱建物跡】

人々が住んでいた家のあと



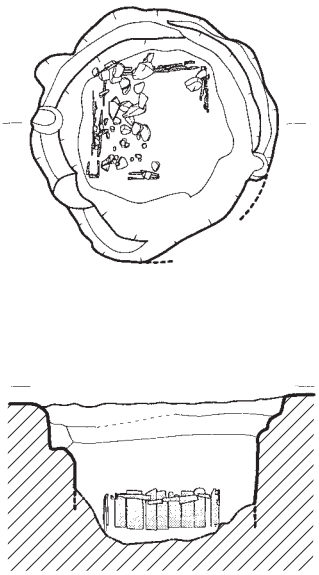
【溝跡】

水が流れていた道



【井戸跡】

飲み水などをくみ上げていた場所



真上からみた図と断面図

空撮１　花岡古町遺跡周辺写真（佐敷城跡側より。奥は佐敷東の城跡）右上は現状（2011.10）

空撮２　花岡古町遺跡全景写真（東側より）

序　文

熊本県教育委員会では、平成15年度から17年度にかけて芦北球磨線緊急地方道路整備事業として、葦北郡芦北町大字花岡字竹下に所在する花岡古町遺跡の発掘調査を実施しました。

発掘調査の結果、近世から古墳時代まで様々な遺構が発見できました。特に、中世の掘立柱建物跡35棟、柵列跡８基、溝跡10条、井戸跡６基、土壙墓４基、土坑134基、不明遺構２基が確認できました。

これらの調査成果が、学術的資料としてのみならず、皆様の文化財保護への理解を深めていただくための資料となれば幸いです。

最後になりましたが、調査の円滑な実施に御理解と御協力を賜りました関係機関、地元の方々に対して厚く御礼申し上げます。

平成24年３月23日

熊本県教育長　山本　隆生

例　言

1　本書は、熊本県葦北郡芦北町大字花岡に所在する花岡古町遺跡の埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
2　調査は、芦北球磨線緊急道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査として熊本県土木部の依頼を受け、平成15年度～17年度（2003～2005年）に熊本県教育委員会が実施した。
3　整理・報告書作成は、平成18年度～23年度（2006～2011年）にかけて文化財資料室で行った。
4　検出遺構の実測・撮影は調査担当者が担当し、遺跡の空中写真撮影は、九州航空株式会社熊本営業所に委託した。
5　本文の執筆は、西住欣一郎、廣田静学、木村元浩が担当した。
6　出土遺物の実測は、西住、川井田久子、宮崎典子、府内博子、手嶋裕子、松本裕子が担当し、一部を株式会社九州文化財研究所に委託した。
7　遺物の製図は、佐藤淳子、府内、川井田、宮崎が担当した。
8　遺物の撮影は村田百合子が行い、丸山勉、上田佳奈子が補助した。
9　鉄器・古銭処理は今田里枝、大塚トシ子が担当した。
10　調査及び整理報告で、指導・助言を頂いた方々の所在は当時のままで掲載している。
11　本書の編集は、熊本県教育庁文化課で行い、西住・廣田・木村が担当し、佐藤が補助した。
12　出土遺物・写真・図面等は、熊本県文化財資料室（熊本市城南町沈目1667）で保管している。

凡　例

1　遺跡の座標については、世界測地系（日本測地系2000）を用いている。方位については、座標軸を基準とした座標北を指している。
2　現地での遺構の実測は、原則20分の１の縮尺で行った。報告書に掲載した遺構の実測図の縮尺は、遺構により80分の１や40分の１と不統一であり、それぞれに記載した。
3　検出した遺構には遺構の種別として、掘立柱建物（SB）柵列（SA）を使用したが、その他溝・井戸・土壙墓・土坑等には、Ｓ番を付し表記している。
4　出土遺物の実測は原寸で行い、報告書に掲載した実測図の縮尺は以下のとおりである。
　土器：３分の１　鉄器：２分の１及び３分の１　石器：２分の１から４分の１
　土錘：３分の２　装身具と古銭の拓本：原寸
5　石錘の新しい欠損はアミかけで砥石の使用範囲は矢印で表記している。
6　土層の色調については、『新版　標準土色帖』（1967年　農林水産省農林水産技術会議事務局監修）に従った。

本　文　目　次

口絵
序文
例言・凡例
目次

第１章　調査の経緯と経過 …… 1
第１節　調査に至る経過 …… 1
第２節　調査の組織 …… 1
第３節　調査の方法と経過 …… 2
第２章　位置と環境 …… 5
第１節　地理的環境 …… 5
第２節　歴史的環境 …… 8
第３章　調査の成果 …… 10
第１節　調査の概要 …… 10
第２節　Ⅰａ区・Ⅲ区の調査 …… 13
１．遺構分布 …… 13
２．遺構・遺物 …… 13
３．その他 …… 32
第３節　Ⅰｂ区の調査 …… 35
１．遺構分布 …… 35
２．遺構・遺物 …… 35
３．その他 …… 55
第４節　Ⅱ区・Ⅳｂ区の調査 …… 56
１．遺構分布 …… 56
２．遺構・遺物 …… 56
３．その他 …… 74
第５節　Ⅳａ区の調査 …… 77
１．遺構分布 …… 77
２．遺構・遺物 …… 77
３．その他 …… 81
第６節　Ⅴａ区の調査 …… 82
１．遺構分布 …… 82
２．遺構・遺物 …… 82
３．その他 …… 100
第７節　Ⅴｂ区の調査 …… 107
１．遺構分布 …… 107
２．遺構・遺物 …… 107
３．その他 …… 116
第８節　Ⅵ区の調査 …… 117
１．遺構分布 …… 117
２．遺構・遺物 …… 117
３．その他 …… 130
第４章　総　括 …… 131
第１節　調査成果のまとめ …… 131
第２節　歴史的・地理的環境からみた遺跡の性格 …… 132

引用参考文献 …… 133
遺物観察表 …… 134
写真図版
あとがき
報告書抄録

挿　図　目　次

第１図　花岡古町遺跡周辺遺跡地図（S=1/50,000）…… 6
第２図　花岡古町遺跡調査位置図（S=1/2,000）…… 11
第３図　花岡古町遺跡グリッド配置図（S=1/1,000）…… 12
第４図　Ⅰａ区遺構配置図（S=1/250）…… 14
第５図　Ⅲ区遺構配置図（S=1/250）…… 15
第６図　Ⅰａ区掘立柱建物跡（SB24・26）実測図…… 16
第７図　Ⅰａ区掘立柱建物跡（SB28・29）実測図…… 17
第８図　Ⅰａ区掘立柱建物跡（SB27）実測図…… 18
第９図　Ⅰａ・Ⅲ区掘立柱建物跡（SB53・48）実測図及び出土遺物実測図…… 19
第10図　Ⅰａ・Ⅲ区柵列跡（SA06・07・08・18・20）実測図…… 20
第11図　Ⅰａ区溝跡（S18）実測図及び出土遺物実測図…… 22
第12図　Ⅰａ区溝跡（S71）・土坑（S77）実測図及び出土遺物実測図…… 23
第13図　Ⅰａ区井戸跡（S65）・土坑（S87・88）実測図…… 24
第14図　Ⅰａ区土坑（S68・25）実測図及び出土遺物実測図…… 25
第15図　Ⅲ区土壙墓（S169）・土坑（S136・137・135・149）実測図及び出土遺物実測図…… 27
第16図　Ⅲ区土坑（S131・146・147）実測図及び出土遺物実測図…… 28
第17図　Ⅲ区土坑（S199・165・162）実測図及び出土遺物実測図…… 29
第18図　Ⅲ区土坑（S176・150・181）実測図…… 30
第19図　Ⅲ区土坑（S152・160）実測図…… 31
第20図　Ⅰａ区出土遺物実測図…… 33
第21図　Ⅲ区出土遺物実測図（１）…… 33
第22図　Ⅲ区出土遺物実測図（２）…… 34
第23図　Ⅰｂ区遺構配置図（S=1/250）…… 36
第24図　Ⅰｂ区掘立柱建物跡（SB12）実測図…… 37
第25図　掘立柱建物跡（SB19）実測図及び出土遺物実測図…… 38
第26図　掘立柱建物跡（SB21・20）実測図及び出土遺物実測図…… 39
第27図　掘立柱建物跡（SB14・23）実測図…… 40
第28図　掘立柱建物跡（SB13）実測図…… 41
第29図　掘立柱建物跡（SB15）・柵列跡（SA03・04）実測図…… 42
第30図　Ⅰｂ区溝跡（S20・21）・土坑（S22・28・35）実測図及び出土遺物実測図…… 43
第31図　Ⅰｂ区土坑（Ｓ２・10・３）実測図及び出土遺物実測図…… 45
第32図　土坑（Ｓ８・52・50）実測図及び出土遺物実測図…… 46
第33図　土坑（S34・30・36・37・45）実測図…… 48
第34図　土坑（S34・45）出土遺物実測図…… 49
第35図　土坑（S46・48）実測図及び出土遺物実測図…… 49
第36図　土坑（S49・７・43・40）実測図及び出土遺物実測図…… 50
第37図　土坑（S31・33・12）実測図…… 51
第38図　土坑（Ｓ１・５・83・９・15・13）実測図…… 52
第39図　土坑（S84・85）実測図…… 53
第40図　Ⅰｂ区出土遺物実測図…… 54
第41図　Ⅱ・Ⅳｂ区遺構配置図（S=1/250）…… 57
第42図　Ⅱ・Ⅳｂ区掘立柱建物跡（SB78）実測図及び出土遺物実測図…… 58
第43図　Ⅱ・Ⅳｂ区掘立柱建物跡（SB37・69・68）実測図…… 59

第44図　Ⅱ・Ⅳｂ区柵列跡（SA12・14・25）実測図…… 60
第45図　Ⅱ・Ⅳｂ区溝跡（S108・112・113）・土坑（S121）実測図及び出土遺物実測図 …… 61
第46図　Ⅱ区溝跡（S115）・土坑（S126・118）実測図及び出土遺物実測図 …… 62
第47図　Ⅱ区土坑（S110・111）実測図及び出土遺物実測図 …… 63
第48図　Ⅱ区土坑（S99・102・105）実測図及び出土遺物実測図 …… 64
第49図　Ⅱ区土坑（S98・100・101・119・109・106）実測図 …… 65
第50図　Ⅱ区土坑（S114・128・125・124・129）実測図 …… 66
第51図　Ⅳｂ区井戸跡（S228）実測図及び出土遺物実測図 …… 67
第52図　Ⅳｂ区井戸跡（S230）実測図及び出土遺物実測図 …… 69
第53図　Ⅳｂ区土坑（S213・225・238）実測図及び出土遺物実測図 …… 71
第54図　Ⅳｂ区溝跡（S226）・土坑（S232）実測図 …… 72
第55図　Ⅱ区出土遺物実測図（１）…… 73
第56図　Ⅱ区出土遺物実測図（２）…… 74
第57図　Ⅳｂ区出土遺物実測図…… 75
第58図　Ⅳａ区遺構配置図（S=1/250）…… 78
第59図　Ⅳａ区掘立柱建物跡（SB79）実測図 …… 78
第60図　Ⅳａ区溝跡（S244）・土坑（S246・239）実測図 …… 79
第61図　Ⅳａ区土坑（S234・235）実測図及び出土遺物実測図 …… 80
第62図　Ⅳａ区出土遺物実測図…… 81
第63図　Ⅴａ区遺構配置図（S=1/400）…… 83
第64図　Ⅴａ区掘立柱建物跡（SB99・82）実測図及び出土遺物実測図 …… 84
第65図　掘立柱建物跡（SB92・124）実測図 …… 85
第66図　掘立柱建物跡（SB101・118）実測図 …… 86
第67図　掘立柱建物跡（SB136・130）実測図 …… 87
第68図　掘立柱建物跡（SB132）実測図 …… 88
第69図　Ⅴａ区溝跡（S284）・土坑（S355）実測図及び出土遺物実測図 …… 89
第70図　Ⅴａ区土壙墓（S388）実測図及び出土遺物実測図（１） …… 90
第71図　土壙墓（S388）出土遺物実測図（２） …… 91
第72図　土壙墓（S388）出土遺物実測図（３） …… 92
第73図　土壙墓（S380）実測図 …… 92
第74図　Ⅴａ区土坑（S384・373・367）実測図及び出土遺物実測図 …… 93
第75図　土坑（S368・397）実測図及び出土遺物実測図 …… 95
第76図　土坑（S395・407・414）実測図及び出土遺物実測図 …… 96
第77図　土坑（S360・258・365・453・361）実測図 …… 97
第78図　不明遺構（S287）実測図及び出土遺物実測図 …… 99
第79図　不明遺構（S317）実測図及び検出位置図 …… 100
第80図　Ⅴａ区出土遺物実測図（１）…… 101
第81図　Ⅴａ区出土遺物実測図（２）…… 102
第82図　Ⅴａ区出土遺物実測図（３）…… 103
第83図　Ⅴａ区出土遺物実測図（４）…… 104
第84図　Ⅴａ区出土遺物実測図（５）…… 105
第85図　Ⅴｂ区遺構配置図（S=1/350）…… 108
第86図　Ⅴｂ区溝跡（S456）実測図 …… 109
第87図　溝跡（S456）出土遺物実測図 …… 110
第88図　Ⅴｂ区井戸跡（S479）実測図 …… 110
第89図　井戸跡（S374）実測図 …… 111

第90図　Ｖｂ区土坑（S469・461・465・460）実測図及び出土遺物実測図 …… 113
第91図　土坑（S463・466・470・472・482・483）実測図 …… 114
第92図　土坑（S497・475・476・488）実測図 …… 115
第93図　Ｖｂ区出土遺物実測図…… 116
第94図　Ⅵ区遺構配置図（S=1/250） …… 118
第95図　Ⅵ区掘立柱建物跡（SB108・111）実測図及び出土遺物実測図 …… 119
第96図　掘立柱建物跡（SB112・113）実測図 …… 120
第97図　掘立柱建物跡（SB116・114）実測図 …… 121
第98図　Ⅵ区溝跡（S291）実測図及び出土遺物実測図 …… 122
第99図　Ⅵ区井戸跡（S290）・土坑（S332）実測図及び出土遺物実測図（１） …… 124
第100図　土坑（S332）出土遺物実測図（２） …… 125
第101図　土坑（S321・322・299）実測図及び出土遺物実測図 …… 125
第102図　土坑（S292・293・294・296・297・298）実測図及び出土遺物実測図 …… 126
第103図　土坑（S313・325・311・344・312・314・315・326）実測図及び出土遺物実測図 …… 127
第104図　土坑（S327・310・331・318・319・328）実測図 …… 128
第105図　Ⅵ区出土遺物実測図 …… 129

表　目　次

表１　花岡古町遺跡調査工程表…… 4
表２　花岡古町遺跡周辺遺跡一覧表…… 7
表３　Ⅰａ・Ⅲ区掘立柱建物跡計測表 …… 18
表４　Ⅰａ・Ⅲ区柵列跡計測表 …… 20
表５　Ⅰａ区検出遺構一覧表…… 31
表６　Ⅲ区検出遺構一覧表…… 31
表７　Ⅰｂ区掘立柱建物跡計測表…… 37
表８　Ⅰｂ区柵列跡計測表…… 42
表９　Ⅰｂ区検出遺構一覧表…… 53
表10　Ⅱ・Ⅳｂ区掘立柱建物跡計測表 …… 58
表11　Ⅱ・Ⅳｂ区柵列跡計測表 …… 60
表12　Ⅱ・Ⅳｂ区検出遺構一覧表 …… 72
表13　Ⅳａ区掘立柱建物跡計測表…… 80
表14　Ⅳａ区検出遺構一覧表…… 80
表15　Ｖａ区掘立柱建物跡計測表…… 88
表16　Ｖａ区検出遺構一覧表…… 100
表17　Ｖｂ区検出遺構一覧表…… 115
表18　Ⅵ区掘立柱建物跡計測表…… 121
表19　Ⅵ区検出遺構一覧表…… 130
表20　花岡古町遺跡出土土器観察表（１）…… 134
表21　花岡古町遺跡出土土器観察表（２）…… 135
表22　花岡古町遺跡出土土器観察表（３）…… 136
表23　花岡古町遺跡出土土器観察表（４）…… 137
表24　花岡古町遺跡出土土器観察表（５）…… 138
表25　花岡古町遺跡出土土器観察表（６）…… 139
表26　花岡古町遺跡出土土器観察表（７）…… 140
表27　花岡古町遺跡出土土器観察表（８）…… 141
表28　花岡古町遺跡出土土器観察表（９）…… 142
表29　花岡古町遺跡出土石器観察表…… 143
表30　花岡古町遺跡出土鉄器観察表…… 144
表31　花岡古町遺跡出土玉類観察表…… 145
表32　花岡古町遺跡出土土錘観察表…… 145
表33　花岡古町遺跡出土古銭観察表…… 146

写　真　図　版

空撮１　花岡古町遺跡周辺写真（佐敷城跡側より。奥は佐敷東の城跡）右上は現状（2011.10）
空撮２　花岡古町遺跡全景写真（東側より）

図版１　Ⅰａ区・Ⅰｂ区　全景写真
図版２　Ⅰａ区掘立柱建物跡(SB24)完掘状況(東から)
図版３　SB26完掘状況（北から）
図版４　SB27完掘状況（東から）
図版５　SB28完掘状況（北から）
図版６　SB29完掘状況（北から）
図版７　柵列跡（SA06）完掘状況（北から）
図版８　SA07完掘状況（北から）
図版９　溝跡（S18）出土状況（東から）
図版10　井戸跡（S65）完掘状況（東から）
図版11　土坑（S68）土層断面（東から）
図版12　溝跡（S71）土層断面（南から）
図版13　土坑（S87・88）土層断面（東から）
図版14　Ⅰｂ区掘立柱建物跡(SB12)完掘状況(西から)
図版15　SB13完掘状況（東から）
図版16　SB19完掘状況（北から）
図版17　SB21完掘状況（北から）
図版18　SB23完掘状況（西から）
図版19　柵列跡（SA03・04）完掘状況（西から）
図版20　土坑（Ｓ２）検出状況（北から）
図版21　Ｓ３検出状況（東から）
図版22　S10完掘状況（南から）
図版23　Ｓ８・50・52出土状況（西から）
図版24　S30・34・36・37・45・46・48出土状況（西から）
図版25　S34遺物出土状況（北から）
図版26　S48遺物出土状況（北から）
図版27　Ｓ７・S49出土状況（南から）
図版28　S22出土状況（南から）
図版29　S12・31・32・33出土状況（北から）
図版30　Ⅱ区　全景写真
図版31　掘立柱建物跡(SB37)完掘状況(北西から)
図版32　SB78完掘状況（北東から）
図版33　Ⅳｂ区掘立柱建物跡(SB69)完掘状況(東から)
図版34　SB68完掘状況（南東から）
図版35　柵列跡（SA25）完掘状況（北東から）
図版36　土坑（S99）完掘状況（北から）
図版37　S105完掘状況（北から）
図版38　S108土層断面（北西から）
図版39　S110土層断面（南西から）
図版40　S112土層断面（北東から）
図版41　S113土層断面（北東から）
図版42　Ⅲ区　全景写真
図版43　掘立柱建物跡(SB48)完掘状況(北西から)
図版44　SB53完掘状況（北から）
図版45　柵列跡（SA18・20）完掘状況（西から）
図版46　土坑（S137）完掘状況
図版47　S147完掘状況（南西から）
図版48　S150完掘状況（北西から）
図版49　S152完掘状況
図版50　S162完掘状況（北から）
図版51　土壙墓（S169）人骨出土状況
図版52　土坑（S181）完掘状況（北から）
図版53　S199土層断面
図版54　Ⅳａ区・Ⅳｂ区　全景写真
図版55　Ⅳａ区掘立柱建物跡(SB79)完掘状況(南東から)
図版56　土坑（S234）完掘状況（南から）
図版57　S235完掘状況（南から）
図版58　S239・246完掘状況（北から）
図版59　Ⅳｂ区井戸跡(S228)遺物出土状況(南から)
図版60　S228遺物出土状況（西から）
図版61　S228完掘状況（東から）
図版62　S230遺物出土状況（南西から）
図版63　S230完掘状況（東から）
図版64　土坑（S213）土層断面（北東から）
図版65　S213遺物出土状況（北東から）
図版66　S232土層断面（西から）
図版67　Ⅴａ区　全景写真
図版68　掘立柱建物跡(SB82)完掘状況(南西から)
図版69　SB92完掘状況（南東から）
図版70　SB99完掘状況（南から）
図版71　SB101完掘状況（北から）
図版72　SB130完掘状況（東から）
図版73　SB132完掘状況（南から）
図版74　SB136完掘状況（西から）
図版75　土壙墓（S388）遺物出土状況（北から）
図版76　S388検出状況（東から）
図版77　S388人骨出土状況（東から）
図版78　S380遺物出土状況（北から）
図版79　S380完掘状況（東から）
図版80　不明遺構(S287)牛頭出土状況(南から)

図版81　S287土層断面（東から）
図版82　S317人骨出土状況（北から）
図版83　土坑（S355）遺物出土状況（南から）
図版84　S367土層断面（南から）
図版85　S368遺物出土状況（北から）
図版86　S384・385・373遺物出土状況（南東から）
図版87　S397土層断面（西から）
図版88　Ｖｂ区　全景写真
図版89　井戸跡（S374）遺物出土状況（南から）
図版90　S374木枠検出状況（東から）
図版91　S374木枠検出状況（北から）
図版92　S374土層断面
図版93　S479検出状況（南から）
図版94　S479土層断面（南東から）
図版95　S479主体部検出状況（東から）
図版96　S479半裁状況
図版97　土坑（S461）完掘状況（西から）
図版98　S463完掘状況（北から）
図版99　溝跡(S456)土層断面（１）(南東から)
図版100 S456土層断面（２)(西から)
図版101 土坑（S466）完掘状況（西から）
図版102 S469遺物出土状況（南から）
図版103 S472完掘状況（北から）
図版104 S475完掘状況（南から）
図版105 S482土層断面（北西から）
図版106 S483完掘状況（南から）
図版107 S488完掘状況（北から）
図版108 S495・497完掘状況（東から）
図版109 Ⅵ区　全景写真
図版110 掘立柱建物跡(SB108)完掘状況(北西から)
図版111 SB111完掘状況（北西から）
図版112 SB112完掘状況（北東から）
図版113 SB113完掘状況（北東から）
図版114 SB114完掘状況（西から）
図版115 SB116完掘状況（南西から）
図版116 井戸跡（S290）土層断面（南から）
図版117 溝跡（S291）遺物出土状況（東から）
図版118 土坑（S292・293・298)土層断面(南東から)
図版119 S292～298完掘状況（南から）
図版120 S299完掘状況（北西から）
図版121 S313完掘状況（東から）
図版122 S312完掘状況（南西から）
図版123 S314・315完掘状況（北東から）
図版124 S319完掘状況（南から）
図版125 S325土層断面（東から）
図版126 S326完掘状況（北西から）
図版127 S327完掘状況（東から）
図版128 S328完掘状況（南西から）
図版129 S344土層断面完掘状況（西から）
図版130 Ⅰａ区出土遺物
図版131 Ⅲ区出土遺物（１）
図版132 Ⅲ区出土遺物（２）
図版133 Ⅰｂ区出土遺物（１）
図版134 Ⅰｂ区出土遺物（２）
図版135 Ⅱ区出土遺物
図版136 Ⅳｂ区出土遺物（１）
図版137 Ⅳｂ区出土遺物（２）
図版138 Ⅳａ区出土遺物
図版139 Ⅴａ区出土遺物（１）
図版140 Ⅴａ区出土遺物（２）
図版141 Ⅴａ区出土遺物（３）
図版142 Ⅴａ区出土遺物（４）
図版143 Ⅴａ区出土遺物（５）
図版144 Ⅴａ区出土遺物（６）
図版145 Ⅴｂ区出土遺物
図版146 Ⅵ区出土遺物

第１章　調査の経緯と経過

第１節　調査に至る経過

平成14年４月18日付け芦北工第３号で芦北地域振興局土木部工務課「以下　芦北工務課」から『芦北球磨線緊急地方道路整備事業』に伴う埋蔵文化財の予備調査依頼を受け、熊本県教育庁文化課は、平成14年11月７日に埋蔵文化財の確認調査を実施した。その結果、埋蔵文化財の存在を確認し、平成14年11月14日付け教文第2842号で芦北工務課に本調査の必要性を通知した。

その後、芦北工務課より文化財保護法第94条第１項の規定に基づく発掘調査の通知（平成15年４月18日付け芦北工第９号）を受けた。発掘調査の期日等の協議を進めるなかで、文化課において文化財保護法第99条第１項の規定に基づき、発掘調査実施の通知（平成15年５月14日付け教文第474号）を行った。のち、調査を開始する事となった。

第２節　調査の組織

本調査

【平成15年度(2003)年】

調査責任者　成瀬烈大（文化課長）

調 査 総 括　島津義昭（教育審議員兼課長補佐）　西住欣一郎（文化財調査第２係長）

調査事務局　吉田　惠（課長補佐）欄杭正義（主幹兼総務係長）天野寿久（主任主事）杉村輝彦（主事）

調 査 担 当　水野哲郎・高山直也（文化財保護主事）村中智絵（非常勤職員）

【平成16年度(2004)年】

調査責任者　島津義昭（文化課長）

調 査 総 括　倉岡　博（課長補佐）西住欣一郎（文化財調査第２係長）

調査事務局　吉田　惠（課長補佐）欄杭正義（主幹兼総務係長）天野寿久（主任主事）小谷仁志（主任主事）

調 査 担 当　水野哲郎・高山直也（文化財保護主事）米村俊治・村中智絵（以上非常勤職員）

【平成17年度(2005)年】

調査責任者　梶野英二（文化課長）

調 査 総 括　倉岡　博（課長補佐）西住欣一郎（文化財調査第２係長）

調査事務局　吉田　惠（課長補佐）四元正明（主幹兼総務係長）塚原健一（参事）小谷仁志（主任主事）

調 査 担 当　高山直也（文化財保護主事）米村俊治・村中智絵・土野雄貴（以上非常勤職員）

整理・報告書作成

【平成18年度(2006)年】

調査責任者　梶野英二（文化課長）

調 査 総 括　江本　直（課長補佐）西住欣一郎（文化財調査第２係長）

調査事務局　吉田　惠（課長補佐）高宮優美（主幹兼総務係長）塚原健一（参事）小谷仁志（主任主事）

調 査 担 当　西住欣一郎　廣田静学　木村元浩（参事）野田　愛・加藤早織・岩下　萌（以上非常勤職員）

【平成19年度(2007)年】

整理責任者　梶野英二（文化課長）

整 理 総 括　江本　直（課長補佐）西住欣一郎（主幹兼文化財調査第２係長）

整理事務局　宗村士郎（教育審議員兼課長補佐）高宮優美（主幹兼総務係長）塚原健一（参事）

高松克行（主任主事）
整 理 担 当　西住欣一郎（主幹兼文化財調査第２係長）廣田静学（参事）
【平成20年度(2008)年】
整理責任者　米岡正治（文化課長）
整 理 総 括　江本　直（課長補佐）西住欣一郎（主幹兼文化財調査第２係長）
整理事務局　宗村士郎（教育審議員兼課長補佐）川上勝美（主幹兼総務係長）山田京子（参事）
高松克行（主任主事）
整 理 担 当　西住欣一郎（主幹兼文化財調査第２係長）廣田静学　木村元浩（参事）
岩下　萌・佐藤淳子（以上非常勤職員）
【平成21年度(2009)年】
整理責任者　米岡正治（文化課長）
整 理 総 括　木﨑康弘（課長補佐）西住欣一郎（主幹兼文化財調査第２係長）
整理事務局　宗村士郎（教育審議員兼課長補佐）辛川雅弘（主幹兼総務係長）山田京子（参事）
高松克行（主任主事）
整 理 担 当　西住欣一郎（主幹兼文化財調査第２係長）廣田静学　木村元浩（参事）
佐藤淳子・岩下　萌（以上非常勤職員）
【平成22年度(2010)年】
整理責任者　小田信也（文化課長）
整 理 総 括　木﨑康弘（課長補佐）西住欣一郎（主幹兼文化財調査第２係長）
整理事務局　宗村士郎（教育審議員兼課長補佐）元嶋　茂（主幹兼総務係長）山田京子（参事）
松島英樹（主任主事）
整 理 担 当　西住欣一郎（主幹兼文化財調査第２係長）廣田静学　木村元浩（参事）
佐藤淳子・江見恵留（以上非常勤職員）

第３節　　調査の方法と経過

今回、調査を行った箇所は、熊本県葦北郡芦北町花岡に位置し、佐敷川に沿い、９つの調査区に分かれており、その総面積は約6.380㎡である。

⑴　調査区と調査期間

現地の調査区は、調査着手順にⅠ区～Ⅵ区までに分かれている。さらに調査時の便宜上、Ⅰ区はⅠａ区とⅠｂ区に、Ⅳ区はⅣａ区とⅣｂ区に、Ⅴ区はⅤａ区とⅤｂ区に細分して調査している。

各区の調査時期と調査面積は以下の通りである。

Ⅰａ・Ⅰｂ区	平成15年５月27日から平成15年10月29日	調査面積	（約1263㎡）
Ⅱ区	平成15年10月３日から平成16年３月10日	調査面積	（約422㎡）
Ⅲ区	平成15年10月31日から平成16年６月17日	調査面積	（約598㎡）
Ⅳａ・Ⅳｂ区	平成16年２月５日から平成17年７月２日	調査面積	（約557㎡）
Ⅴａ区	平成16年６月23日から平成17年６月６日	調査面積	（約1840㎡）
Ⅴｂ区	平成17年６月７日から平成17年11月１日	調査面積	（約1280㎡）
Ⅵ区	平成16年７月２日から平成17年１月31日	調査面積	（約420㎡）

⑵　調査方法

重機により表土剥ぎを行う。次に、ジョレン、移植ゴテにより遺構検出作業を行う。直下層上面で遺構検出作業を行うが、当層で検出できなかったところでは、順次掘り下げを行いながら遺構検出に努める。

この時点でおよそ中世以降の遺構が検出される。次に、古代以前の遺構確認のため、サブトレンチを入れて、下位の土層確認に努める。直下が礫層となり、より古い遺構は存在しない地域も多いが、一部には古代及び古墳時代の遺構が確認される土層が残る。

検出した遺構は、土層観察用あぜを設定し掘削する。上部より出土する遺物は遺構内一括遺物として取り上げ、遺構底面より出土した遺物は図化を行い、覆土の状況を記したうえで、土層断面図及び必要に応じて土層断面写真を撮影する。土層観察用あぜを除去後、S=1/20の図を作成する。

また、公共座標に沿う基準杭を設置し、遺構に伴わない出土物については10m×10mのグリッドを設定し、光波測距儀を使用して取上げた。

⑶　調査の経過

【2003年】平成15年度

５月　調査開始。

６月　清掃・遺構検出作業を行う。10～16世紀の遺物が出土しはじめる。
台風により雨も多く、作業は思う通り進まない。

８月　調査主査の水野文化財保護主事が担当変更となり、高山文化財保護主事が主担当となる。

８～９月　掘立柱建物跡や井戸・溝・土坑など多数確認され始める。Ⅱ区調査開始。

10月　Ⅰａ区の俯瞰写真撮影。また、Ⅲ区の表土剥ぎ開始。

12月　人骨・獣骨が出土。人類学ミュージアム松下孝幸先生に来跡いただき指導・助言を受ける。

2004年

１月　検出遺構が多く、実測業務を委託し調査の迅速化を図る。

２月　古代の遺構面の調査より下位の古墳時代の調査にとりかかる。須恵器杯身等が出土。Ⅳａ・Ⅳｂ区の調査にとりかかる。

３月　井戸・土坑等の遺構のほか、貨幣・石鍋・木製品など多様な遺物が出土し始める。実測作業を急ぎ、2003（H15）年度の調査終了。

【2004年】平成16年度

４月　調査二年目開始。Ⅲ区・Ⅳａ・Ⅳｂ区の調査に入る。

６月　Ⅴａ区の表土剥ぎに入る。Ⅲ区完了。

７月　Ⅳｂ区調査終了、Ⅵ区の表土剥ぎに入る。

８～10月　Ⅴａ区の調査に集中する。台風も多く、現場がプールの様になることも多い。水中ポンプがフル稼働。

８月27日　現場公開・体験発掘を開催する。

10～11月　検出遺構も多い。実測業務を委託して調査の効率化を図る。人骨・獣骨も出土。出土骨については人類学ミュージアム松下先生と、鹿児島大学西中川駿先生の教示を得た。

12月　Ⅴａ区も調査完了に近くなり、一部俯瞰写真撮影。

2005年

１月　本格的にⅥ区の調査に入る。

３月　石組み井戸見つかる。木枠も残存。検出遺構の実測を急ぎ、2004（H16）年度の調査は終了。

【2005年】平成17年度

４月　調査三年目開始、Ｖａ区の調査を開始する。

６月　Ｖｂ区の調査開始。旧地形は、起伏が激しいことが判明。

近隣の小・中・高校に現場実施のお知らせと見学の案内を行う。人骨が出土、土井ヶ浜人類学ミュージアムの松下先生来跡。

７月　県文化課文化財調査２係の現地検討会を実施。古代面の残存を確認するためトレンチ調査を行う。古代の遺物が出土する層は、調査区の中央部に限定されることが判った。

８月　体験発掘を実施。ヘリコプターによるＶｂ区俯瞰写真撮影。

10月　井戸等検出遺構の実測を急ぐ。

26日をもって、現地調査を完了。

表１　　花岡古町遺跡　調査工程表

2003年（平成15年度）　　2004年（平成16年）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
Ⅰａ区												
Ⅰｂ区												
Ⅱ区												
Ⅲ区												
Ⅳａ区												
Ⅳｂ区												
Ⅴａ区												
Ⅴｂ区												
Ⅵ区												

2004年（平成16年度）　　2005年（平成17年）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
Ⅰａ区												
Ⅰｂ区												
Ⅱ区												
Ⅲ区												
Ⅳａ区												
Ⅳｂ区												
Ⅴａ区												
Ⅴｂ区												
Ⅵ区												

2005年（平成17年度）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
Ⅰａ区									
Ⅰｂ区									
Ⅱ区									
Ⅲ区									
Ⅳａ区									
Ⅳｂ区									
Ⅴａ区									
Ⅴｂ区									
Ⅵ区									

第２章　位置と環境

第１節　地理的環境

芦北町は、熊本県の南部で葦北郡に属する。北は田浦町と八代市坂本村、東は球磨川を境界に球磨郡球磨村、南は津奈木町と水俣市に接し、北西は不知火海を挟んで天草諸島がある。町の南端、水俣市との境に大関山（標高902m）は、郡内の最高峰でここを水源とする二級河川の佐敷川と湯浦川が北に流れ、町の中央で大きく西へ曲がり八代海に注いでいる。佐敷川は藍川、七瀬川の別称を持ち、また、佐敷川を男川、湯浦川を女川とも呼ばれている。町の東半分は天月川、吉尾川などの流域で球磨川へ注ぐ。

海岸部は、九州山地が八代海に沈下して形成された沈水性のリアス式海岸で、岬や入り江続く変化に富んだ景観を見せる。昭和56年に指定された芦北海岸県立公園の一部である。

東北16.6㎞、南北25.4㎞、総面積233.81㎢を有する本町は、東西南北を山、川、海によって区切られた領域になっている。この領域には標高200mから900m前後の山並みが連なっており、平地が少なく約75％が丘陵地で、台地、花岡、芦北、平生地区では江戸時代後期から明治にかけて多くの干拓新地が造成されている。芦北町内の丘陵地の形態は、北部と南部でやや異なる。北部は九州山地の西端部にあたり、急斜面が発達して小規模な沢と尾根が多く見られる。特に球磨川沿いの地域の山稜は急峻である。南部は肥薩山地の西端にあたり、山地の標高差が小さい。比較的緩傾斜面が多く、浅い谷が発達している。

薩摩街道最大の難所としてその名を知られた三太郎峠のうち、芦北町の北西部、田浦町との境には佐敷太郎峠（標高324m）、南西部の津奈木町との境には津奈木太郎峠（標高278m）があり、円滑な陸上道路交通を阻害する大きな要因であった。

地質的にも南部と北部は異なり、北部は古生代・中生代の堆積岩石（秩父累帯）からなり、南部は新生代の火山岩類（肥薩火山帯）からなる。

気候は海岸地域と山間地域では条件が異なるが、海岸地帯は暖流の影響により暖かく、ほとんど無霜地帯であるのに対し、山間地域は降雨量、湿度共多く、比較的冷涼である。

第 1 図　花岡古町遺跡周辺遺跡地図（S=1/50,000）

表２　花岡古町遺跡周辺遺跡一覧

熊本県（43）田浦町（481）

遺跡番号	遺　跡　名	所在地	時代	種別	指定	備　　考
008	セベット古墳群	海浦　京泊	古墳	古墳		箱式石棺
009	鬼塚古墳群	海浦　京泊	古墳	古墳		２基、箱式石棺

熊本県（43）芦北町（482）

遺跡番号	遺　跡　名	所在地	時代	種別	指定	備　　考
003	伏木城	伏木	中世	城		
007	萬葉歌碑	小浦　御番所の鼻	近代	石造物		
008	鶴木山舟着場	鶴木山	近世	包蔵地		
009	計石遠見御番所跡	計石	近世	包蔵地		
010	佐敷城跡（花岡城）	花岡西　下町ほか	中世・近世	城	県	町教委調査
011	佐敷東の城跡	花岡北　宇土ほか	中世	城		花岡城
012	峰崎官軍墓地	花岡　峯崎		墓地		西南の役官軍戦死者を葬むる
013	乙千屋の五輪塔群	乙千屋	中世	石造物		
014	杉谷新地船着場	花岡西	近世	包蔵地		
015	鷺浦船着場	女島	近世	包蔵地		
016	湯浦船着場	湯浦	近世	包蔵地		
017	湯浦の文明12年板碑	湯浦	中世	石造物	町	湯治坂東板碑
018	兼丸城跡	八幡　城山	中世	城		
019	宮浦地下式石板積石室古墳群	宮浦	古墳	古墳	町	
021	福浦船着場	女島　福浦	近世	包蔵地		
022	橋本貝塚	湯浦　橋本	縄文	貝塚		
023	湯浦城跡	湯浦　栫	中世	城		井戸（涌水地）あり
024	宮崎城跡	宮崎　寺川内	中世	城		大規模な三重堀あり
025	宮崎城主墓（五輪塔群）	宮崎　寺川内	中世	石造物		
026	宮崎城主墓（五輪塔群）	宮崎　寺川内	中世	石造物		
036	万地	大川地　万地	縄文	包蔵地		剥片
037	横手	宮浦　横手	弥生	包蔵地		弥生後期　H14.11.18範囲修正
038	花岡古町	花岡　古町	中世	包蔵地		土師器・須恵器・青磁
038	湊川内焼窯跡	告　村本				H13.３.29新規
039	花岡木崎	花岡　木崎	古代	集落		土師器・須恵器
040	花岡古東泉寺	花岡古　東泉寺	中世	墓		五輪塔、無縁塔

熊本県（43）津奈木町（484）

遺跡番号	遺　跡　名	所在地	時代	種別	指定	備　　考
002	赤崎	福浜　赤崎	縄文	包蔵地		石器
005	孝子千代の墓	千代　内野	近世	墓	町	孝女千代を葬る、石碑５基
006	旧道　津奈木太郎	千代　桃木	近世	交通		
007	浜崎貝塚	岩城　浜崎	弥生	貝塚	町	御手洗式・南福寺式・御領式・弥生土器、石器
008	中村	岩城　中村	古墳	包蔵地		須恵器
011	津奈木城跡	津奈木　大手	中世	城		
012	徳富家の墓	岩城　染竹	近代	墓地		墓３基
013	大見堂	岩城　染竹	近世	寺社		大御堂
014	津奈木重盤岩眼鏡橋	岩城　上原	近世	建造物	県	
015	津奈木手永会所跡	岩城　城	近世	包蔵地		
016	新村眼鏡橋	岩城　浜平	中世	建造物	町	
017	浜眼鏡橋	岩城　浜	中世	建造物	町	
018	中村眼鏡橋	岩城　城	中世	建造物	町	
019	柏原無名塚	津奈木 中尾～古中尾		墳墓		塚２基
020	薬師堂跡	津奈木　南谷	近世	寺社		元和年間の建立
021	寺岡眼鏡橋	千代　松原		建造物	町	
022	内野眼鏡橋	千代　松原		建造物	町	
023	金山眼鏡橋	津奈木　大丸		建造物	町	
024	中尾眼鏡橋	津奈木　中尾		建造物	町	
025	瀬戸眼鏡橋	小津奈木 （通称前田）	近世	建造物	町	

第２節　歴史的環境

芦北町は、前節で述べたように温暖な気候と多量の降水により、肥沃な土地に恵まれ地域であるが、平地が少なく、原始より人々の生活の痕跡は限られている場所に残されている。

以下各時代の概要を述べていく。

縄文時代の遺跡の大部分は、大関山を源として流れる小河川沿いの細長い独立した谷部で見つかっている。特に町の東部、佐敷川上流部にあたる大野盆地内に集中して存在している。大野地区には出葉山貝塚、向原遺跡、大久保遺跡、中園開拓地遺跡などの縄文時代の遺跡がある。特に、出葉山貝塚からは縄文早期・縄文後期の遺物が発見され、これらと共に多量の海産の貝類と獣骨が見つかっている。遺跡の標高150ｍに位置しており、当時の海岸線が近くにあったとは考えにくいが、縄文時代の生活を知る上で貴重である。

弥生時代の遺跡は、大野地区のある競馬場遺跡、佐敷川と宮浦川の合流点付近にある横手遺跡などがある。

古墳時代の遺跡は横手遺跡に隣接して、宮浦地下式板石積石室古墳群がある。地下式板石積石室古墳群は南九州独特の墓制で、川内川流域や不知火海沿岸、人吉盆地などに多く分布し、芦北町周辺では水俣市に初野地下式板石積石室古墳群が存在する。

古代の葦北郡は、『和名抄』によると葦北・桑原・伴・野行・巨野・川田・水俣の７郷からなっており、このうち葦北郷・桑原郷の２郷が、現在の町域にあったと比定されている。佐敷は古代から肥後南部における交通の要衝で、『延喜式』兵部省諸国駅伝馬条には、肥後国16駅の一つとして「佐職駅」が登場する。駅馬・伝馬各５匹で、伝馬の項には「佐色」とある。平成19年度には、熊本県教育委員会によって実施された花岡木崎遺跡の埋蔵文化財調査で、井戸の底から「佐色」「路」「駅」と書かれた木簡が発見され、「駅家」の具体的な文字資料として注目をあびる。なお、西海道西路は佐職駅を南下後、芦北町湯浦付近で分岐し、薩摩方面へは湯浦川を渡り津奈木太郎峠を越えて水俣駅に向かい、日向・大隈方面へは湯浦川を遡上して、大関山付近の大地を越えて仁王駅に向かったと考えられる。

中世には古代の葦北郡が荘園化して葦北庄となった。葦北庄の範囲として、北は現在の八代市日奈久付近から南は水俣市にかけての一帯と考えられる。荘園成立の時期や経緯、本所、領家などについては不明で、文保２年（1318）の『詫摩文書』（北条高時下文）に「肥後國葦北庄佐敷・久多良木両浦事」とあるが、庄名の初見である。

相良氏は戦国時代に勢力を伸張し、肥後南部の球磨・葦北・八代三郡を支配し、天草郡、さらには薩摩・大隈方面にも勢力を伸ばすこととなる。このうち主要三郡の連絡路は、通常八代の古麓から船を利用して葦北の支配拠点である佐敷に着き、佐敷より佐敷川を瀬渡りしながら遡上し、牧士（まきさぶれ）坂を越えて市野瀬南端の祝坂、そこから角割坂を越えて告を経由して球磨郡大阪間で球磨川に出る。さらにそこから川沿いに人吉に向かうものであった。

八代と人吉という相良氏の二大拠点の中間に位置し、海陸交通の要衝であった佐敷は、島津氏や天草方面の土豪といった各地の勢力と参会を行う外交の場所や、重臣の会談の場所として多く利用された。また天草方面に対する拠点として重要視され、中世の相良氏の動向を記した『八代日記』に数多く登場する。

中世の芦北は、このように相良氏の支配下にあったため、町内に存在するこの時期の遺跡も相良氏に関連するものが多く、中世城郭の城主の大半が相良氏の家臣と伝えられている。この内、佐敷城と佐敷川を挟んで1.2㎞東側に向かい合うように位置する佐敷東の城は、「佐敷の栫」の山上（標高161ｍ）にあり、『肥後国誌』には「東ノ城迹　栫村ノ山上ニアリ城主ハ相良家臣東新左衛門同籐左衛門ト云按ニ花岡城ニ西肥前守在城ノ以前ナルヤ年代不分明栫村ハ城ノ栫ニシテ城主常ニハ城ニ不居栫ニ居テ事アルノ時ハ城ニ籠ルト云（以下略）」とある。寛文９年（1669）に北嶋雪山が著した『国郡一統志』をはじめ、近世の地誌類のほとんど

に佐敷に古城が二ヶ所あるとの記述があるが、佐敷城と東の城を指すものと考えられる。最近の調査により、佐敷東の城は相良氏の本城である古麓城に匹敵する巨大な山城であり、その規模、構造において同時期の葦北郡内の城郭を遥かに凌駕することが確認された。なお、今回報告する花岡古町遺跡は、この佐敷東の城の城西側に位置しており、佐敷東の城の城下町として形成されたものと思われる。

江戸時代に入り、元和元年（1615）の一国一城令により佐敷城は、南関鷹ノ原城、内牧城などとともに廃城となり、城は破却された。しかしそれ以後も、佐敷は薩摩街道と人吉街道との結節点として、また芦北地方の中心港として海陸交通の要地であり続け、肥後国内や薩摩、長崎方面との交易拠点や街道筋の宿場町としての発展をとげた。

寛永９年（1632）、加藤氏が改易となり、替わって細川藩政下になると、政治的には葦北郡代が佐敷に派遣され葦北の郡政にあたり、軍事的には島津氏、相良氏に対する備えとして佐敷番代が設置され、熊本藩から派遣された藩士25名が番士となり、国境警備や抜け荷の取り締まりなどの任務にあたった。また番士の補助として郷士制度が設けられ、芦北郡内の要所には鉄砲衆である葦北御郡筒430人が配されるなど、軍事上の重要拠点であった。

また、中世に佐敷東の城の城下町であったと考えられる古町一帯（花岡古町遺跡）は『葦北郡佐敷之図』には町場としては描かれておらず、この頃にはすでに衰退していたようである。

第３章　調査の成果

第１節　調査の概要

発掘調査は調査を実施する工程の都合で、大きくⅠ区、Ⅱ区、Ⅲ区、Ⅳ区、Ⅴ区、Ⅵ区に分けて実施した。Ⅰ区、Ⅳ区、Ⅴ区の各区はさらに小さくａ区、ｂ区に分けて調査を行った。

各調査区は新設する道路形状に沿った状態で設定しているので、一箇所にまとまっておらず、東西方向に分かれた状態で存在している。Ⅰ区～Ⅳ区・Ⅴ区は東側にあり、北西～南東方向に伸びた帯状になっている。Ⅴ区は西側にあり、南北方向に伸びている。調査区の中で、最も離れているⅤｂ区とⅠａ区の直線距離は約230ｍである。帯状に伸びた調査区であり、佐敷川の氾濫による土の堆積の違いがあるため、全調査区の基本土層は示せない。

そのため、調査区ごとに土層をまとめることができる下記の⑴～⑶に分けて記述する。

基本土層

⑴　Ⅰａ区・Ⅰｂ区・Ⅱ区・Ⅲ区・Ⅳａ区・Ⅳｂ区の基本土層について

Ⅰ層：耕作土である。深さは20㎝前後である。

Ⅱ層：灰褐色土で、水田の床土である。深さは約７～９㎝である。

Ⅲ層：黄褐色土で、粘性が強い。深さは約６～９㎝である。

Ⅳ層：褐色砂礫層である。深さ約６㎝である。

Ⅴ層：黄白色土で、粘性が強い。深さは約３㎝である。

Ⅵ層：暗褐色土で、粘性が強い。深さ約４～16㎝である。この層は部分的に遺物を包含する。

Ⅶ層：灰茶褐色土で、粘性が強い。深さ約８～16㎝である。

Ⅷ層：砂礫層である。深さ８㎝前後である。

⑵　Ⅴａ区・Ⅴｂ区の基本土層について

Ⅰ層：客土である。深さは約35～42㎝である。

Ⅱ層：灰褐色土で、水田の床土である。深さは約16～21㎝である。

Ⅲ層：黄褐色土で、粘性が強い。深さは約12～24㎝である。

Ⅳ層：暗灰褐色土で、粘性が強い。深さ約７～14㎝である。

Ⅴ層：黄褐色土で、粘性が強い。深さは約４～８㎝である。

Ⅵ層：暗褐色土で、場所によっては粘性が強い箇所と砂質の箇所がある。深さ約９～17㎝である。この層は遺物を包含する。

Ⅶ層：黄灰褐色土で、粘性が強い。深さ22㎝前後である。

Ⅷ層：黄褐色土で、粘性が強い。深さ12㎝前後である。

Ⅸ層：砂礫層である。深さ10㎝前後である。

⑶　Ⅵ区の基本土層について

Ⅰ層：耕作土である。深さは30㎝前後である。

Ⅱ層：灰褐色土で、水田の床土である。深さは15㎝前後である。

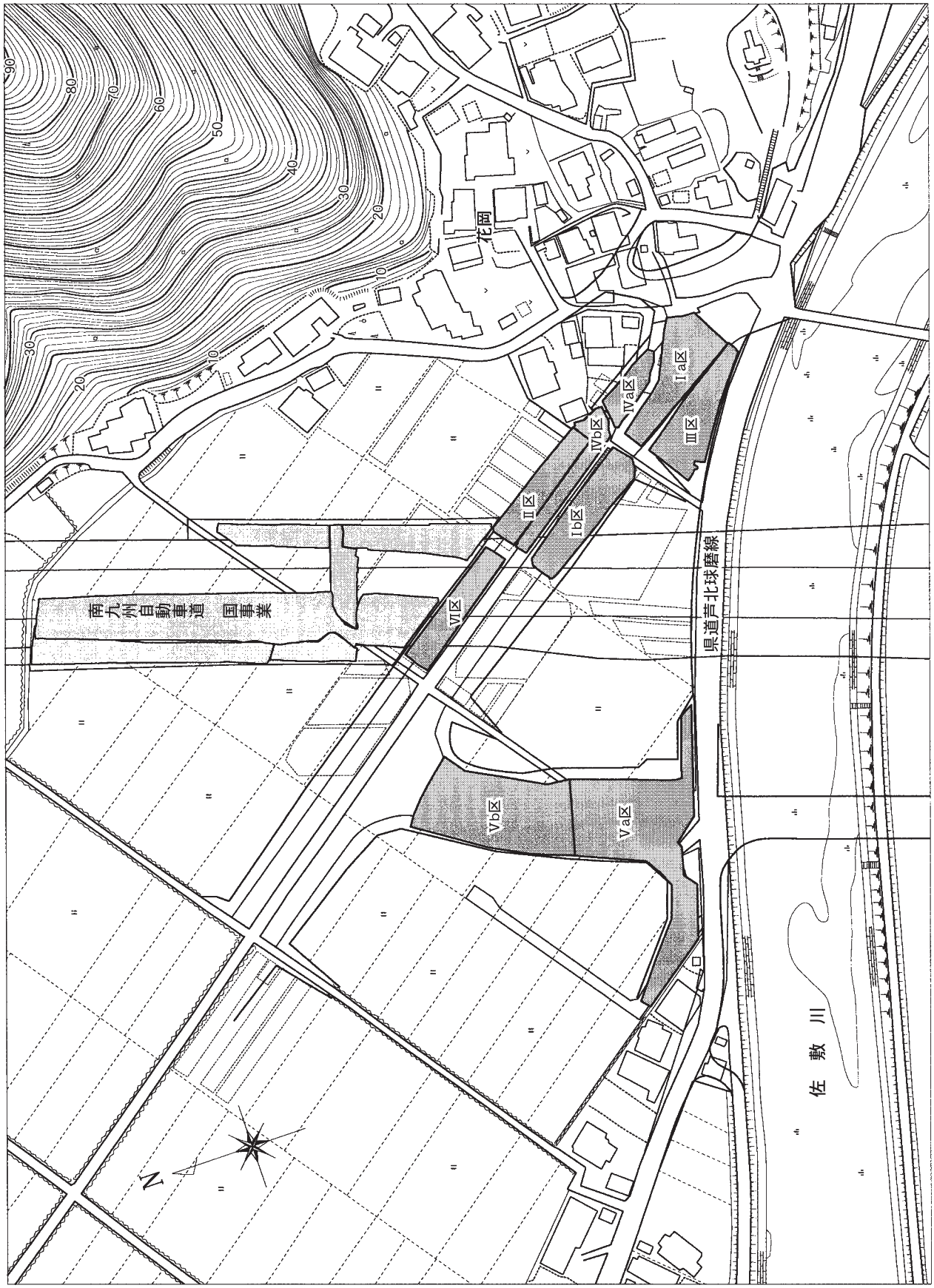
Ⅲ層：暗灰褐色土で、粘性が強い。深さは約25㎝前後である。

Ⅳ層：灰褐色土で、砂質である。深さ約17㎝前後である。

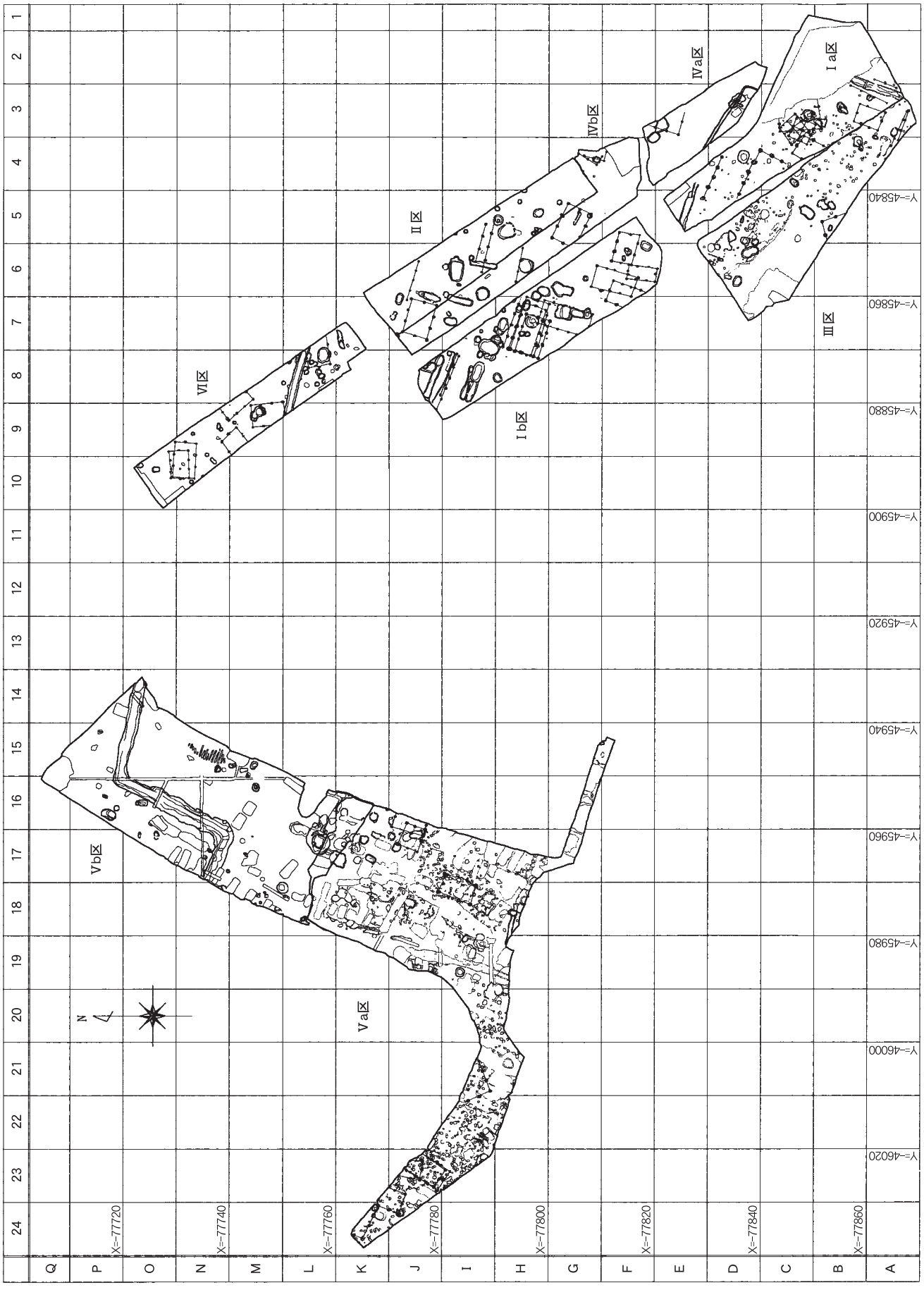
Ⅴ層：茶褐色土で、砂質である。深さは27㎝前後である。この層は遺物を包含する。

Ⅵ層：砂礫層である。深さ16㎝前後である。

各調査区の調査成果については、次の第２節～第８節で述べる。



第２図　花岡古町遺跡調査位置図（S=1/2,000）



第3図　花岡古町遺跡グリッド配置図（S=1/1,000）

第２節　Ⅰａ区・Ⅲ区の調査

１．遺構分布（第４図・第５図）

Ⅰａ区とⅢ区は、調査時期が異なるが、グリッド図で分かるように隣接し、共有する掘立柱建物が一棟確認出来た為ここでは一緒に説明する。

Ⅰａ区で確認した遺構は、掘立柱建物跡５棟、柵列跡３基、溝跡２条、井戸跡１基、土坑５基で、Ⅲ区で確認した遺構は、掘立柱建物跡２棟（内１棟は１ａ区と共有）、柵列跡２基、土壙墓１基、土坑15基である。

なお、現地調査では、検出し掘削した柱穴は相当数あったが、建物等を構成する事は出来なかった。柱穴を含めた遺構分布は、掘立柱建物跡は中央部に集中し、北端と南端に溝がある。土坑は、疎らに分布する。

Ⅰａ区	掘立柱建物跡	SB24・26・27・28・29
	柵列跡	SA06・07・08
	溝跡	S18・71
	井戸跡	S65
	土坑	S25・68・77・87・88
Ⅲ区	掘立柱建物跡	SB48・53
	柵列跡	SA18・20
	土壙墓	S169
	土坑	S131・135・136・137・146・147・149・150・152・160・162・165・176・181・199

２．遺構・遺物

各遺構・遺物の詳細は第６図～第22図・表３～表６のとおりである。以下は各遺構を概観する。

⑴　掘立柱建物跡

24号掘立柱建物跡【SB24】（第６図）

SB24は調査区の中央部に位置する遺構で、桁行方向はＮ５°Ｗと推定される。４間×（２）間の側柱建物と考えられるが、建物東側が攪乱されるため全体の規模は不明である。

26号掘立柱建物跡【SB26】（第６図）

SB26は調査区の中央部に位置する遺構で、２間×２間の総柱建物である。桁行方向はＮ40°Ｗと推定される。

28号掘立柱建物跡【SB28】（第７図）

SB28は（２）間×２間の側柱建物と考えられる。建物全体の規模は、調査区外に柱穴が存在すると思われるので不明であるが、桁行方向はＮ27°Ｅで南北棟と推定される。

29号掘立柱建物跡【SB29】（第７図）

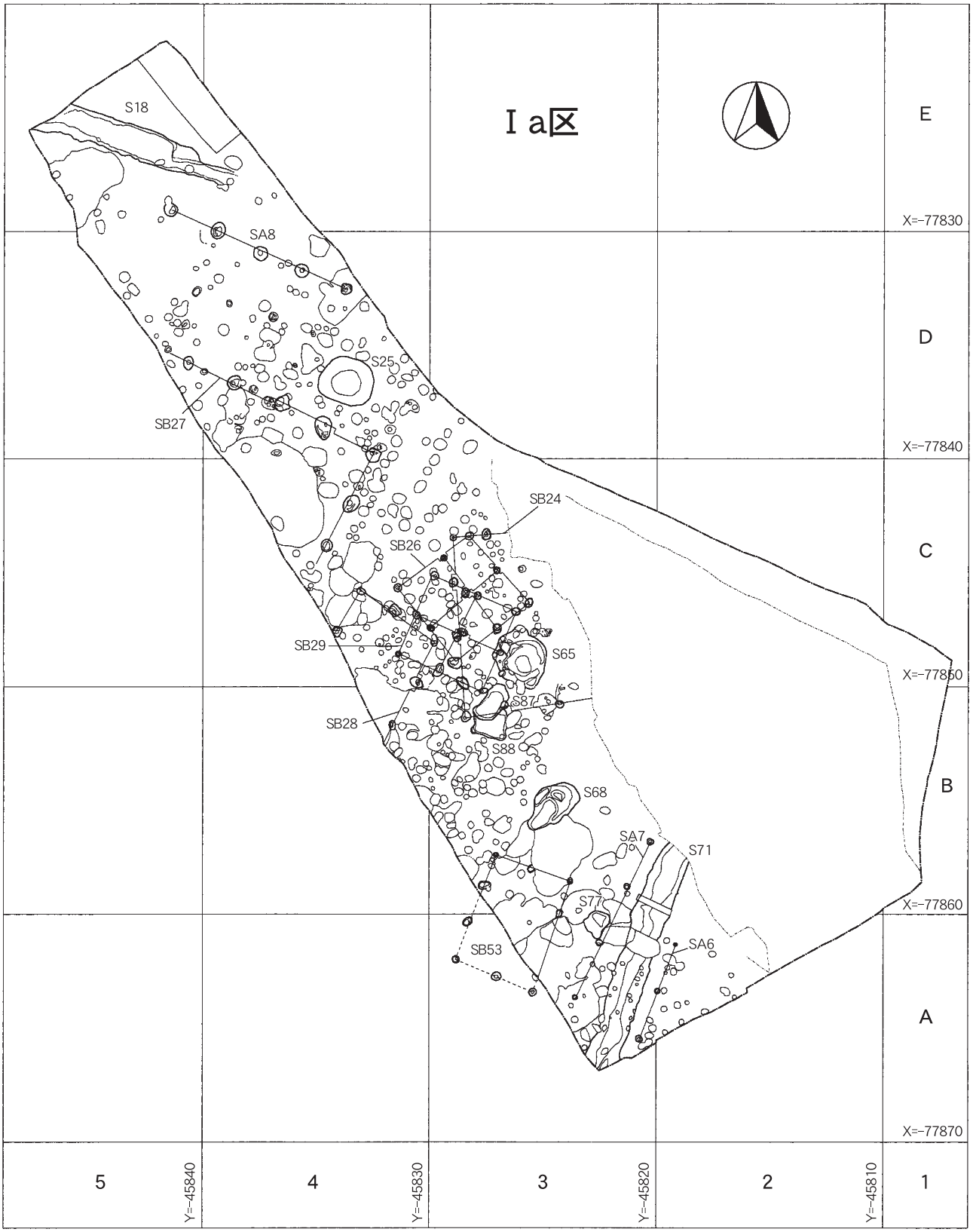
SB29は26号掘立柱建物跡と同じ調査区の中央部に位置する２間×２間の総柱建物と考えられる。桁行方向はＮ65°Ｗと推定される。

27号掘立柱建物跡【SB27】（第８図）

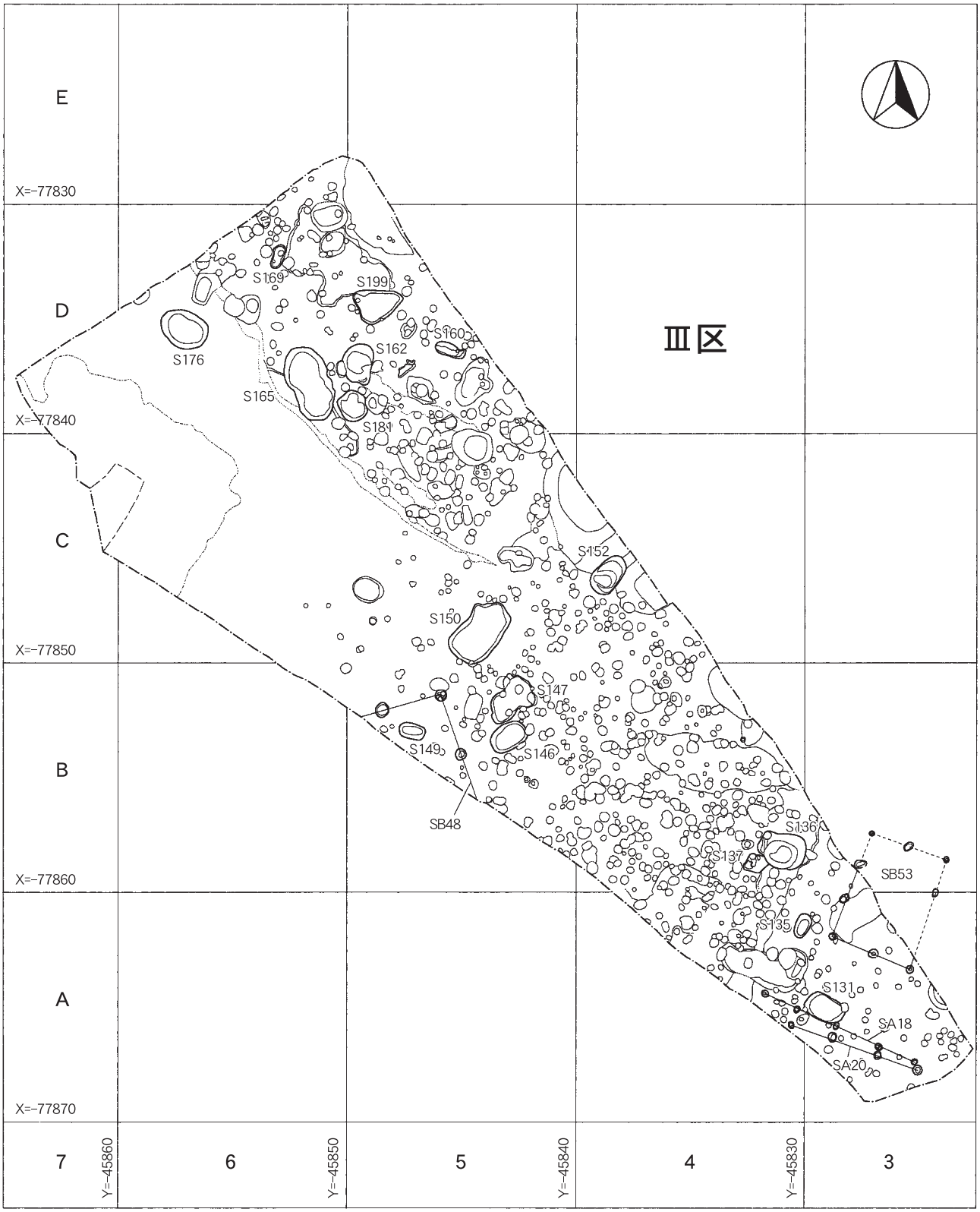
SB27は調査区の北西部に位置する遺構で、検出できたのは４間×（２）間で側柱建物と思われる。全体の規模は調査区外に柱穴が存在すると思われるので不明である。桁行方向はＮ60°Ｗと推定される。

53号掘立柱建物跡【SB53】（第９図）

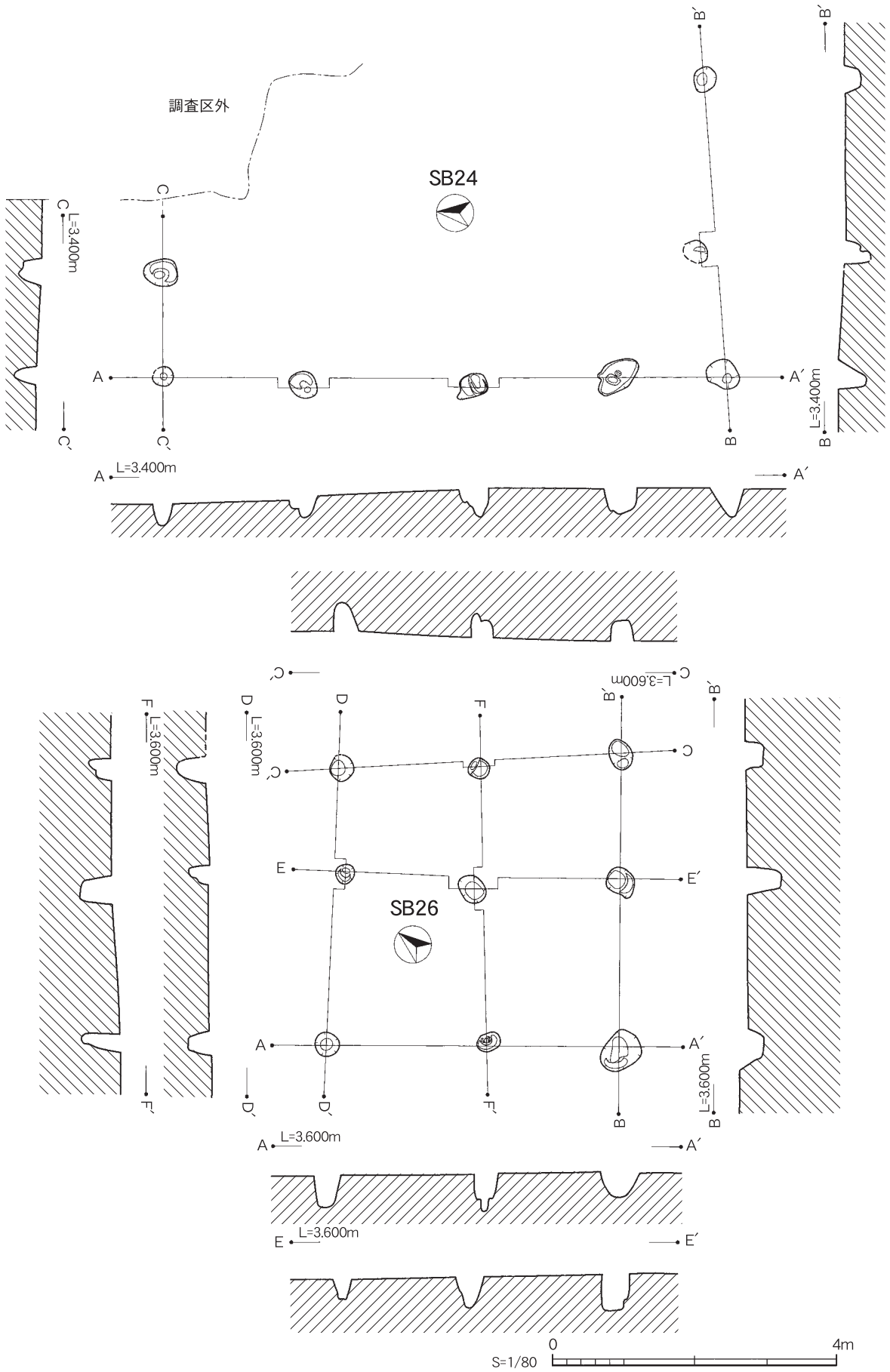
SB53はⅠａ区とⅢ区に跨る３間×２間の側柱建物である。桁行方向はＮ20°Ｅである。１はPitから



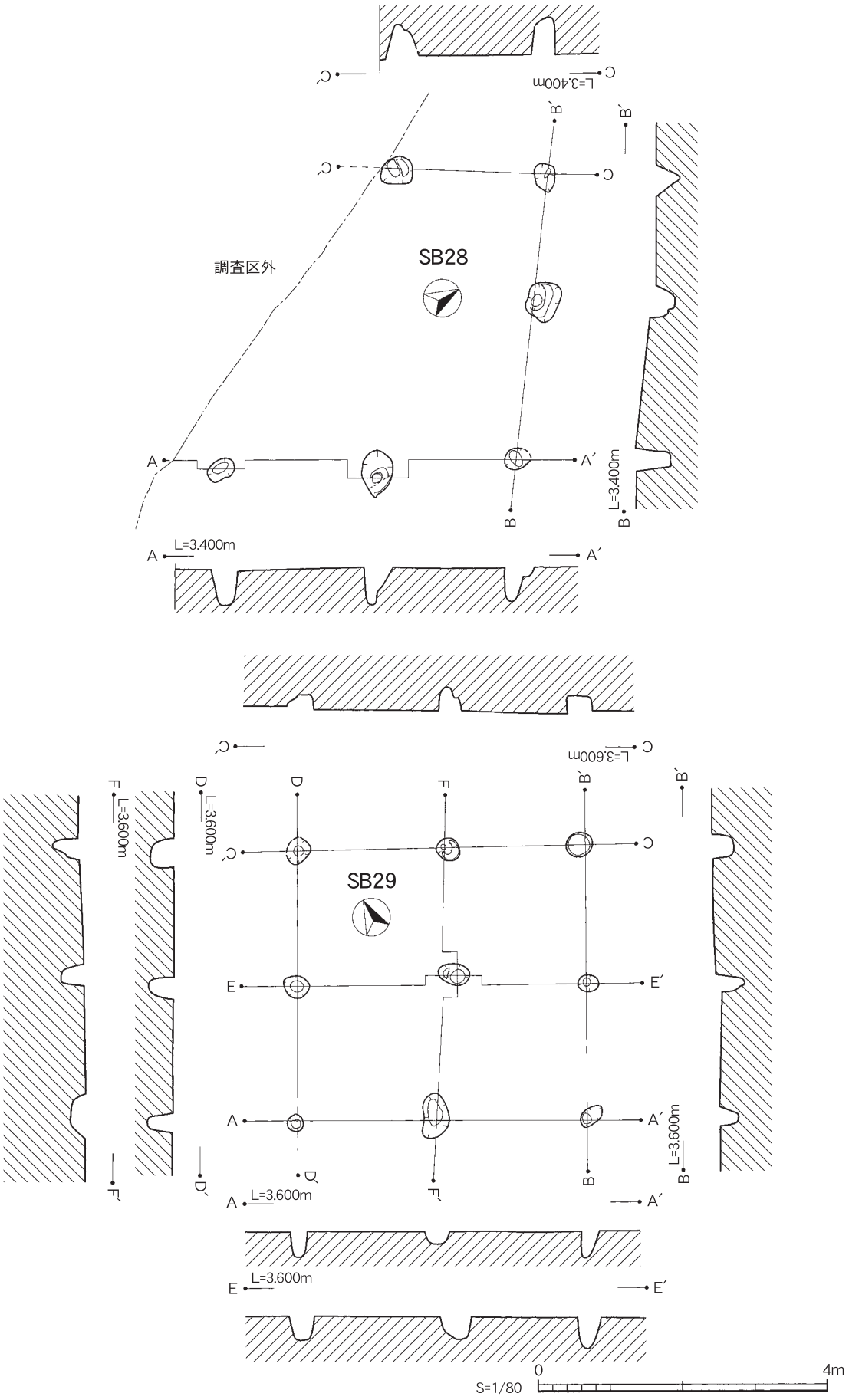
第４図　Ⅰａ区遺構配置図（S=1/250）



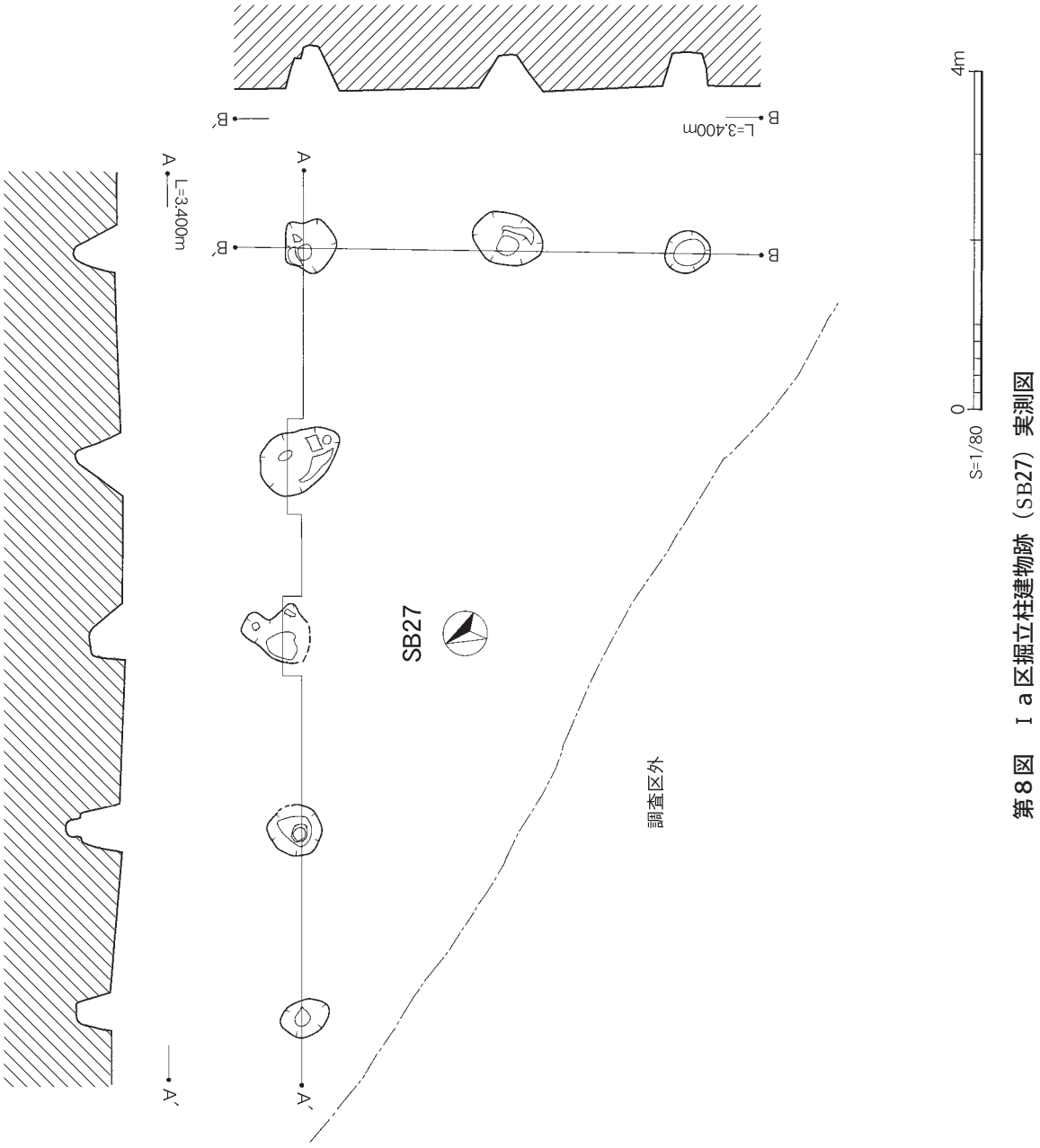
第５図　Ⅲ区遺構配置図（S=1/250）



第6図　Ⅰa区掘立柱建物跡（SB24･26）実測図



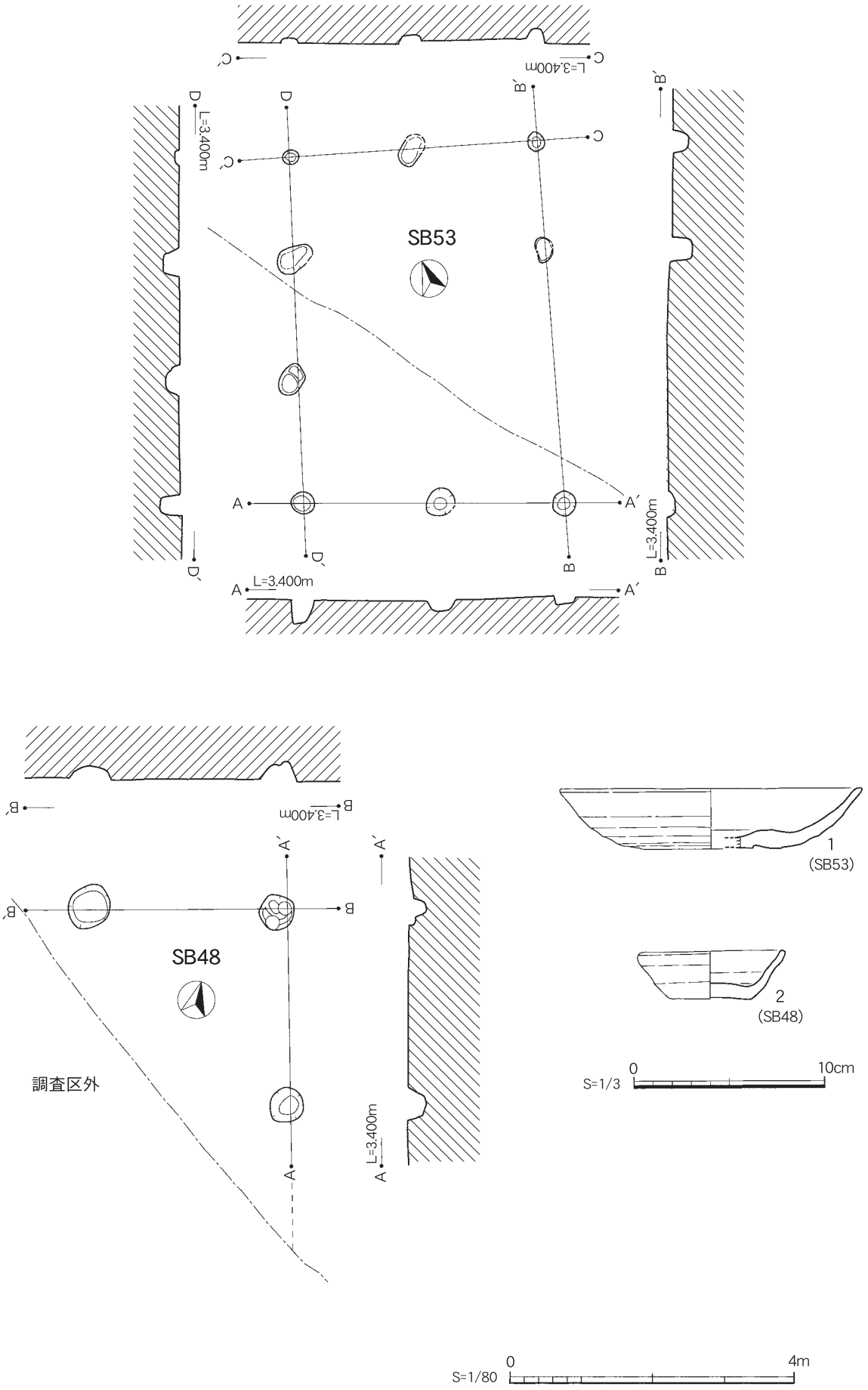
第７図　Ｉａ区掘立柱建物跡（SB28･29）実測図



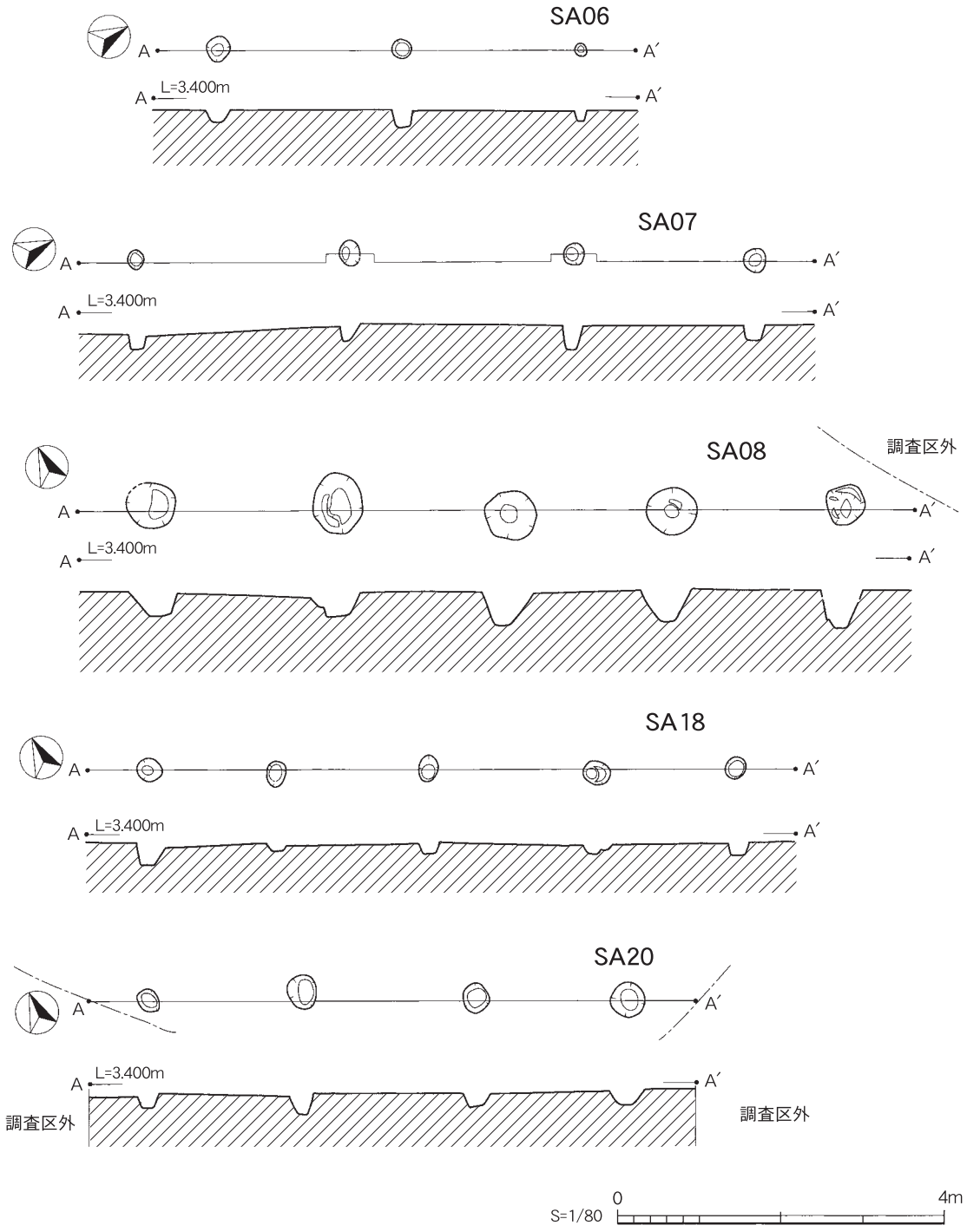
第８図　Ⅰａ区掘立柱建物跡（SB27）実測図

表３　Ⅰa区・Ⅲ区　掘立柱建物跡（SB）計測表

区	遺構番号	間数	桁長		梁長		向き	型式	方位	桁桁平均		梁間平均		柱穴直径	柱穴深さ
			m	尺	m	尺				m	尺	m	尺	cm	cm
Ⅰa	SB24	4×(2)	7.95	26.23	4.15	13.69	南北	側柱	N 5°W	1.98	6.53	2.10	6.93	24～46	20～40
Ⅰa	SB26	2×2	4.00	13.20	3.95	13.03	東西	総柱	N 40°W	2.01	6.63	1.97	6.50	28～56	27～54
Ⅰa	SB27	4×(2)	9.00	29.53	4.50	15.01	東西	側柱	N 60°W	2.25	7.43	2.25	7.43	44～84	38～68
Ⅰa	SB28	(2)×2	4.10	13.03	3.94	13.00	南北	側柱	N 27°E	1.98	6.53	1.97	6.50	22～46	10～52
Ⅰa	SB29	2×2	3.95	13.03	3.80	12.54	東西	総柱	N 65°W	1.97	6.50	1.90	6.27	22～62	16～42
Ⅲ	SB48	(1)×(1)	2.80	9.24	2.80	9.24			N 20°E	2.80	9.24	2.80	9.24	40～60	20～26
Ⅰa・Ⅲ	SB53	3×2	7.40	24.42	3.55	11.72	南北	側柱	N 20°W	1.80	5.94	1.77	5.84	22～40	6～36



第９図　Ⅰａ区・Ⅲ区掘立柱建物跡（SB53・48）実測図及び出土遺物実測図



第10図　Ⅰａ区・Ⅲ区柵列跡（SA06・07・08・18・20）実測図

表４　Ⅰa区・Ⅲ区柵列跡（SA）計測表

区	遺構番号	間数	長さ		建物の向き	方位	柱穴直径	柱穴深さ
			m	尺			cm	cm
Ⅰa	SA06	2	4.50	14.85	南北	N 22°E	14～30	12～20
Ⅰa	SA07	3	7.60	25.08	南北	N 22°E	21～26	17～28
Ⅰa	SA08	4	8.50	28.05	東西	N 67°W	54～62	28～42
Ⅲ	SA18	4	7.20	23.76	東西	N 65°W	25～40	13～35
Ⅲ	SA20	(3)	5.85	19.30	東西	N 70°W	22～35	10～25

出土した土師器の杯である。

48号掘立柱建物跡【SB48】（第９図）

SB48はⅢ区の中央部西に位置する遺構で、(１)間×(１)間である。建物全体の規模は調査区外に柱穴が存在すると思われるので不明である。桁行方向はＮ20°Ｗと推定される。２はPitから出土した径7.3㎝の土師器の杯である。

⑵　**柵列跡**

６号柵列跡【SA06】（第10図）

SA06は、Ⅰａ区の71号溝跡に平行する柱列である。ほぼ南北に並ぶ３つの柱穴からなり、柱列の長さは4.5m（約14.85尺）で、下端レベルは一定でない。

７号柵列跡【SA07】（第10図）

SA07は、SA06と同様に71号溝跡に平行する柱列である。西側には53号掘立柱建物跡もある。４つの柱穴からなり柱列の長さは7.6m（約25.08尺）で、柱穴は直径21～26㎝、深さ17～28㎝で、下端レベルは一定でない。

８号柵列跡【SA08】（第10図）

SA08は、Ⅰａ区の北部に位置する遺構である。柱列の軸はＮ67°Ｗで５つの柱穴からなり柱列の長さは7.8m（約25.8尺）で、柱穴はやや大きく直径54～62㎝、深さ28～42㎝で、下端レベルはほぼ一定である。

18号柵列跡【SA18】（第10図）

SA18は、Ⅲ区の南端に位置する遺構である。ほぼ東西に並ぶ５つの柱穴からなり柱列の長さは7.2m（約23.76尺）で、下端レベルは一定でない。

20号柵列跡【SA20】（第10図）

SA20は、SA18に隣接する遺構である。４つの柱穴からなり柱列の長さは5.85m（約19.3尺）で、柱穴は直径28～44㎝、深さ12～20㎝で、下端レベルは一定でない。

⑶　**溝跡**

18号溝跡【S18】（第11図）

S18はⅠａ区の北部で確認でき、長さ8.00m以上、幅0.64～1.40m、深さ約0.40mを測り、ほぼ東西方向に伸びるが、東側が不明である。３はこの遺構から出土した遺物で、底部に回転糸切り痕がある土師器の杯である。

71号溝跡【S71】（第12図）

S71はⅠａ区の南端に位置する遺構で、長さ10.00m以上、幅1.28～1.54m、深さ約0.42mを測り、ほぼ南北方向に伸びると思われる。図化していないが土錘が１点出土している。

⑷　**井戸跡**

65号井戸跡【S65】（第13図）

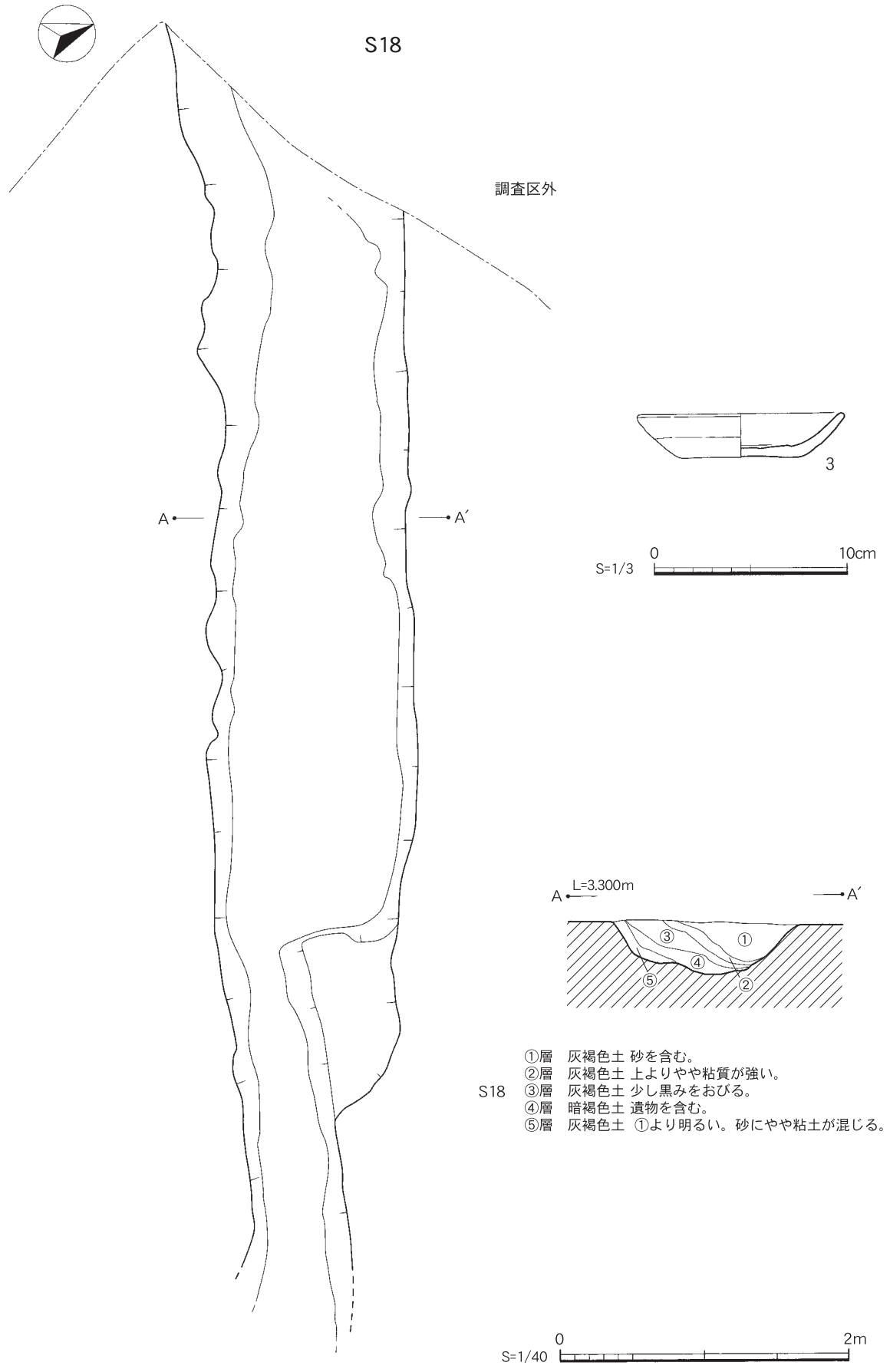
S65はⅠａ区の中央部に位置する遺構で、長軸2.50m、短軸2.30mでほぼ円形を呈する。覆土は８層に分層され、底部には粘土が堆積しており、掘り下げ可能だったが深さ0.92mまでに止めた。

⑸　**土壙墓**

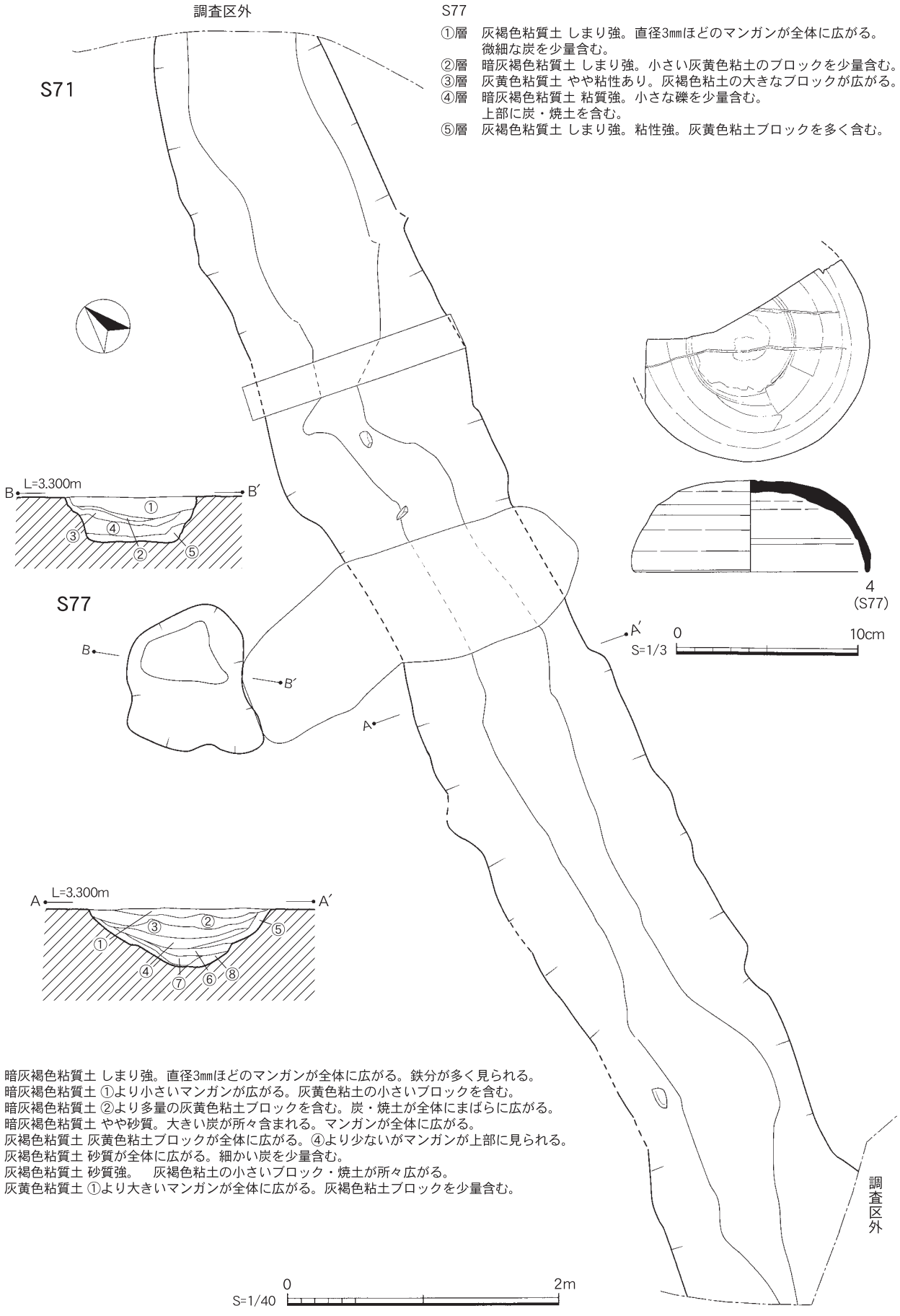
169号土壙【S169】（第15図）

S169はⅢ区の北端に位置する遺構で、長軸1.08m、短軸0.48m、深さ0.12mを測り、覆土は１層である。

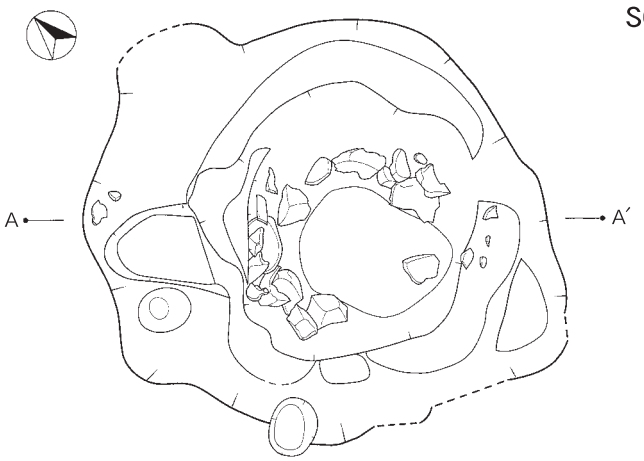
図化して無いが、写真図版51に屈葬された人骨が残されている。６は底部に回転糸切りと板状圧痕の

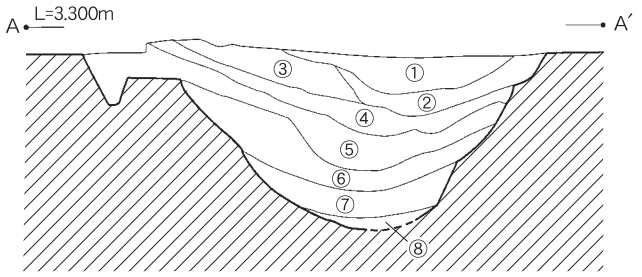


第11図　Ⅰa区溝跡（S18）実測図及び出土遺物実測図

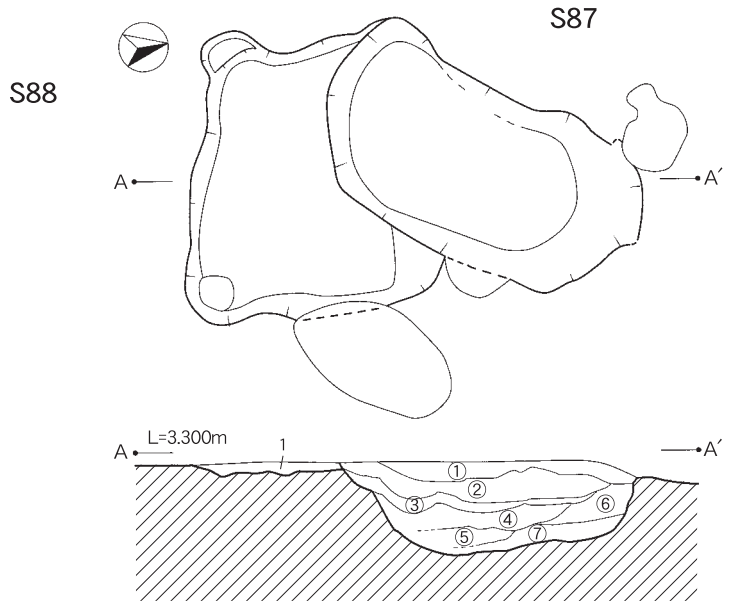


第12図　Ⅰａ区溝跡（Ｓ71）・土坑（Ｓ77）実測図及び出土遺物実測図





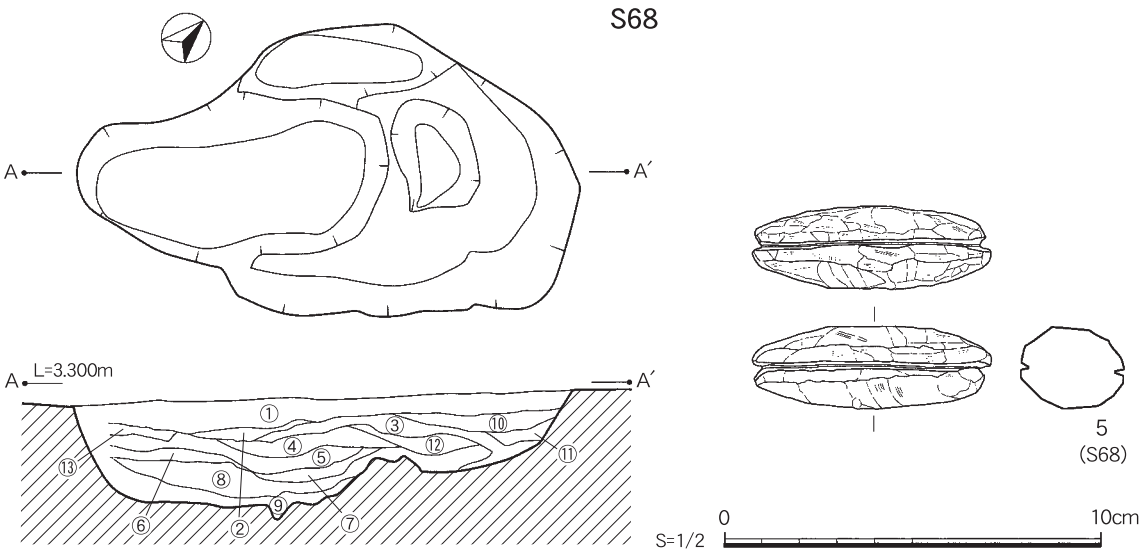
S65
①層　灰褐色粘質土 マンガンを含みカーボンや焼土のかたまりを多く含む。
②層　灰褐色粘質土 ①に比べ含まれているカーボンや焼土のかたまりの粒が小さい礫を含む。
③層　灰褐色粘質土 ②よりやや暗い。礫を多く含む。
④層　暗茶褐色土 上層・下層に焼土の大きなかたまりを含む。
⑤層　暗茶褐色土 マンガンのかたまりを含みしまっている。
⑥層　暗茶褐色土 ⑤よりやや暗い。
⑦層　灰黄色粘質土 粘性が強い。全体的にマンガンを含む。
⑧層　灰白色粘質土 灰白色の粘質土でしまりがある。



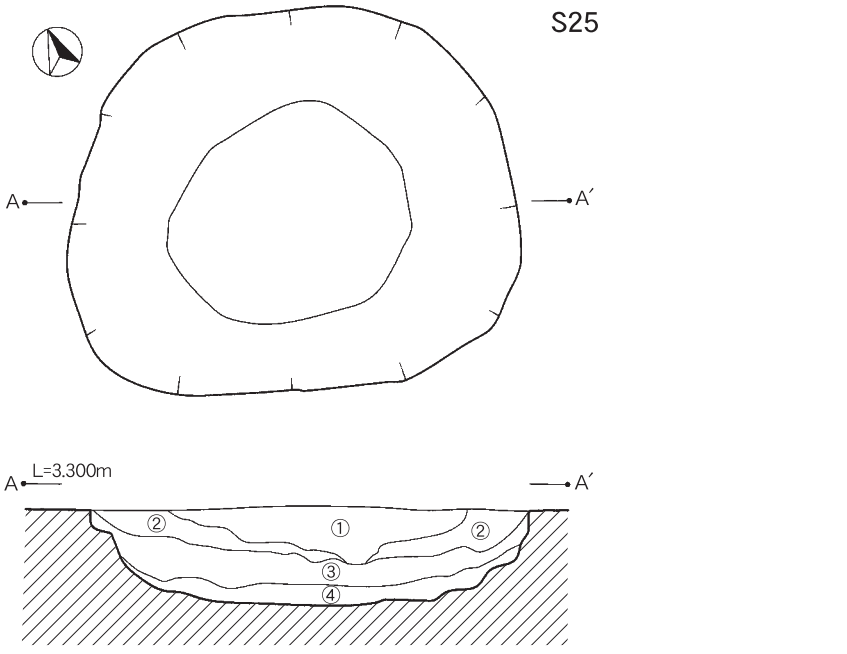
S88　1層　暗灰褐色粘質土 しまりがよく炭・焼土が全体にまばらに含まれる。

S87
①層　黄灰色粘質土 しまりがよく不定形なマンガンが全体に広がる。炭・焼土は下部に多い。
②層　暗黄灰色粘質土 黄灰色粘土ブロックが上部に広がり小さな礫を少量含む。
③層　黄灰色粘質土 やや砂質。炭・焼土を微量に含む。
④層　暗黄灰色粘質土 不定形なマンガンがまばらに広がる。炭は下部に少量含まれる。　大きな礫を含む。
⑤層　黄灰色粘質土 やや砂質。鉄分がうすく広がる。
⑥層　暗灰褐色粘質土 やや砂質。細かい焼土・炭をまばらに含む。
⑦層　暗灰褐色粘質土 やや粘質。黄灰色粘土ブロックを全体に含む。細かい焼土・炭も少量含む。

第13図　Ⅰa区井戸跡（S65）・土坑（S87・88）実測図



S68
①層　暗灰褐色粘質土 しまりあり細かな焼土・炭を含む。
②層　暗灰褐色粘質土 やや粘質あり。小さな炭・細かな焼土を少量含む。
③層　灰褐色粘質土 しまりあり。灰黄色粘土ブロックが全体に広がる。形のはっきりしないマンガンを含む。
④層　灰褐色粘質土 やや粘質あり。灰黄色粘土ブロックが全体に広がる。マンガン多量含む。
⑤層　暗灰褐色粘質土 やや粘質あり。小さい灰黄色粘土ブロックが上部に多く広がる。
⑥層　灰褐色粘質土 ⑤より粘質あり。小さい灰黄色粘土ブロックを中央に多く含む。
⑦層　灰褐色粘質土 ややしまりあり。灰黄色粘土ブロックが全体に広がる。
⑧層　暗灰褐色粘質土 粘質強。大きい炭が全体に含む。
⑨層　暗灰褐色粘質土 やや粘質あり。小さい灰黄色粘土ブロックが全体に含まれる。
⑩層　暗灰褐色粘質土 しまりあり。マンガンを含む灰褐色粘土が中央に多く広がる。
⑪層　灰褐色粘質土 ⑩よりしまりあり。粘質あり。灰黄色粘土・焼土・炭を少量含む。
⑫層　暗灰褐色粘質土 やや粘質あり。微細焼土・炭をに下部に広がる。
⑬層　灰色粘質土 不定形なマンガンが全体に広がる。灰褐色粘土すじが縦に多く見られる。



S25
①層　灰褐色粘質土 灰黄色ブロックを含む。粘質は弱い。
②層　暗褐色土 灰黄色ブロックを含む。①に比べて暗い。
③層　暗褐色土 ②よりやや明るい灰黄色のブロックを含む。マンガンの固まりを含む。
④層　暗褐色土 ②より暗く、粘質が強い。マンガンの固まりを含む。

第14図　Ⅰａ区土坑（S68･25）実測図及び出土遺物実測図

残る土師器の杯である。

⑹　土坑

土坑はⅠａ区とⅢ区を分けて述べる。

77号土坑【S77】（第12図）

S77はⅠａ区の南端に位置する71号溝跡に隣接する、長軸1.10m、短軸0.86m、深さ0.32mを測る土坑である。平面形は歪で、断面形は逆台形である。４はここから出土した、天井部外器面にヘラ記号のある須恵器の蓋である。

87号土坑【S87】（第13図）

S87は調査区の中央部に88号土坑と一緒に検出され、長軸1.32m、短軸0.90m、深さ0.50mを測る。平面形は楕円形で、７層に分層される。

88号土坑【S88】（第13図）

S88は87号土坑に切られる。平面形はやや方形で、長軸1.41m、短軸1.30m～を測る。深さは0.10mと浅く、覆土は暗灰褐色の粘質土である。

68号土坑【S68】（第14図）

S68は調査区の南側に位置する遺構で、長軸2.66m、短軸1.55m、深さ0.54mを測る。覆土は13層に分かれ、全体的にマンガンを含む。出土遺物は、５で滑石製の石錘である。

25号土坑【S25】（第14図）

S25は27号掘立柱建物跡に隣接する。平面形はほぼ円形で、長軸2.34m、短軸2.01m、深さ0.92mを測る。覆土は４層に分かれる。

137号土坑【S137】（第15図）

S137はⅢ区の南側に位置する遺構で、136号土坑に切られる。長軸1.02m、短軸0.87m、深さ0.18mを測る。７はここから出土した土師器の杯である。

136号土坑【S25】（第15図）

S136は137号土坑を切る。53号掘立柱建物跡の西側に位置する。長軸1.99m、短軸1.53m、深さ0.64mを測る。覆土は５層に分層される。

135号土坑【S135】（第15図）

S135は調査区の南側に位置し、長軸1.10m、短軸0.63m、深さ0.18mを測る。覆土は２層に分かれる。

149号土坑【S149】（第15図）

S149は調査区の中央部の西側に位置している、長軸1.15m、短軸0.68m、深さ0.16mと小さい。覆土は２層に分かれる。

131号土坑【S131】（第16図）

S131は調査区の南側に位置し、長軸1.73m、短軸1.10m、深さ0.32mを測る。覆土は４層に分かれる。８はここから出土した滑石製の石錘である。

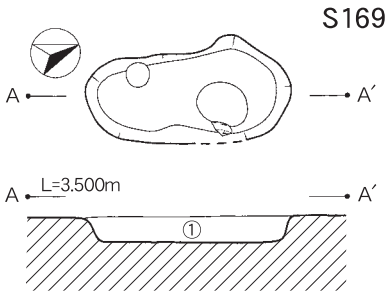
146号土坑【S146】（第16図）

S146は調査区の中央部の48号掘立柱建物跡の東側に位置し、長軸1.65m、短軸1.15m、深さ0.24mを測る。覆土は２層に分かれる。

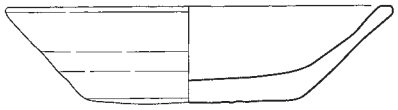
147号土坑【S147】（第16図）

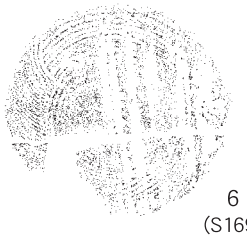
S147は146号土坑に隣接しており、長軸2.30m、短軸1.70m、深さ0.12mを測る。覆土は粘土層である。９は146と147から出土した土師器の壺で外面に赤色顔料痕が残る。

199号土坑【S199】（第17図）

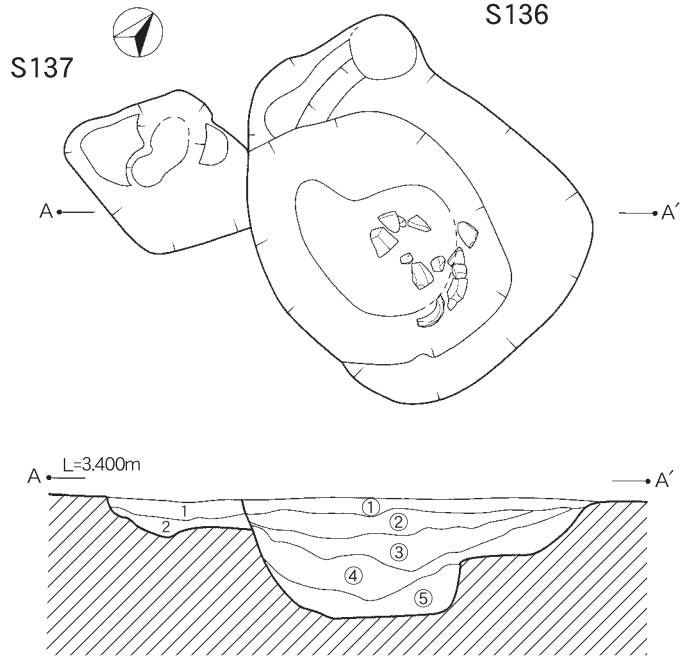


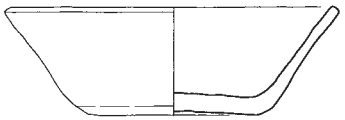
S169　①層　暗灰褐色粘質土 しまり強。黄色粘土ブロックが全体に広がる。
　　微細な炭・焼土を少量含む。

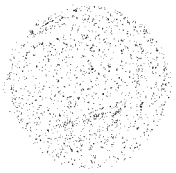




6
(S169)







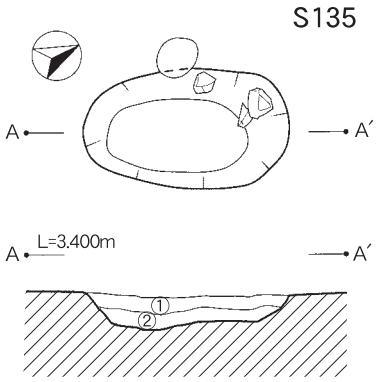
7
(S137)

S137

1層　灰褐色粘質土 しまり強。マンガン多量。
2層　灰褐色粘質土 やや粘質。すじ状に粘土が広がる。

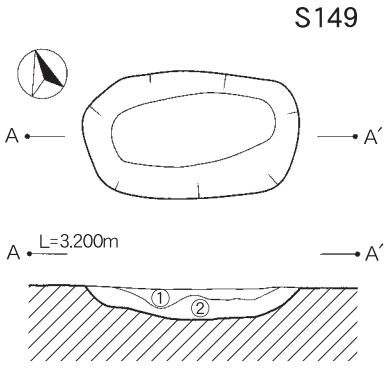
S136

①層　灰褐色粘質土 しまり強。マンガンを多く含む。
②層　灰褐色粘質土 ややしまり。すじ状に炭を含む。細かいマンガンを含む。
③層　灰褐色粘質土 やや粘質。小さい礫を含む。
④層　灰褐色粘質土 粘質。灰黄色粘土ブロックを所々含む。
⑤層　灰青色粘質土 粘質強。マンガンを含む灰黄色粘土ブロックを所々含む。
　　炭少量。



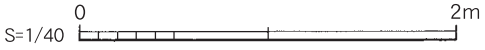
S135

①層　暗灰褐色粘質土 ややしまりあり。炭・焼土微量。
②層　暗灰褐色粘質土 粘質。下部に灰黄色粘土ブロックが
　　多く広がる。

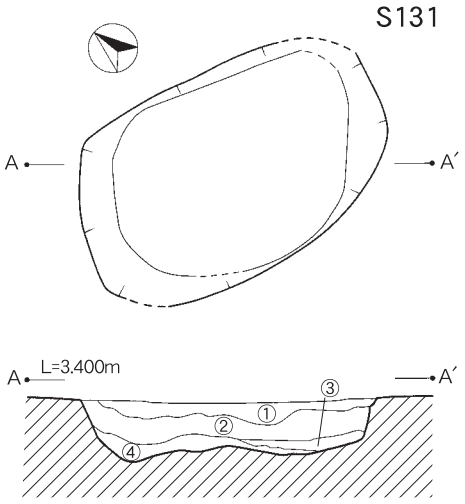


S149

①層　灰褐色粘質土 やや粘質。微細なマンガン・炭全体に含む。
②層　灰褐色粘質土 粘質強。マンガン含む灰黄色粘土すじを
　　下部に多く含む。

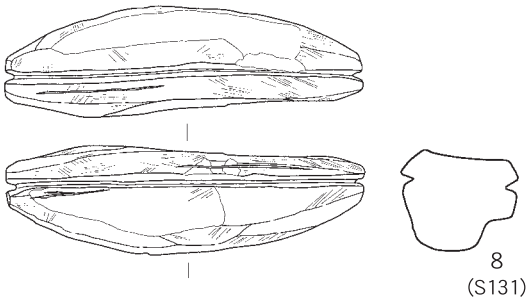


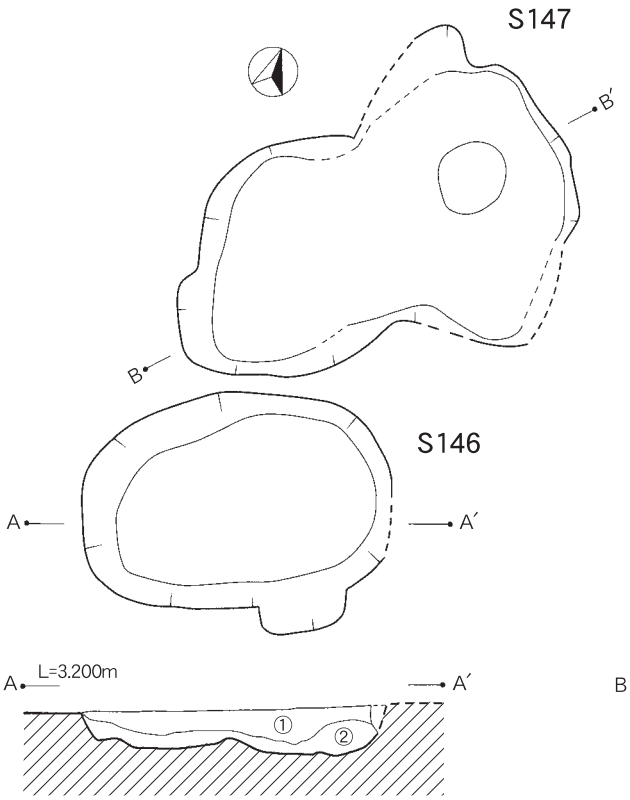
第15図　Ⅲ区土壙墓（S169）・土坑（S137・136・135・149）実測図及び出土遺物実測図



S131

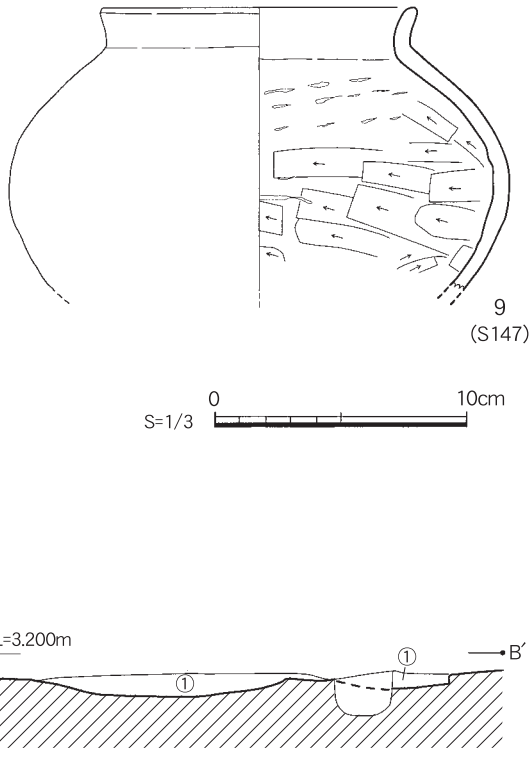
①層　暗灰褐色粘質土 しまり強。灰黄色粘土ブロックを多く含む。
②層　暗灰褐色粘質土 ややしまり。大きい炭が所々広がる。
③層　暗灰褐色粘質土 炭が全体に広がる。粘質強。
④層　暗灰褐色粘質土 粘質強。炭は③より少量だが全体に含まれる。





S146

①層　暗灰褐色粘質土 粘土、炭の小さな固まりが全体に点在する。
②層　暗灰褐色粘質土 ①よりやや暗い、微細な焼土の粒を全体に含む。

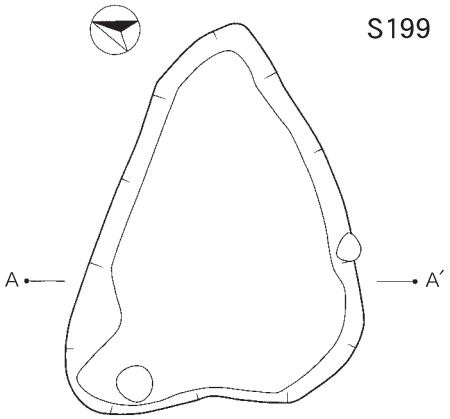


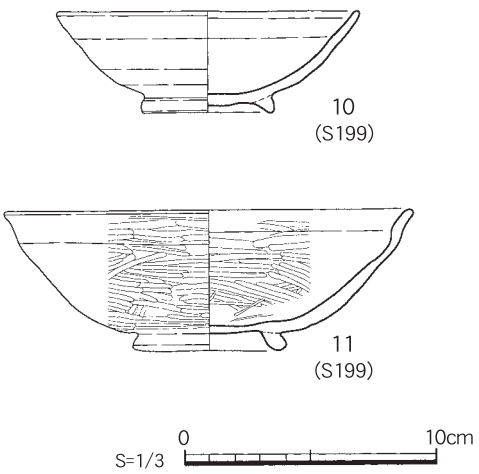
S147

①層　灰褐色粘質土 灰黄粘土ブロック、粘土質の固まりを全体に含む。

0　2m
S=1/40

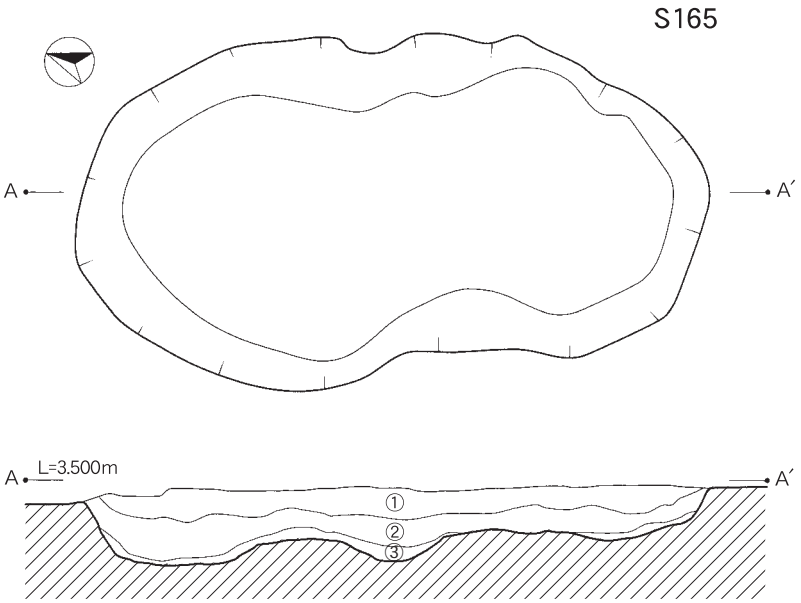
第16図　Ⅲ区土坑（S131・146・147）実測図及び出土遺物実測図





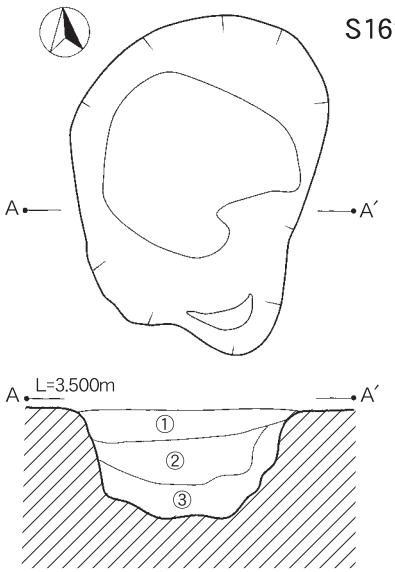
S199

①層　黒褐色粘質土(10YR2/3)　やや粘質。
②層　黒褐色粘質土(10YR2/3)　やや粘質。
　　すじ状に暗褐色粘土を含む。 炭多量。
③層　暗褐色粘質土(10YR3/3)　やや砂質。
　　すじ状に粘土を含む。



S165

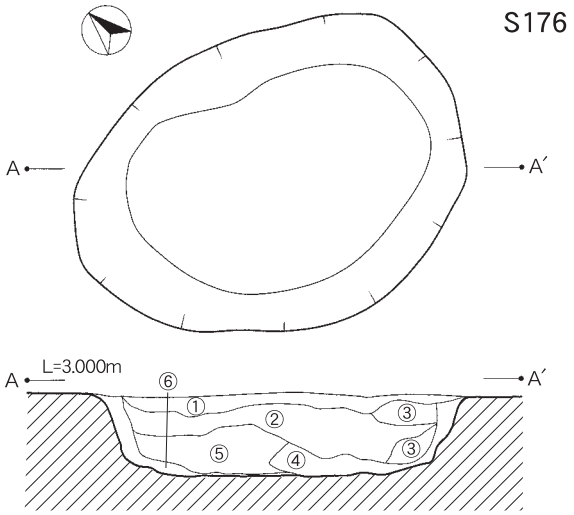
①層　暗褐色粘質土 ややしまりあり。焼土・炭を少量含む。
②層　暗褐色粘質土 ややしまりあり。①より炭を多く含む。
③層　暗褐色粘質土 粘質強。小さい灰黄色粘土ブロックを含む。



S162

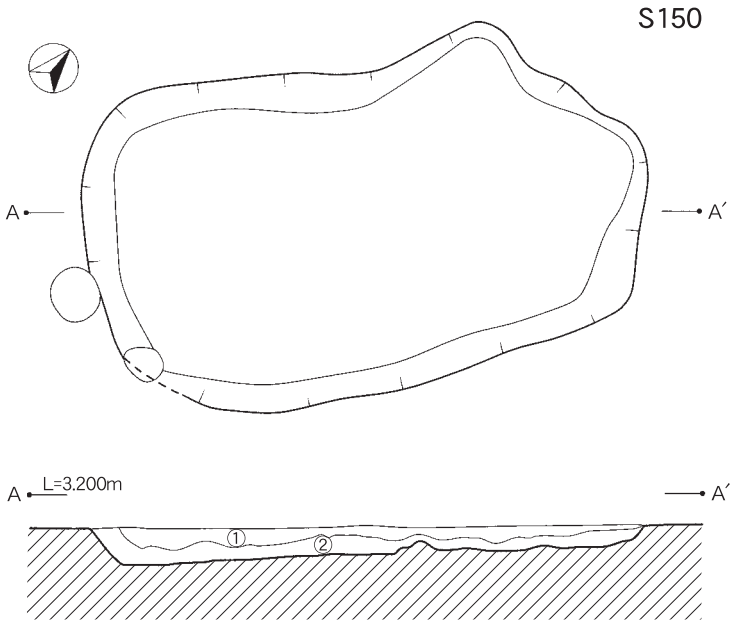
①層　暗灰褐色粘質土 炭・焼土のやや大きめの固まりを全体に含む。
②層　暗灰褐色粘質土 灰黄色粘土ﾌﾞﾛｯｸが点在する。
　　焼土・炭のやや大きめの粒を含む。
③層　灰黄色粘質土 灰黄色粘土ブロックが点在する。

第17図　Ⅲ区土坑（S 199・165・162）実測図及び出土遺物実測図



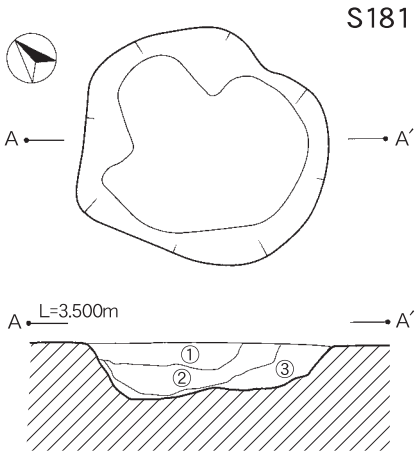
S176

①層　黒褐色粘質土(10YR2/2)　しまり強。
　　細かい暗褐色粘土ブロックを含む。
②層　黒褐色粘質土 (10YR2/2)　ややしまる。
　　①同様の粘土を多量に含む。
③層　黒褐色粘質土 (10YR2/2)　やや粘質。
　　にぶい黄褐土にマンガンを含む。粘土も含む。
④層　黒色粘質土(10YR2/1)　粘質強。
　　大きい暗褐色粘質土を上部に含む。炭少量。
⑤層　灰黄褐色粘質土(10YR4/2)　微細なマンガンが全体に、
　　すじ状に黒褐色粘土を含む。
⑥層　黒褐色粘質土(10YR2/2)　　粘質強。炭の大きな固
　　まりが中央部に点在する。



S150

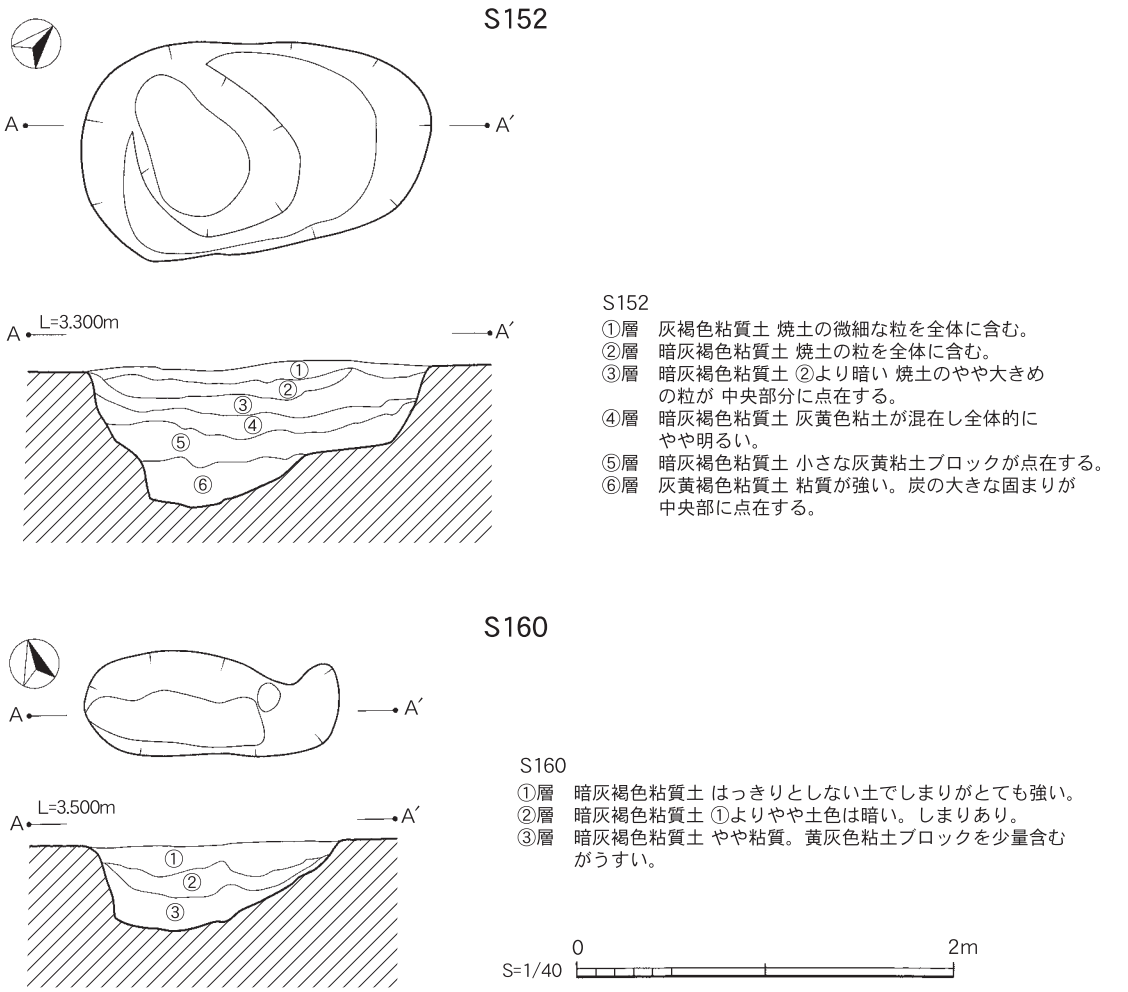
①層　灰褐色粘質土 灰黄色ブロックが全体に広がる。
②層　灰褐色粘質土 ①と同じく灰黄色粘土ブロックが全体に広がる。①よりやや暗い。



S181

①層　暗灰褐色粘質土 しまり強。上部に焼土層あり。
　　はっきりしない土色。
②層　暗灰褐色粘質土 しまり強。大きいもので2㎝位
　　の焼土が全体に含まれる。
③層　暗灰褐色粘質土 小さい灰黄色粘土ブロックを
　　少量含む。炭少量。

第18図　Ⅲ区土坑（S176・150・181）実測図



第19図　Ⅲ区土坑（S152・160）実測図

表５　Ⅰa区検出遺構一覧表

（単位：m）

区	遺構番号	遺構名	長軸(長さ)	短軸(幅)	深さ	区	遺構番号	遺構名	長軸(長さ)	短軸(幅)	深さ
Ⅰa	S18	溝	8.00～	1.40	0.40	Ⅰa	S87	土坑	1.32	0.90	0.50
Ⅰa	S71	溝	10.00～	1.35	0.42	Ⅰa	S88	土坑	1.41	1.30～	0.66
Ⅰa	S77	土坑	1.10	0.86	0.32	Ⅰa	S68	土坑	2.66	1.55	0.54
Ⅰa	S65	井戸	2.50	2.30	0.92	Ⅰa	S25	土坑	2.34	2.01	0.52

表６　Ⅲ区検出遺構一覧表

（単位：m）

区	遺構番号	遺構名	長軸(長さ)	短軸(幅)	深さ	区	遺構番号	遺構名	長軸(長さ)	短軸(幅)	深さ
Ⅲ	S169	土壙墓	1.08	0.48	0.12	Ⅲ	S199	土坑	2.00	1.60	0.28
Ⅲ	S137	土坑	1.02	0.87	0.18	Ⅲ	S165	土坑	3.39	1.88	0.39
Ⅲ	S136	土坑	1.99	1.53	0.64	Ⅲ	S162	土坑	1.74	1.30	1.57
Ⅲ	S135	土坑	1.10	0.63	0.18	Ⅲ	S176	土坑	2.16	1.64	0.43
Ⅲ	S149	土坑	1.15	0.68	0.16	Ⅲ	S150	土坑	3.05	1.77	0.20
Ⅲ	S131	土坑	1.73	1.10	0.32	Ⅲ	S181	土坑	1.32	1.12	0.29
Ⅲ	S146	土坑	1.65	1.15	0.24	Ⅲ	S152	土坑	1.85	1.16	0.73
Ⅲ	S147	土坑	2.30	1.70	0.12	Ⅲ	S160	土坑	1.34	0.57	0.43

S199は調査区の北側に位置する遺構で、長軸2.00m、短軸1.60m、深さ0.28mを測る。平面形は三角形を呈している。覆土は３層に分かれる。ここからは、10の瓦質土器の杯と11の瓦器椀が出土した。

165号土坑【S165】（第17図）

S165は調査区の北側中央に位置し、長軸3.39m、短軸1.88m、深さ0.39mと南北に伸びるやや大きな遺構である。覆土は３層に分かれる。

162号土坑【S162】（第17図）

S162は165号土坑の東側にあり、長軸1.74m、短軸1.30m、深さ1.57mを呈する。覆土は３層に分かれ、上層には炭と焼土の大きな粒を含む。

176号土坑【S176】（第18図）

S176は調査区の北端に位置する遺構で、長軸2.16m、短軸1.64m、深さ0.43mを測る。覆土は６層で混在する。

150号土坑【S150】（第18図）

S150は調査区の中央部に位置する大きな土坑で、長軸3.05m、短軸1.77m、深さ0.20mを測る。平面形は楕円形を呈し、断面は浅い皿状をしている。覆土は２層に分かれる。

181号土坑【S181】（第18図）

S181は162号土坑の南側に位置する遺構で、長軸1.32m、短軸1.12m、深さ0.29mを測る。覆土は３層に分かれ、焼成粘土塊を多く含む。

152号土坑【S152】（第19図）

S152は調査区の中央部東端に位置し、長軸1.85m、短軸1.16m、深さ0.73mを測る。平面形は楕円形で、断面は二段で深い。覆土は６層に分層される。

160号土坑【S160】（第19図）

S160は調査区の北側に位置する遺構で、長軸1.34m、短軸0.57m、深0.43mを測る。覆土は３層に分かれる。

３．その他

ここでは、２．遺構・遺物で遺構と共に述べられなかった遺物を概観する。なお、出土地点、法量、調整、色調、胎土等の詳細については、別表のとおりである。

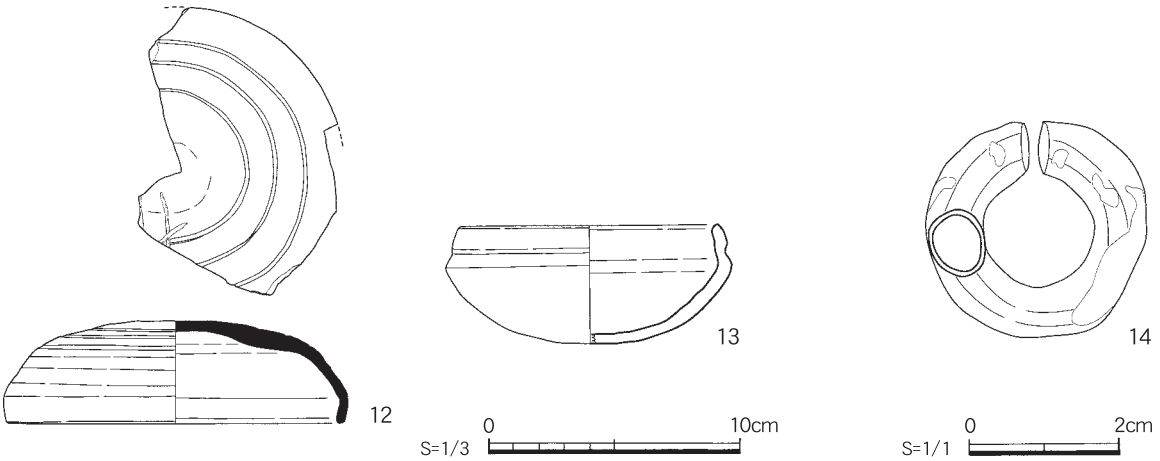
Ⅰａ区出土遺物（第20図）

第20図はⅠａ区より出土した遺物である。12は須恵器の蓋で天井部外器面にヘラ記号がある。13は土師器の須恵器模倣杯で内面にススが付着し、僅かに赤色顔料痕が残る。14は、耳環で断面は空洞になっており、少量の鍍金が残る。この他に、図化していないが土錘が６点出土している。

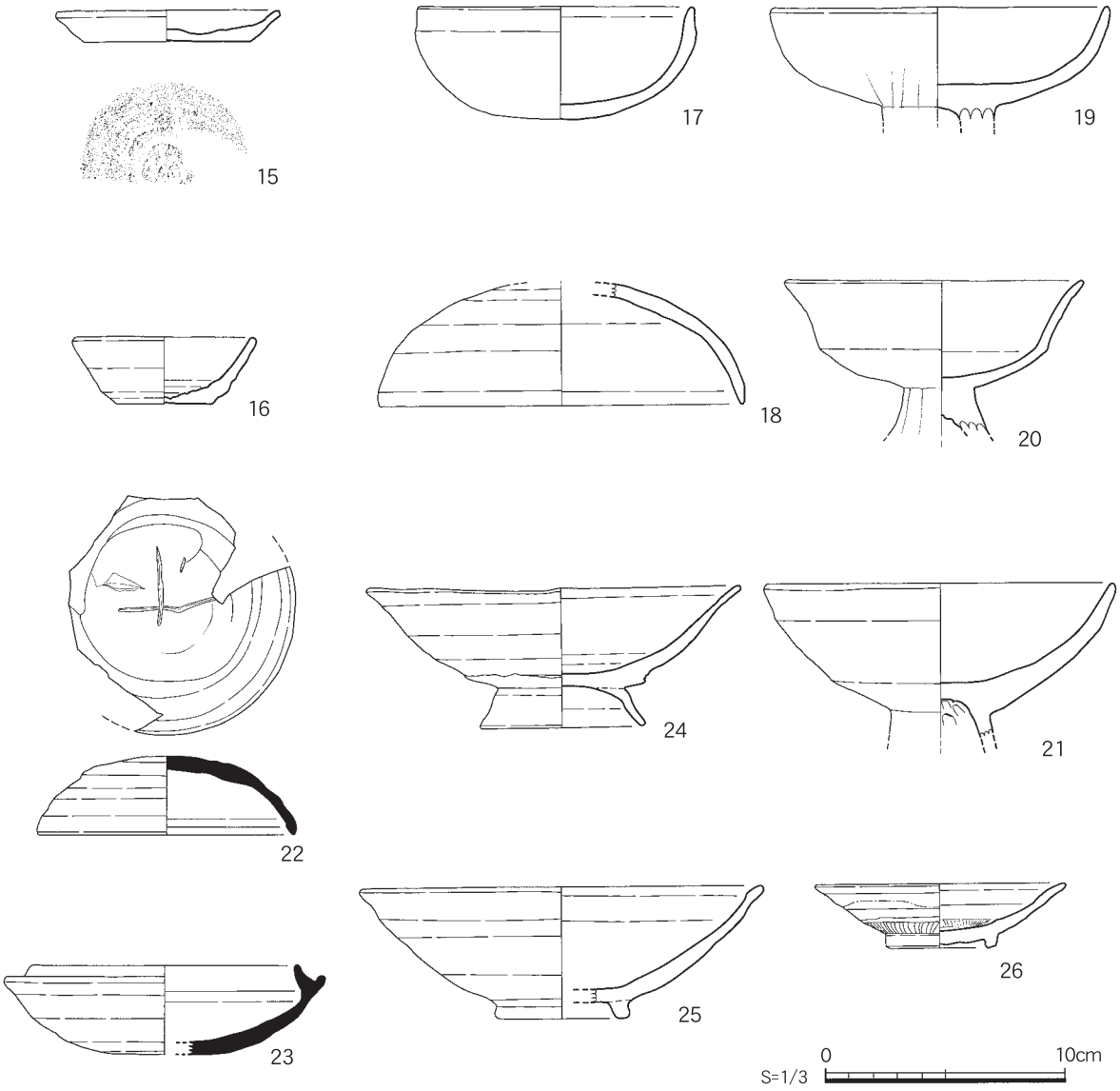
Ⅲ区出土遺物（第21・22図）

第21図は土器類である。15・16は土師器の皿と杯、17は須恵器模倣土師器杯、18は杯蓋である。19～21は土師器の高杯で、19と21は内外面に赤色顔料痕が残る。22・23は須恵器の蓋と身、24は高台付杯、25は黒色土器の椀、26は白磁の皿である。

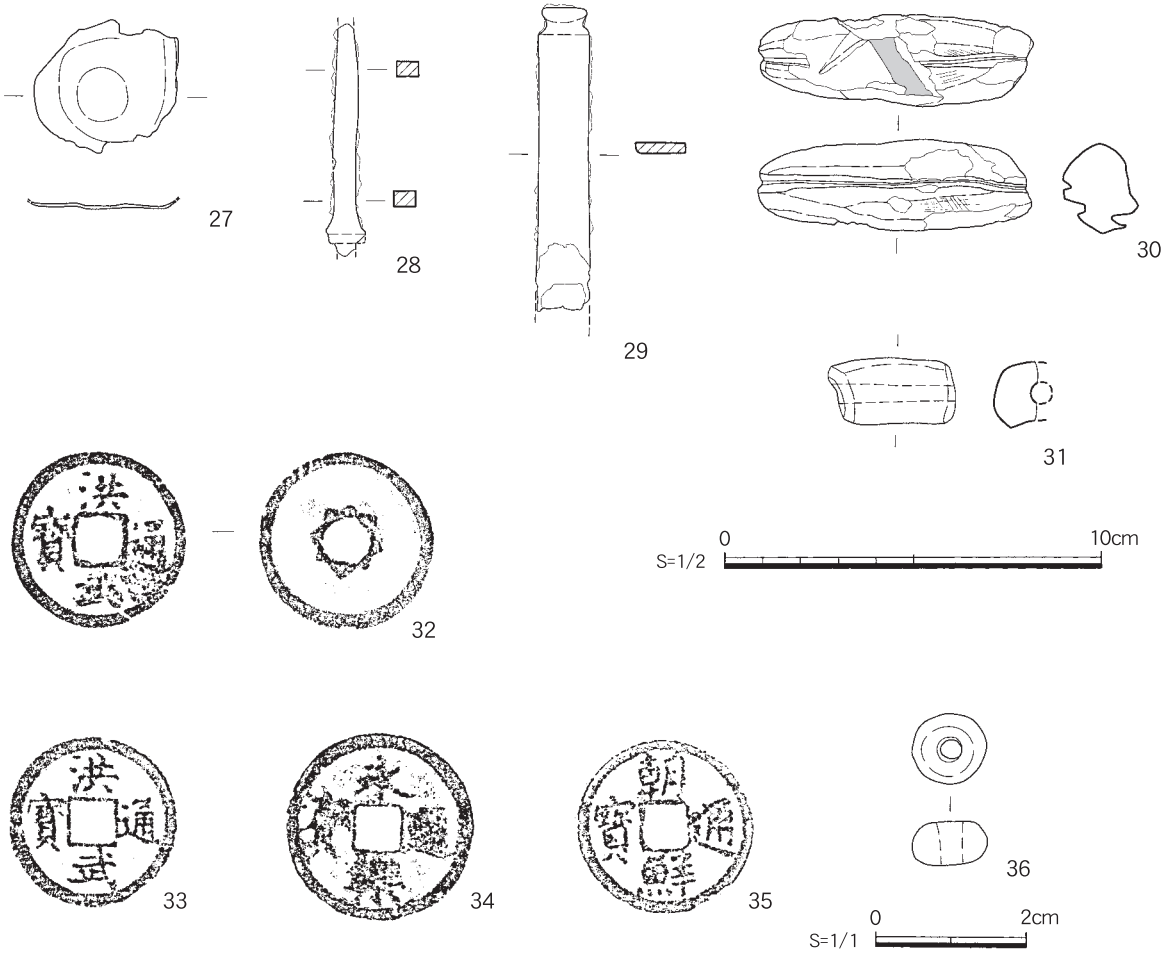
第22図の27～29は鉄製品で、28は長頸鏃の一部であろう。30は滑石製の石錘である。31も滑石の石錘である。32～35は古銭で、32は『洪武通宝』洪武元年（1368年鋳造）の表裏、33は『永楽通宝』永楽六年（1408年鋳造）、35は『朝鮮通宝』世宋五年（1423年鋳造）と比較的に新しい方である。36は玉である。



第20図　Ⅰａ区出土遺物実測図



第21図　Ⅲ区出土遺物実測図（１）



第22図　Ⅲ区出土遺物実測図（2）

第３節　Ｉｂ区の調査

１．遺構分布（第23図）

Ｉｂ区で掲載した遺構は、掘立柱建物跡８棟、柵列跡２基、溝跡２条、土坑35基である。なお、現地調査では、検出し掘削した柱穴は相当数あったが、建物等を構成する事は出来なかった。柱穴を含めた遺構分布は、掘立柱建物跡は中央部と南部に集中し、溝跡は北端にある。土坑は、全体に多く分布する。

掘立柱建物跡	SB12・13・14・15・19・20・21・23
柵列跡	SA03・04
溝跡	S20・21
土坑	S１・２・３・５・７・８・９・10・12・13・15・17・20・21・22・28・30・31・33
	34・35・36・37・40・43・45・46・48・49・50・51・52・83・84・85

２．遺構・遺物

各遺構・遺物の詳細は第24図～第40図・表７～表９のとおりである。以下は各遺構を概観する。

⑴　掘立柱建物跡

12号掘立柱建物跡【SB12】（第24図）

SB12は調査区の中央部に位置し、北側に約1.00ｍの庇のある５間×２間に側柱建物で、桁行方向はＮ75°Ｗである。桁長10.20ｍ（33.66尺）梁長4.60ｍ（15.18尺）と大きく、建物方向は東西と思われる。

19号掘立柱建物跡【SB19】（第25図）

SB19は調査区の中央部に位置する遺構で、12号掘立柱建物跡の南側に建つ５間×２間の側柱建物である。桁行方向はＮ18°Ｅで建物方向は南北である。37は土師器の皿で柱穴より出土している。

21号掘立柱建物跡【SB21】（第26図）

SB21は調査区の南側に位置する遺構で、４間×２間の側柱建物である。桁行方向はＮ20°Ｅで建物方向は南北である。38は土師器の杯で柱穴より出土した。

20号掘立柱建物跡【SB20】（第26図）

SB20は調査区の南隅に位置する遺構で、３間×２間の側柱建物である。桁行方向はＮ10°Ｅである。

14号掘立柱建物跡【SB14】（第27図）

SB14は調査区の中央部に位置する３間×２間の側柱建物である。桁行方向はＮ73°Ｗで、建物方向は東西である。

23号掘立柱建物跡【SB23】（第27図）

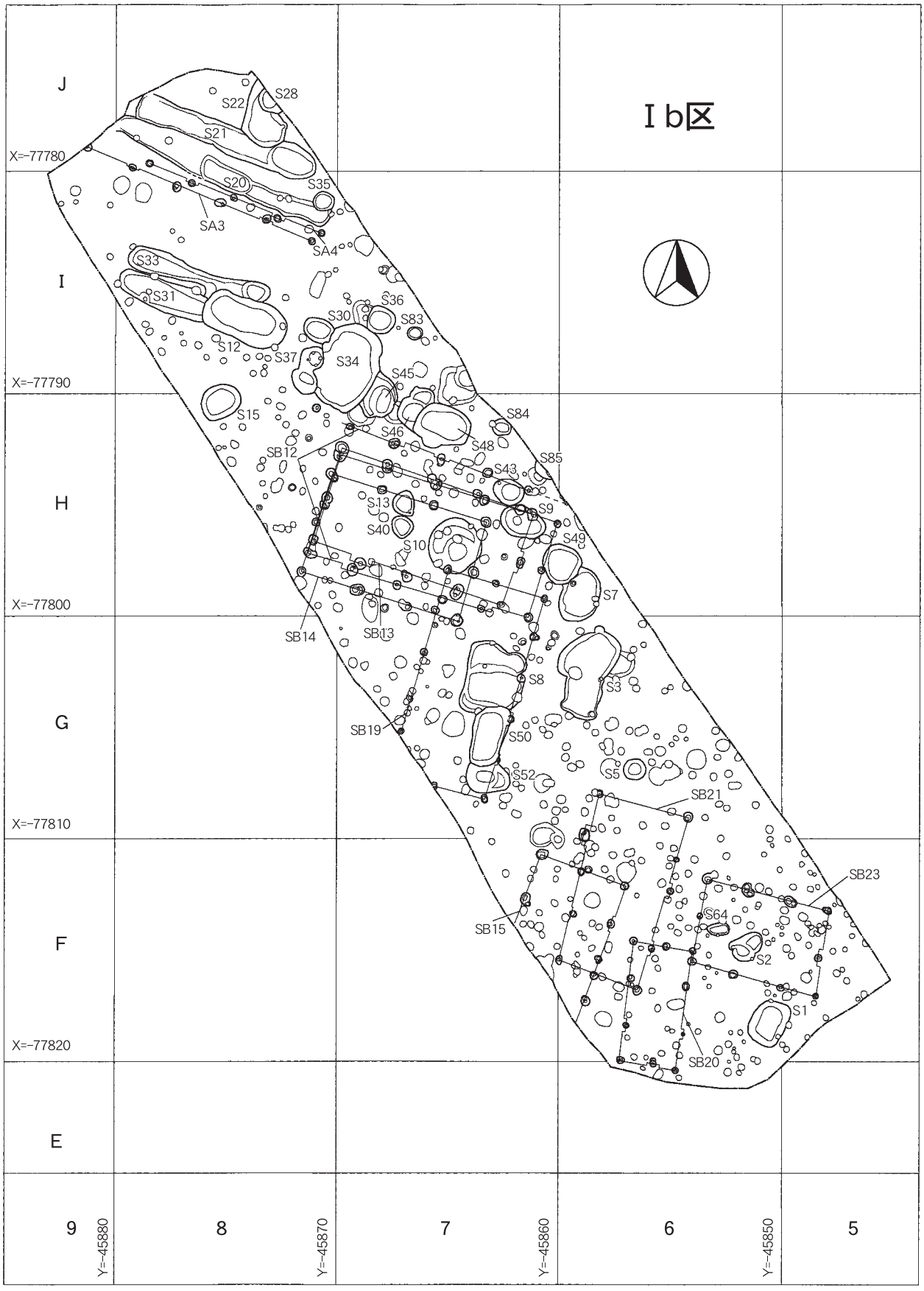
SB23は調査区の南側に位置する３間×２間の側柱建物で、桁行方向はＮ75°Ｗで、建物方向は東西である。

13号掘立柱建物跡【SB13】（第28図）

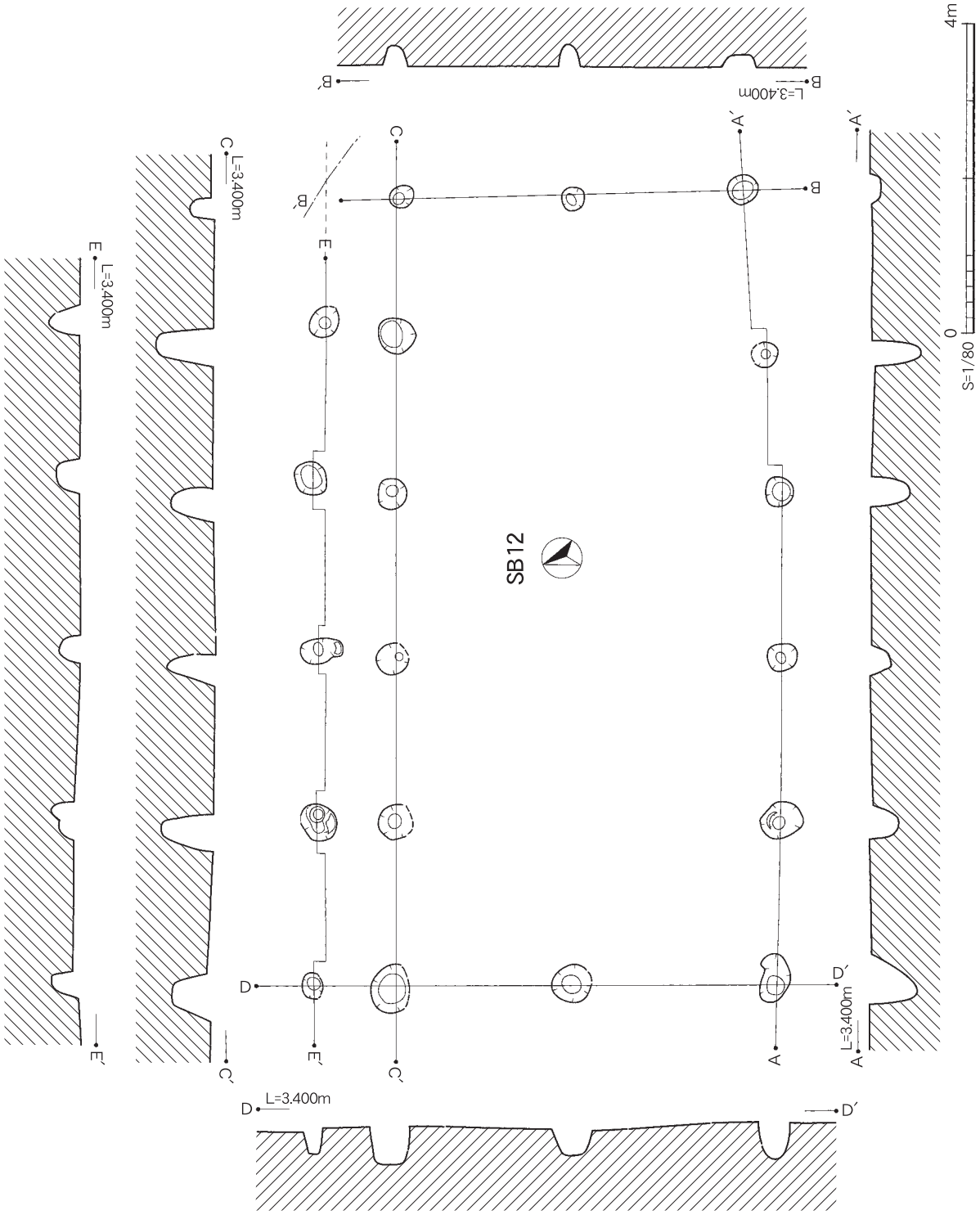
SB13は調査区の中央部に位置する４間×２間の側柱建物で、14号掘立柱建物跡と同じＮ73°Ｗで、建物方向も東西である。

15号掘立柱建物跡【SB15】（第29図）

SB15は21号掘立柱建物跡の西側に隣接している検出できたのは、（３）間×２間で側柱建物である。桁行方向はＮ20°Ｅである。建物方向は南北である。



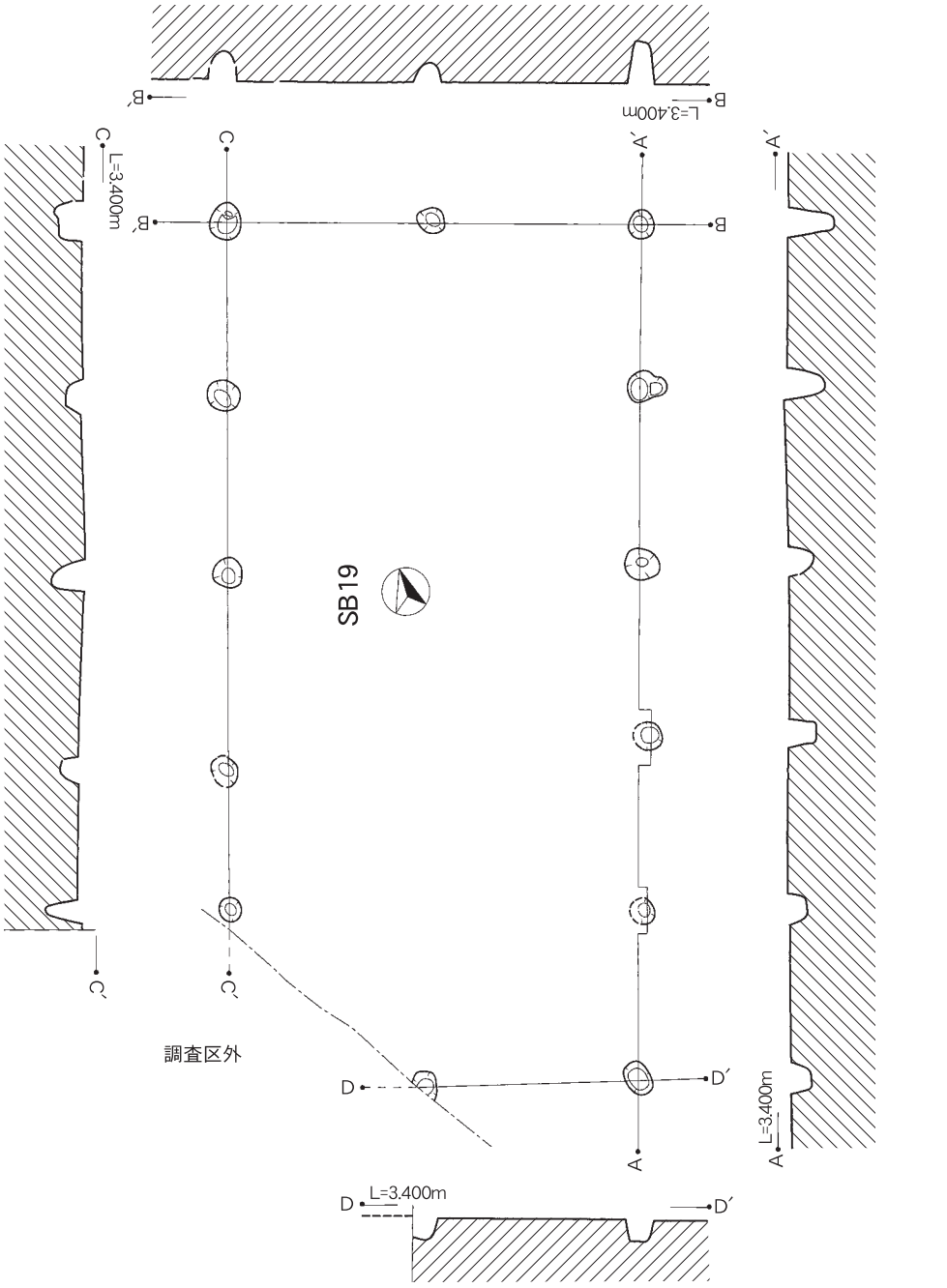
第23図　Ｉｂ区遺構配置図（S=1/250）

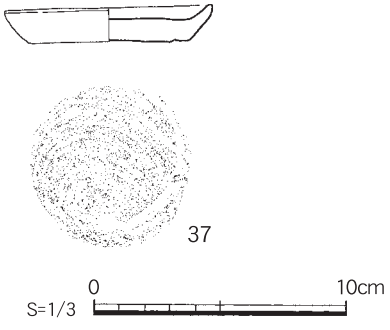


第24図　Ｉｂ区掘立柱建物（ＳＢ12）実測図

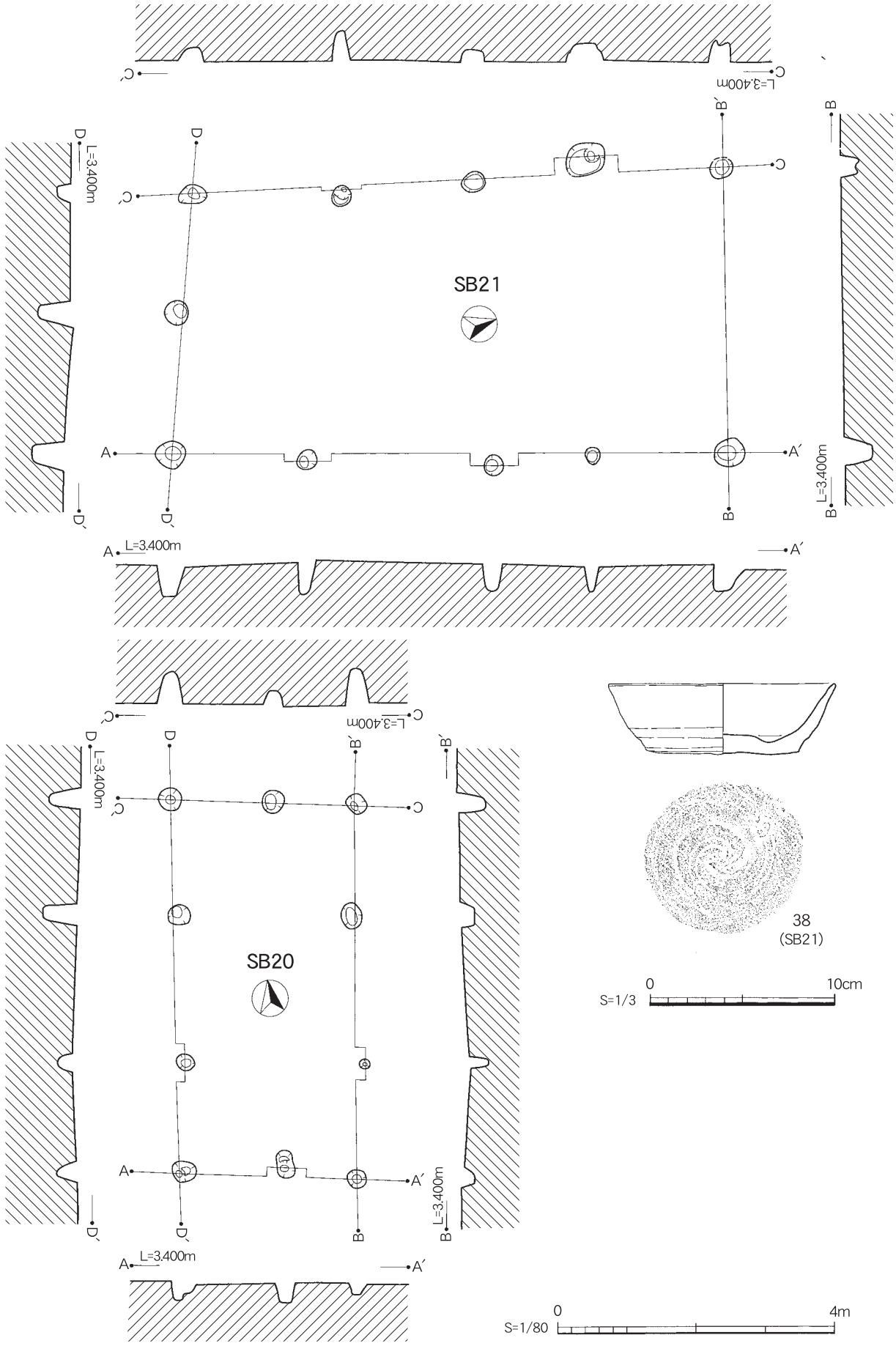
表７　Ｉb区　掘立柱建物跡（SB）計測表

区	遺構番号	間数	桁長		梁長		向き	型式	方位	桁桁平均		梁間平均		柱穴直径	柱穴深さ
			m	尺	m	尺				m	尺	m	尺	cm	cm
Ｉb	SB12	5×2	10.20	33.66	4.60	15.18	東西	側柱	N 75°W	2.07	6.83	2.32	7.66	28～64	15～79
Ｉb	SB13	4×2	9.04	29.83	4.19	13.83	東西	側柱	N 73°W	2.30	7.59	2.12	7.00	40～60	20～60
Ｉb	SB14	3×2	7.38	24.35	4.50	14.85	東西	側柱	N 73°W	2.42	7.99	2.26	7.46	30～66	25～55
Ｉb	SB15	(3)×2	5.50	18.15	4.00	13.20	南北	側柱	N 20°E	1.90	6.27	2.00	6.60	26～52	22～46
Ｉb	SB19	5×2	9.40	31.02	4.50	14.85	南北	側柱	N 18°E	1.89	6.24	2.26	7.46	26～44	20～50
Ｉb	SB20	3×2	5.40	17.82	2.60	8.58	南北	側柱	N 10°E	1.80	5.94	1.30	4.29	20～35	18～52
Ｉb	SB21	4×2	7.87	25.97	3.80	12.54	南北	側柱	N 20°E	1.97	6.50	1.90	6.27	20～58	20～50
Ｉb	SB23	3×2	5.70	18.81	3.72	12.28	東西	側柱	N 75°W	1.90	6.27	1.87	6.17	25～60	15～50

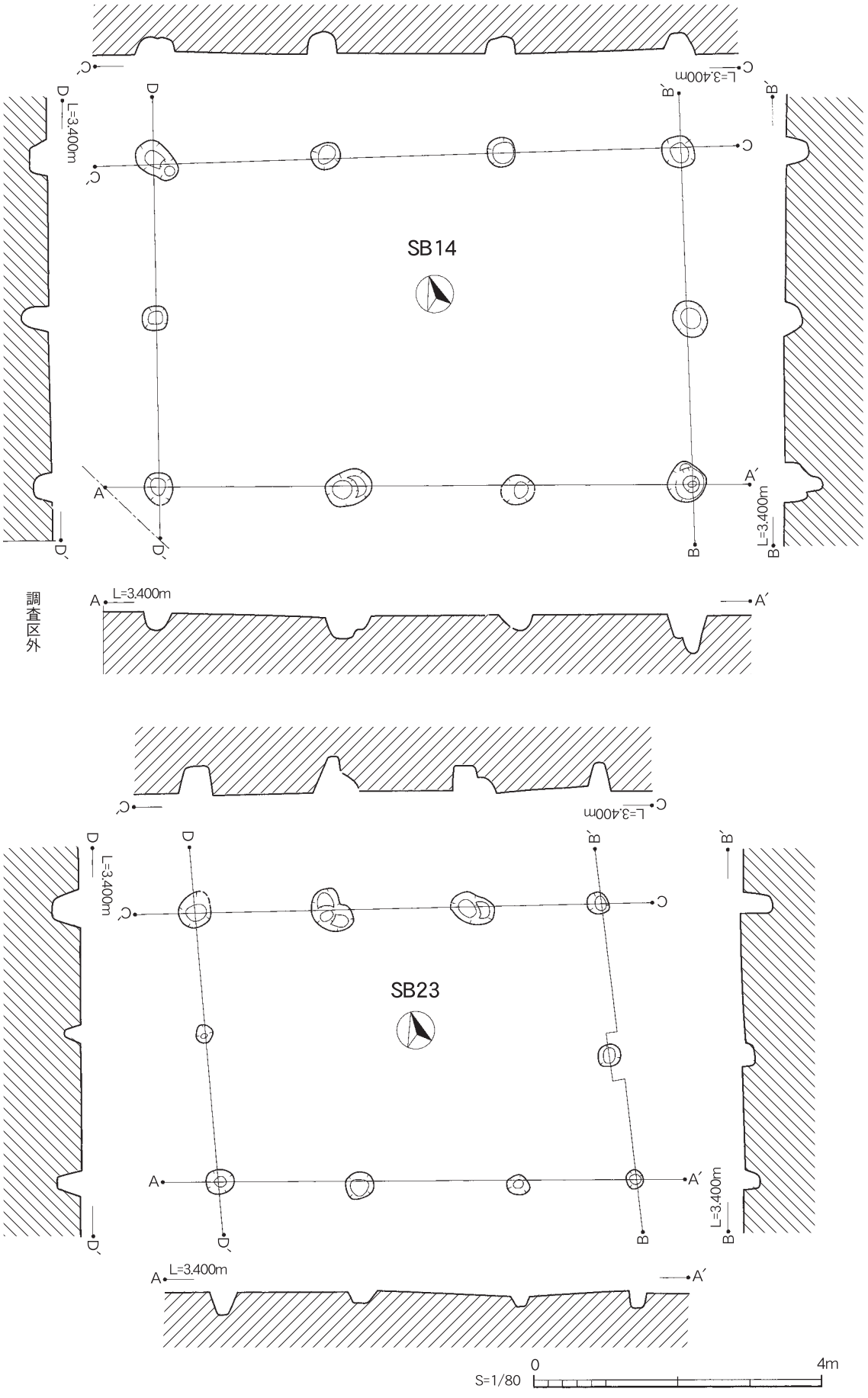




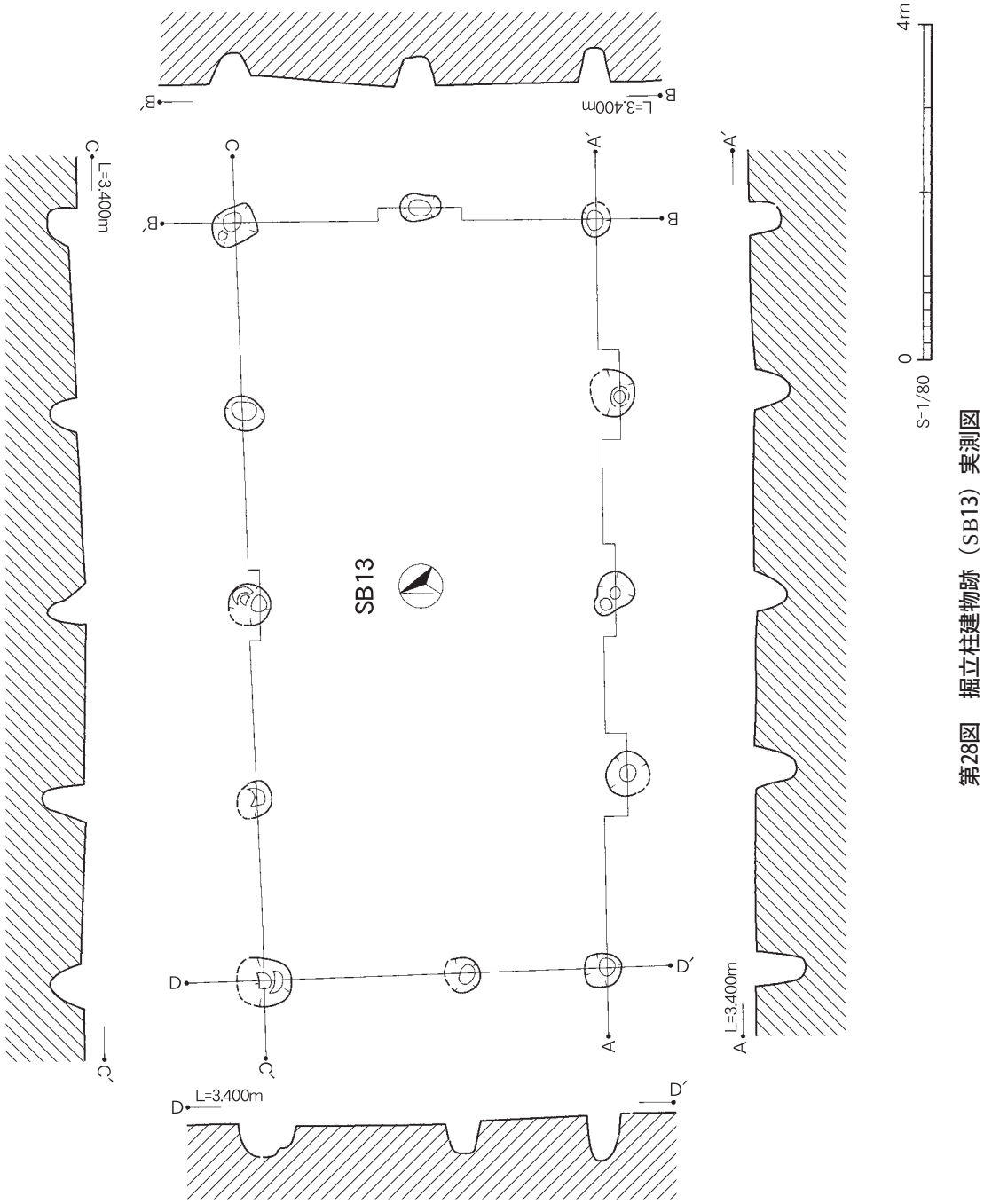
第25図　掘立柱建物跡（SB19）実測図及び出土遺物実測図



第26図　掘立柱建物跡（SB21・20）実測図及び出土遺物実測図



第27図　掘立柱建物跡（SB14・23）実測図



第28図　掘立柱建物跡（SB13）実測図

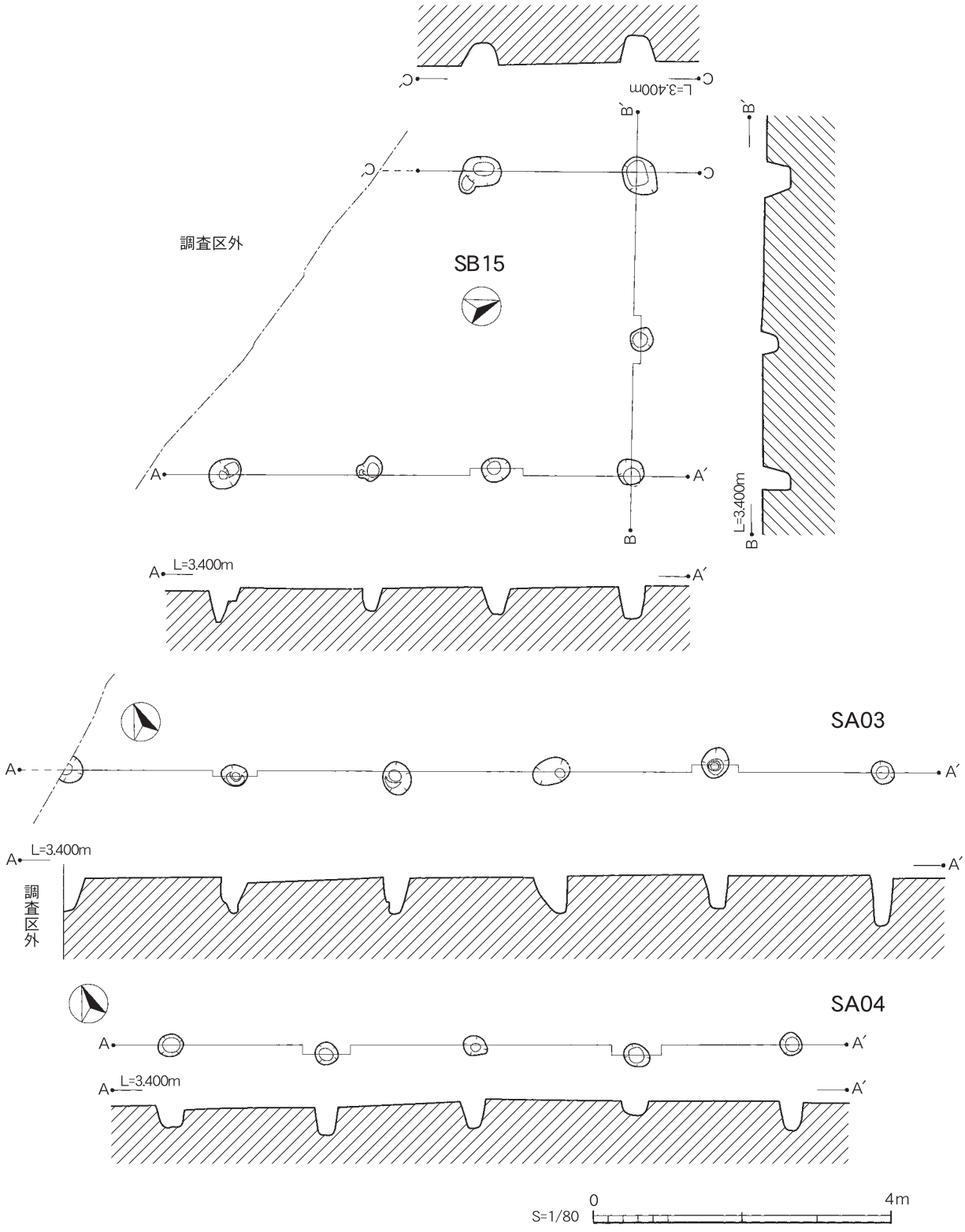
⑵　柵列跡

３号柵列跡【SA03】（第29図）

SA03は、調査区の北側に位置する遺構で、４号柵列跡と一緒に20号溝跡に沿うように並ぶ、６つの柱穴からなっている。柱列の長さは12.10m（約39.93尺）で、柱穴は直径30～50㎝、深さ44～64㎝で、下端レベルはほぼ一定である。

４号柵列跡【SA04】（第29図）

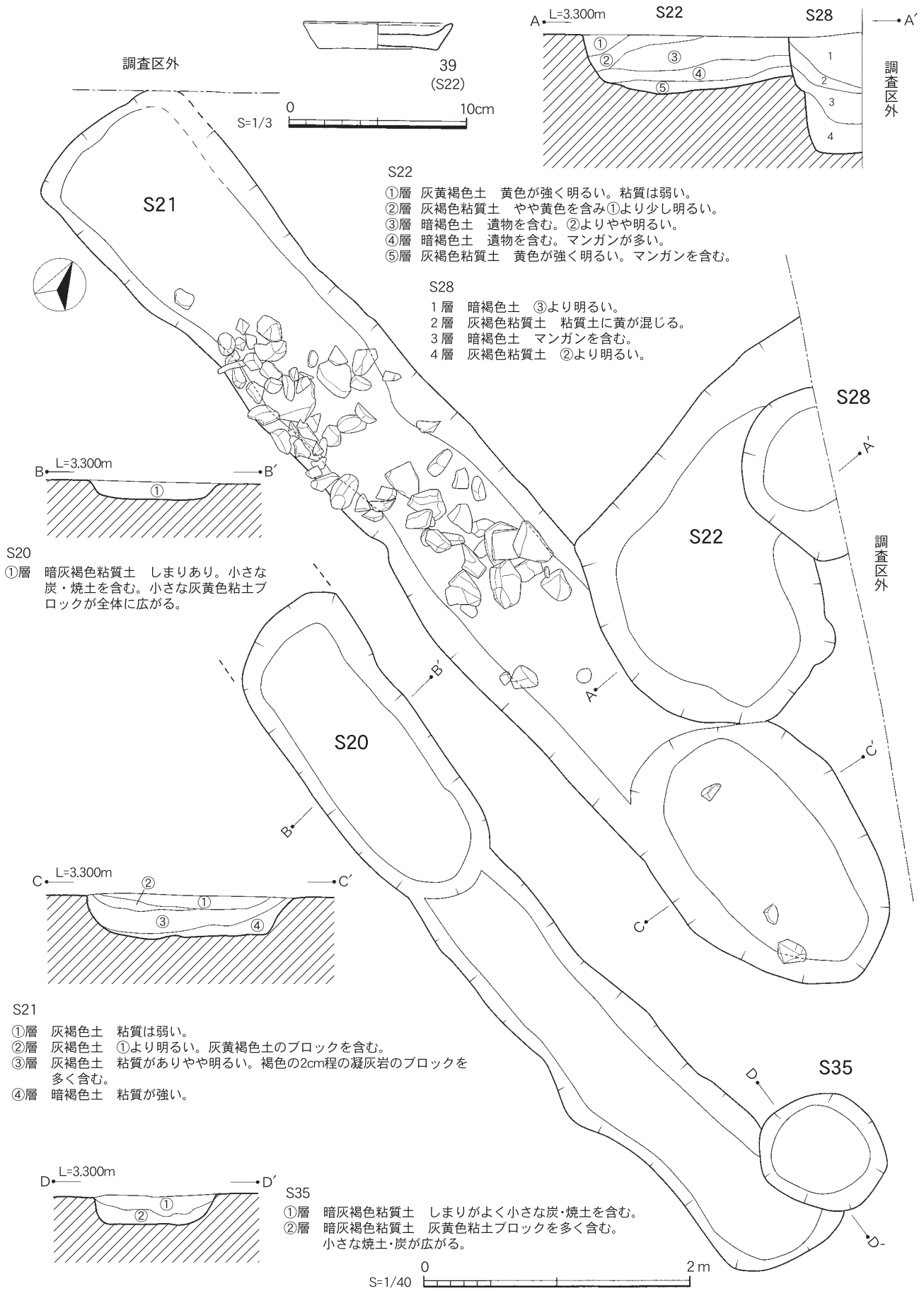
SA04は、軸はＮ68°Ｗで、20号溝跡とSA03の間に５つの柱穴が並ぶ。柱列の長さは8.30m（約27.39尺）で３号柵列跡より短い。



第29図　掘立柱建物跡（SB15）・柵列跡（SA03・04）実測図

表8　Ⅰb区　柵列跡（SA）計測表

区	遺構番号	間数	長さ		建物の向き	方位	柱穴直径	柱穴深さ
			m	尺			cm	cm
Ⅰb	SA03	(5)	12.10	39.93	東西	N 66°W	30～50	44～64
Ⅰb	SA04	4	8.30	27.39	東西	N 68°W	32～46	18～48



第30図　Ⅰb区溝跡（S20･21）･土坑（S22･28･35）実測図及び出土遺物実測図

⑶　溝跡

20号溝跡【S20】（第30図）

S20は調査区の北端部に位置する遺構で、長さ6.20ｍ以上、幅0.70～1.08ｍ、深さ約0.12ｍを測り、ほぼ東西方向に伸びている。

21号溝跡【S21】（第30図）

S21は調査区の北端部にあり、20号溝跡と平行している。長さ8.58ｍ以上、幅1.03～1.57ｍ、深さ約0.34ｍを測り、ほぼ東西方向に伸びている。礫が多く混じる。図化していないが、土錘が３点出土している

⑷　土抗

22号土坑【S22】（第30図）

S22は調査区北端に位置し、長軸2.75ｍ以上、短軸1.65ｍ、深さ0.47ｍを測り、21号溝跡を切り28号土坑に切られる。39は底部に回転糸きり痕の残る土師器の杯でこの遺構より出土した。図化していないが、土錘が７点出土している

28号土坑【S28】（第30図）

S28は調査区北端で22号土坑を切る。長軸1.28ｍ以上、短軸0.65ｍ、深さが0.9ｍを測り、井戸ではないかとも思われるが、東側半分が調査区外のため詳細は不明である。

２号土坑【Ｓ２】（第31図）

Ｓ２は調査区の南側に位置する遺構である。長軸1.53ｍ、短軸1.26ｍ、深さ0.70ｍを測る。40は器高1.9㎝の土師器の皿である。

10号土坑【S10】（第31図）

S10は調査区の中央部に位置する。長軸2.50ｍ、短軸2.40ｍ、深さ0.23ｍを測る。平面形は円形を呈する。出土遺物は41で土師器の杯である。

３号土坑【Ｓ３】（第31図）

Ｓ３は調査区の中央部やや南に位置し、南北に伸びる。長軸4.05ｍ、短軸2.70ｍ、深さ0.30ｍを測り、出土遺物は42の白磁の杯と43の棒状鉄製品である。

８号土坑【Ｓ８】（第32図）

Ｓ８は中央部やや南で、３号土坑の西側に位置する。長軸3.30ｍ、短軸2.70ｍ、深さ0.30ｍを測り、出土遺物は44の土師器の皿である。図化していないが、土錘も２点出土している。

52号土坑【S52】（第32図）

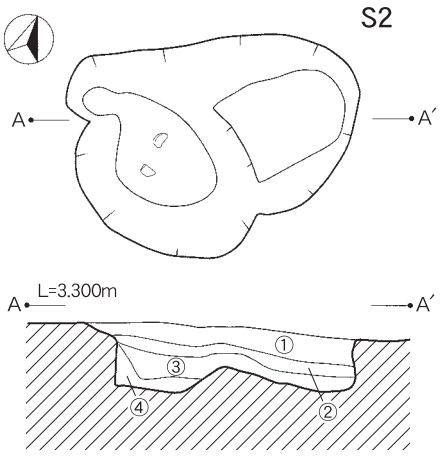
S52は８号土坑を切る。長軸2.90ｍ、短軸1.55ｍ、深さ0.55ｍを測る。ここからは、45の瓦質土器の擂鉢が出土している。

50号土坑【S50】（第32図）

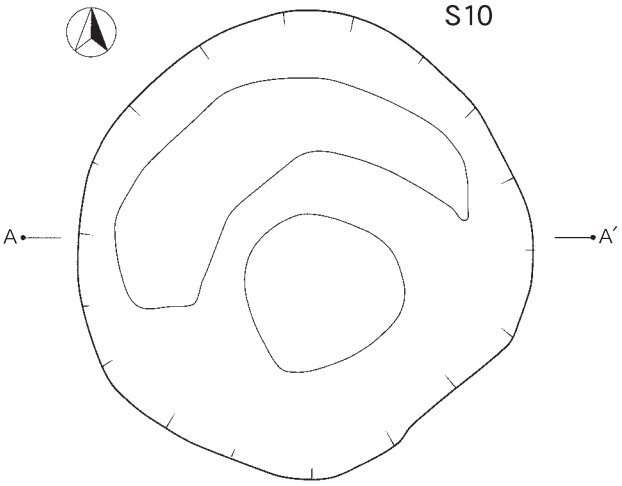
S50は８号・52号土坑に並んで検出され、長軸2.00ｍ、短軸1.25ｍ以上、深さ0.55ｍを測る。図化していないが、土錘も２点出土している。

34号土坑【S34】（第33・34図）

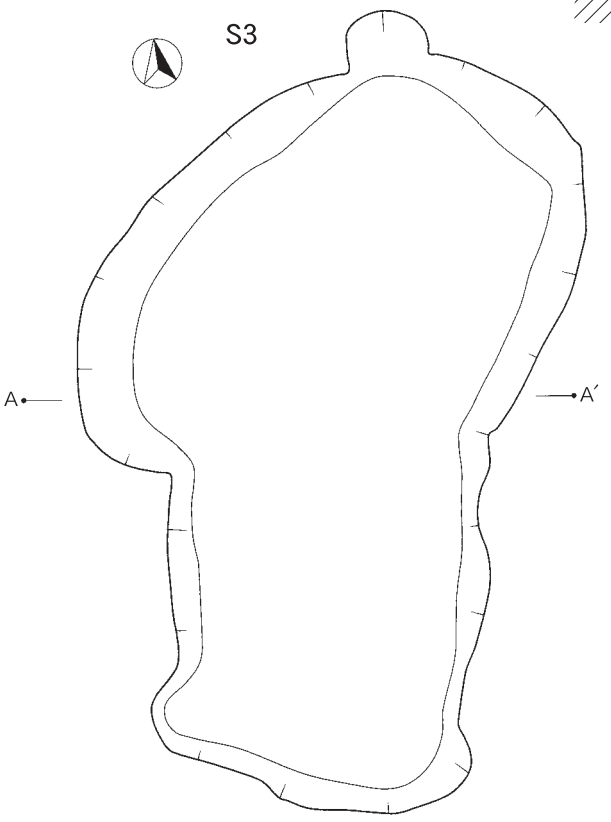
S34は調査区の中央部よりやや北側に位置する遺構で、12・14号掘立柱建物に隣接する。長軸1.96ｍ、短軸1.76ｍ、深さ0.20ｍを測り、平面形は楕円形を呈する。46は鉄剣で、長さ29.5㎝、幅19.3㎝で身部～茎部まで残る。47は、土師器の皿で、48号土坑出土遺物と接合する。49は土師器の杯で、外面に黒い付着物がある。図化していないが、土錘も３点出土する。

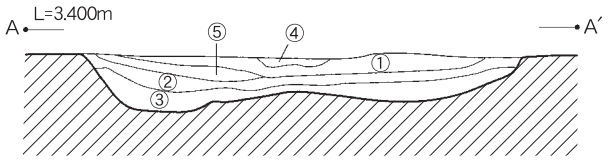


S2
①層　暗灰褐色粘質土　やや粘質あり。細かい炭・焼土を含む。
②層　暗灰褐色粘質土　①より粘質あり。炭が全体に広がる。
③層　灰褐色粘質土　粘質強。大きな灰黄色粘土ブロックを全体に含む。細かい炭を微量含む。
④層　灰褐色粘質土　粘質強。大小様々なマンガンを全体に含む。

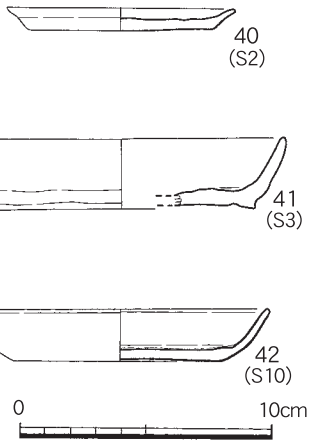


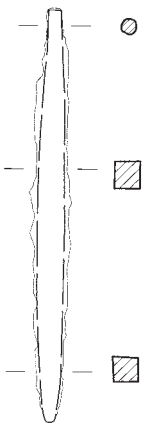
S10
①層　灰褐色粘質土　粘りが強く暗い。
②層　灰褐色粘質土　①より明るい。黄色土が混じる。



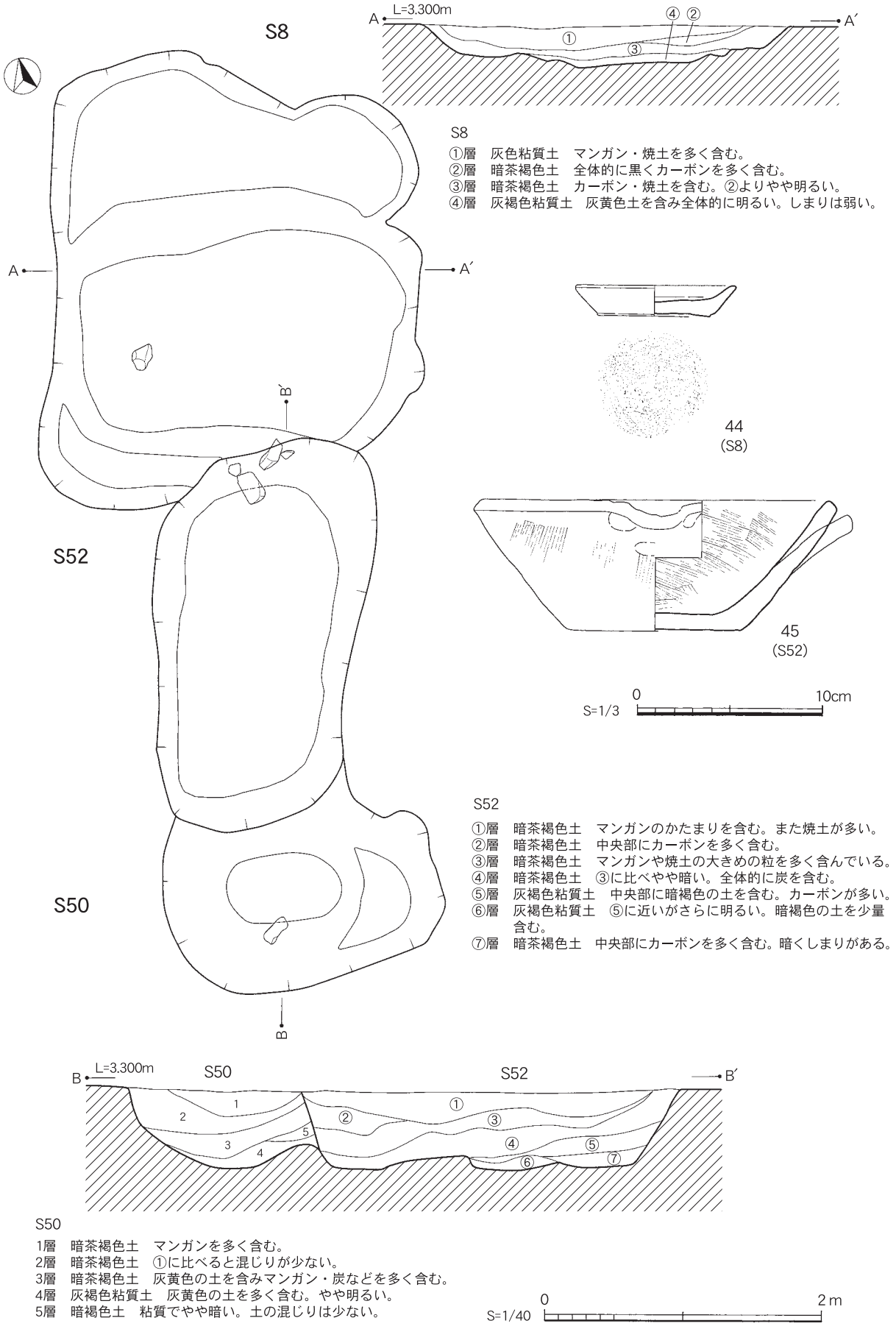


S3
①層　暗茶褐色土　焼土を含む。全体的に赤い。
②層　灰褐色粘質土　マンガンを多く含む。
③層　灰褐色粘質土　マンガンが多く炭を含む。
④層　灰色粘質土　黄土を多く含み全体的に明るい。
⑤層　灰褐色粘質土　炭を多く含み粘質が強い。遺物を多く含む。





第31図　Ⅰｂ区土坑（Ｓ２･10･３）実測図及び出土遺物実測図



第32図　土坑（S8・52・50）実測図及び出土遺物実測図

45号土坑【S45】（第33・34図）

S45は34号土坑に隣接する。長軸2.00m、短軸1.40m、深さ0.43mを測る。48は底部に回転糸切り痕が残る土師器の皿である。50は青磁の椀である。51は瓦質土器の擂鉢で、34号土坑出土遺物と接合する。

37号土坑【S37】（第33図）

S37は34号土坑の西側にある。長軸2.18m、短軸1.20m、深さ0.40mを測る。

30号土坑【S30】（第33図）

S30は37号土坑の北側に位置する。長軸1.30m、短軸1.70m、深さ0.15mを測り、平面形は楕円形で、覆土２層に分層される。

36号土坑【S36】（第33図）

S36は34号土坑の北に位置する。長軸1.37m、短軸1.30mを測り、平面形はほぼ円形で、深さ0.55mと深い。覆土は５層に分けることができる。

46号土坑【S46】（第35図）

S46は34号・45号土坑に並ぶ様に東側に隣接する。長軸1.20m、短軸0.75m、深さ0.40mを測る。48号土坑に切られる。

48号土坑【S48】（第35図）

S48は46号土坑の東に位置する。長軸2.60m、短軸1.70m、深さ0.37mを測り、平面形は楕円形を呈する。覆土は６層に分層される。出土遺物は、52・53で土師器の皿である。

49号土坑【S49】（第36図）

S49は中央部の掘立柱建物跡の集中区の東側に位置し、７号土坑を切る。長軸1.80m、短軸1.60m、深さ0.50mを測り、平面形は円形を呈する。出土遺物は、54でススが付着する石鍋の一部である。覆土は６層に分かれる。

７号土坑【S７】（第36図）

S７は49号土坑に切られ、覆土は４層に分層される。長軸2.70m、短軸1.70m、深さ0.22mを測り、平面形は楕円形である。

43号土坑【S43】（第36図）

S43は調査区の中央部に位置する。長軸1.42m、短軸1.17m、深さ0.43mを測り、ほぼ円形を呈している。覆土は４層に分層できる。

40号土坑【S40】（第36図）

S40は中央部の10号土坑の西側に位置する。長軸1.00m、短軸0.93m、深さ0.10mを測る。覆土は２層に分層できる。

12号土坑【S12】（第37図）

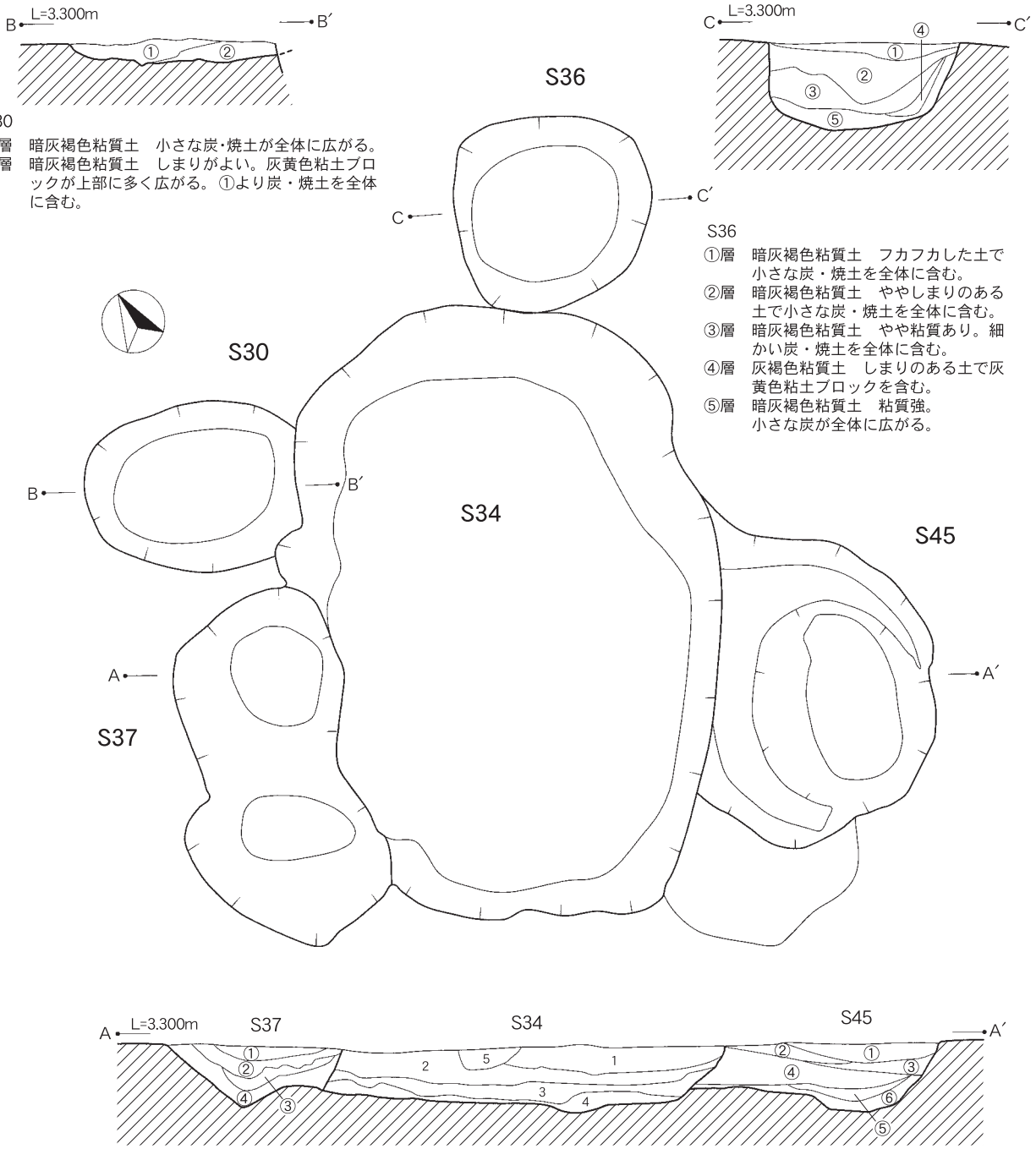
S12は調査区の北部に位置し、34号土坑の西側に位置する。長軸3.87m、短軸2.30m、深さ0.80mを測り、平面形は楕円形を呈する。図化していないが、土錘も１点出土している。覆土は６層に分層できる。

31号土坑【S31】（第37図）

S31はⅠ２号土坑に切られ33号土坑と平行している。長軸4.05m以上、短軸1.73m、深さ0.30mを測る。覆土は４層に分層される。

33号土坑【S33】（第37図）

S33は調査区の北部で、31号土坑と12号土坑の隣に位置する。長軸6.60m、短軸1.10m、深さ0.24mを測り東西に長く伸びる遺構である。覆土は２層に分層できる。



S30
①層　暗灰褐色粘質土　小さな炭･焼土が全体に広がる。
②層　暗灰褐色粘質土　しまりがよい。灰黄色粘土ブロックが上部に多く広がる。①より炭・焼土を全体に含む。

S36
①層　暗灰褐色粘質土　フカフカした土で小さな炭・焼土を全体に含む。
②層　暗灰褐色粘質土　ややしまりのある土で小さな炭・焼土を全体に含む。
③層　暗灰褐色粘質土　やや粘質あり。細かい炭・焼土を全体に含む。
④層　灰褐色粘質土　しまりのある土で灰黄色粘土ブロックを含む。
⑤層　暗灰褐色粘質土　粘質強。小さな炭が全体に広がる。

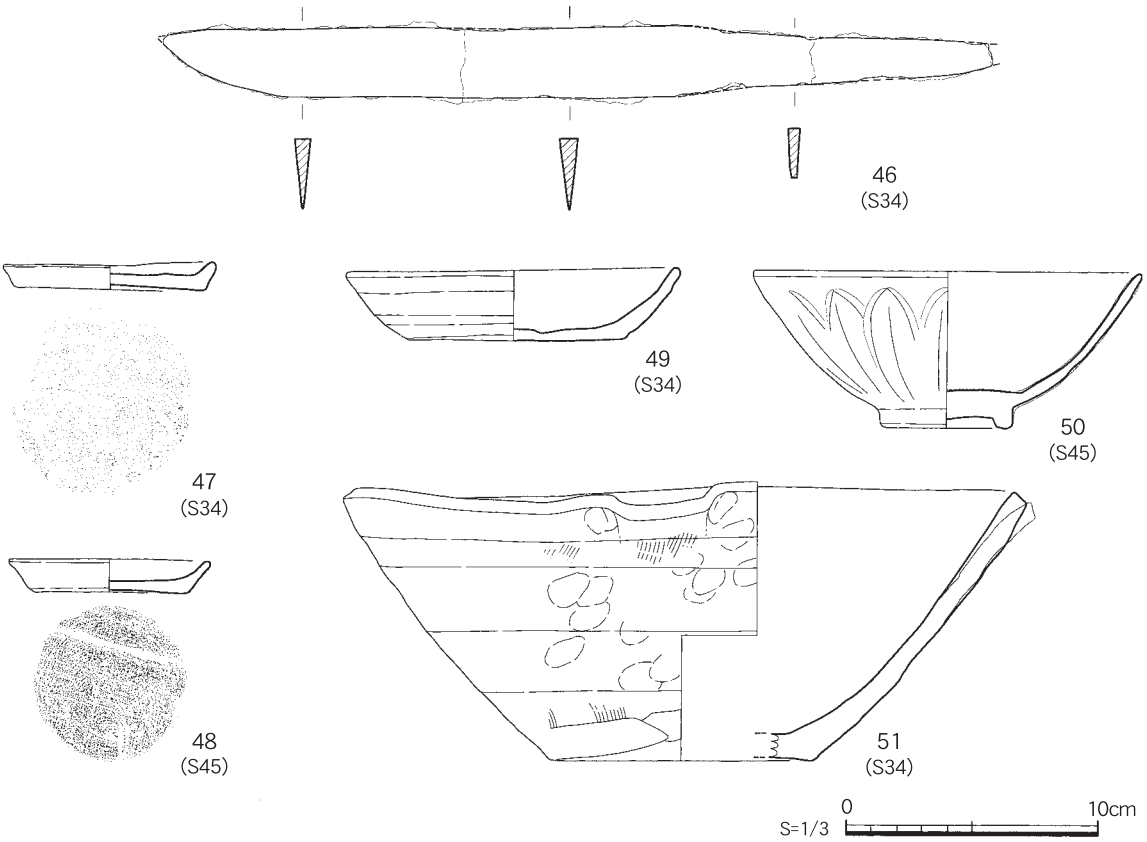
S34
1層　灰褐色粘質土　しまりがよく直径3㎜のマンガンを全体に含む。細かい焼土・炭を少し含む。
2層　暗灰褐色粘質土　やや粘質あり。細かい焼土・炭が広がる。①よりマンガンは小さい。
3層　暗灰褐色粘質土　やや粘質あり。大きい炭・小さい焼土が全体に広がる。
4層　灰褐色粘質土　粘質強。小さな灰黄色粘土ブロックが上部に広がる。大きな焼土の固まりも含む。
5層　灰黄褐色粘質土　しまりがよく直径4㎜のマンガンが全体に含まれる。

S45
①層　暗灰褐色粘質土　しまりがあり大きい焼土と小さい炭が全体に広がる。
②層　灰褐色粘質土　大きい灰黄色粘土ブロックを含み焼土・炭が広がる。
③層　暗灰褐色粘質土　やや粘質あり。炭が全体に広がる。
④層　暗灰褐色粘質土　やや粘質強。小さな炭が全体に広がる。
⑤層　灰褐色粘質土　灰黄色粘土ブロック・焼土・炭が全体に広がる。しまりがある。
⑥層　暗灰褐色粘質土　粘質強。大きい炭・焼土が全体に広がる。全体に広がる。

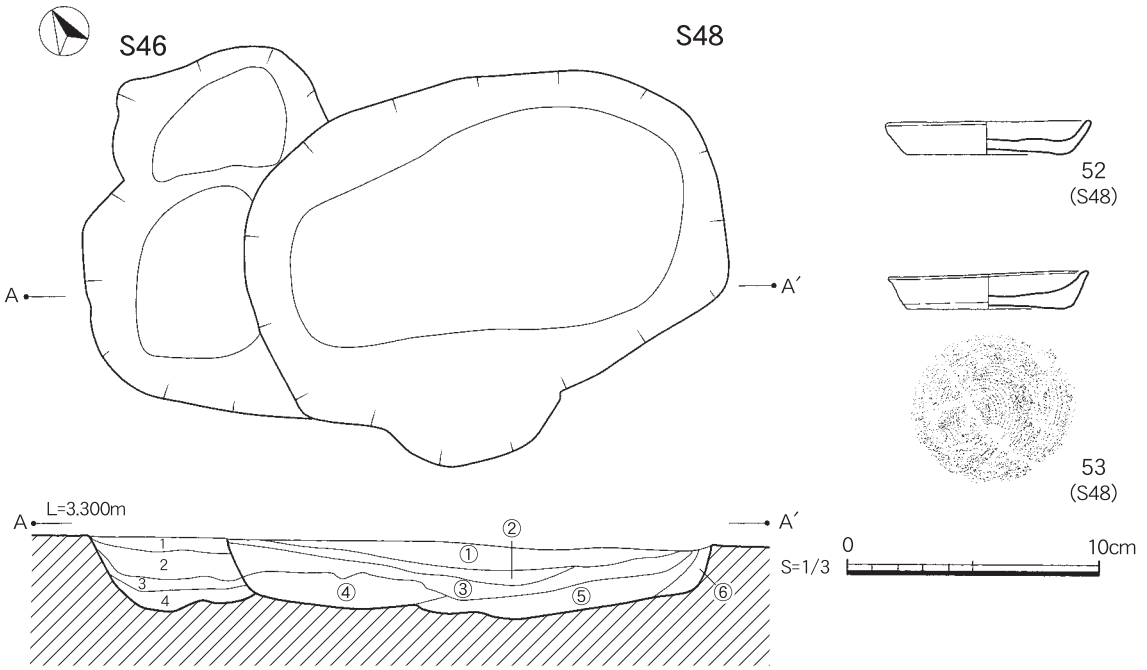
S37
①層　暗灰褐色粘質土　しまりがよく焼土・炭を全体に含む。
②層　朱灰褐色粘質土　焼成粘質塊が全体に含まれる。細かいものが多い。
③層　暗灰褐色粘質土　細かい炭・焼土が少し含まれる。
④層　灰褐色粘質土　大きな灰黄色粘土ブロックを含む。細かい炭・焼土が少し広がる。

S=1/40　0　2m

第33図　土坑（S34･30･36･37･45）実測図



第34図　土坑（Ｓ34･45）出土遺物実測図



S46

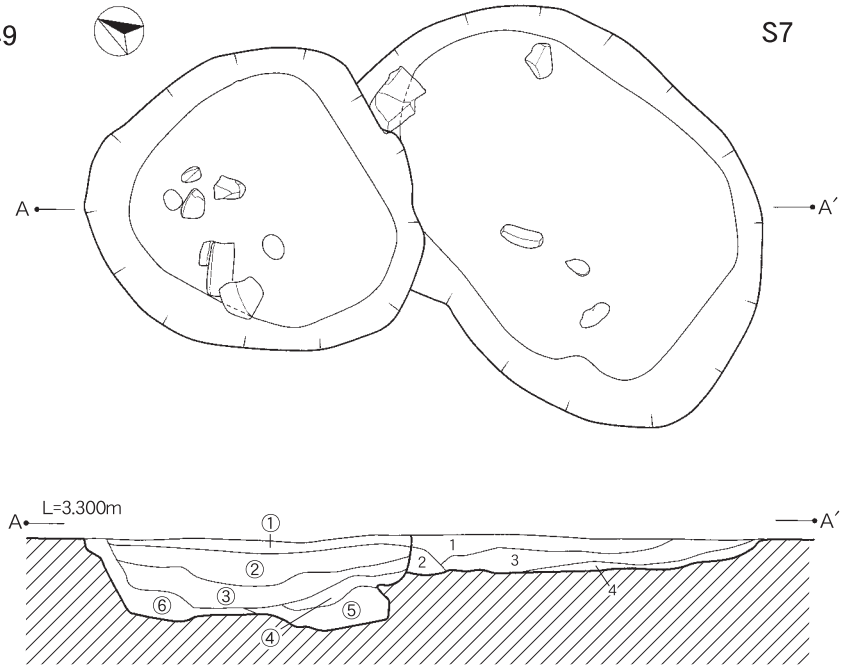
1層　暗灰褐色粘質土　フカフカした土で大きな灰、小さな焼土が上部に多く含む。
2層　暗灰褐色粘質土　しまりがよく小さな灰黄色粘土ブロックが下部に多く広がる。
3層　灰褐色粘質土　粘質あり。小さな炭が少し広がる。
4層　灰黄褐色粘質土　しまりがよく小さな炭・焼土が少し広がる。

S48

①層　暗灰褐色粘質土　しまりがよく大きい炭､小さな焼土が全体に広がる。
②層　暗灰褐色粘質土　中央部に焼成粘土塊が含まれ、その周囲に青灰色粘土と炭が広がる。
③層　灰褐色粘質土　マンガンを含む。灰黄色粘土ブロックが全体に多く広がる。
④層　暗灰褐色粘質土　粘質があり炭・焼土を全体に含む。大きな礫あり。
⑤層　暗灰褐色粘質土　粘質強。小さな炭・焼土を全体に含む。
⑥層　暗灰褐色粘質土　やや粘質あり。大きな灰黄色粘土ブロックを含む。炭・焼土あり。

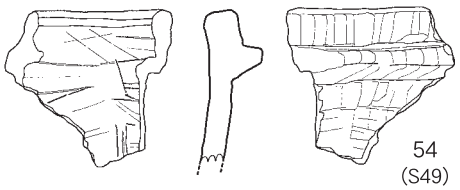
S=1/40　0　2m

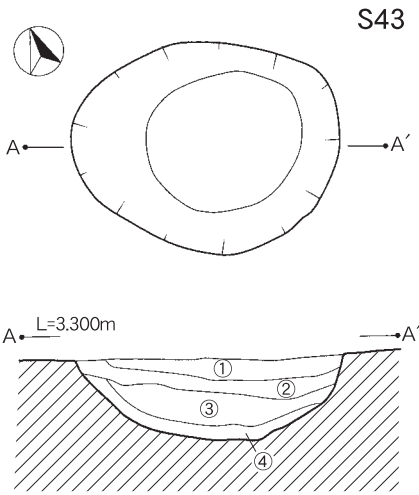
第35図　土坑（Ｓ46･48）実測図及び出土遺物実測図



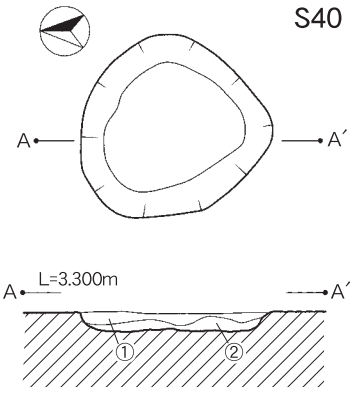
S49
①層　暗茶褐色土　上部に焼土を多く含む。やや明るい。
②層　暗褐色土　マンガンのかたまりを含む。炭を多く含む。
③層　暗褐色土　②にくらべしまりが弱い。炭を多く含む。
④層　灰褐色粘質土　しまり強。炭を多く含む。
⑤層　灰褐色粘質土　しまりが強く④に比べやや明るい。
⑥層　灰褐色粘質土　全体的にマンガンを多く含んでおり明るい。灰黄色土の割合が多い。

S7
1層　灰褐色土　細かな粘質土でカーボンやマンガンがまじりしまりがある。
2層　灰黄褐色土　灰褐色土やマンガンが粒状にまじりしまりがある。
3層　暗褐色土　粘質土で土器片やカーボン・マンガンがまじりしまりがある。
4層　暗灰色土　細かな灰層が堆積し他のまじりが少ない。



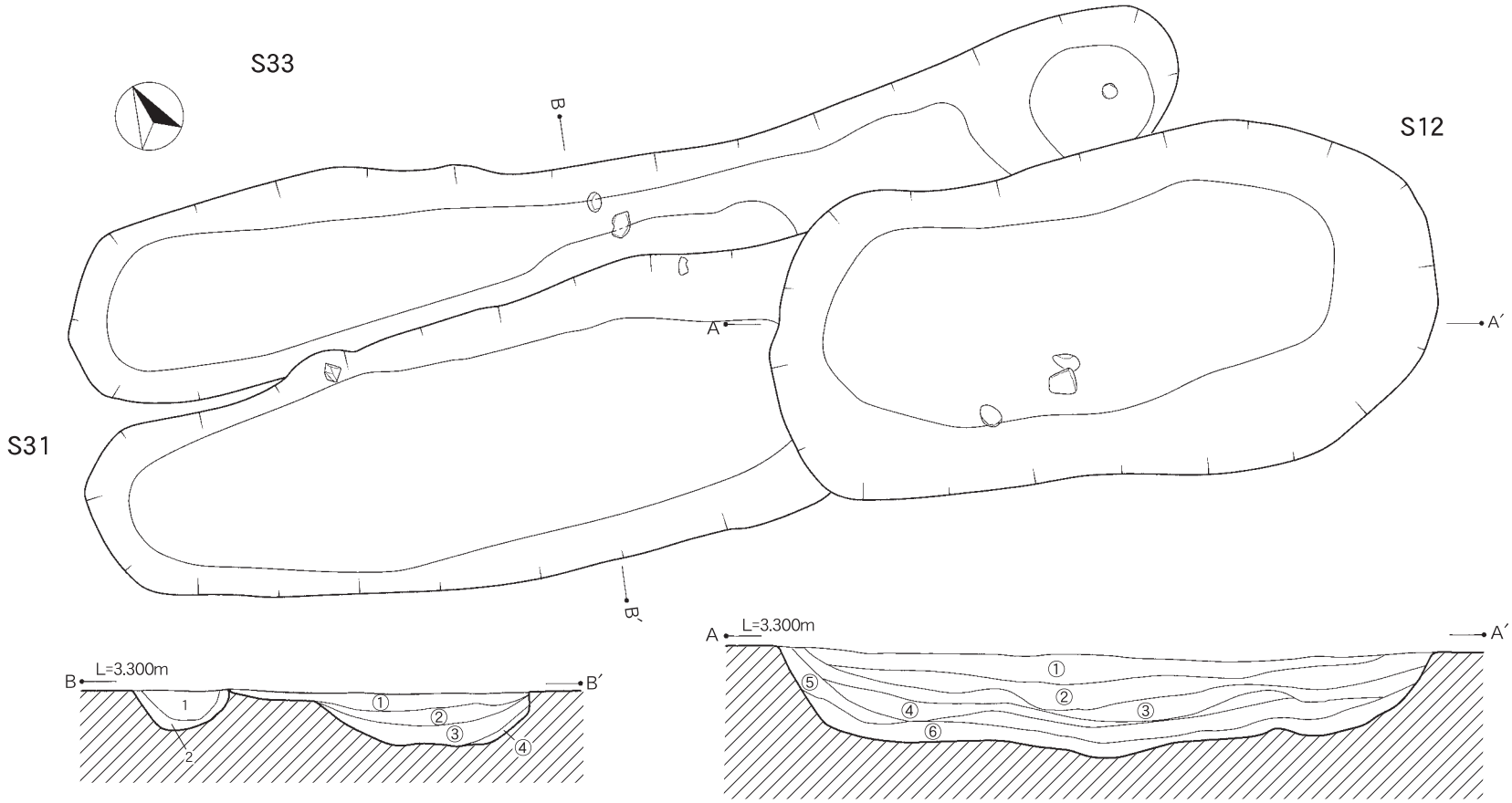


S43
①層　灰褐色粘質土　マンガン・カーボンを含む。
②層　灰褐色粘質土　マンガン・遺物を含む。
③層　暗茶褐色土　マンガンを含みカーボンの固まりが点在する。
④層　灰黄褐色土　上層と下層にカーボンの固まりが集中する。



S40
①層　灰褐色土　砂質でザラザラとしかたくしまる。マンガンが多い。
②層　灰黄褐色土　砂質でしまりがある。①が混じりやや暗い。

第36図　土坑（S49・7・43・40）実測図及び出土遺物実測図



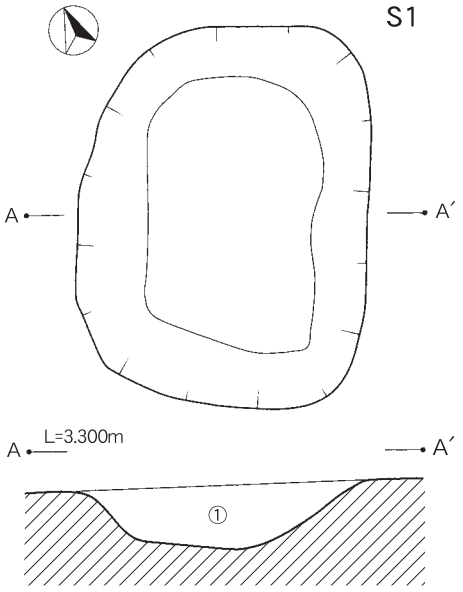
S33
1層　暗灰褐色粘質土　粘質強。細かい焼土・炭が広がる。
2層　灰褐色粘質土　小さな灰黄色粘土を含む。小さな礫あり。

S31
①層　灰黄色粘質土　細かい焼土・礫が含まれる。フカフカした土である。
②層　暗灰褐色粘質土　①より粘質強。細かい焼土が少し含まれる。
③層　暗灰褐色粘質土　灰黄色粘土のブロックが広がる。10cm礫が見られる。
④層　暗灰褐色粘質土　一番粘質強。小さな焼土・炭が全体に広がる。

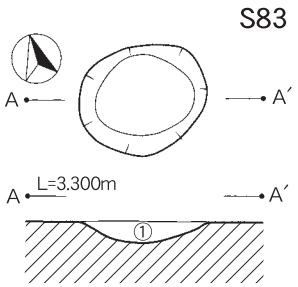
S12
①層　暗灰褐色粘質土　フカフカした土で灰黄色粘土ブロックがうすく広がる。
②層　暗灰褐色粘質土　しまりがよく礫・遺物（土師器）を含む。
③層　灰黄色粘質土　しまりがよく細かい焼土・炭が広がる。
④層　暗灰褐色粘質土　粘質があり小さな焼土・炭が全体に広がる。
⑤層　暗灰褐色粘質土　④より粘質強。小さな焼土・炭が全体に広がる。
⑥層　暗灰褐色粘質土　大きな灰黄色粘土ブロックが所々広がる。粘質強。焼土・炭が全体に広がる。

S=1/40　0　2m

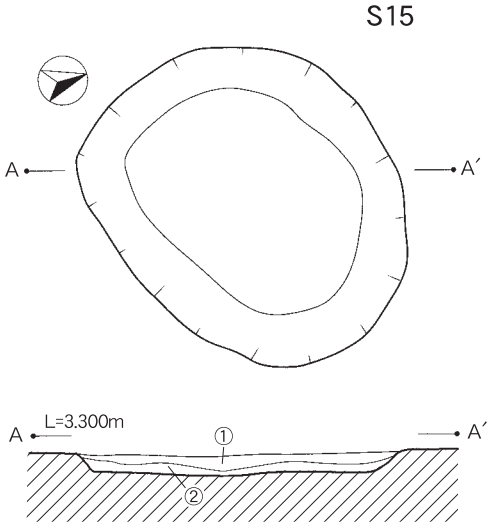
第37図　土坑（S31・33・12）実測図



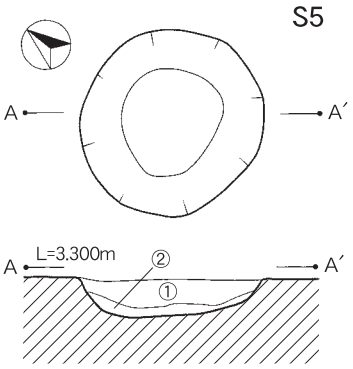
S1 ①層　灰褐色粘質土　小さな礫が全体に含まれる。
直径3㎜のマンガンがブロック状に広がる。



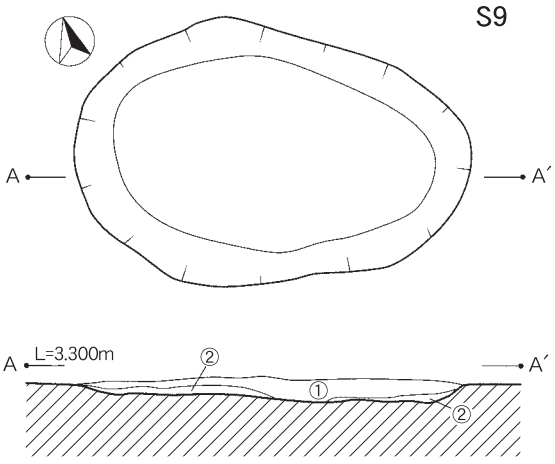
S83
①層　灰褐色粘質土　やや粘質。大きめの炭が全体に広がる。
細かい焼土も含む。



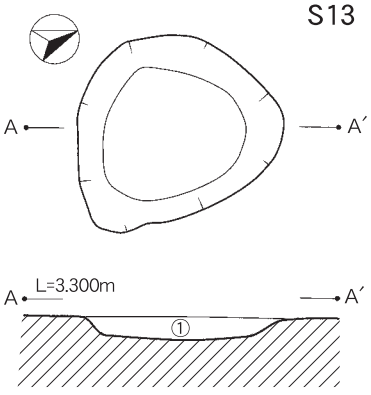
S15
①層　灰褐色粘質土　小さな遺物・礫が含まれる。
直径5㎜のマンガンが全体に広がる。
②層　灰褐色粘質土　①より小さなマンガンが広がる。
黄灰色粘土ブロックを多く含む。



S5
①層　灰褐色粘質土　直径5㎜程のマンガンが全体に広がる。
黄灰色粘土ブロックを少量含む。
②層　灰褐色粘質土　①より粘質強。黄灰色粘土のブロックが
広がる。

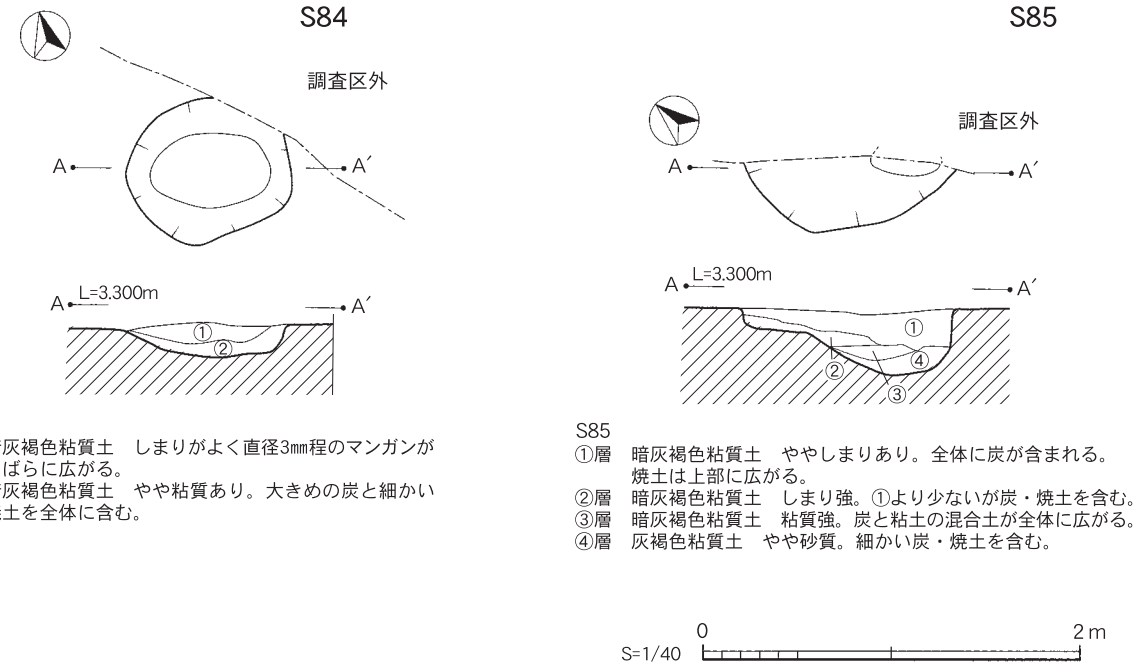


S9
①層　灰褐色土　砂質でザラザラし、カーボンや焼土が混じり柔
らかい。
②層　灰黄褐色土　地山の灰黄褐色土をベースに暗褐色土や焼土
がまじる。



S13
①層　暗灰褐色粘質土　フカフカした土で小さな灰黄色粘土
ブロックが下部に広がる。

第38図　土坑（S 1・5・83・9・15・13）実測図



S84
①層　暗灰褐色粘質土　しまりがよく直径3㎜程のマンガンがまばらに広がる。
②層　暗灰褐色粘質土　やや粘質あり。大きめの炭と細かい焼土を全体に含む。

S85
①層　暗灰褐色粘質土　ややしまりあり。全体に炭が含まれる。焼土は上部に広がる。
②層　暗灰褐色粘質土　しまり強。①より少ないが炭・焼土を含む。
③層　暗灰褐色粘質土　粘質強。炭と粘土の混合土が全体に広がる。
④層　灰褐色粘質土　やや砂質。細かい炭・焼土を含む。

第39図　土坑（S84･85）実測図

表９　Ⅰb区検出遺構一覧表

（単位：m）

区	遺構番号	遺構名	長軸(長さ)	短軸(幅)	深さ	区	遺構番号	遺構名	長軸(長さ)	短軸(幅)	深さ
Ⅰb	S20	溝	6.20〜	1.00	0.18	Ⅰb	S48	土坑	2.60	1.70	0.37
Ⅰb	S21	溝	8.58〜	1.05	0.35	Ⅰb	S49	土坑	1.80	1.60	0.50
Ⅰb	S22	土坑	2.75〜	1.65	0.47	Ⅰb	S7	土坑	2.70	1.70	0.22
Ⅰb	S28	土坑	1.28	0.65	0.90〜	Ⅰb	S43	土坑	1.42	1.17	0.43
Ⅰb	S35	土坑	0.95	0.90	0.23	Ⅰb	S40	土坑	1.00	0.93	0.10
Ⅰb	S2	土坑	1.53	1.26	0.70	Ⅰb	S31	土坑	4.05〜	1.73	0.30
Ⅰb	S10	土坑	2.50	2.40	0.23	Ⅰb	S33	土坑	6.60	1.10	0.24
Ⅰb	S3	土坑	4.05	2.70	0.30	Ⅰb	S12	土坑	3.87	2.30	0.60
Ⅰb	S8	土坑	3.30	2.70	0.30	Ⅰb	S1	土坑	2.20	1.36	0.13
Ⅰb	S52	土坑	2.90	1.55	0.55	Ⅰb	S5	土坑	1.00	0.96	0.20
Ⅰb	S50	土坑	2.00	1.25	0.55	Ⅰb	S83	土坑	0.70	0.60	0.10
Ⅰb	S34	土坑	3.87	2.50〜	0.44	Ⅰb	S9	土坑	2.10	1.35	0.12
Ⅰb	S30	土坑	1.30〜	1.70	0.15	Ⅰb	S15	土坑	1.80	1.47	0.10
Ⅰb	S36	土坑	1.37	1.30	0.55	Ⅰb	S13	土坑	1.14	0.97	0.15
Ⅰb	S37	土坑	2.18	1.20	0.40	Ⅰb	S84	土坑	0.85	0.78	0.17
Ⅰb	S45	土坑	2.00	1.40	0.43	Ⅰb	S85	土坑	1.10	0.40〜	0.33
Ⅰb	S46	土坑	1.20	0.75〜	0.40						

１号土坑【S１】（第38図）

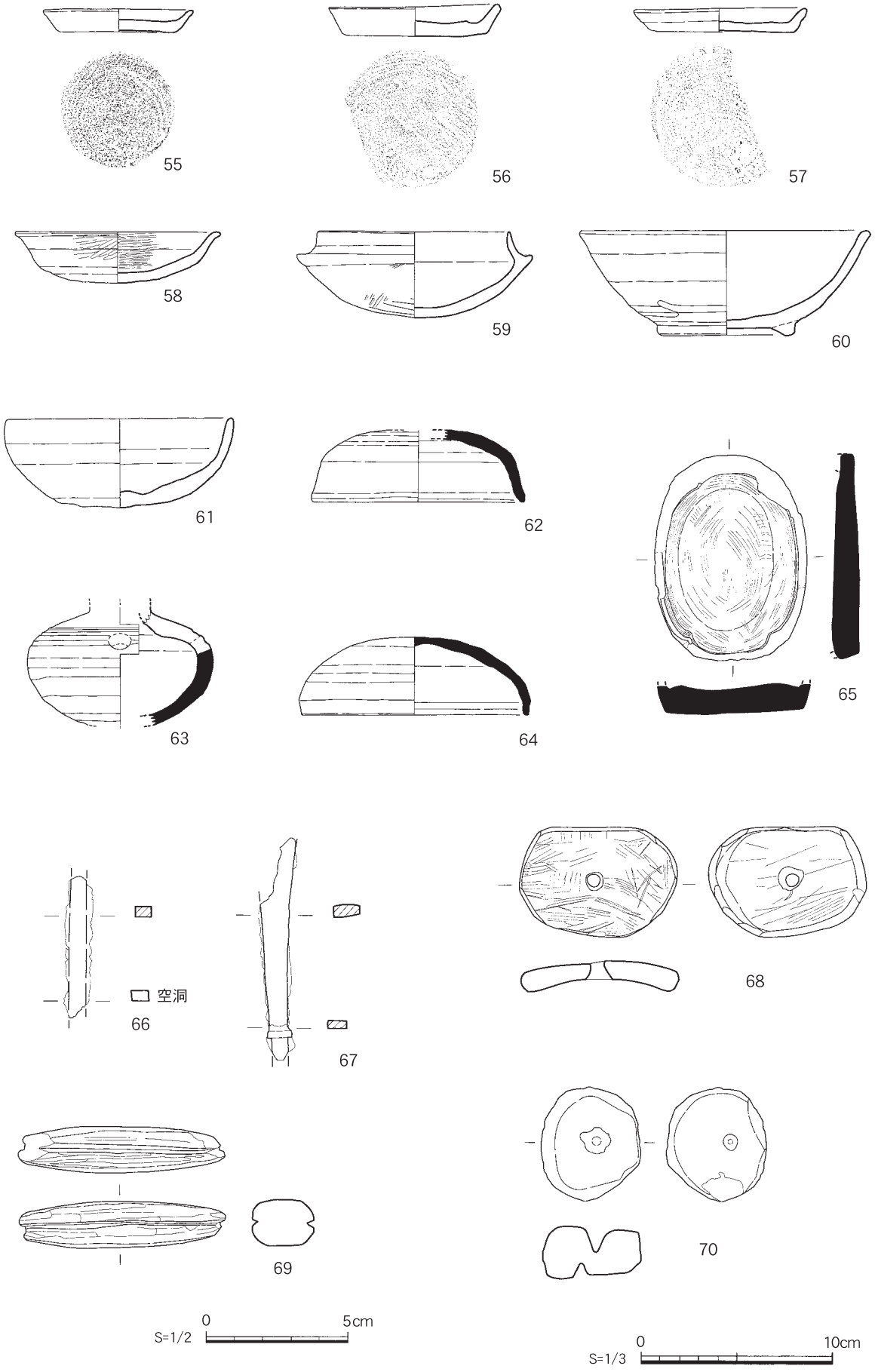
S１は調査区の南端部に位置する。長軸2.20m、短軸1.36m、深さ0.13mを測る。平面形は方形で、覆土は灰褐色粘質土である。

５号土坑【S５】（第38図）

S５は調査区の中央部やや南の３号土坑の南に位置する。長軸1.00m、短軸0.96m、深さ0.20mを測り、平面形はほぼ円形を呈する。覆土は２層に分層できる。

83号土坑【S83】（第38図）

S83は調査区の中央部やや北、34号土坑の東に位置する。長軸0.70m、短軸0.60mと小さく、深さ0.10mを測る。



第40図　Ⅰb区出土遺物実測図

９号土坑【Ｓ９】（第38図）

Ｓ９は中央部に位置し、13号掘立柱建物跡に隣接する。長軸2.10m、短軸1.35m、深さ0.12mを測り楕円形を呈し、覆土は２層に分層される。

15号土坑【S15】（第38図）

S15は調査区北部の12号土坑の南に位置する。長軸1.80m、短軸1.47m、深さ1.10mを測る。平面形は楕円形を呈している。覆土は２層に分かれる。

13号土坑【S13】（第38図）

S13は中央部の掘立柱建物跡の集中部の中に位置する小さな遺構である。長軸1.14m、短軸0.97m、深さ0.15mを測る。覆土は暗褐色粘質土である。

84号土坑【S84】（第39図）

S84は調査区中央部の東端に位置する。長軸0.85m、短軸0.78m、深さ0.17mを測る。覆土は２層に分層できる。

85号土坑【S85】（第39図）

S85は調査区中央部の東端、84号土坑の南に位置する。長軸1.10m、短軸0.40m、深さ0.33mを測る。覆土は４層に分層できる。

３．その他

ここでは、２．遺構・遺物で遺構と共に述べられなかった遺物を概観する。なお、出土地点、法量、調整、色調、胎土等の詳細については、別表のとおりである。

Ⅰｂ区出土遺物（第40図）

55～57は底部に回転糸切り痕のある土師器の皿である。56は口縁部分に黒班が残る。58は黒色土器の杯で、59は須恵器の杯身である。60は黒色土器Ｂ類の椀である。61は土師器の杯である。62～64は須恵器である。62と64は蓋、63は甕の一部である。65は頁岩製の硯である。66・67は鉄製品で、66は棒状鉄製品だが、断面の一方は空洞となっている。67は、棒状鉄製品だが関部らしき部分が残るので、長頸鏃の可能性がある。

68は石鍋の転用品で、中央に孔が穿ってある。69は同じく石鍋の転用の滑石製石錘である。70は凝灰岩製の石錘の未成品か、穿孔が途中である。

第４節　Ⅱ区・Ⅳｂ区の調査

１．遺構分布（第41図）

Ⅱ区・Ⅳｂ区も、Ⅰａ区・Ⅲ区と同様に調査時期はずれるが、共有する遺構が多数存在するので一緒に述べる。ここで確認した遺構は、共有する掘立柱建物跡２棟、溝跡２条であり、その他はⅡ区より柵列跡２基、溝跡１条、土坑19基、Ⅳｂ区より掘立柱建物跡２棟、柵列跡１基、溝跡１条、井戸跡２基、土壙墓１基、土坑３基である。

なお、現地調査では、検出し掘削した柱穴と土坑は多数あったが、建物等を構成する事は出来なかった。柱穴を含めた遺構分布は、掘立柱建物跡は北部と南部にのみ確認でき、溝ははっきりとせず、溝かと推定されたものもあったが、不明瞭な為、土坑として確認したものも多く、全体に分布する。

Ⅱ区	掘立柱建物跡	SB37・78（Ⅳｂ区と一緒）
	柵列跡	SA12・14
	溝跡	S108・112（Ⅳｂ区と一緒）・113・115
	土坑	S98・99・100・101・102・105・106・109・110・111・114・118・119・121・124・125・126・128・129
Ⅳｂ区	掘立柱建物跡	SB68・69
	柵列跡	SA25
	溝跡	S226
	井戸跡	S228・230
	土壙墓	S213
	土坑	S225・232・238

２．遺構・遺物

各遺構・遺物の詳細は第42図～第57図・表10～表12のとおりである。以下は各遺構を概観する。

⑴　掘立柱建物跡

78号掘立柱建物跡【SB78】（第42図）

SB78は、Ⅱ区とⅣｂ区の南側に位置する遺構である。Ⅱ区に柱穴が２つ存在する３間×２間の側柱建物である。桁行方向はＮ63°Ｗである。建物方向は東西である。出土遺物は、柱穴より『太平通宝』太平興国元年（976年鋳造）が出土している。

37号掘立柱建物跡【SB37】（第43図）

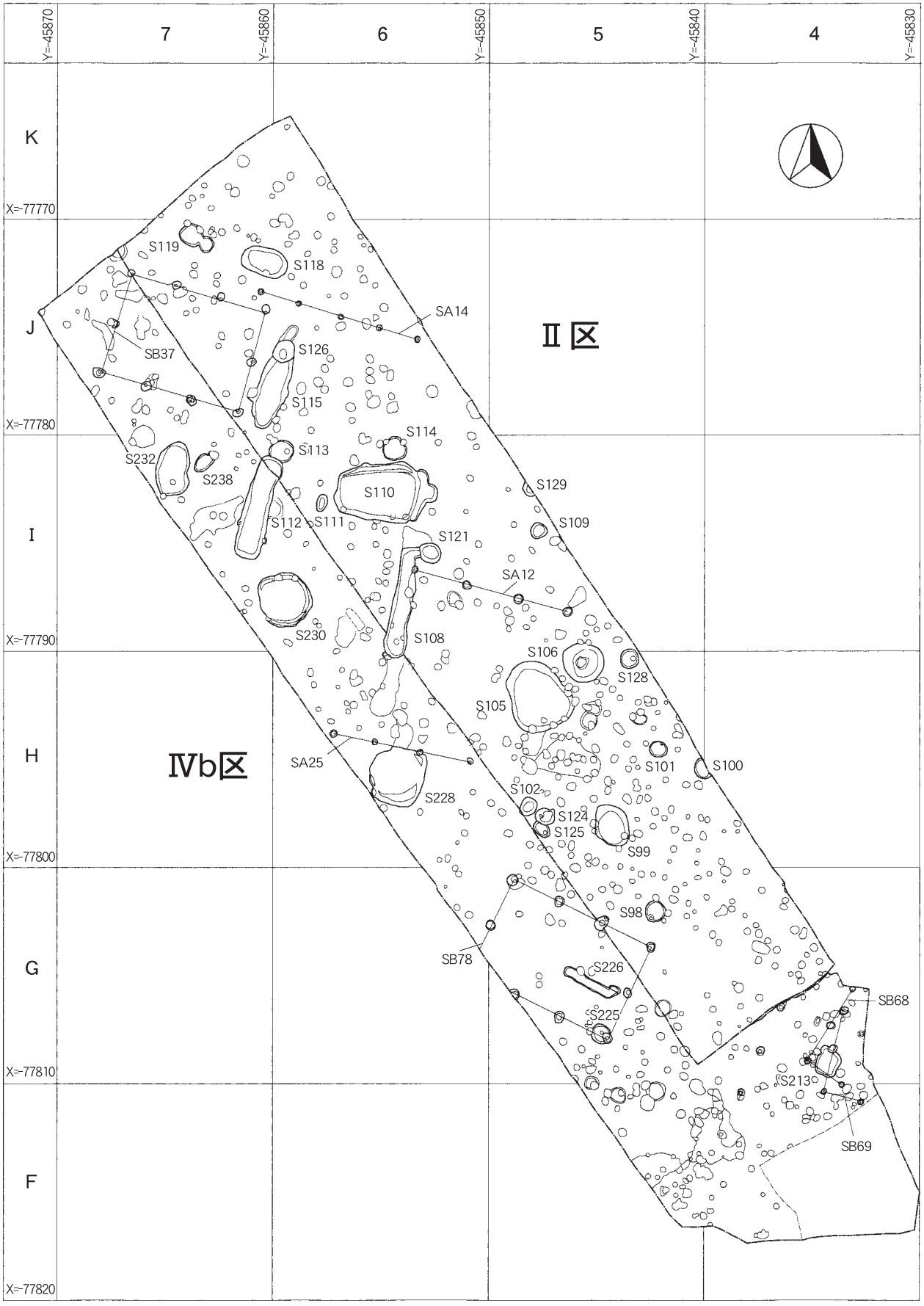
SB37は、調査区の北側に位置し、Ⅱ区とⅣｂ区にまたがる３間×２間の側柱建物と考えられる。桁行方向はＮ75°Ｗである。

68号掘立柱建物跡【SB68】（第43図）

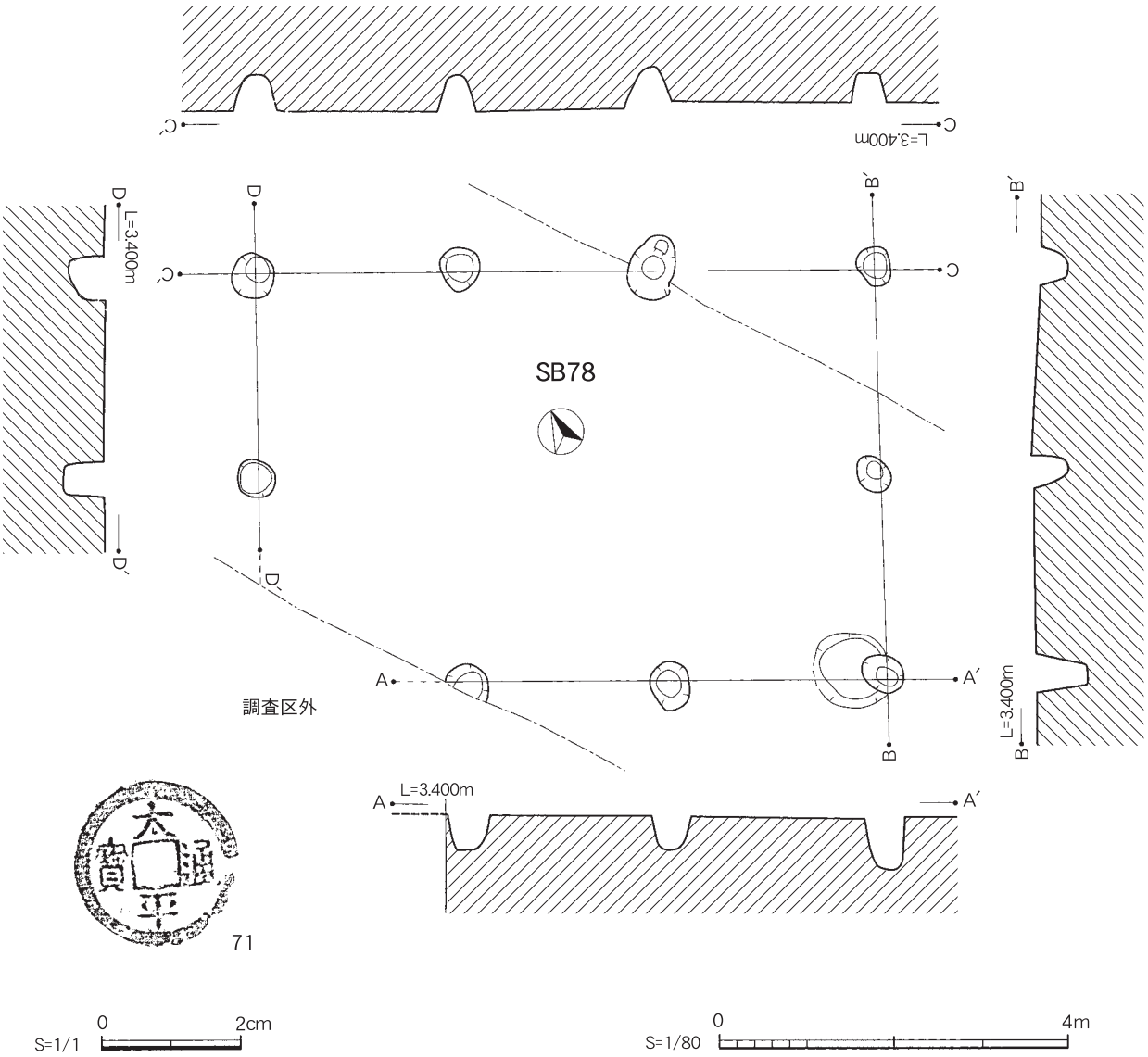
SB68はⅣｂ区の南端部に位置し、（２）間×（１）間を確認したが側柱建物と思われる。桁行方向はＮ32°Ｅと推定されるが、建物全体の規模は調査区外に柱穴が存在すると思われるので不明である。

69号掘立柱建物跡【SB69】（第43図）

SB69もⅣｂ区の南端部に位置し、（２）間×（１）間を確認したが、側柱建物と思われる。桁行方向はＮ17°Ｅと推定されるが、建物全体の規模は調査区外に柱穴が存在すると思われるので不明である。



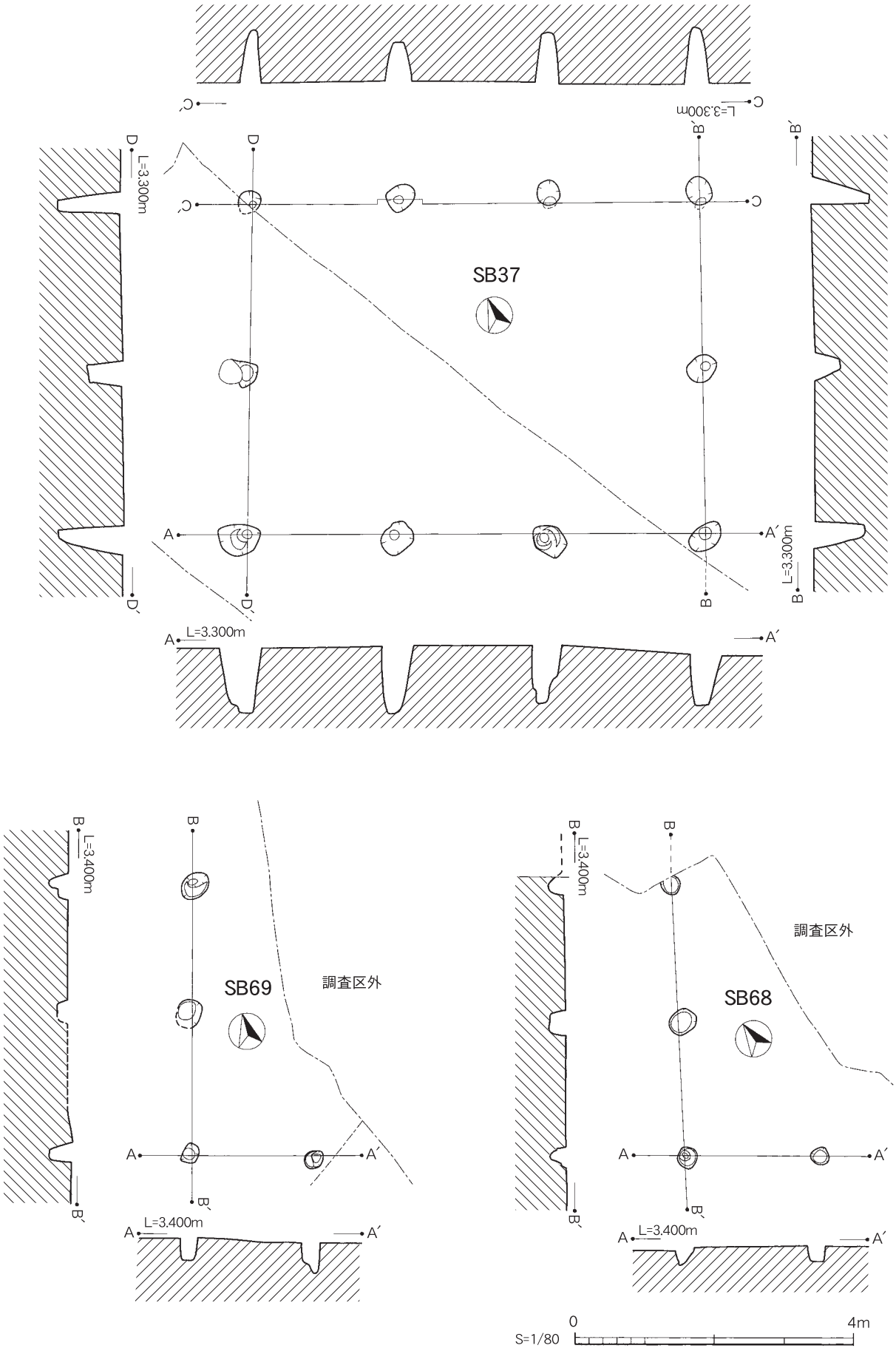
第41図　Ⅱ・Ⅳｂ区遺構配置図（S=1/250）



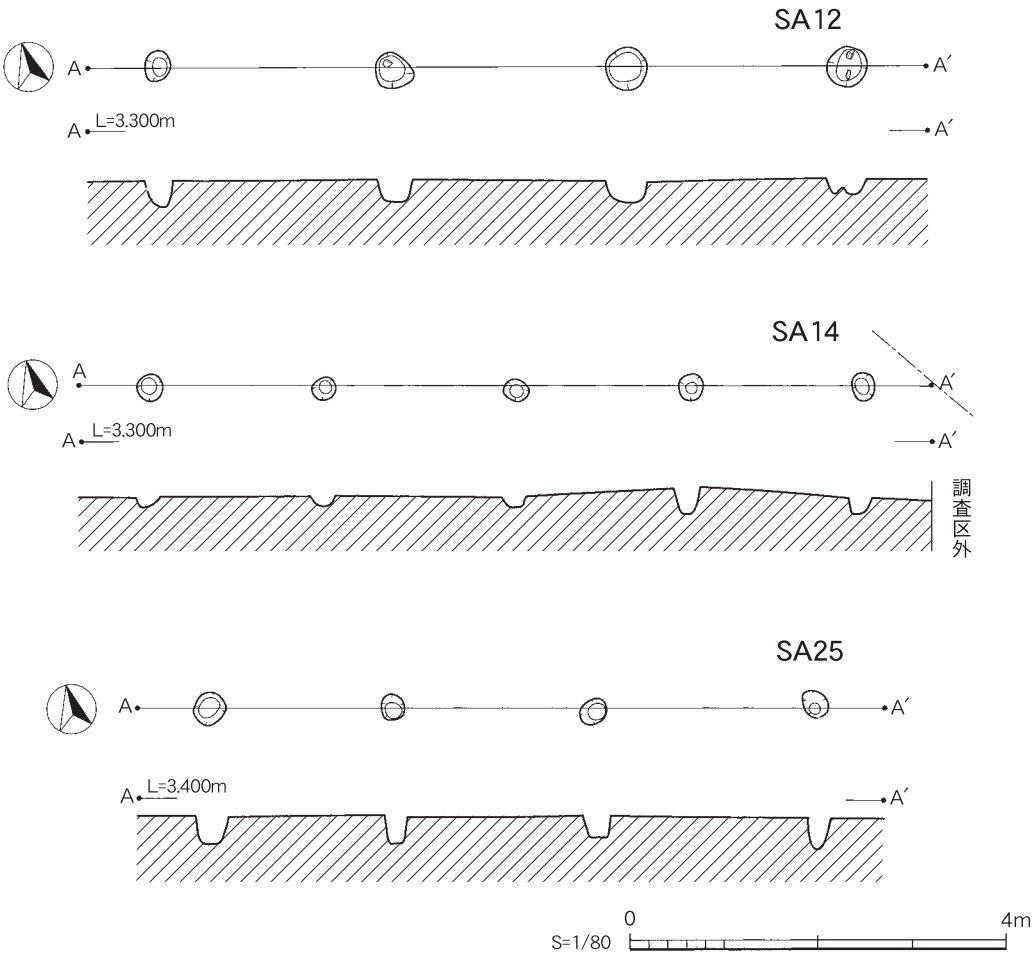
第42図　Ⅱ・Ⅳb区掘立柱建物跡（SB78）実測図及び出土遺物実測図

表10　Ⅱ・Ⅳb区　掘立柱建物跡（SB）計測表

区	遺構番号	間数	桁長		梁長		向き	型式	方位	桁桁平均		梁間平均		柱穴直径	柱穴深さ
			m	尺	m	尺				m	尺	m	尺	cm	cm
Ⅱ・Ⅳb	SB37	3×2	3.25	10.73	2.35	7.82	東西	側柱	N 75°W	1.09	3.60	1.18	3.89	30～58	37～97
Ⅱ・Ⅳb	SB68	(2)×(1)	3.90	12.87	1.93	6.36		側柱	N 32°E？	1.95	6.44	1.93	6.37	27～36	16～23
Ⅱ・Ⅳb	SB69	(2)×(1)	3.90	12.87	1.85	6.10		側柱	N 17°E？	1.95	6.44	1.85	6.11	25～37	15～43
Ⅱ・Ⅳb	SB78	3×2	3.55	11.72	2.35	7.75	東西	側柱	N 63°W	1.19	3.93	1.18	3.89	38～54	32～60



第43図　Ⅱ・Ⅳｂ区掘立柱建物跡（SB37・69・68）実測図



第44図　Ⅱ・Ⅳｂ区柵列跡（SA12・14・25）実測図

表11　Ⅱ・Ⅳb区　柵列跡（SA）計測表

区	遺構番号	間数	長さ		建物の向き	方位	柱穴直径	柱穴深さ
			m	尺			cm	cm
Ⅱ	SA12	3	7.35	24.25	東西	N 75°W	27～45	15～28
Ⅱ	SA14	5	7.65	25.24	東西	N 72°W	22～28	10～28
Ⅳb	SA25	3	6.50	21.45	東西	N 78°W	25～35	22～33

⑵　柵列跡

12号柵列跡【SA12】（第44図）

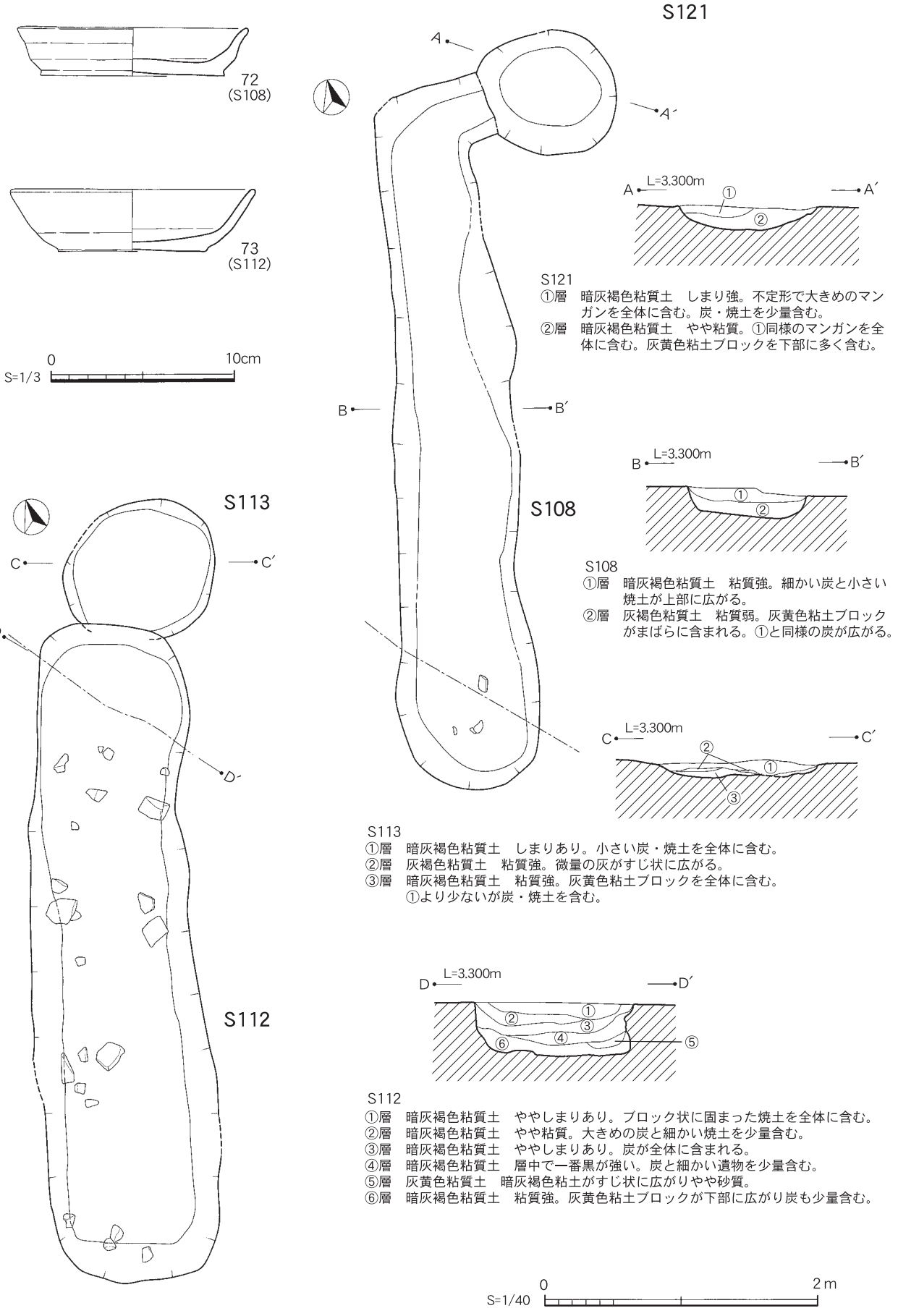
SA12は、Ⅱ区の柱列である。ほぼ東西に並ぶ４つの柱穴からなっている。柱列の長さは7.35m（約24.25尺）で、柱穴は直径27～45㎝、深さ12～20㎝で、下端レベルは一定でない。

14号柵列跡【SA14】（第44図）

SA14は、Ⅳｂ区の柱列で、軸はＮ72°Ｗで、５つの柱穴からなっている。柱列の長さは7.65m（約25.24尺）で、上部は削平されていて定かではないが、下端レベルはほぼ一定である。

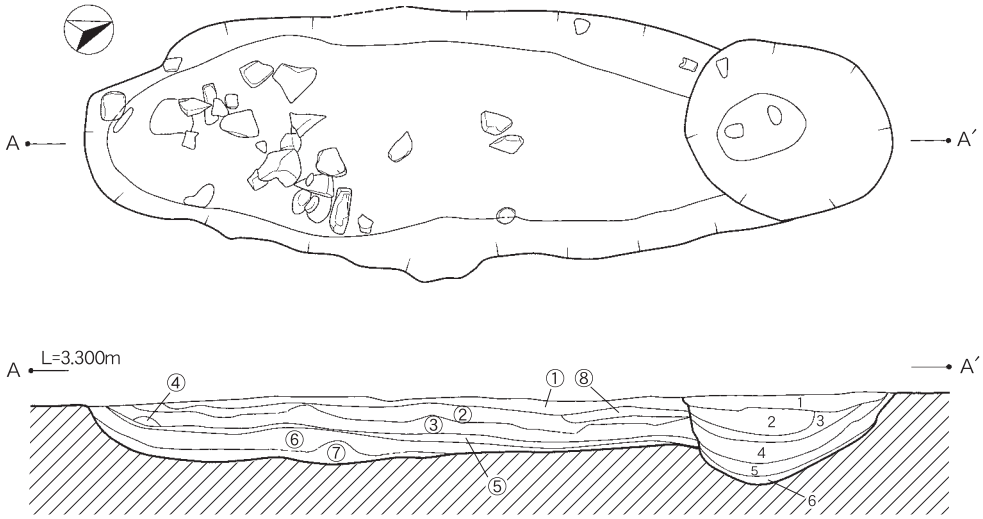
25号柵列跡【SA25】（第44図）

SA25は、Ⅳｂ区の柱列で、軸はＮ78°Ｗで、４つの柱穴からなっている。柱列の長さは6.5m（約21.45尺）で、柱穴は直径25～35㎝、深さ22～33㎝で、下端レベルは一定でない。



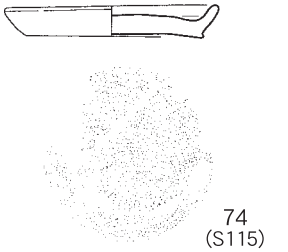
第45図　Ⅱ・Ⅳｂ区溝跡（Ｓ108・112・113）・土坑（Ｓ121）実測図及び出土遺物実測図

S115

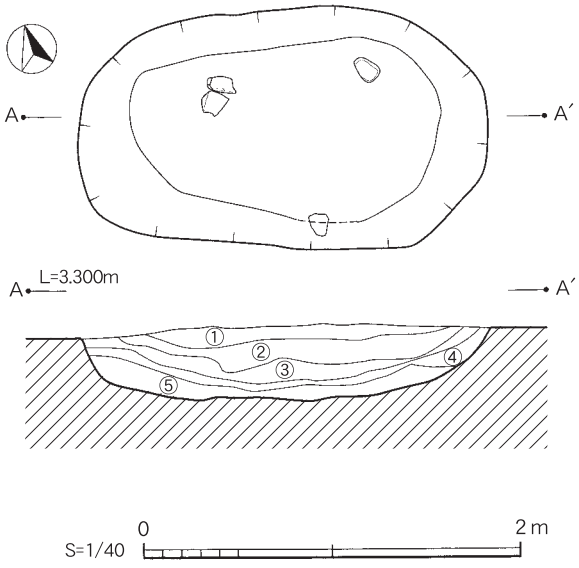


S115
①層　暗灰褐色粘質土　しまり弱。ホクホクした土。微細な焼土・炭が多く含まれる。
　　小さな礫も含む。
②層　暗灰褐色粘質土　①よりしまりあり。大きめの炭が下部に広がる。
③層　暗灰褐色粘質土　②よりしまり弱。①と同様形の焼土・炭が含まれる。
④層　暗灰褐色粘質土　明黄橙色土のブロックが全体に広がる。
　　ガリガリと音のする土で、周囲に炭もみられる。
⑤層　暗黒色粘質土　炭が広がり微細な焼土を少量含む。
⑥層　灰褐色粘質土　粘質強。すじ状に灰黄色粘土を下部に含む。炭・焼土を微量に含む。
⑦層　灰褐色粘質土　粘質強。すじ状に灰黄色粘土を全体に含む。炭も少量含む。
⑧層　暗灰褐色粘質土　灰黄色粘土ブロックを全体に含む。ややしまりあり。

S126
1層　暗灰褐色粘質土　しまり強。直径3.5㎜のマンガンを全体に含む。
2層　暗灰褐色粘質土　①よりしまり弱。大きい焼成粘土塊を少し含む。
3層　暗灰褐色粘質土　灰黄色粘土ブロックを全体に含む。ややしまりあり。
4層　暗灰褐色粘質土　やや粘質。大きめの炭をまばらに含む。
5層　暗灰褐色粘質土　粘質強。5㎝程の礫を全体に含む。
6層　灰褐色粘質土　粘質強。灰黄色粘土ブロックを全体に含む。

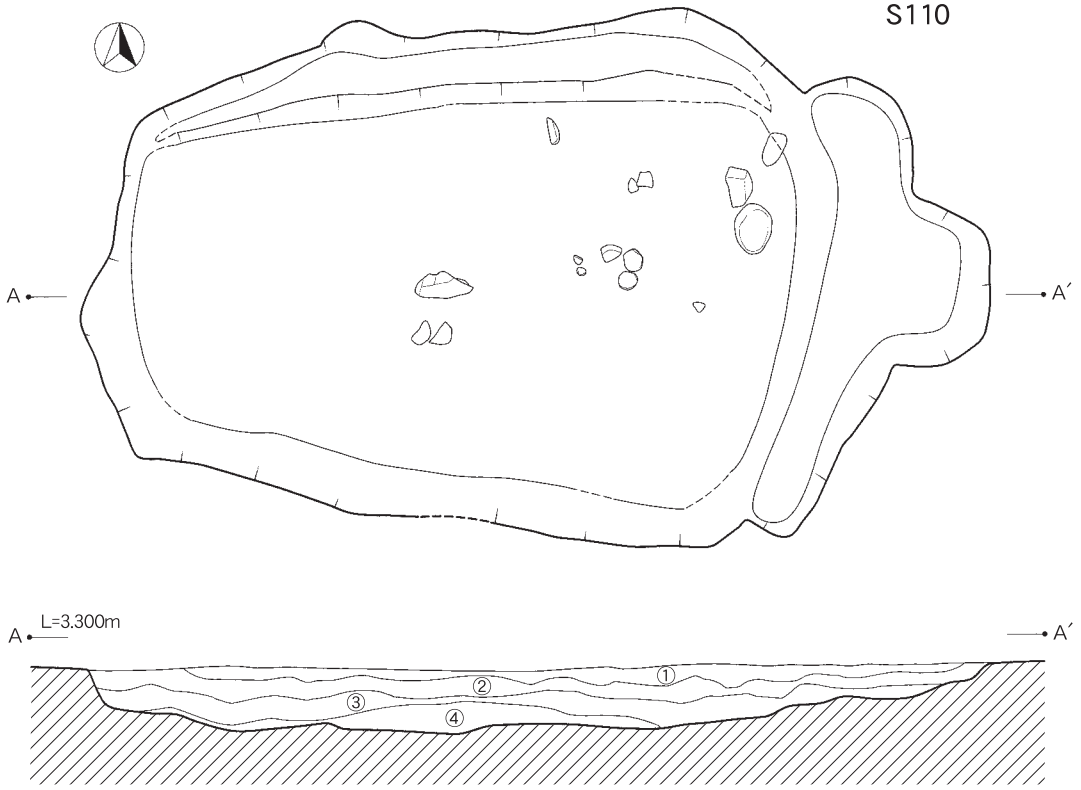


S118

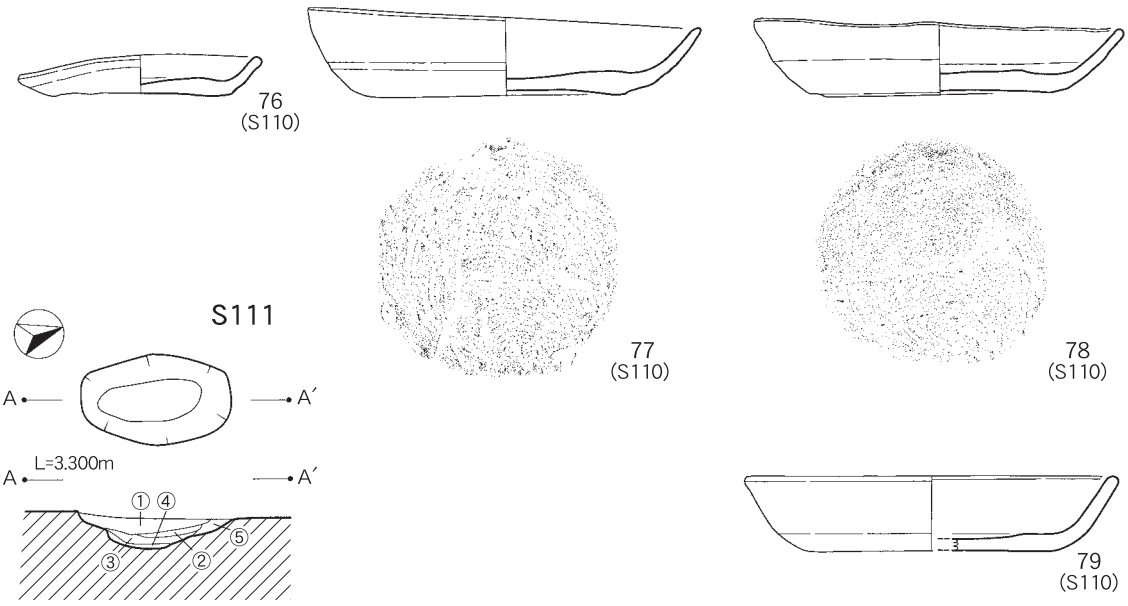


S118
①層　暗灰褐色粘質土　しまり強。大きい焼土を全体に含む。
②層　暗灰褐色粘質土　やや粘質。細かい焼土、小さい炭をまばらに含む。
③層　暗灰褐色粘質土　②より粘質。小さい礫を多く、大きい礫を少し含む。炭少量。
④層　暗灰褐色粘質土　炭・焼土を少量含み、灰黄色粘土ブロックを下部に含む。
⑤層　暗灰褐色粘質土　粘質強。微細な炭・焼土を少量含む。
　　灰黄色粘土ブロックを下部に含む。

第46図　Ⅱ区溝跡（Ｓ115）・土坑（Ｓ126・118）実測図及び出土遺物実測図

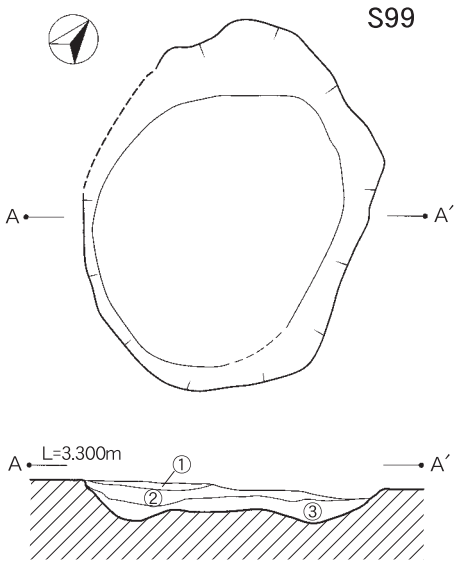


S110
①層　暗褐色粘質土　しまりが強く、炭の固まりを含む。
②層　暗褐色粘質土　①よりやや明るい焼土を含む。
③層　灰黄褐色粘質土　やや大きい炭の固まりを全体に含む。
④層　黒灰色土　全体的に炭と遺物を多く含む。

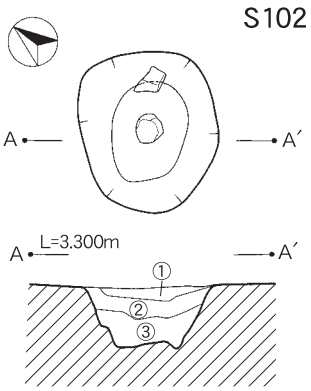


S111
①層　暗褐色土　炭・焼土を多く含む。全体的に暗い。
②層　灰黄褐色粘質土　しまり強。マンガン・炭を含む。
③層　灰褐色粘質土　しまりが強く下層に灰の帯を含む。
④層　黄褐色土　焼土のつぶを含む。
⑤層　黄褐色土　④よりやや明るい。焼土のつぶをやや含む。

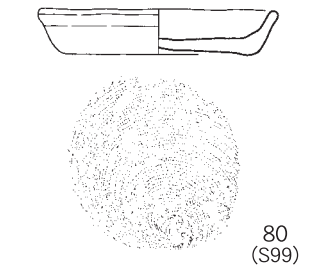
第47図　Ⅱ区土坑（S110･111）実測図及び出土遺物実測図

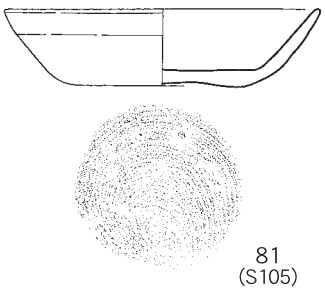


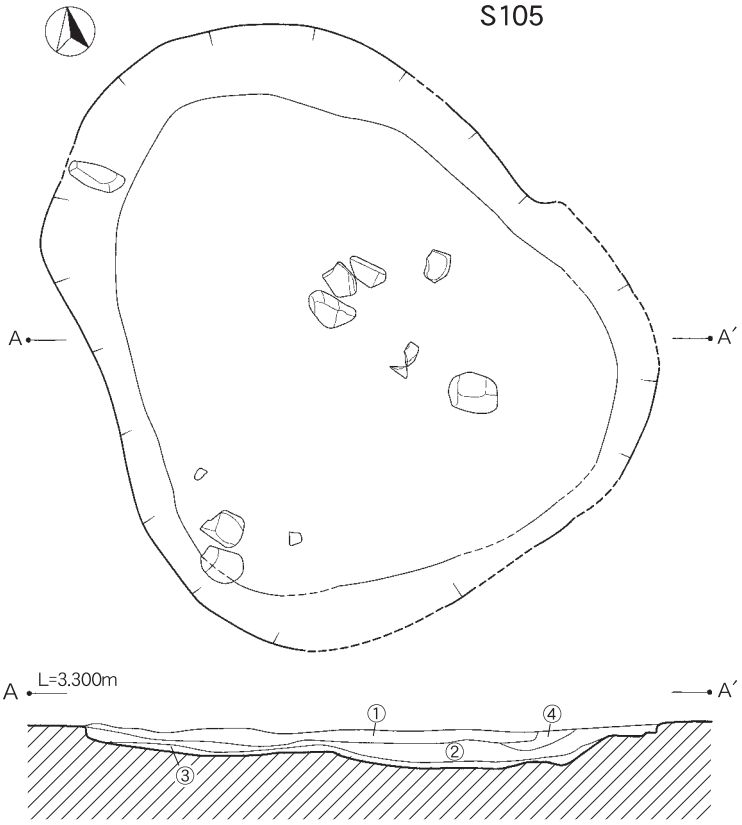
S99
①層　暗灰褐色粘質土　しまりがあり細かい焼土と炭を全体に含む。
②層　暗灰褐色粘質土　①よりやや粘質。①よりさらに細かい焼土・炭が広がる。
③層　暗灰褐色粘質土　焼成粘土塊が中心部に広がる。 しまりあり。炭も少量含む。



S102
①層　暗灰褐色粘質土　ホクホクとした土。
　　大きい灰黄色粘土ブロックを全体に含む。
②層　暗灰褐色粘質土　しまりややあり。灰黄色粘土ブロックを上部に多く含む。
③層　暗灰褐色粘質土　粘質強。微細な焼土・炭を全体に含む。

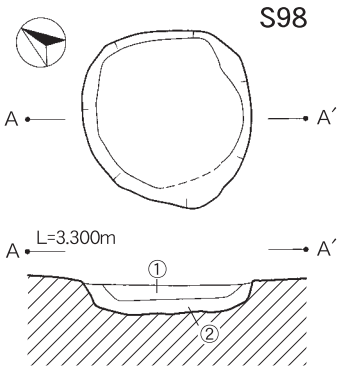




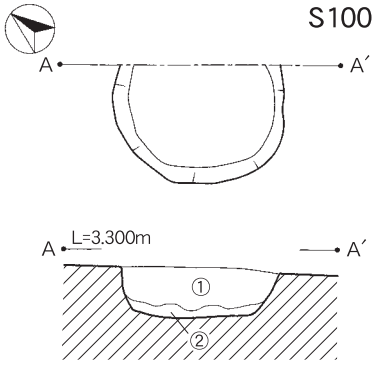


S105
①層　暗灰褐色粘質土　しまり強。焼土・炭を全体に含む。
②層　暗灰褐色粘質土　①よりしまり弱。灰黄色粘土ブロックが上部に広がる。
③層　灰黄色粘質土　粘質強。暗灰褐色粘土ブロックが全体にすじ状に広がる。
④層　暗灰褐色粘質土　ややしまりあり。明灰黄色粘土ブロックを全体に含む。焼土・炭も多い。

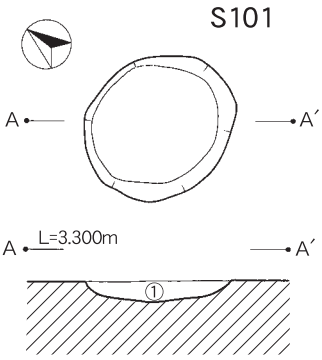
第48図　Ⅱ区土坑（S99・102・105）実測図及び出土遺物実測図



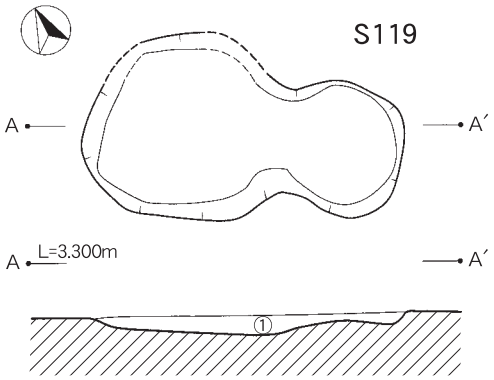
S98
①層　暗灰褐色粘質土　しまりあり。
②層　暗灰褐色粘質土　やや粘質。
　　ブロック状に灰黄色粘土を含む。



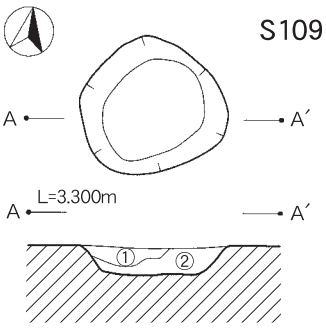
S100
①層　暗灰褐色粘質土　しまり強。細かい
　　焼土、直径5㎜程の炭が全体に広がる。
②層　暗灰褐色粘質土　①よりやや粘質。
　　灰黄色粘土ブロックが上面に多く広がる。



S101
①層　暗灰褐色粘質土　しまり強。5㎜
　　程度の炭と細かい焼土を全体に含む。
　　不定形の小さいマンガンを少量含む。

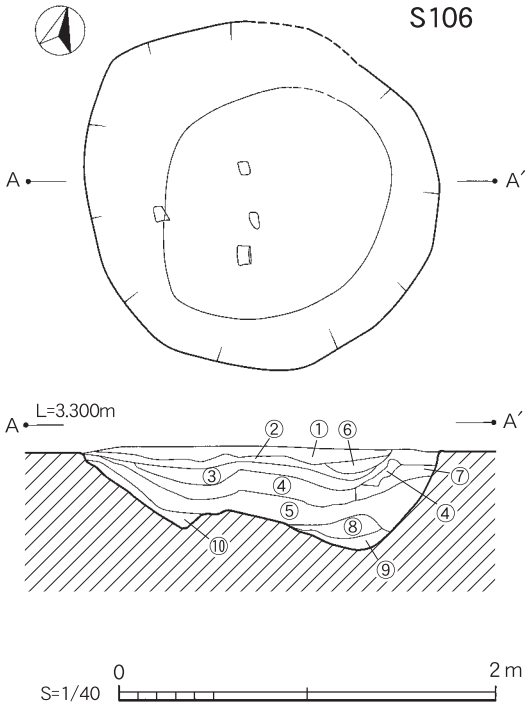


S119
①層　灰褐色粘質土　しまり強。直径2㎜のマンガンを
　　全体に含む。
　　微細な灰黄色粘土ブロックを下部に多く含む。

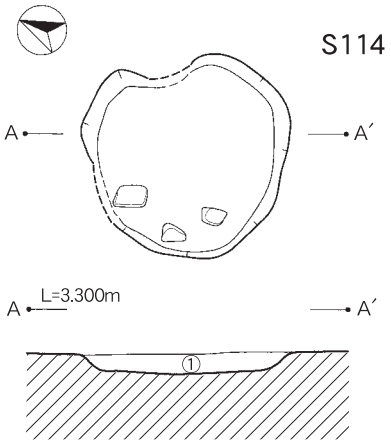


S109
①層　灰褐色粘質土　しまり強。直径１㎜程のマンガンが
　　少量含まれる。炭・焼土も微量。
②層　灰褐色粘質土　①と同様のマンガンを含む。
　　炭・焼土とも①より少ない。

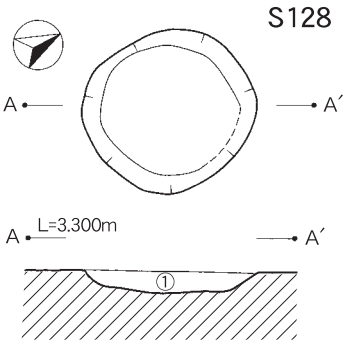
S106
①層　暗灰褐色粘質土　しまり強。直径2㎜程のマンガンが上部に
　　広がる。
②層　灰褐色粘質土　灰黄色粘土ブロックを全体に含む。
　　炭を少量含む。
③層　暗灰褐色粘質土　②よりしまり弱。灰黄色粘土ブロックを
　　上部に含む。
④層　灰褐色粘質土　不定形な灰黄色粘土ブロックを全体に含む。
　　大きい炭を少量含む。
⑤層　暗灰褐色粘質土　④同様の灰黄色粘土ブロックを含む。
　　大きい炭を全体に含む。
⑥層　暗灰褐色粘質土　しまり強。小さい灰黄色粘土ブロックを
　　中央に多く含む。細かい礫が広がる。
⑦層　暗灰褐色粘質土　④のしまりと似ているが、灰黄色粘土
　　ブロックは細かい。炭・焼土を少量含む。
⑧層　灰褐色粘質土　砂質強。暗灰褐色粘土をすじ状に含む。
⑨層　灰褐色粘質土　粘質強。大きい炭が少量みられる。
　　下部は砂質が強い。
⑩層　暗灰褐色粘質土　粘質強。灰黄色粘土ブロックが下部
　　に多く広がる。細かい焼土・炭を上部に含む。



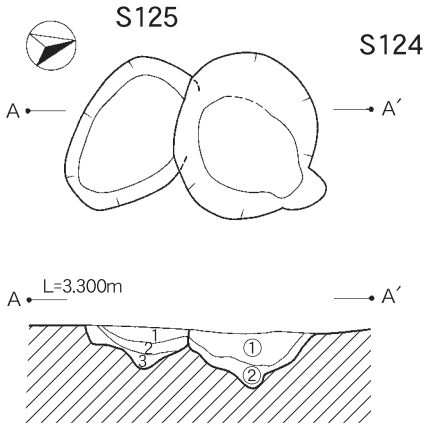
第49図　Ⅱ区土坑（S98・100・101・119・109・106）実測図



S114
①層　灰褐色粘質土　直径2㎜のマンガンまばらに含む。
ホクホクとした土。

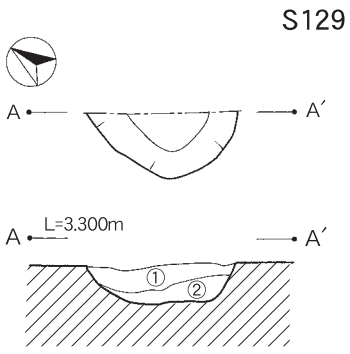


S128
①層　灰黄色粘質土　ややしまりあり。炭を少量含む。
小さい灰黄色粘土ブロックを全体に含む。

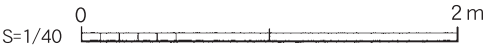


S125
１層　暗灰褐色粘質土　ホクホクした土で炭・焼土を少量含む。
２層　暗灰褐色粘質土　やや粘質。①より少量ではあるが炭・
焼土を含む。
３層　暗灰褐色粘質土　粘質強。小さい灰黄色粘土ブロックを
多く含む。

S124
①層　灰黄色粘質土　大小様々なマンガンが多量に広がりガリガリ
とした音のする土。微細な炭を少量含む。
②層　暗灰褐色粘質土　粘質強。炭を微量に含む。



S129
①層　暗灰褐色粘質土　ホクホクした土。炭・焼土を少量含む。
②層　暗灰褐色粘質土　やや粘質。灰黄色粘土ブロックを全体
に含む。①より炭・焼土は少ない。



第50図　Ⅱ区土坑（S114・128・125・124・129）実測図

⑶　溝跡

108号溝跡【S108】（第45図）

S108はⅡ区とⅣｂ区の中央部で確認でき、長さ5.18m以上、幅0.5から1.08m、深さ約0.20mを測り、ほぼ南北方向に伸びている。72はこの溝から出土した、底部に糸切り痕がある土師器の杯である。

112号溝跡【S112】（第45図）

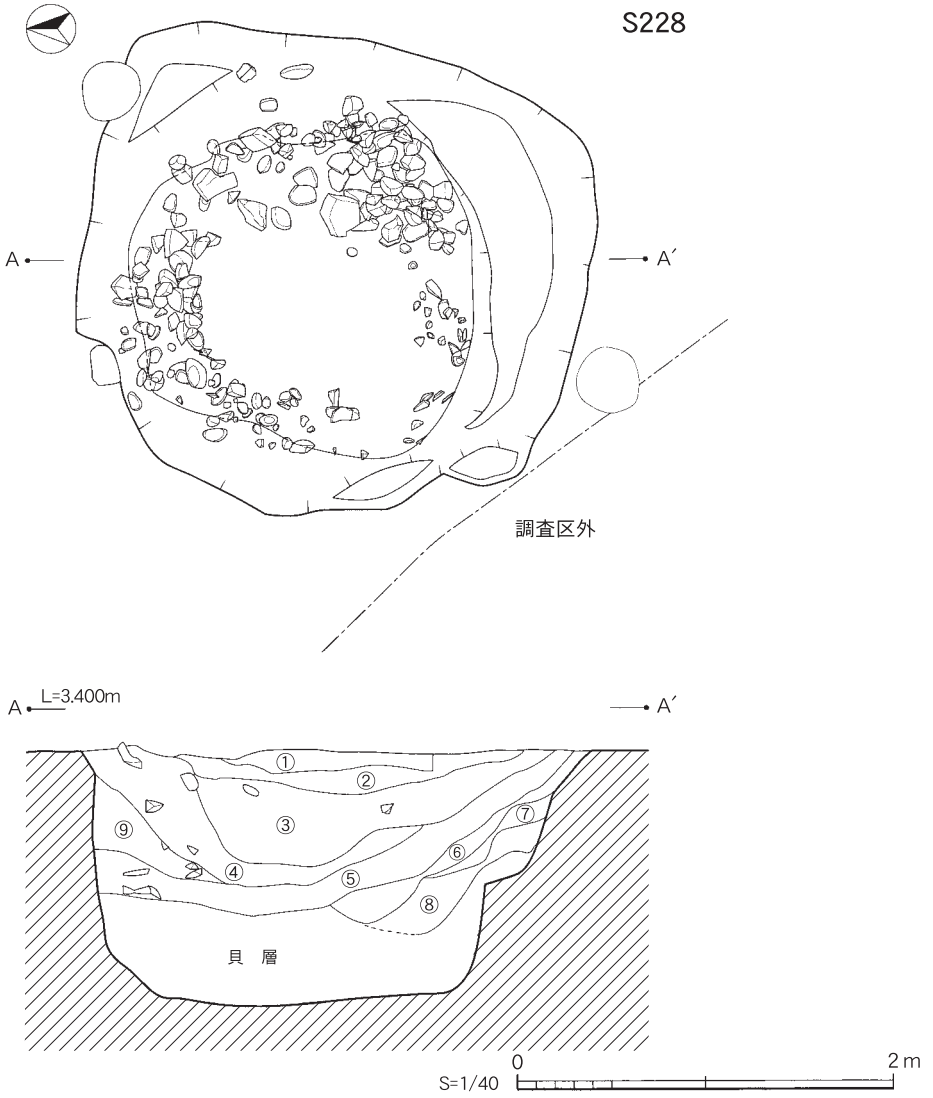
S112はⅡ区とⅣｂ区にまたがり北側で確認できた。主にⅣｂ区で、長さ5.00m以上、幅1.02から1.30m、深さ約0.40mを測り、ほぼ南北方向に伸びている。覆土は６層に分層される。出土遺物は、73の土師器の杯である。この他に図化していないが、土錘が１点出土している。

113号溝跡【S113】（第45図）

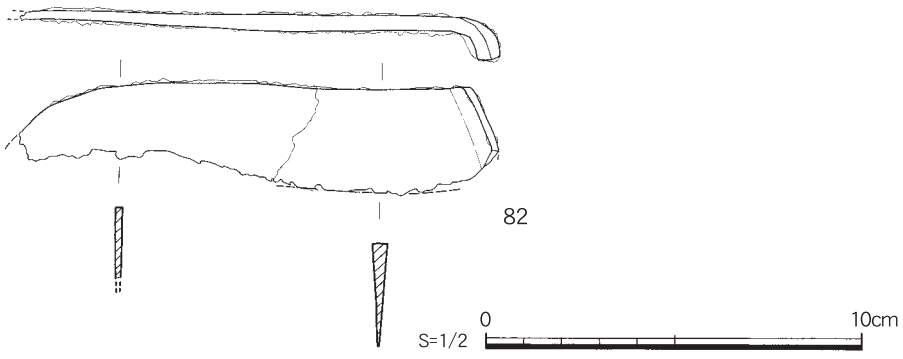
S113は112号溝跡に切られ、Ⅱ区で確認できた。長さ1.10m以上、幅0.98m、深さ0.12mを測る。覆土は炭と焼土か混じる３層が混在している。

115号溝跡【S115】（第46図）

S115はⅡ区の北側で確認できた遺構で、長さ3.26m以上、幅1.02から1.46m、深さ約0.36mを測り、ほぼ南北方向に伸びている。74・75は土師器の杯でいずれも溝から出土した。



S228
①層　灰黄褐色土(10YR4/2)　しまり強。黄褐色土(10YR5/6)のブロックをところどころ含む。小さい礫少し。鉄分がすじ状に広がる。
②層　褐灰色土(10YR4/1)　しまり強。小さい焼土・炭をまばらに含む。鉄分とマンガンが広がり、全体的に赤い色が強い。
③層　黒褐色粘質土(10YR2/2)　しまりあり。やや粘質。褐色土(10YR4/4)のブロックをまばらに含む。焼土・炭は②より多く含まれる。小さい礫は下部に広がる。
④層　黒褐色粘質土(10YR2/2)　やや粘質。焼土・炭は③より少ない。小さい遺物が見られる。
⑤層　黒褐色粘質土(10YR3/1)　しまり強。③に含まれる褐色土を全体に多量に含む。小さい礫が広がる。焼土・炭は微量。
⑥層　黒褐色粘質土(10YR2/1)　しまり弱。粘質あり。褐色土をブロック状に含むが⑤より少量。焼土・炭若干。
⑦層　黒褐色粘質土(10YR2/1)　しまりあり。褐色土をすじ状に含む。微細な炭少量。
⑧層　黒褐色粘質土(10YR3/1)　弱いが全体に砂が薄く広がる。褐色土の大きいブロックを多量に含む。
⑨層　黒褐色粘質土(10YR3/2)　しまり強。マンガンを含む褐色土ブロックをまばらに含む。炭少量。10㎝程度の礫が多く広がる。



第51図　Ⅳｂ区井戸跡（Ｓ228）実測図及び出土遺物実測図

226号溝跡【S226】（第54図）

S226はⅣｂ区の南側で確認できた遺構で、長軸2.68m以上、短軸0.45m、深さ0.08mを測り、ほぼ東西方向に伸びる。覆土は黒色シルトの単一層で、溝跡と言えるか不明である。

⑷　井戸跡

228号井戸跡【S228】（第51図）

S228はⅣｂ区の中央部で確認できた遺構で、長軸2.70m、短軸2.51m、深さ1.35mを測る井戸である。全体に礫が多く、図化はしていないが写真図版59～61に掲載している様に、下層に木枠と貝を多く含む層が検出されている。82は鉄製品で、刃部が一部欠損しているが、手鎌ではないかと思われる。図化していないが、土錘が１点出土している。

230号井戸跡【S230】（第52図）

S230もⅣｂ区の中央部228号井戸跡の北側で確認できた遺構である。長軸2.62m、短軸2.58m、深さ1.44mを測る井戸である。こちらも木枠と貝層が検出しており、写真図版62に掲載している。出土遺物は多く、84・85・86は底部に糸切り痕の残る土師器の皿で、83・87・88は土師器の杯である。89は石鍋の転用品で滑石製の温石ではないだろうか。図化していないが、土錘が２点出土している。

⑸　土壙墓

213号土壙墓【S213】（第53図）

S213はⅣｂ区調査区の南端に位置し、長軸1.36m、短軸1.06m、深さ0.17mを測る。覆土は２層に分層できる。土坑かともおもわれるが、遺構内の北隅から、90～95の土師器の皿と95の龍泉窯系の青磁椀と96の剣が一緒に出土した為、土壙墓とした。

⑹　土坑

Ⅱ区の土坑から述べる。

121号土坑【S121】（第45図）

S121はⅡ区の中央部に位置し、108号溝跡を切る。長軸1.06m、短軸0.92m、深さ0.17mを測り、108号溝跡を切る。平面形はほぼ円形を呈し、２層に分層される。

126号土坑【S126】（第46図）

S126は115号溝跡を切るように検出された。長軸1.09m、短軸0.96m、深さ0.45mを測る円形の遺構である。覆土は６層に分層される。

118号土坑【S118】（第46図）

S118は調査区の北側に位置し37号掘立柱建物跡の北にある。長軸2.16m、短軸1.28m、深さ0.42mを測り、平面形は楕円形を呈する。

110号土坑【S110】（第47図）

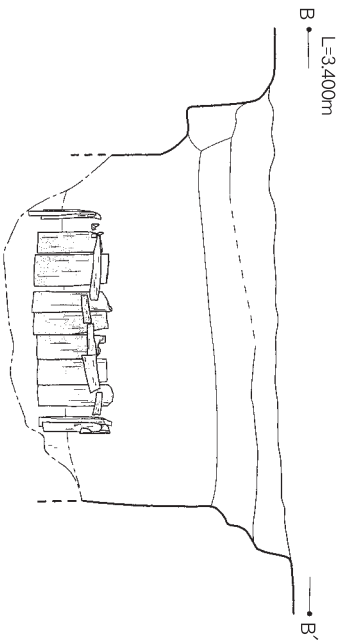
S110は調査区の中央部やや北に位置する遺構である。長軸4.82m、短軸2.88m、深さ0.36mと大きい。出土遺物は76・77土師器の杯で歪みがある。78は内黒土器である。79は土師器の杯である。図化していないが、土錘が１点出土している。覆土は４層に分層される。

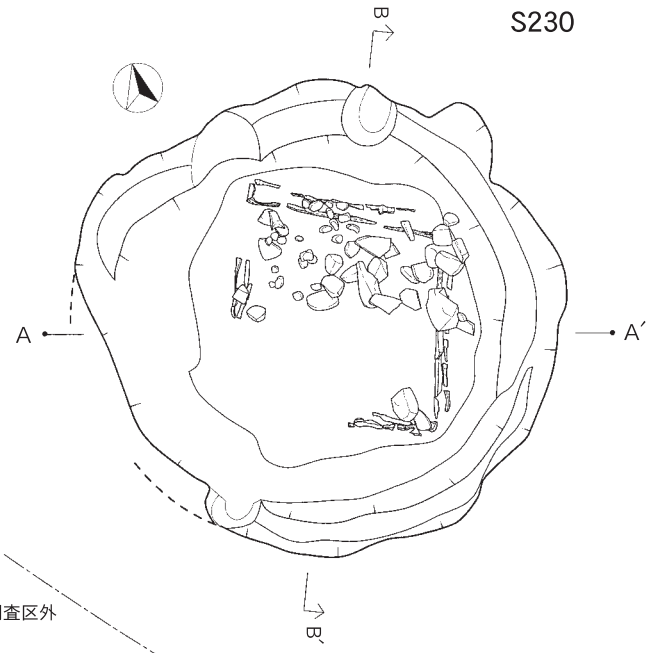
111号土坑【S111】（第47図）

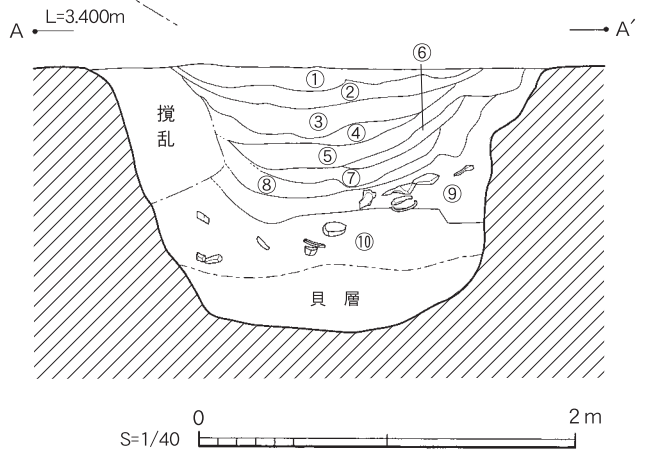
S111は110号土坑の西側に位置する。長軸0.80m、短軸0.48m、深さ0.16mを測り浅い。図化していないが、土錘が１点出土している。

102号土坑【S102】（第48図）

S102は105号土坑の南側に位置する。長軸0.96m、短軸0.72mを測る小さな遺構であり、深さ0.34mと深く３層に分層できる。

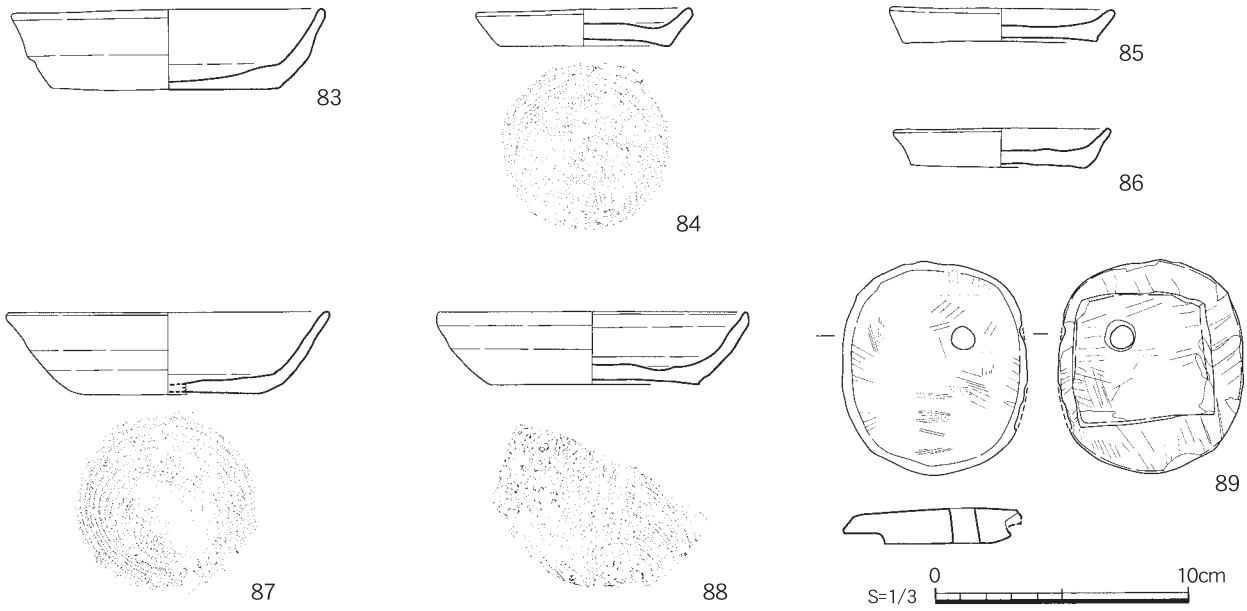






S230

①層　にぶい黄橙色土(10YR6/3)　しまり強。小さいマンガンを多量に含む。すじ状に鉄分が広がる。
②層　褐灰色土(10YR4/1)　しまり強。鉄分とマンガンが広がり全体的に赤い色が強い。①をブロック状にところどころに含む。
③層　黒褐色粘質土(10YR3/1)　しまりあり。やや粘質。②をブロック状に多く含む。小さいマンガン・炭少量。
④層　黒褐色粘質土(10YR3/1)　③より粘質あり。②をブロック状に含むが③より量は少ない。細かい礫少量。
⑤層　黒褐色粘質土(10YR2/2)　しまりあり。焼成粘土塊が多量。大きめの炭を若干含む。
⑥層　黒褐色粘質土(10YR2/2)　ややしまりあり。小さい焼土・炭を若干含む。黄橙色土の小さいブロックを多量に含む。
⑦層　黒色粘質土(10YR2/1)　粘質強。灰色粘土(N4/0)をすじ状に含む。
⑧層　黒色粘質土(10YR2/1)　粘質強。小さい焼土・炭を全体に多量に含む。
⑨層　黒色粘質土(10YR2/1)　粘質強。しまりもあり大きめの炭を若干含む。焼土は微量。
⑩層　黒褐色粘土(10YR3/1)　にぶい黄褐色粘土の大きいブロックをまばらに含む。炭若干。



第52図　Ⅳｂ区井戸跡（Ｓ230）実測図及び出土遺物実測図

99号土坑【S99】（第48図）

S99は調査区の南部に位置し、長軸1.96m、短軸1.76m、深さ0.20mを測り、平面形は不定形を呈する。出土遺物は、80の底部に糸切り痕と黒班のある土師器の杯である。

105号土坑【S105】（第48図）

S105は調査区の中央部に位置するやや大きな遺構である。長軸3.30m、短軸3.00m、深さ0.21ｍを測る。覆土は４層に分層される。出土遺物は81で、底部に糸きり痕の残る土師器の杯である。

98号土坑【S98】（第49図）

S98は99号土坑の南側に位置し、長軸0.94m、短軸0.90m、深さ0.16mを測り、平面形は円形を呈する。

100号土坑【S100】（第49図）

S100は調査区の南部の東端に位置し、長軸0.90m、短軸0.64m、深さ0.27ｍを測り、平面形は円形を呈する。覆土は２層に分層される。

101号土坑【S101】（第49図）

S101は100号土坑の東側にあり、長軸0.80m、短軸0.78m、深さ0.12mを測る。平面形は円形を呈し、暗灰褐色粘質土の単一層である。

119号土坑【S119】（第49図）

S119はⅡ区の北端に位置し、長軸1.70m、短軸0.50m、深さ0.11ｍを測り、平面形は不定形を呈する。

109号土坑【S109】（第49図）

S109は調査区の中央部の東側に位置し、長軸0.78m、短軸0.73m、深さ0.14mを測り、平面形は円形を呈する。

106号土坑【S106】（第49図）

S106は105号土坑の東側に位置し、長軸1.88m、短軸1.86m、深さ0.54mを測り、平面形は円形を呈する。覆土は、10層に分層される。

114号土坑【S114】（第50図）

S114は区の南側に位置し、長軸1.12m、短軸1.08m、深さ0.10mを測る。平面形は不定形である。覆土は、灰褐色粘質土の単一層である。

124・125号土坑【S124・125】（第50図）

S124・S125は102号土坑に隣接し、長軸0.90m、短軸0.76m、深さ0.30mと、長軸0.74m、短軸0.56m、深さ0.22mを測る。

128号土坑【S128】（第50図）

S128は調査区の中央部の106号土坑の東側に位置し、長軸0.90m、短軸0.86m、深さ0.12mを測り、平面形は円形を呈する。

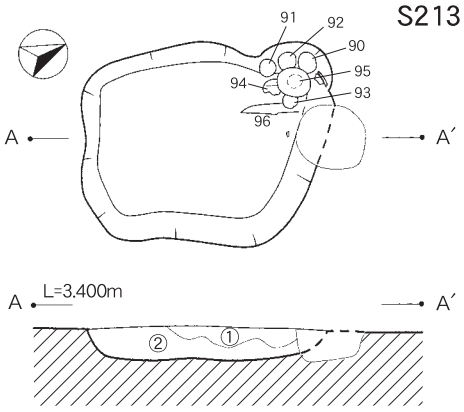
129号土坑【S129】（第50図）

S129は調査区の中央部の位置し、半分が区外になる。長軸0.80m、短軸0.34m以上、深さ0.21ｍを測る。

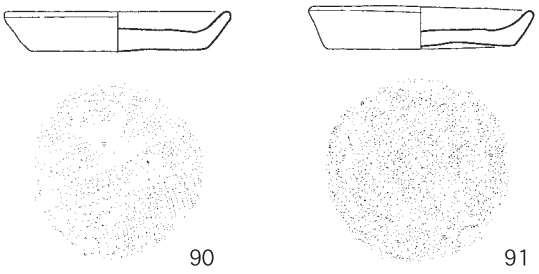
次に、Ⅳｂ区の土坑について述べる。

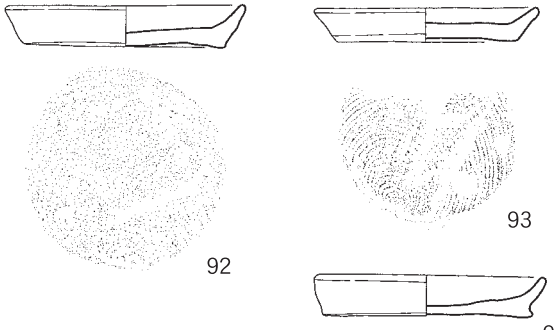
225号土坑【S225】（第53図）

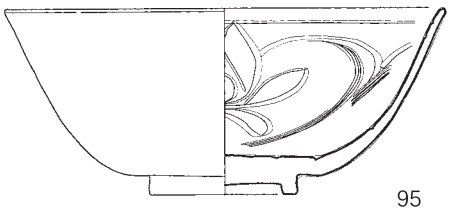
S225はⅣｂ区の南側に位置し、長軸0.86m、短軸0.85m、深さ0.15mを測り、平面形は円形を呈する。

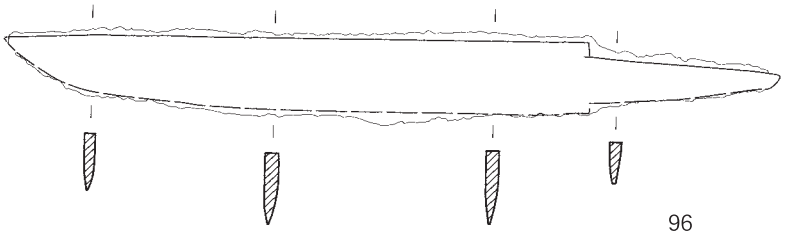


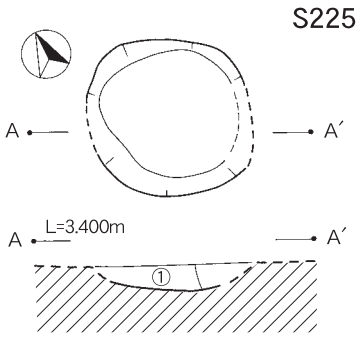
S213
①層　暗褐色粘質土(10YR3/3)　しまり強。マンガンを多量に含む。
②層　黒褐色粘質土(10YR3/1)　やや粘質。黒褐色粘土ブロックを全体に含む。



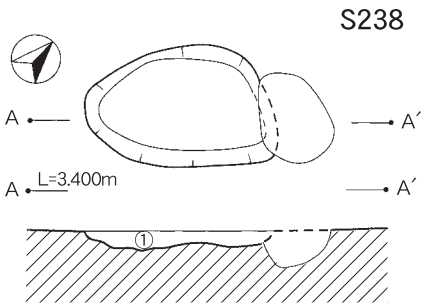






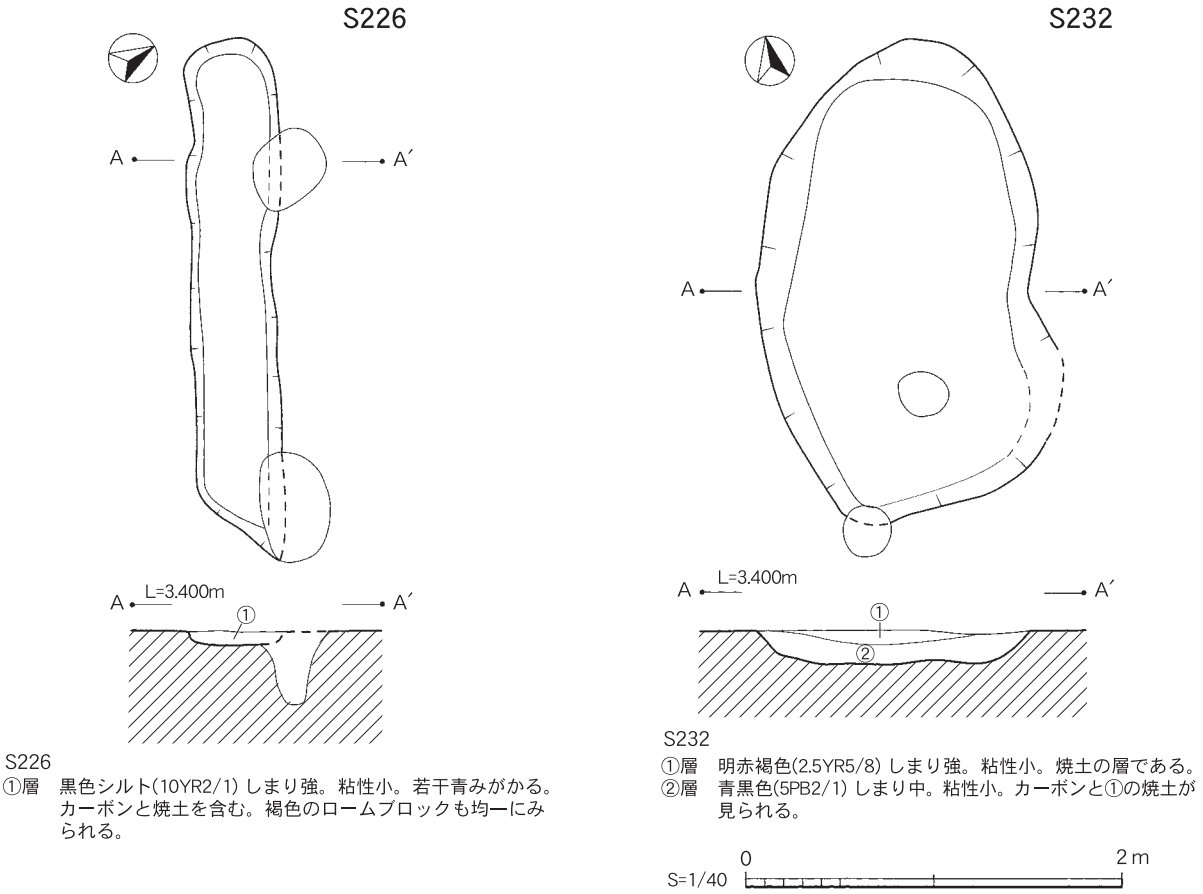


S225
①層　褐灰色シルト(5YR4/1)　しまり中。粘性小。黄褐色のロームブロック(3～5㎜)を均一に含み、極微量のカーボンがみられる。



S238
①層　黒褐色粘質土(10YR2/2)　しまりあり。直径5㎜のマンガンを少量含む。暗褐色粘土の大きいブロックをまだらに含む。焼土若干。

第53図　Ⅳｂ区土坑（Ｓ213･225･238）実測図及び出土遺物実測図



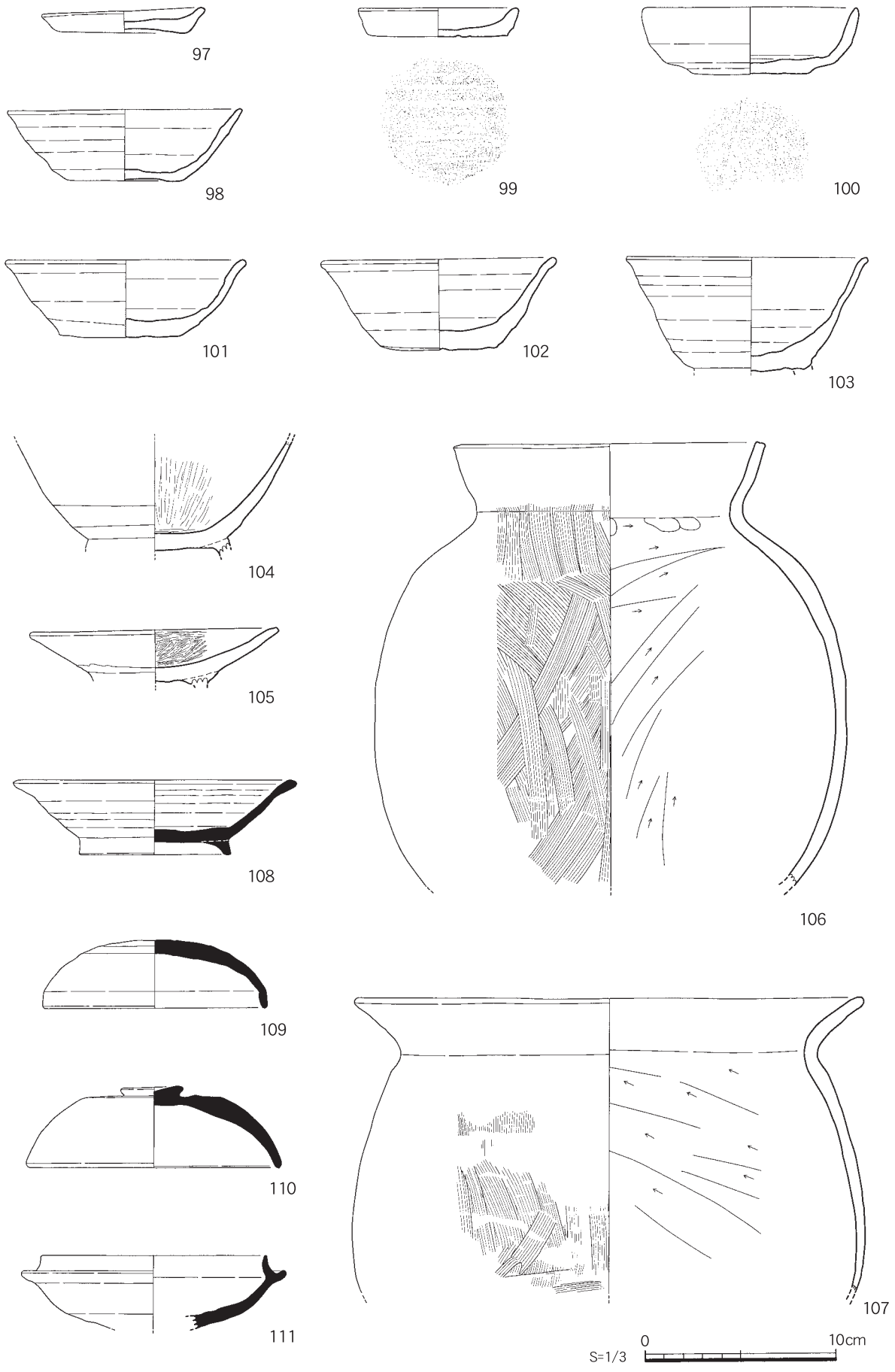
S226
①層　黒色シルト(10YR2/1) しまり強。粘性小。若干青みがかる。カーボンと焼土を含む。褐色のロームブロックも均一にみられる。

S232
①層　明赤褐色(2.5YR5/8) しまり強。粘性小。焼土の層である。
②層　青黒色(5PB2/1) しまり中。粘性小。カーボンと①の焼土が見られる。

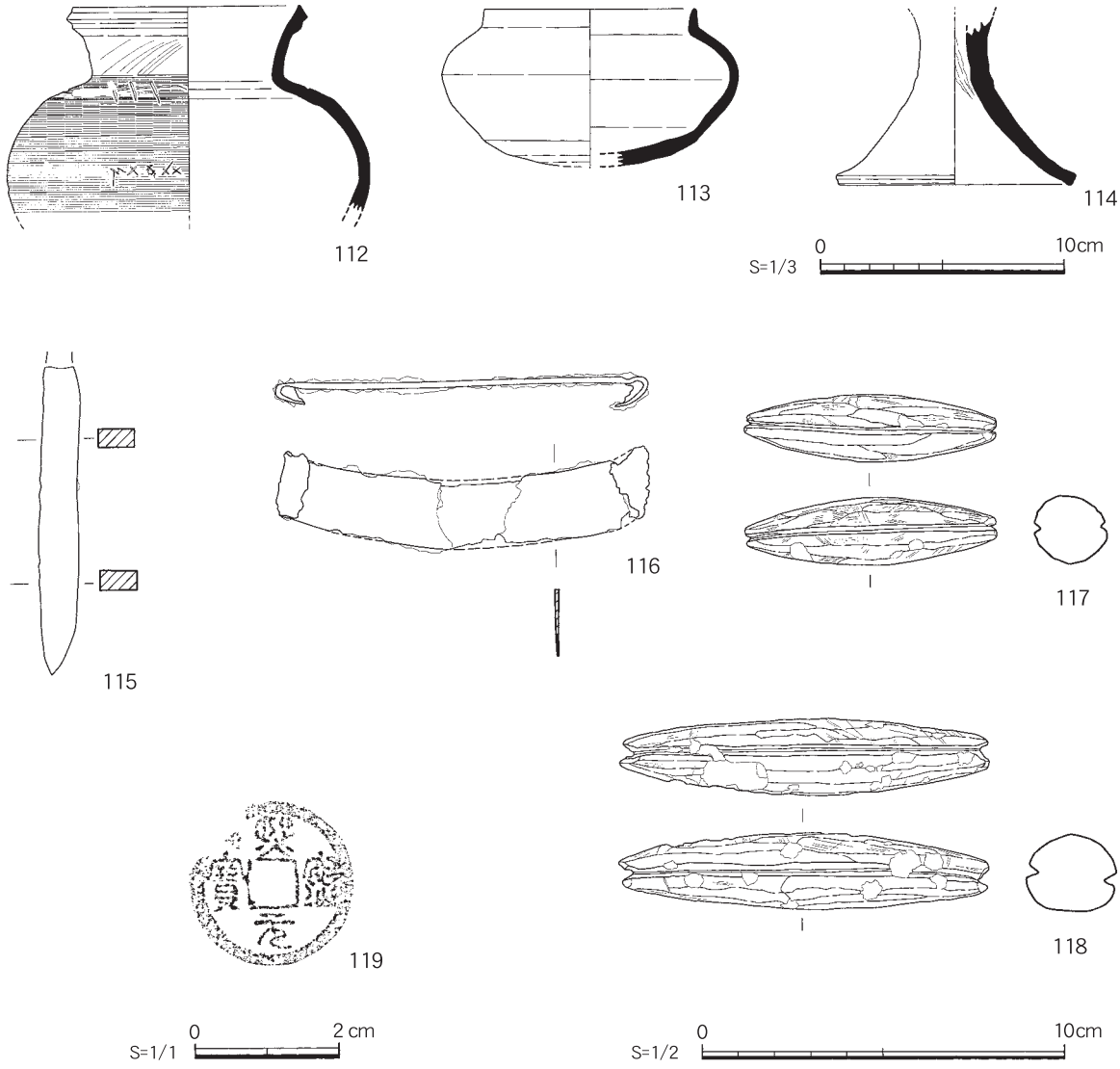
第54図　Ⅳb区溝跡（S226）・土坑（S232）実測図

表12　Ⅱ・Ⅳb区検出遺構一覧表　（単位：m）

区	遺構番号	遺構名	長軸(長さ)	短軸(幅)	深さ	区	遺構番号	遺構名	長軸(長さ)	短軸(幅)	深さ
Ⅱ・Ⅳb	S108	溝	5.18〜	1.08	0.20	Ⅱ	S119	土坑	1.70	0.50	0.11
Ⅱ・Ⅳb	S112	溝	5.00〜	1.30	0.40	Ⅱ	S109	土坑	0.78	0.73	0.14
Ⅱ	S113	溝	1.00〜	0.98	0.12	Ⅱ	S106	土坑	1.88	1.86	0.54
Ⅱ	S121	土坑	1.06	0.92	0.17	Ⅱ	S114	土坑	1.12	1.08	0.10
Ⅱ	S115	溝	3.26〜	1.46	0.36	Ⅱ	S128	土坑	0.90	0.86	0.12
Ⅱ	S126	土坑	1.09	0.94	0.48	Ⅱ	S125	土坑	0.74	0.56	0.22
Ⅱ	S118	土坑	2.16	1.28	0.42	Ⅱ	S124	土坑	0.90	0.76	0.30
Ⅱ	S110	土坑	4.82	2.88	0.36	Ⅱ	S129	土坑	0.80	0.34〜	0.21
Ⅱ	S111	土坑	0.80	0.48	0.16	Ⅳb	S228	井戸	2.70	2.51	1.35
Ⅱ	S99	土坑	1.96	1.76	0.20	Ⅳb	S230	井戸	2.62	2.58	1.44
Ⅱ	S102	土坑	0.96	0.72	0.34	Ⅳb	S213	土壙墓	1.36	1.06	0.17
Ⅱ	S105	土坑	3.30	3.00	0.20	Ⅳb	S225	土坑	0.86	0.85	0.15
Ⅱ	S98	土坑	0.94	0.90	0.16	Ⅳb	S238	土坑	1.00	0.67	0.10
Ⅱ	S100	土坑	0.90	0.64	0.27	Ⅳb	S226	溝	2.68〜	0.45	0.08
Ⅱ	S101	土坑	0.80	0.78	0.12	Ⅳb	S232	土坑	2.55	1.45	0.17



第55図　Ⅱ区出土遺物実測図（１）



第56図　Ⅱ区出土遺物実測図（２）

238号土坑【S238】（第53図）

S238は232号土坑の東側に位置し、長軸1.00m、短軸0.67m、深さ0.10mを測り、平面形は円形で、単一層である。

232号土坑【S232】（第54図）

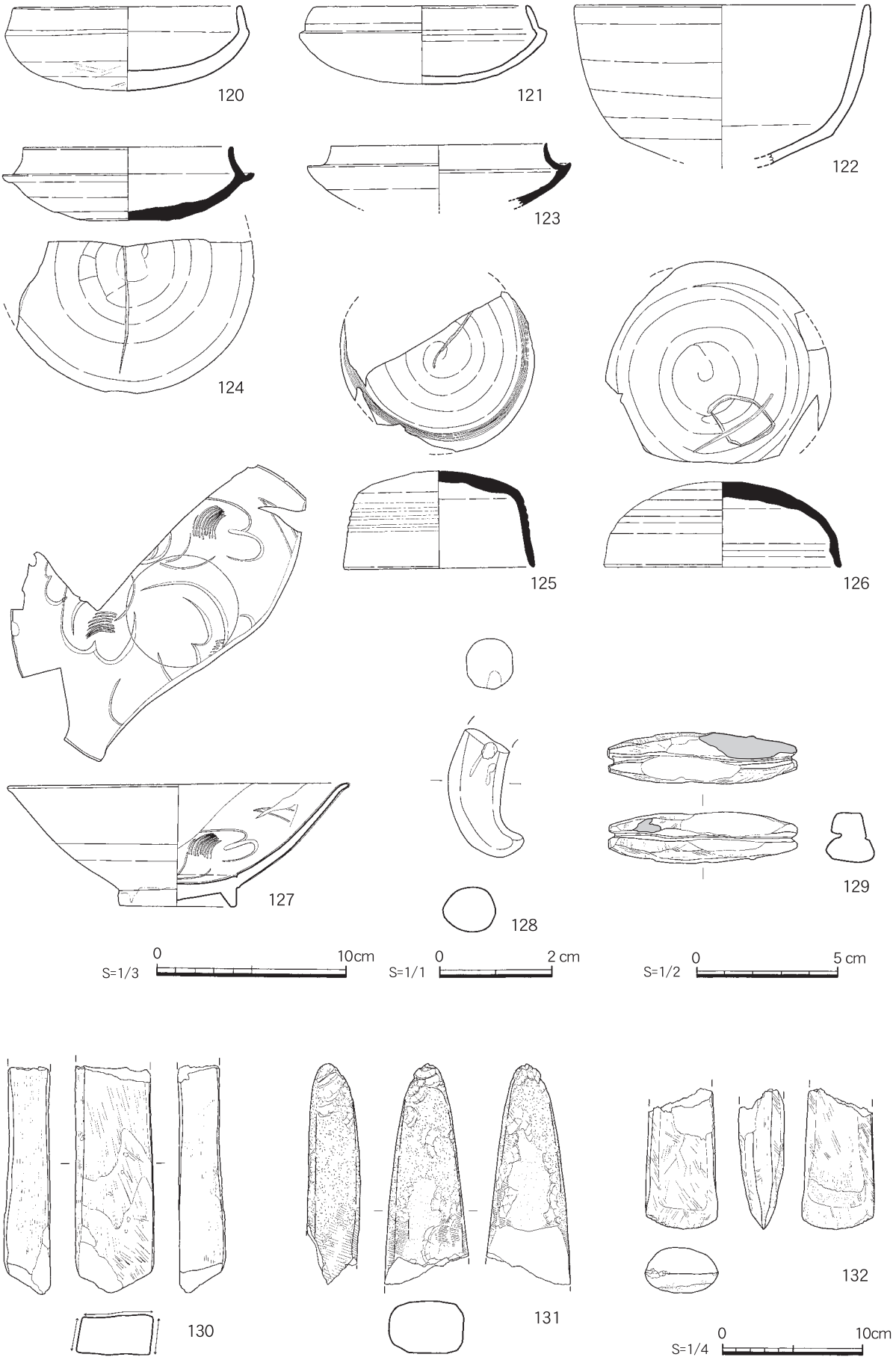
S232は区の南側に位置し、長軸2.55m、短軸1.45m、深さ0.17mを測り、平面形は楕円形で断面形は皿状を呈する。覆土は２層に分層できる。

３．その他

ここでは、２．遺構・遺物で遺構と共に述べられなかった遺物を概観する。なお、出土地点、法量、調整、色調、胎土等の詳細については、別表のとおりである。

Ⅱ区出土遺物（第55～56図）

第55図の遺物は、土器類である。97は底部に糸切り痕を持つ土師器の皿で、98・100は、底部に糸切り痕を持つ土師器の杯である。99は板状圧痕を持つ土師器の杯である。101・102は口径12㎝以上の杯、103は土師器の椀である。104は内黒土器の椀で、105は内黒土器の杯で丁寧なミガキがある。106・107は土師器の甕



第57図　Ⅳｂ区出土遺物実測図

である。108は須恵器の高台付杯で、109は須恵器の蓋で、上部にヘラ記号がある。

第56図の遺物は、土器類とその他である。112～114が須恵器である。112は小型壺の一部で、肩部にヘラ記号ある。113は坩、114は高坏の脚である。115・116は鉄器で、116は手鎌か鉄包丁ではないかと思われる。117・118は滑石製の石錘である。119は古銭の『熙寧元宝』元豊元年（1068年）鋳造である。図化していないが、42点の土錘が出土する。

Ⅳb区出土遺物（第57図）

第57図は、Ⅳb区の遺物である。120～122は土師器で、120・121は須恵器模倣杯の身である。122は外面に赤色顔料の残る鉢である。123～126は須恵器の杯身と蓋で、124には杯身の底部に、125・126には蓋の上面にヘラ記号が施されている。127は白磁の椀で、内面にはヘラ描き文があり、施釉される。128はガラス製の勾玉未成品である。129は石鍋転用品の石錘である。130は砂岩の砥石である。131・132は頁岩製の磨製石斧である。図化していないが、12点の土錘が出土する。

第５節　Ⅳａ区の調査

１．遺構分布（第58図）

Ⅳａ区で確認した遺構は、掘立柱建物跡１棟、溝跡１条、土坑４基である。

なお、現地調査では、検出し掘削した柱穴も少なく、建物等を構成するものではなかった。柱穴を含めた遺構分布は、掘立柱建物跡は北部に１棟のみ、土坑もまばらである。

掘立柱建物跡	SB79
溝跡	S244
土坑	S234・235・239・246

２．遺構・遺物

各遺構・遺物の詳細は第59図～第62図・表13～14のとおりである。以下は各遺構を概観する。

⑴　掘立柱建物跡

79号掘立柱建物跡【SB79】（第59図）

SB79は、調査区の北側に位置する（２）間×（１）間の側柱建物である。建物全体の規模と建物方向は東側が調査区外になるため不明である。桁行方向はＮ20°Ｅある。

⑵　溝跡

244号溝跡【S244】（第60図）

S244は、調査区の南部に位置する溝である。長さ1.60m以上、幅0.50m、深さ0.12mで、平面形は不定形で断面形は浅い皿状を呈している。239号土坑と246号土坑を切る。

⑶　土抗

239号土坑【S239】（第60図）

S239は調査区の南端に位置し、246号土坑に切られ長軸1.90m以上、短軸1.58m、深さ0.65mを測る。礫を多く含む。覆土は２層に分層される。

246号土坑【S246】（第60図）

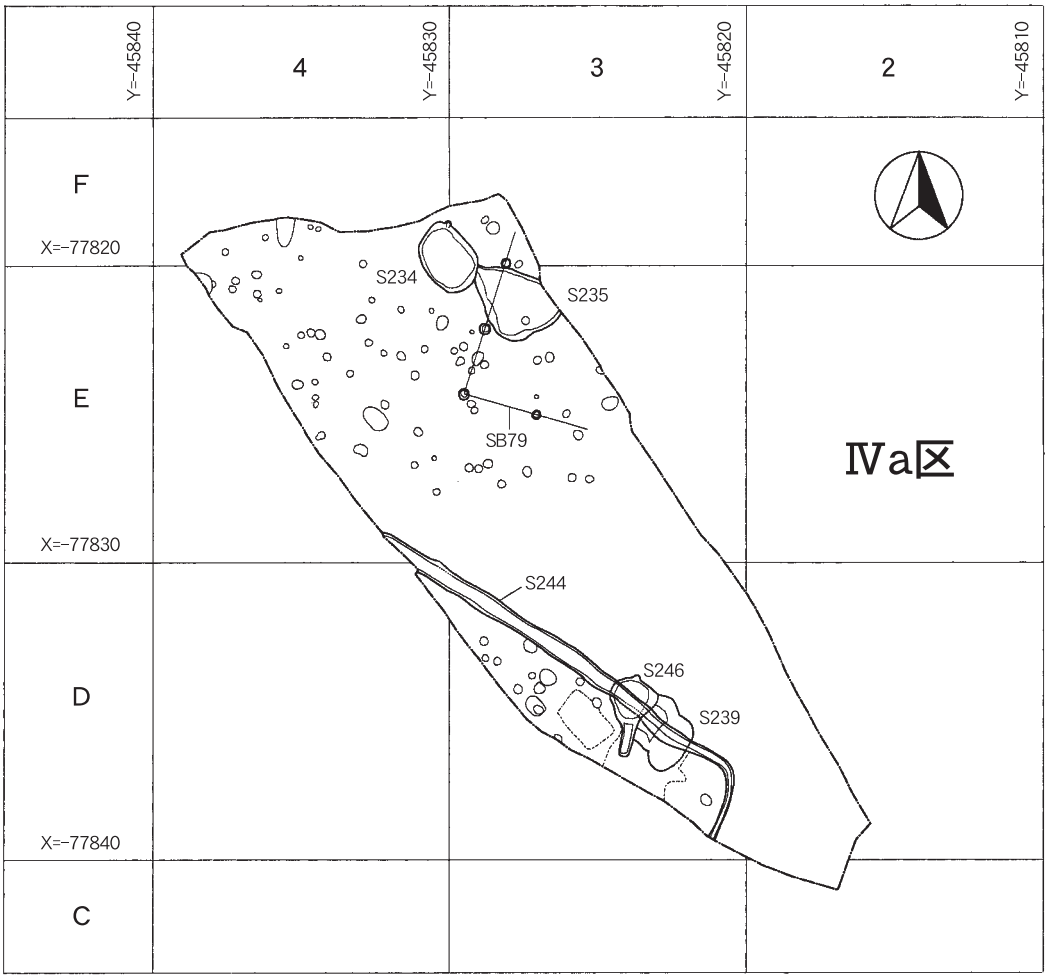
S246は239号土坑を切るように検出された。長軸2.73m、短軸1.56m、深さ0.60mで、断面形は略台形を呈している。

234号土坑【S234】（第61図）

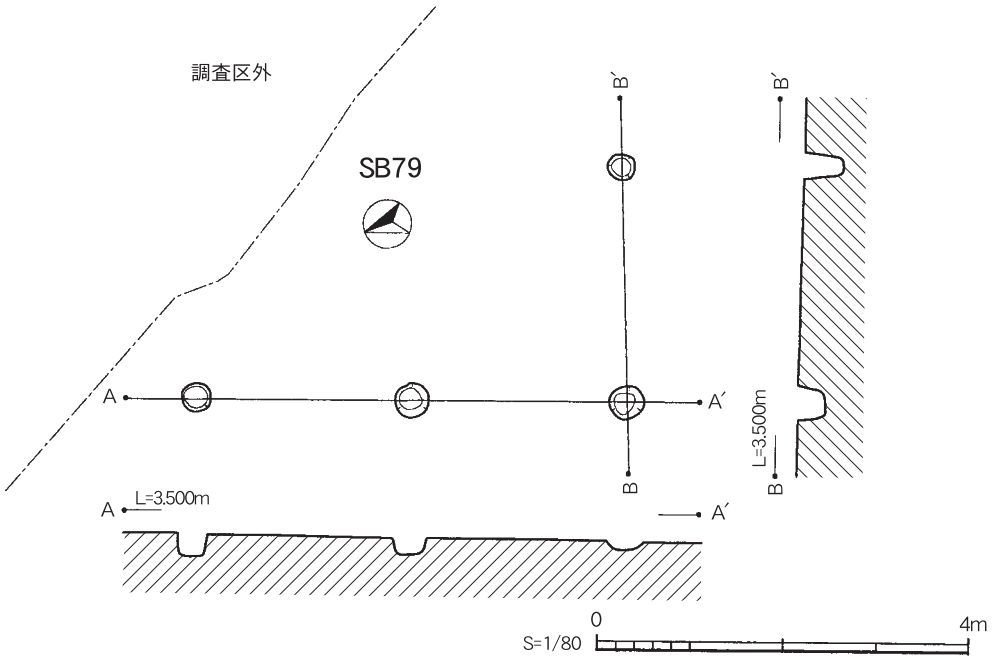
S234は調査区の北端に位置し、長軸2.27m、短軸1.70m、深さ0.22mで、平面形は楕円形を呈している。出土遺物は133の刀子で刃部から茎部が残る。

235号土坑【S235】（第61図）

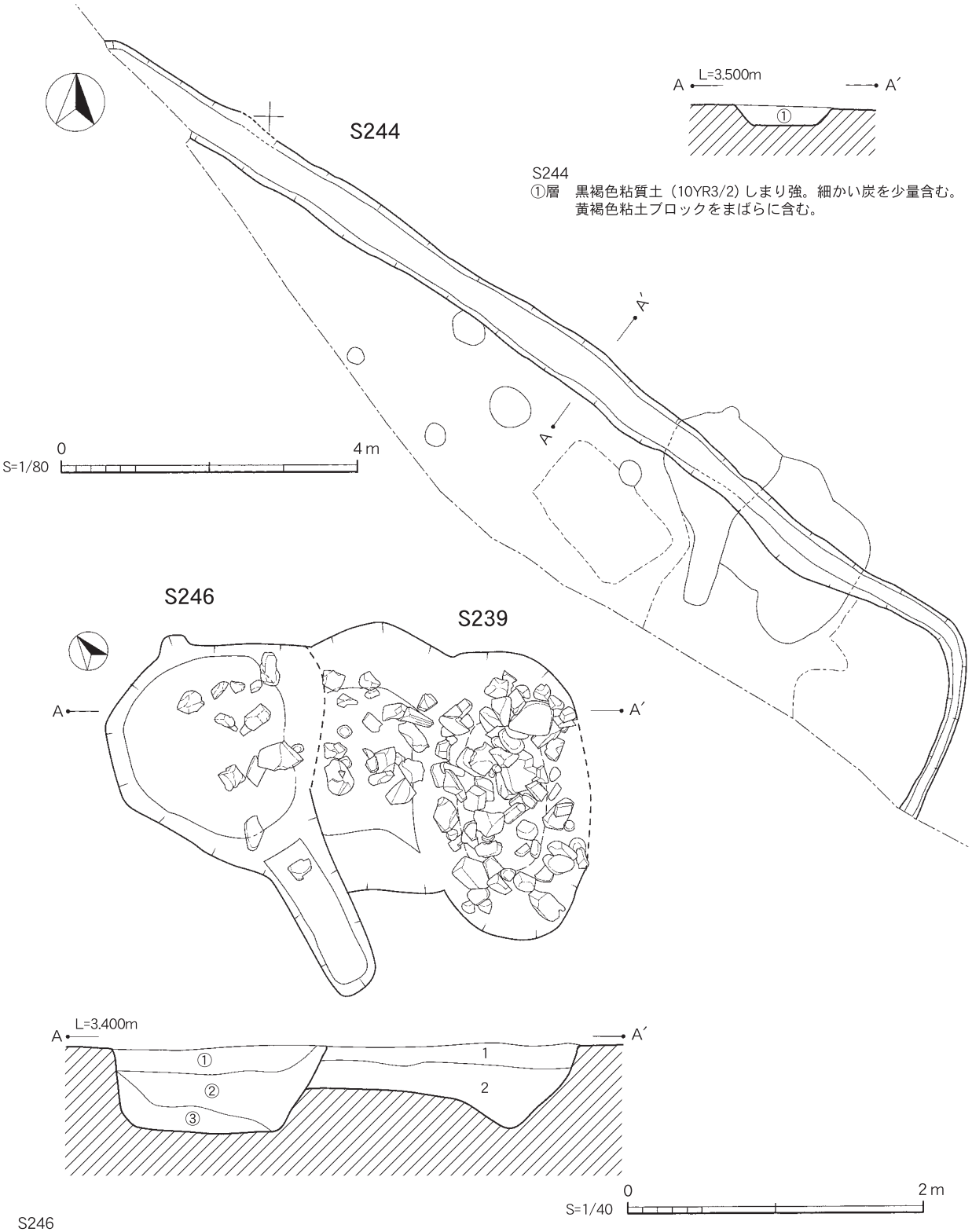
S235は234号土坑に隣接し長軸3.10m、短軸2.25m、深さ0.22mである。平面形は略三角形を呈する。134は青磁の蓋のつまみ部である。



第58図　Ⅳａ区遺構配置図（S=1/250）



第59図　Ⅳａ区掘立柱建物（SB79）実測図

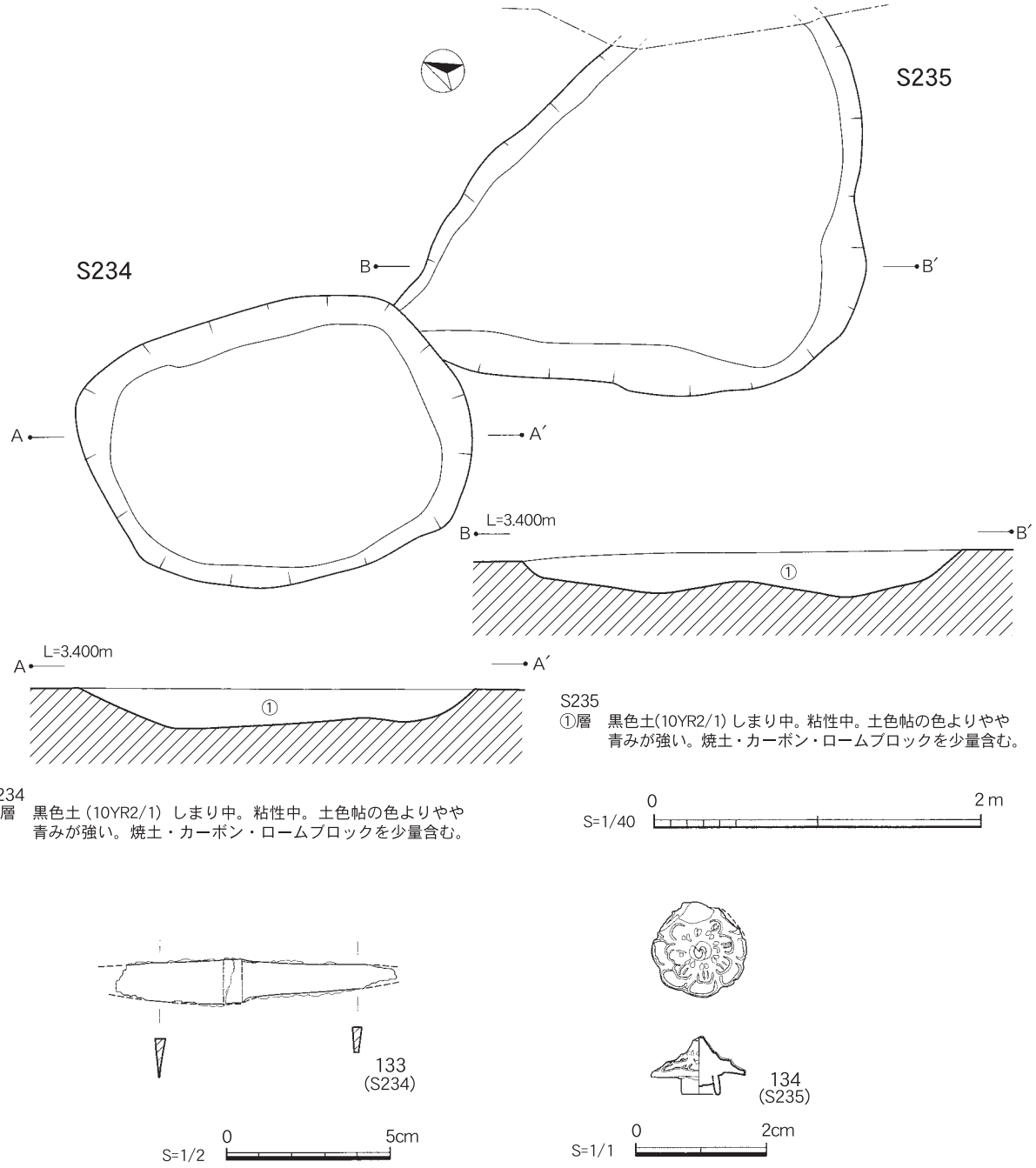


S244
①層　黒褐色粘質土（10YR3/2）しまり強。細かい炭を少量含む。
　　黄褐色粘土ブロックをまばらに含む。

S246
①層　黒褐色粘質土（10YR3/2）しまり強。細かい炭を少量含む。黄褐色粘土ブロックをまばらに含む。
②層　黒色粘質土（10YR2/1)ややしまりあり、粘質。大きめの炭をまばらに含む。
　　①に含まれる黄褐色粘土の大きなブロックをまばらに含む。
③層　黒褐色粘質土（10YR3/2）②より粘質強、しまりあり。大きめの炭、 黄褐色のブロックをまばらに含む。

S239
１層　黒褐色粘質土（10YR3/2）しまり強。細かい炭を少量含む。黄褐色粘土ブロックをまばらに含む。
２層　黒褐色粘質土（10YR3/3）しまりあり、粘性強。細かい炭を少量と焼土を若干含む。
　　黄褐色粘土のブロックとすじになった土が全体に広がる。礫を多く含む。

第60図　Ⅳａ区溝跡（Ｓ244）・土坑（Ｓ246・239）実測図



第61図　土坑（S234･235）実測図及び出土遺物実測図

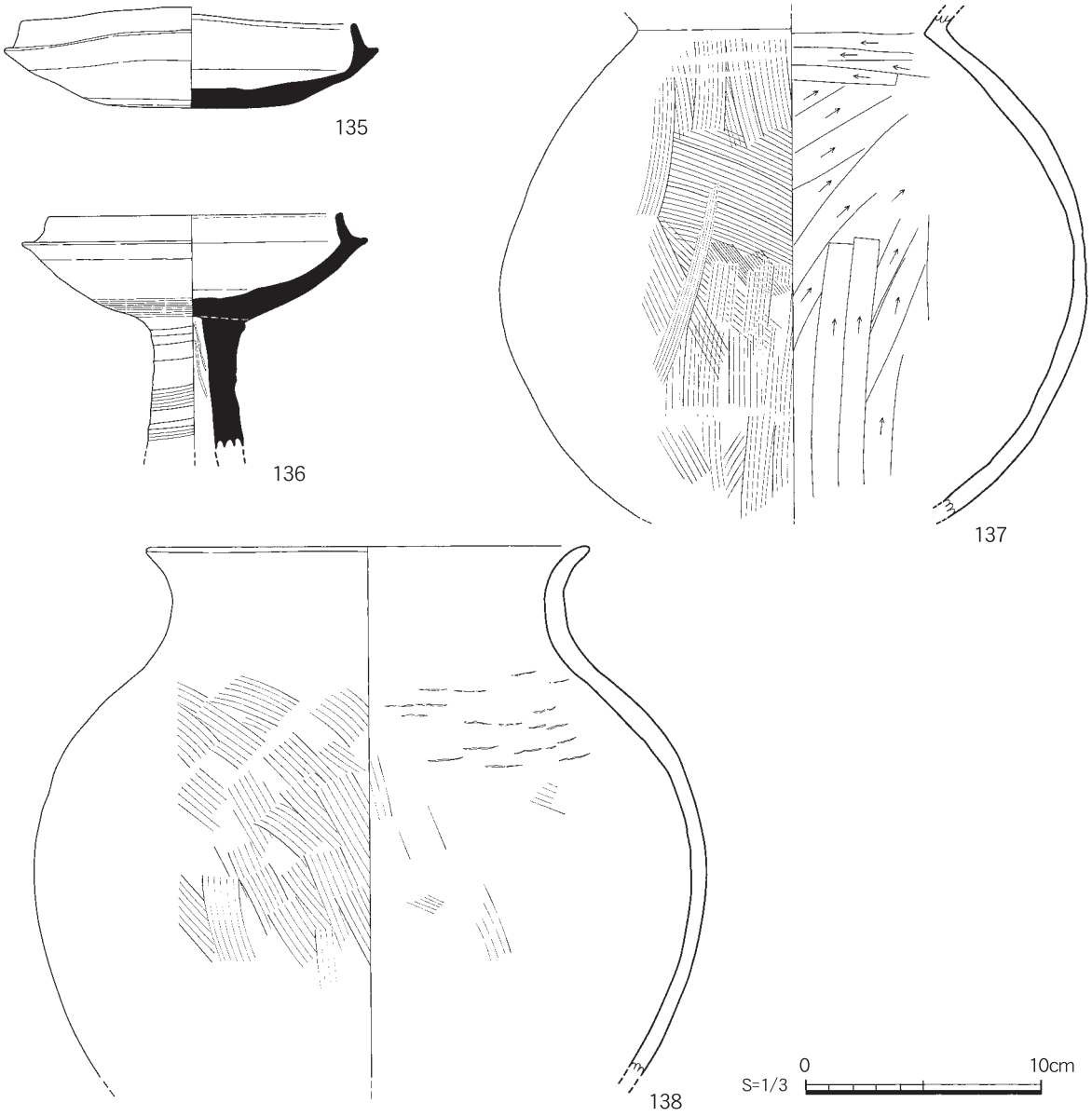
表13　Ⅳa区　掘立柱建物跡（SB）計測表

区	遺構番号	間数	桁長		梁長		向き	型式	方位	桁桁平均		梁間平均		柱穴直径	柱穴深さ
			m	尺	m	尺				m	尺	m	尺	cm	cm
Ⅳa	SB79	(2)×1	4.65	15.35	2.50	8.25		側柱	N 20°E？	2.32	7.66	2.50	8.25	29～40	10～42

表14　Ⅳa区検出遺構一覧表

（単位：m）

区	遺構番号	遺構名	長軸(長さ)	短軸(幅)	深さ	区	遺構番号	遺構名	長軸(長さ)	短軸(幅)	深さ
Ⅳa	S244	溝	16.0～	0.50	0.12	Ⅳa	S234	土坑	2.27	1.70	0.22
Ⅳa	S246	土坑	2.73	1.56	0.60	Ⅳa	S235	土坑	3.10	2.25	0.22
Ⅳa	S239	土坑	1.90～	1.58	0.65						



第62図　Ⅳａ区出土遺物実測図

３．その他

ここでは、２．遺構・遺物で遺構と共に述べられなかった遺物を概観する。なお、出土地点、法量、調整、色調、胎土等の詳細については、別表のとおりである。

Ⅳａ区出土遺物（第62図）

135は須恵器の杯身である。摩滅が激しく調整がはっきりしないが、外面底部にはヘラ削りが施されているようである。136は須恵器で杯部外面に自然釉の残る高坏である。137・138は土師器の壺である。137は胴部が球形で最大胴部が中位にあり、外面に縦方向のハケ目調整と内面はヘラ削りが施されている。それに対して138は倒卵形最大胴部が上位にあり、外面にハケ目調整内面にはヘラ削りが弱く施されている。

第６節　Ｖａ区の調査

１．遺構分布（第63図）

Ｖａ区で確認した遺構は、掘立柱建物跡９棟、溝跡１条、土壙墓２基、土抗14基、不明遺構２基である。

なお、現地調査では、検出し掘削した柱穴は相当数あったが、建物等を構成できなかった。柱穴を含めた遺構分布は、掘立柱建物跡は西端に多く、土壙墓・土坑は、北東部に集中する。柱穴は、西端から中央にかけて密である。

掘立柱建物跡	SB82・92・99・101・118・124・130・132・136
溝跡	S284
土壙墓	S380・388
土坑	S258・355・360・361・365・367・368・373・384・395・397・407・414・453
不明遺構	S287・317

２．遺構・遺物

各遺構・遺物の詳細は第64図～第84図・表15～表16のとおりである。以下は各遺構を概観する。

⑴　掘立柱建物跡

99号掘立柱建物跡【SB99】（第64図）

SB99は西側に伸びた調査区に位置する（２）間×２間の側柱建物である。桁行方向はＮ25°Ｅでほぼ南北棟である。検出面の凹凸はあるが、柱穴底部の深さはほぼ均一である。139は、小型の土師器の皿で柱穴から出土した。底部には糸切り痕が残る。

82号掘立柱建物跡【SB82】（第64図）

SB82は99号掘立柱建物跡に隣接し、（２）間×（１）間の側柱建物と考えられる。他の柱穴が調査区外に広がるため詳細は不明で、桁行方向はＮ60°Ｗでほぼ東西棟であろう。

92号掘立柱建物跡【SB92】（第65図）

SB92は西側に伸びた調査区の中央部に位置し、（２）間×２間の側柱建物であるが、北側が調査区外にのびるため詳細不明。桁行方向はＮ17°Ｅでほぼ南北棟と推定される。

124号掘立柱建物跡【SB124】（第65図）

SB124は（３）間×２間の側柱建物である。建物の約半分が調査区外にのびるため詳細は不明である。桁行方向はＮ70°Ｅと思われ、ほぼ東西棟と推定される。

101号掘立柱建物跡【SB101】（第66図）

SB101は92号掘立柱建物よりやや南側に位置し、（３）間×２間の側柱建物である。桁行方向はＮ33°Ｅでほぼ南北棟であるが、他の柱穴は調査区外にのびている。

118号掘立柱建物跡【SB118】（第66図）

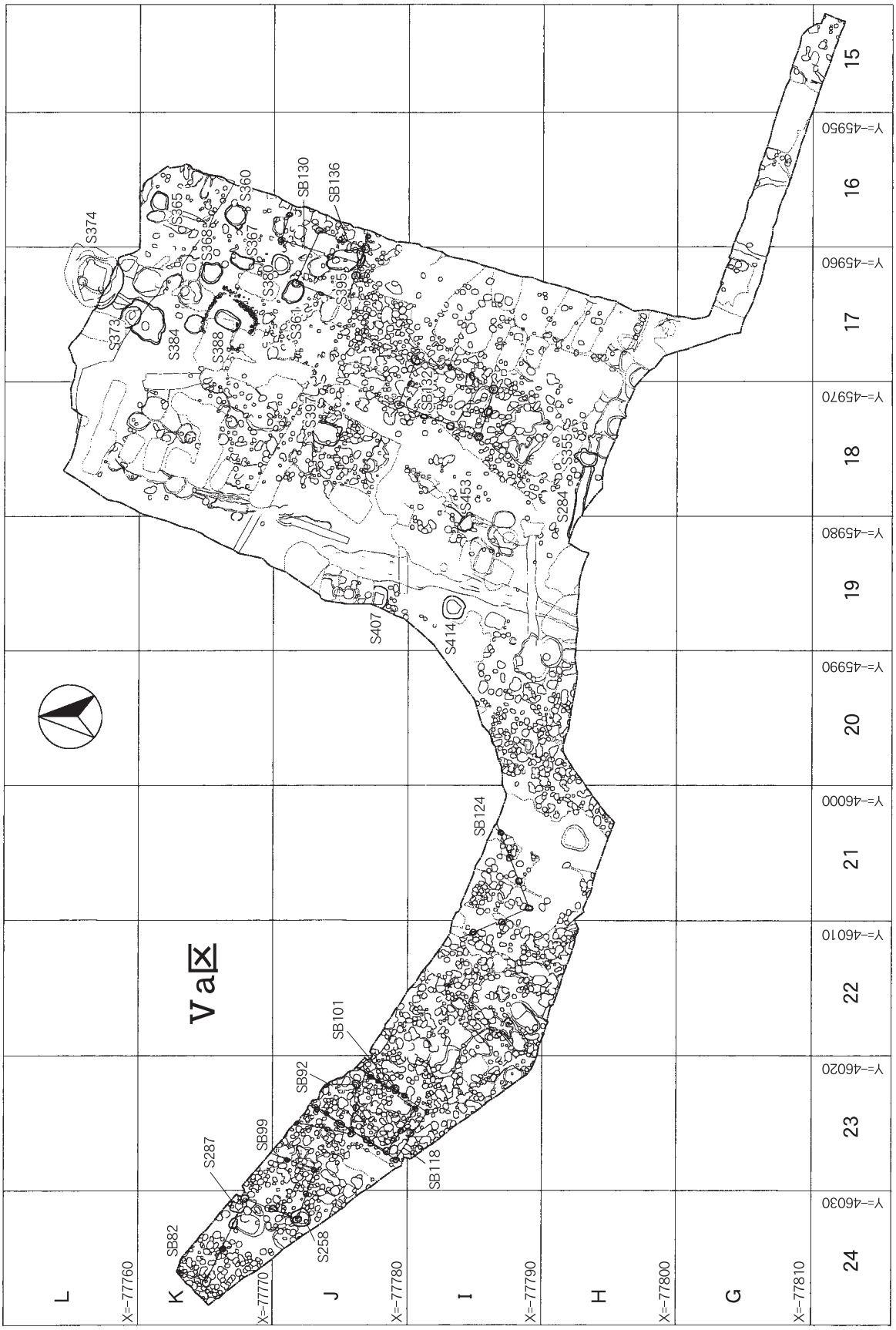
SB118も同様に（３）間×２間の側柱建物である。建物の北側が調査区外にのびていて、桁行方向はＮ33°Ｅでほぼ南北棟と推定される。101号掘立柱建物とほぼ重なるように建つ。

136号掘立柱建物跡【SB136】（第67図）

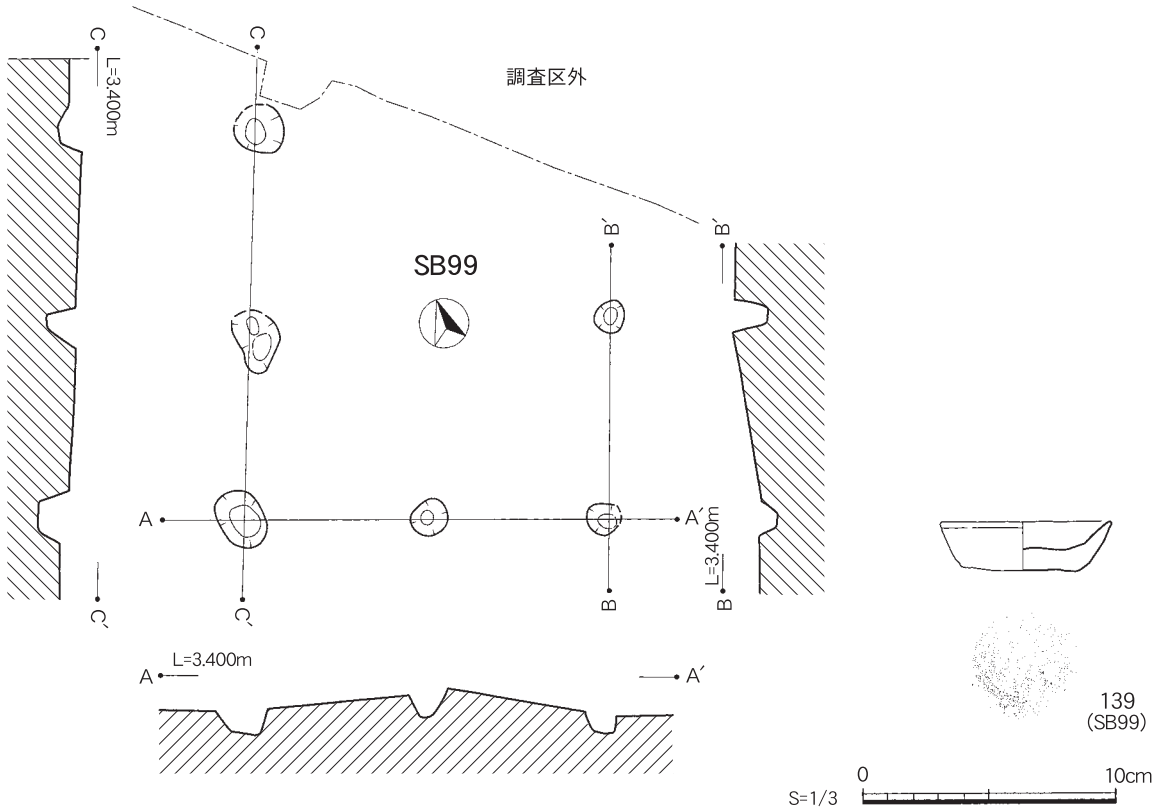
SB136は調査区の東側に位置し、２間×２間の側柱建物である。桁行方向はＮ70°Ｗでほぼ東西棟と推定される。

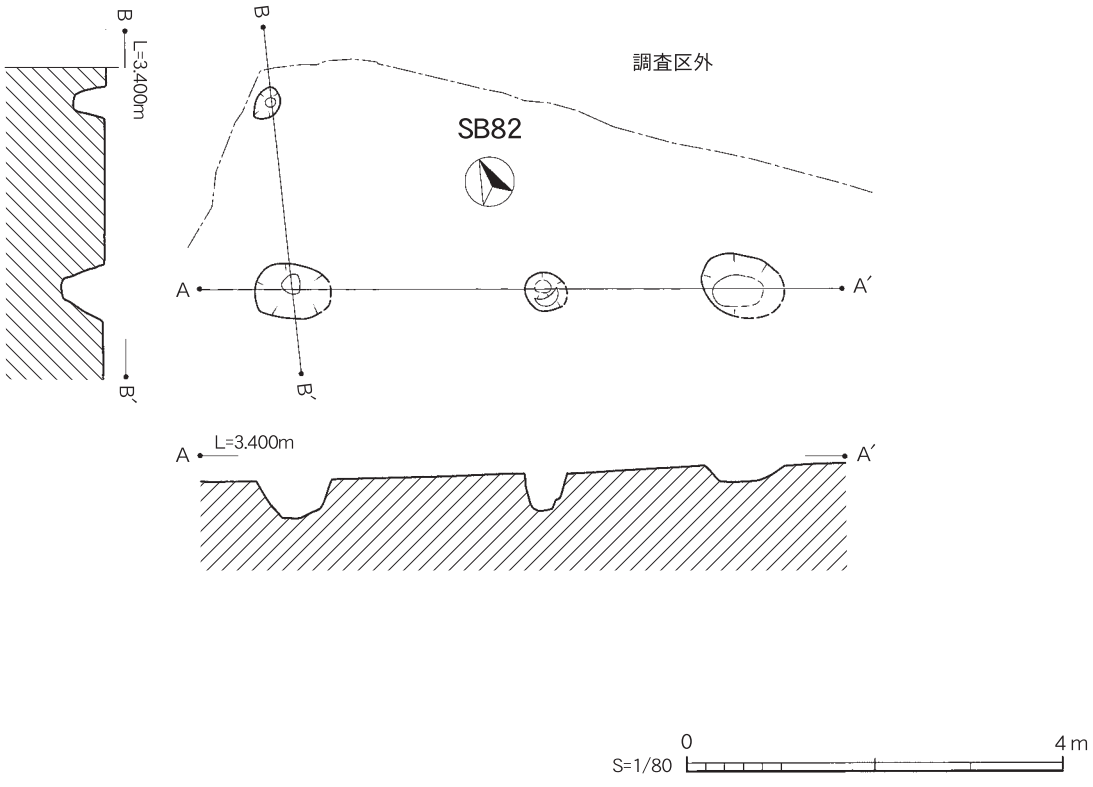
130号掘立柱建物跡【SB130】（第67図）

SB130は136号掘立柱建物に重なるように建っており、３間×（１）間の側柱建物であり、調査区外に

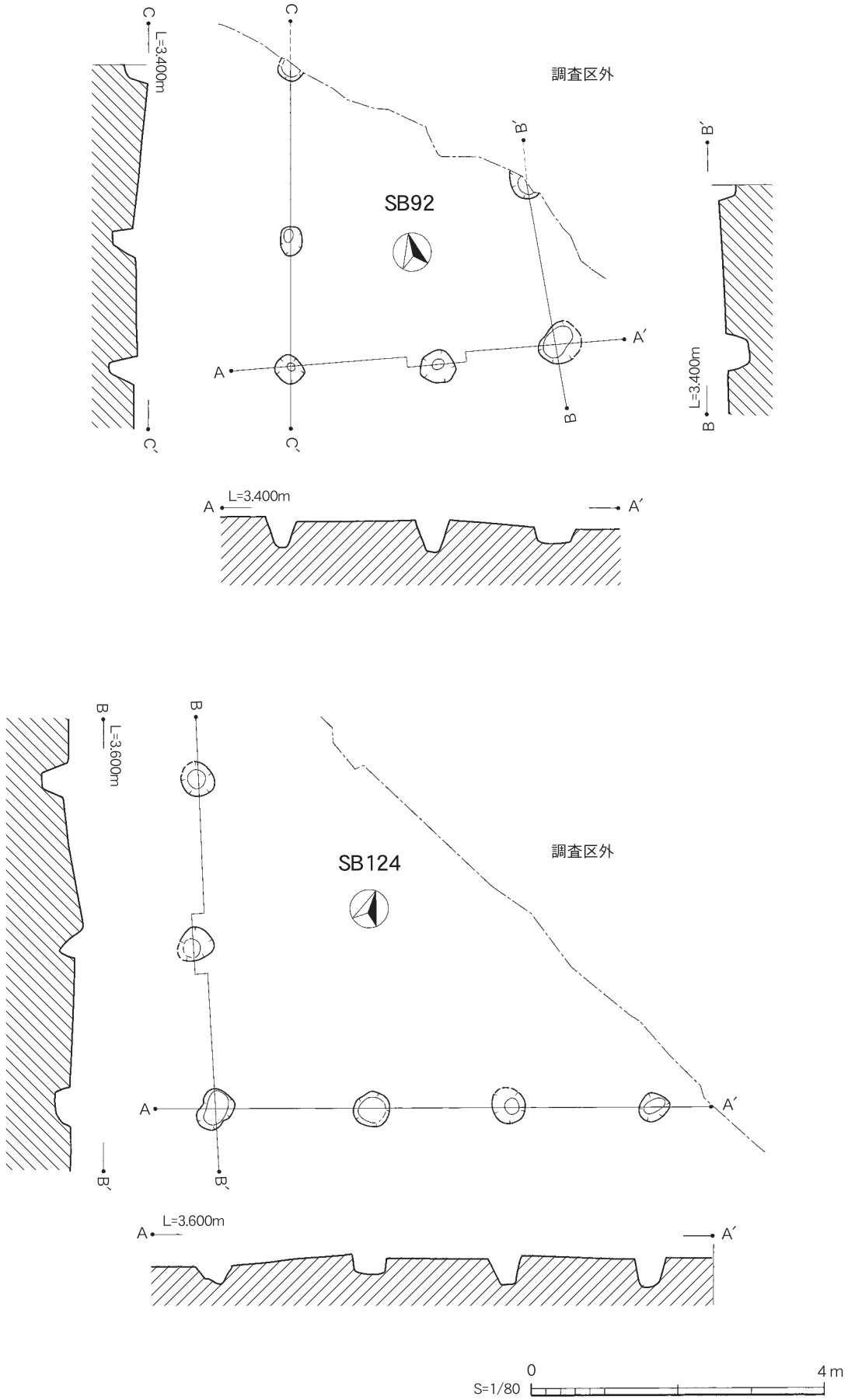


第63図　Ⅴa区遺構配置図（S=1/400）

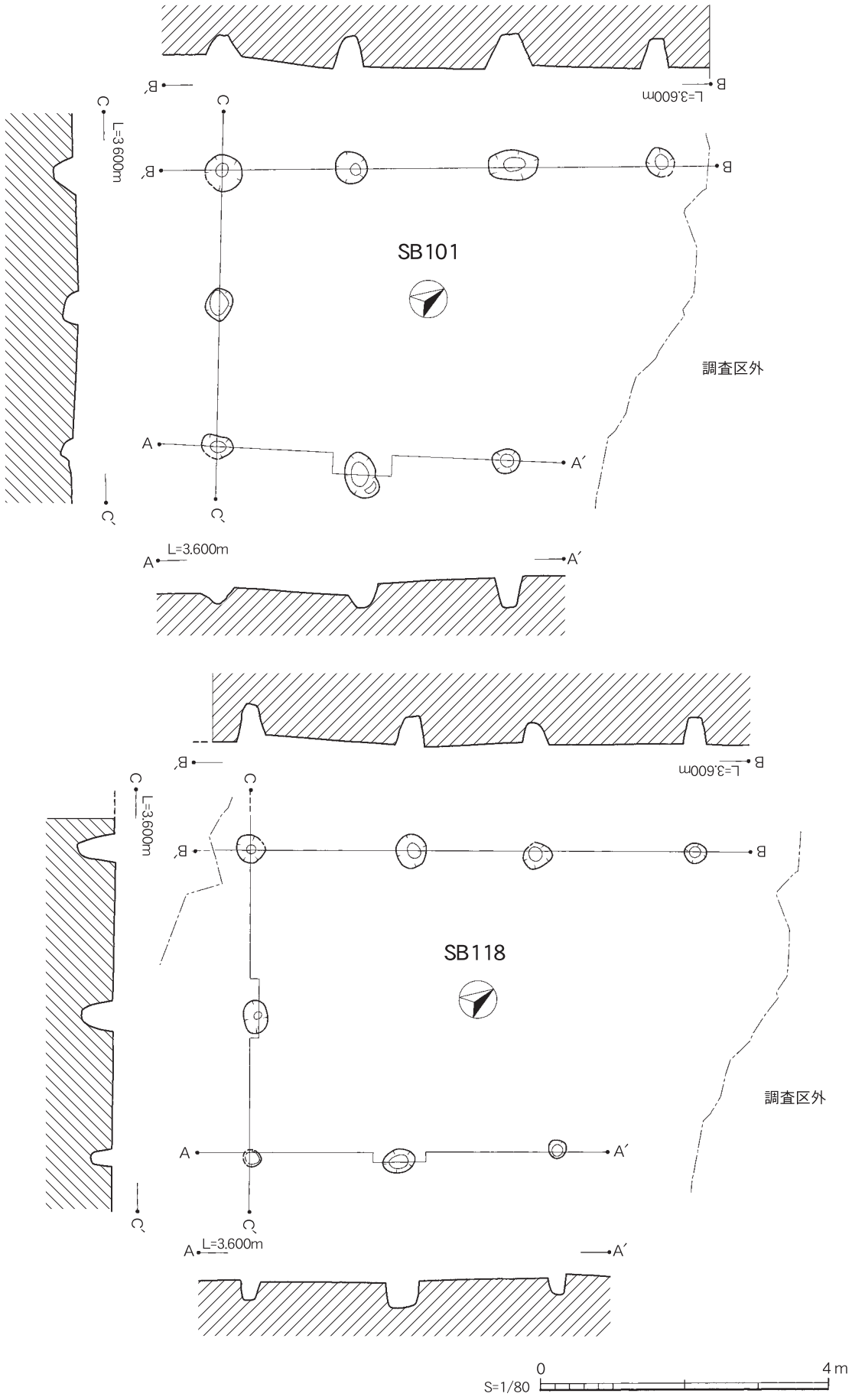




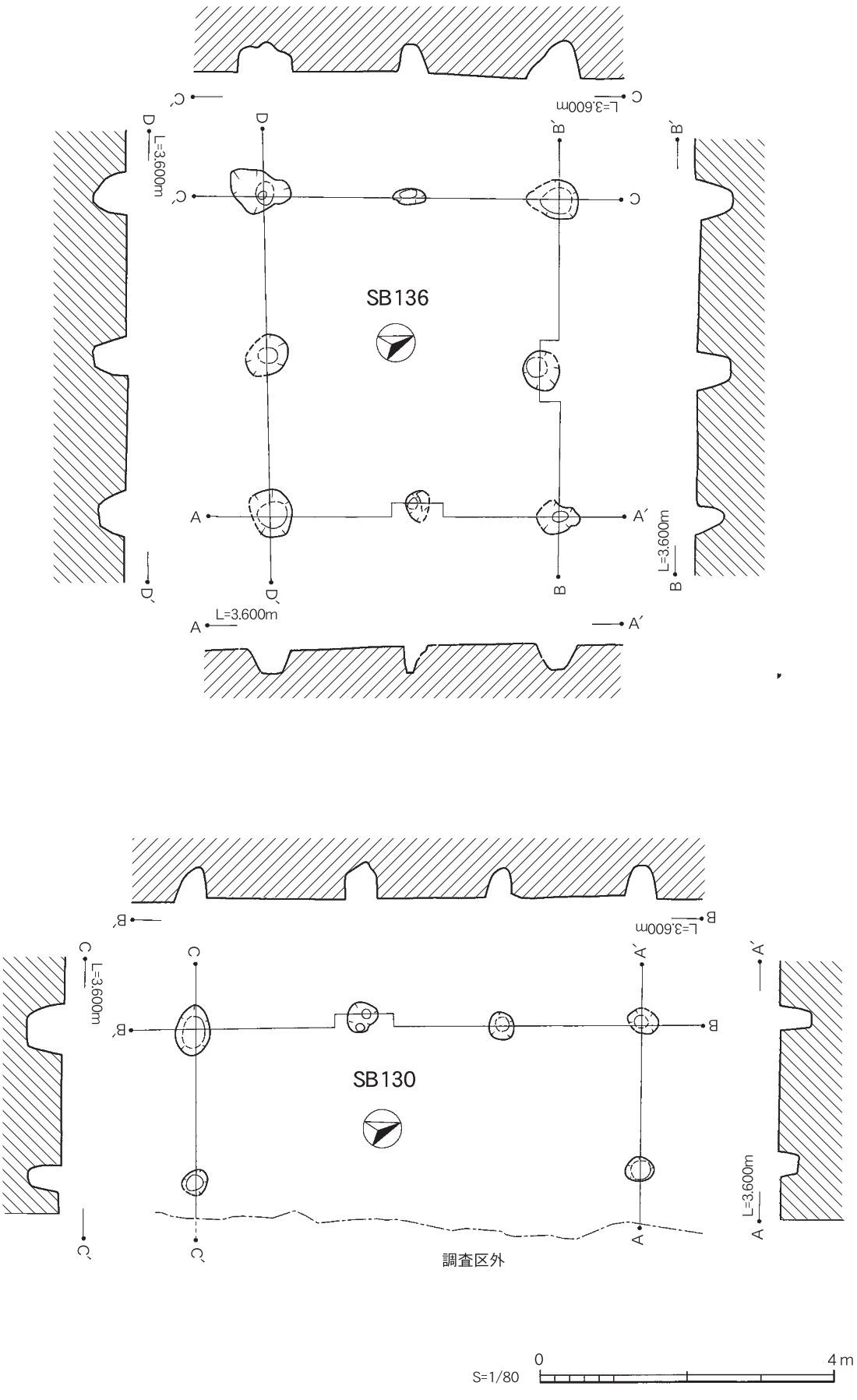
第64図　Ｖａ区掘立柱建物跡（SB99･82）実測図及び出土遺物実測図



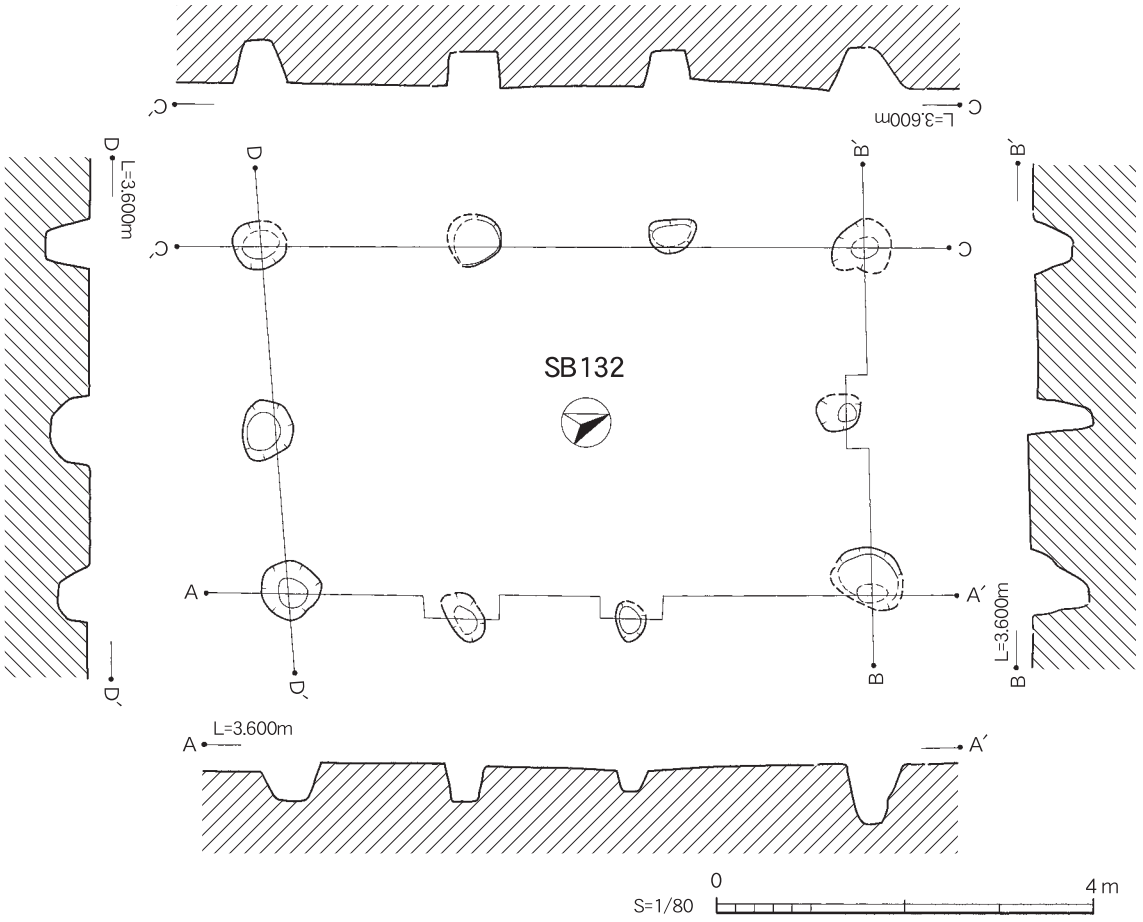
第65図　掘立柱建物跡（SB92・124）実測図



第66図　掘立柱建物跡（SB101・118）実測図



第67図　掘立柱建物跡（SB136・130）実測図



第68図　掘立柱建物跡（SB132）実測図

表15　Ｖa区　掘立柱建物跡（SB）計測表

区	遺構番号	間数	桁長		梁長		向き	型式	方位	桁桁平均		梁間平均		柱穴直径	柱穴深さ
			m	尺	m	尺				m	尺	m	尺	cm	cm
Ｖa	SB82	(2)×(1)	4.75	15.68	1.96	6.47	東西	側柱	N 60°W	2.37	7.82	1.96	6.47	35～80	18～46
Ｖa	SB92	(2)×2	4.10	13.53	3.50	11.55	南北	側柱	N 17°E	2.05	6.77	1.75	5.78	40～48	21～40
Ｖa	SB99	(2)×2	4.10	13.53	3.80	12.54	南北	側柱	N 25°E	2.08	6.86	1.90	6.27	35～56	22～32
Ｖa	SB101	(3)×2	6.10	20.13	3.85	12.71	南北	側柱	N 33°E	2.04	6.73	1.92	6.34	32～66	15～45
Ｖa	SB118	(3)×2	6.20	20.46	4.20	13.86	南北	側柱	N 33°E	2.08	6.86	2.23	7.36	24～48	28～52
Ｖa	SB124	(3)×2?	6.00	19.80	4.56	15.05	東西	側柱	N 70°E	2.00	6.60	2.28	7.52	42～54	14～40
Ｖa	SB130	3×(1)	6.10	20.13	2.07	6.83	南北	側柱	N 15°E	2.13	7.03	2.07	6.83	34～100	14～48
Ｖa	SB132	3×2	6.20	20.46	3.70	12.21	南北	側柱	N 21°E	2.12	7.00	1.87	6.17	30～85	20～65
Ｖa	SB136	2×2	4.30	14.19	4.10	13.53	東西	側柱	N 70°W	2.17	7.16	2.05	6.77	28～75	20～52

のびる。桁行方向はＮ15°Ｅでほぼ南北棟である。

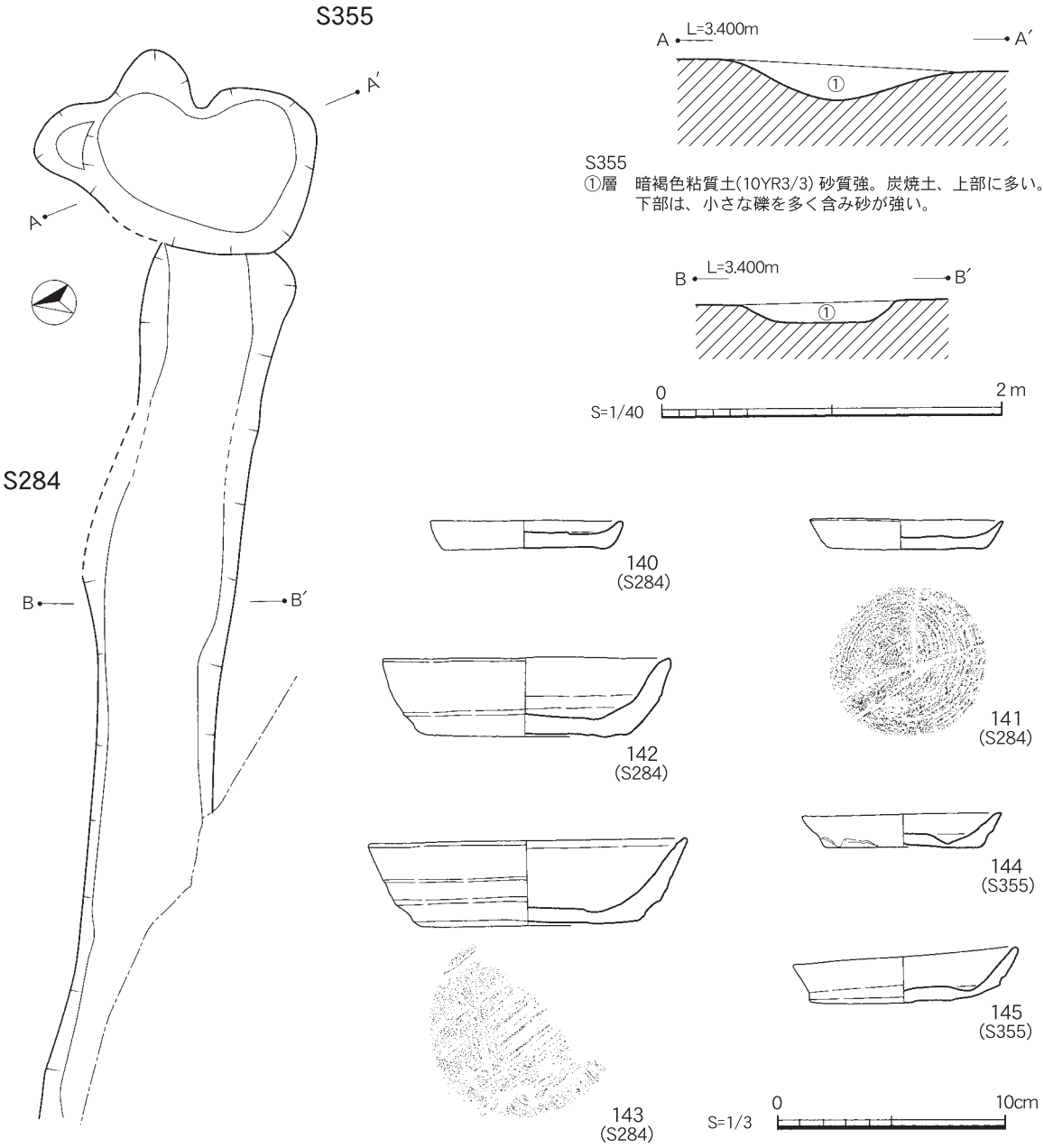
132号掘立柱建物跡【SB132】（第68図）

SB132は調査区の中央部に位置し、３間×２間の側柱建物である。桁行方向はＮ21°Ｅでほぼ南北棟である。柱穴の直径が大きく、深いものが存在する。

⑵　溝跡

284号溝跡【S284】（第69図）

S284は溝で、調査区南端で東西方向に確認された。東端は355号土坑に切られ、西端は調査区外にのびる。長さ3.56m以上、幅0.80m、深さ0.12mで底面はほぼ平らである。出土遺物として土師器の小型皿２点、中型の杯２点が出土した。140と141は小型皿で、内外面にスス？が残る。口径約８㎝で、糸切



第69図　Ｖａ区溝跡（Ｓ284）・土坑（Ｓ355）実測図及び出土遺物実測図

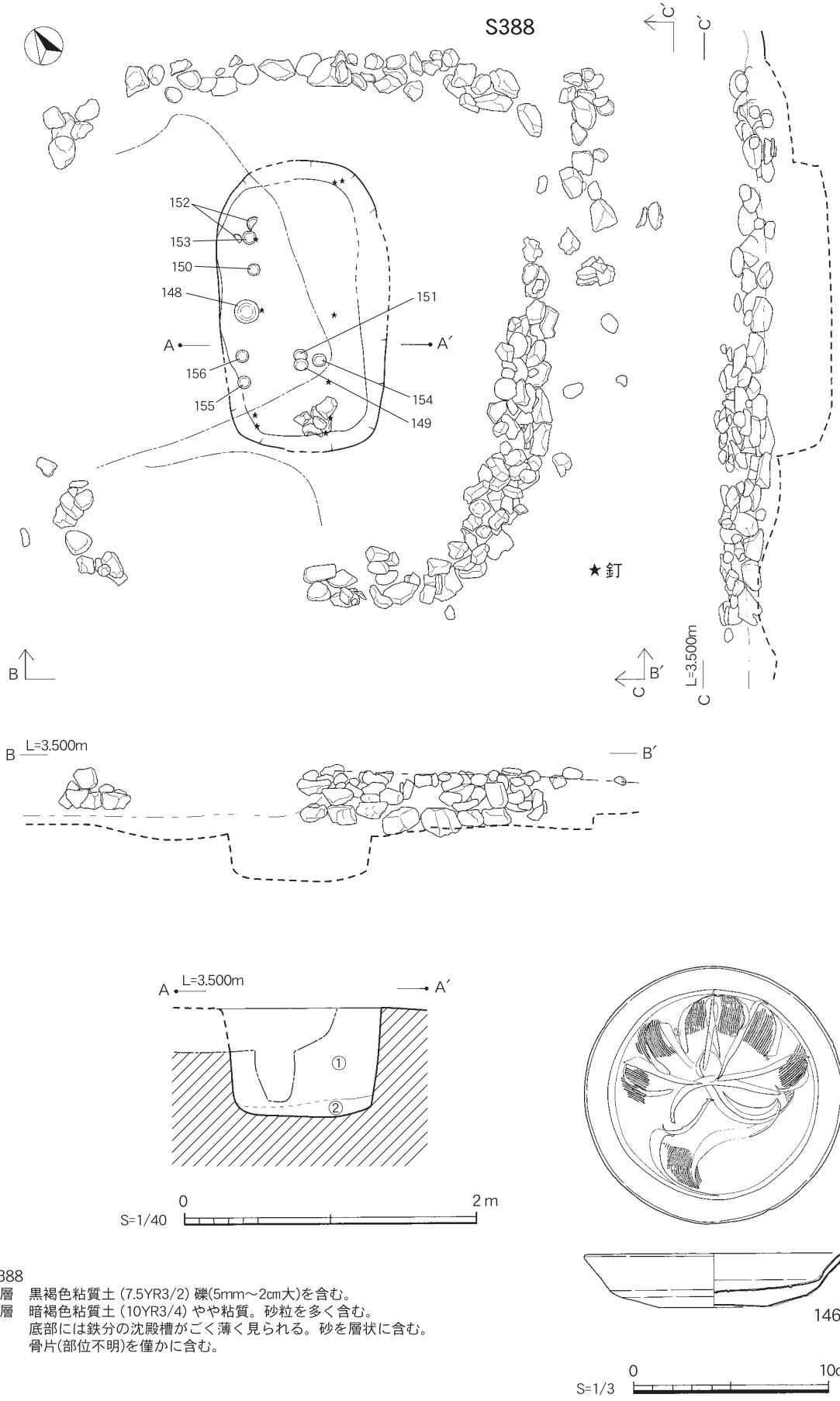
り痕が残る。142は土師器の杯で、外に直線的に開く。焼きやや軟。143も土師器の杯で、底部に板状圧痕が残る。体部中程から直接的に外に開く。焼成良好。図化していないが、土錘も１点出土した。

⑶　土壙墓

388土壙墓【S388】（第70図～72図）

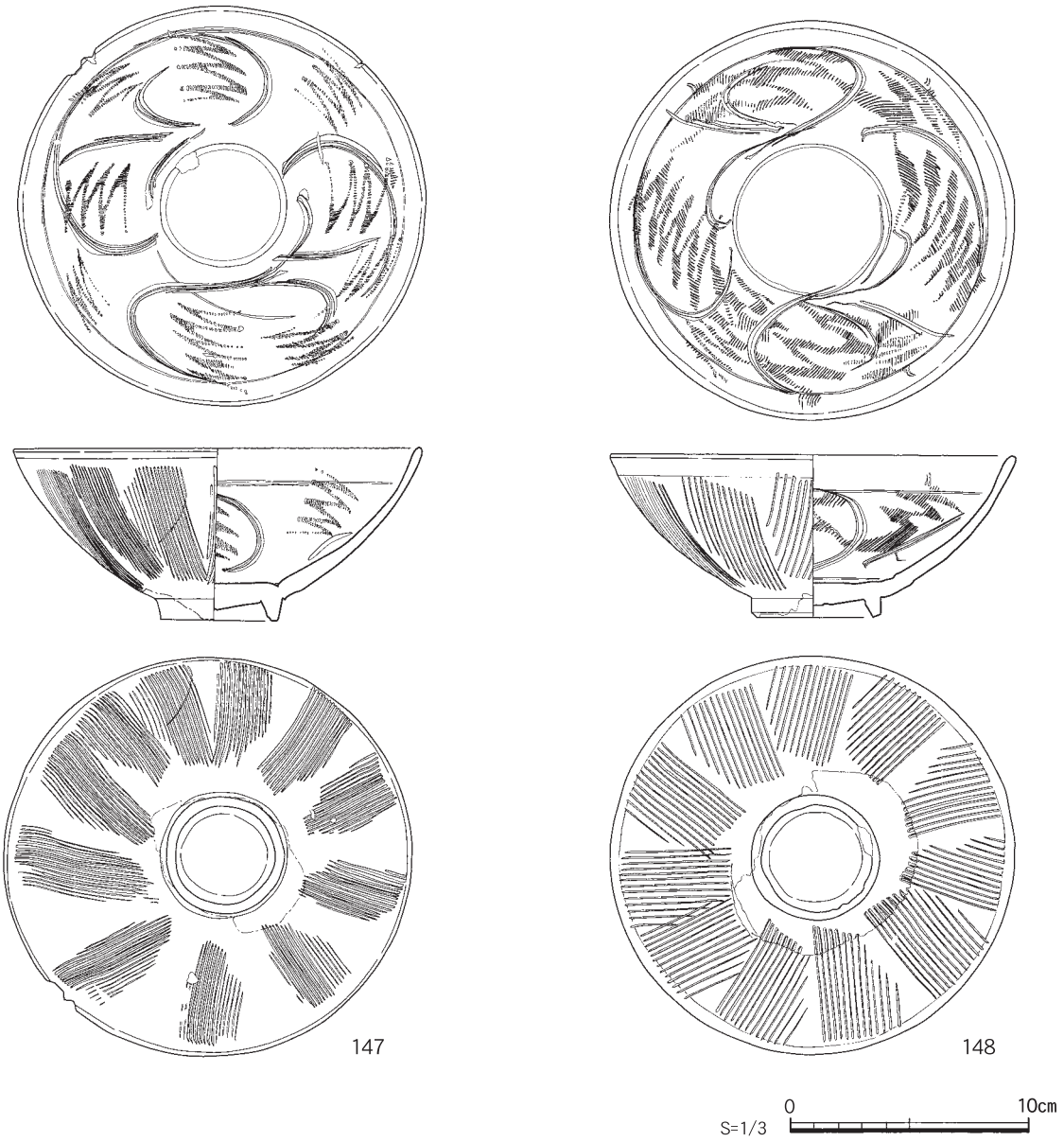
S388は調査区の北側中央に位置し、周囲には角礫が配置される隅丸長方形の土壙墓である。西側は、攪乱により切られるため礫の配置が不明瞭だが、本来は方形に取り囲むものと考えられる。礫の厚さは40㎝とほぼ均一で、主体部上層ラインにぎっしり配置されるようである。

長軸1.90m、短軸1.15m、深さ0.73mの主体部には、10点の鉄製釘が確認され、木棺の存在が想定される。覆土は二層に分けられ、下層部では、砂の堆積が見られた。写真図版77でわかる様に人骨片が出土し、土井ヶ浜遺跡人類学ミュージアムの松下館長に現地指導を受けている。それによると、性別は男性と推定され、仰向けで伸屈状態だったという。出土遺物は、主体部の西側に集中するようである。146



S388
①層　黒褐色粘質土 (7.5YR3/2) 礫(5mm～2cm大)を含む。
②層　暗褐色粘質土 (10YR3/4) やや粘質。砂粒を多く含む。
底部には鉄分の沈殿槽がごく薄く見られる。砂を層状に含む。
骨片(部位不明)を僅かに含む。

第70図　Ｖａ区土壙墓（Ｓ388）実測図及び出土遺物実測図（１）

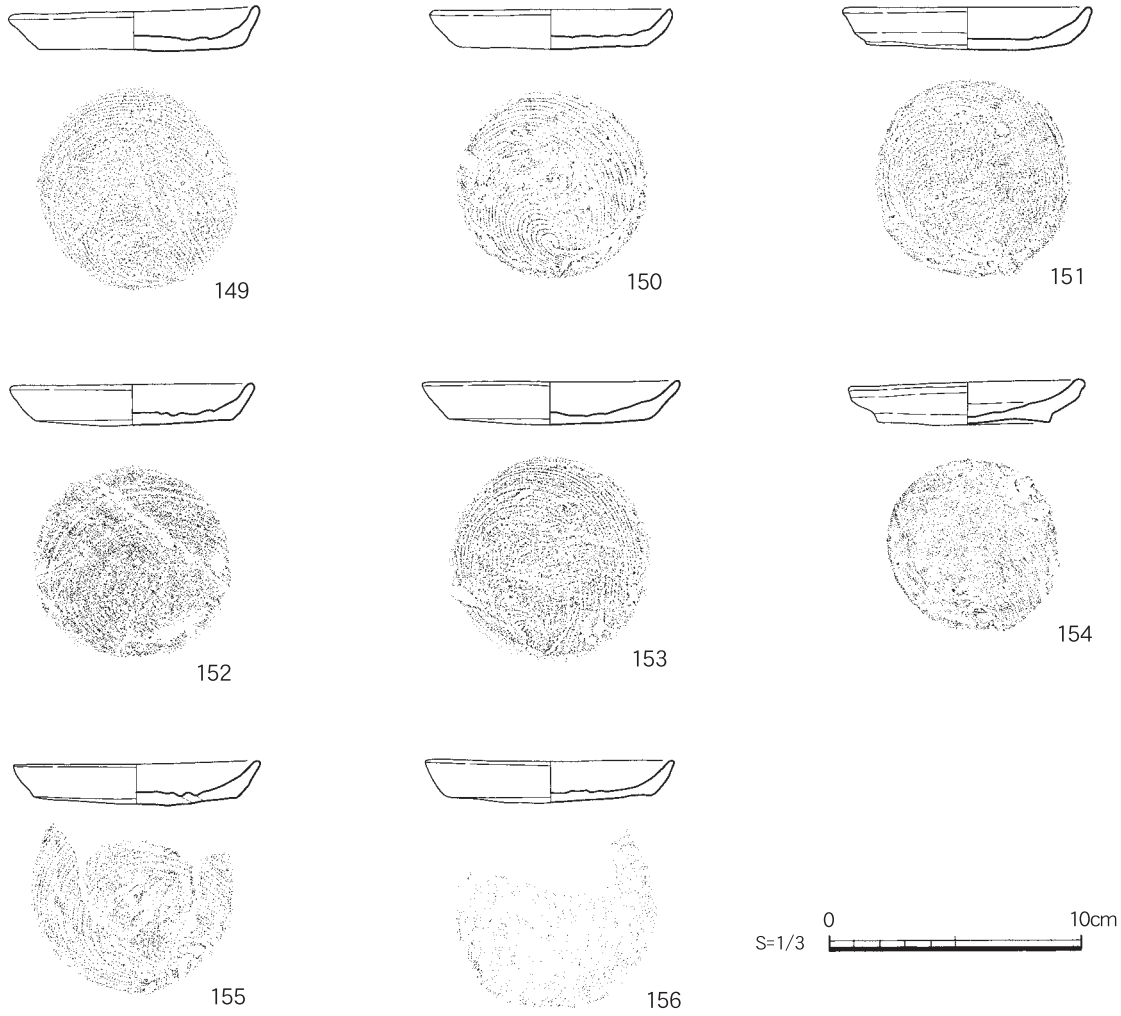


第71図　土壙墓（Ｓ388）出土遺物実測図（２）

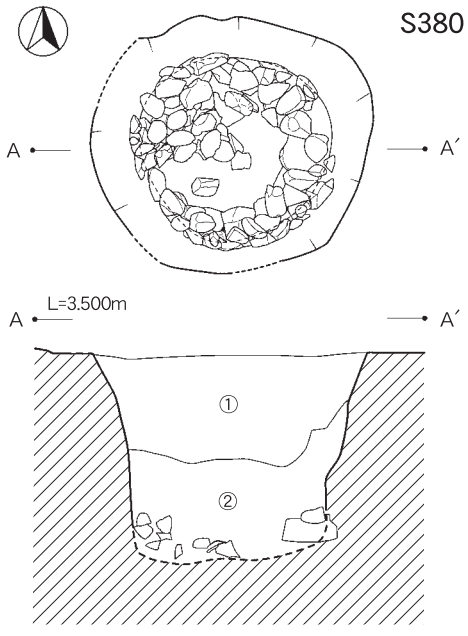
は、青磁の完形皿である。内面に櫛描きを施し、釉は厚くかかる。立ち上がりはやや外向きであるが、ほぼ直接的である。147・148は完形の青磁椀である。両者の法量はほぼ同様で、体部は内側にゆるやかに立ち上がる。147は148に比較して釉が良くかかる。また、若干薄手である。内面、外面の櫛描き文様も、単位が細かく精巧である。149～156は土師器皿である。いずれも、底部に糸切り痕が残る。口径も、９～10㎝と均一である。口縁は、外に向かって緩やかに立ち上がるが、口縁端部は面をもつものがある。さらに、内面には成形時の『工具圧痕』と考えられる。円盤状の凹凸が残る。焼成前にその痕跡を粗くなでたものもあるが、そのまま残しているものも見られる。

380号土壙墓【S380】（第73図）

S380は調査区の北東側に位置し、130号掘立柱建物跡の西側に隣接する土壙墓と考えられるものである。覆土は二層に分けられるが、両層とも黒褐色粘質土で下層の粘性が強い。礫は下部に円形に配置される。床面に近い部分から、摩滅が著しく拓本を記載していないが２枚の銅銭が出土した。死者を送るためのものではないだろうか。

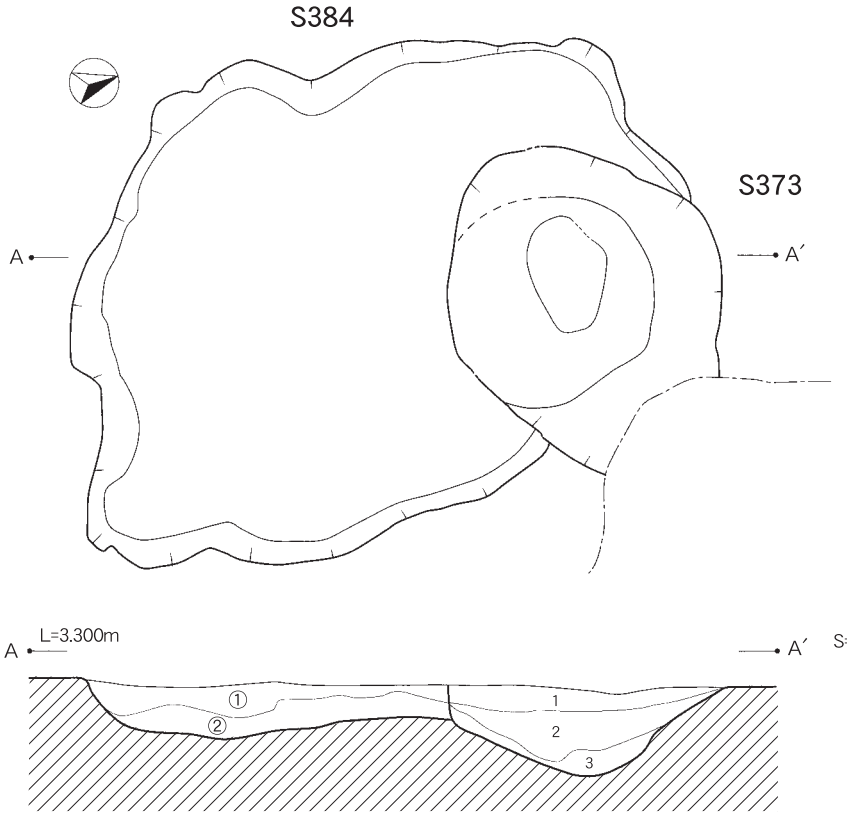


第72図　土壙墓（Ｓ388）出土遺物実測図（３）



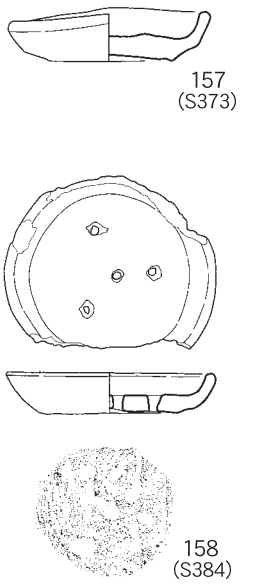
S380
①層　黒褐色粘質土(10YR3/1) しまり中。粘性中。炭、焼土痕、ロームブロック（5mm強）を多く含む。
②層　黒褐色粘質土(10YR3/1) 炭と大型のロームブロック（10cm弱）を多く含む。水分を多く含む埋土で、粘性が極めて強い。

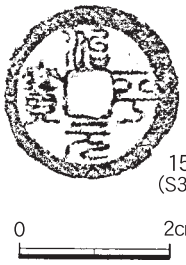
第73図　土壙墓（Ｓ380）実測図

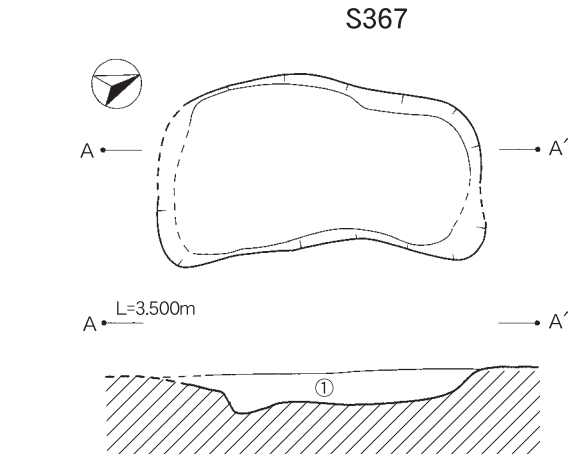


S384
①層　黒褐色粘質土（10YR3/1）しまり強。2～5㎝ほどの礫を上部に多く含む。焼土・炭少量。
②層　黒褐色粘質土（10YR3/1）粘土と砂利が混在している。焼土・炭は①よりも少ない。

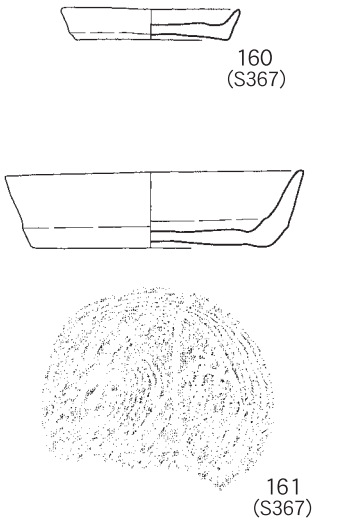
S373
1層　黒褐色粘質土（10YR3/1）しまり弱。マンガンが全体に含まれる。炭・焼土が上部に多く広がる。
2層　黒褐色粘質土（10YR3/1）粘質強。①より小さいがマンガンを含む。
3層　黒褐色粘質土（10YR3/1）②より粘質強。炭は3～5㎝のブロック。土師器片と礫を含む。







S367
①層　黒褐色粘質土（10YR3/1）しまり強。粘性中。 炭、ロームブロック（褐色）を多く含む。



第74図　Ⅴａ区土坑（Ｓ384･373･367）実測図及び出土遺物実測図

⑷　土坑

355号土坑【S355】（第69図）

S355は調査区南端の284号溝跡を切るかたちで検出された。出土遺物は144・145で底部に糸切り痕のある土師器の小皿である。144は底部内面が盛り上がり、つくりも焼きも丁寧ではない。145も底部外面は平らでなく、底部に厚みをもつ。

373号土坑【S373】（第74図）

S373は調査区の北端部に位置し、384号土坑を切るように検出された。長軸1.78m、短軸1.42m以上、深さ0.35mを測る。157は、ここの最深部から出土した糸切りの底部をもつ土師器の小皿で、口径８㎝を測るが、歪みが著しい。

384号土坑【S384】（第74図）

S384は373号土坑に切られるが、長軸3.76m、短軸2.66m、深さ0.27mを測る。出土遺物は158の土師器の小皿で、口縁端部外面にはススが付着している。底部は糸切り痕が残り、焼成前と思われる穿孔が４ヶ所ある。159は４枚重なった銅銭で、遺構底面から出土した。癒着している銅銭の一番上は『治平元宝』である。

367号土坑【S367】（第74図）

S367は388号土坑の東側に位置し、長軸1.70m、短軸0.94m、深さ0.18mを測り、平面形は楕円形を呈する。出土遺物は160・161で土師器の小皿と杯である。底部には糸切り痕が残る。

368号土坑【S368】（第75図）

S368は調査区の北側388号土坑の北東に位置し、長軸1.70m、短軸1.45m、深さ0.10mを測り、断面形は浅い皿状である。この遺構からは、162・163土師器の小皿が２点と164～168の杯が５点出土した。全て底部に糸切り痕があり、164は口縁部の1/3が欠損しているが、ススらしき物が付着している。図化していないが土錘も１点出土している。

397号土坑【S397】（第75図）

S397は北側が攪乱されるが、長軸2.00m以上、短軸1.66m、深さ0.28mを測る。出土遺物は169で底部は回転糸切りで、板状圧痕が残る土師器の杯である。硬く焼きしまる。

395号土坑【S395】（第76図）

S395は調査区の北東部に位置し、長軸2.58m、短軸1.57m、深さ0.37mを測り、検出した平面形は不定形を呈する。覆土は３層に分層される。170～174の土錘が集中して出土している。

407号土坑【S407】（第76図）

S407は調査区の中央部西側に位置し、一部調査区外にかかるが、長軸1.50m以上、短軸1.08m以上、深さ0.75mを測り、平面形は楕円形を呈している。底部へはほぼ垂直に落ちる。

414号土坑【S414】（第76図）

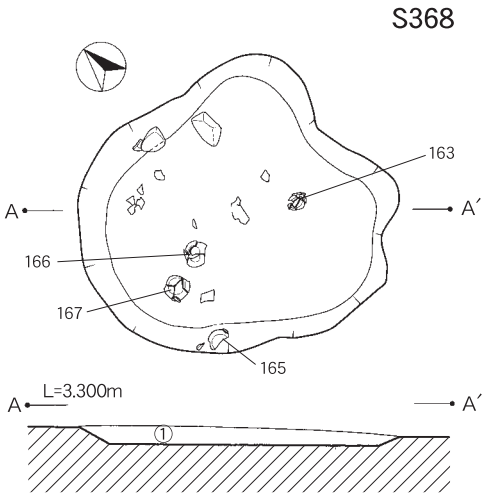
S414は407号土坑より南側に位置している。長軸1.70m、短軸1.57m、深さ0.94mを測り、平面形は楕円形で、底部へは直線的におちる。礫が上部に被さるように配置され、下層には砂が多量にあるため、井戸の可能性もあるが、確定できなかった。

360号土坑【S360】（第77図）

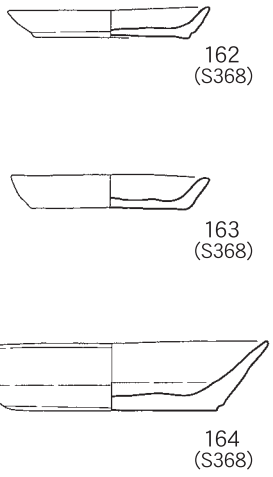
S360は調査区の北東部に位置する遺構である。長軸1.95m、短軸1.66m、深さ0.15mを測り、平面形は円形、断面形は浅い皿状を呈する。図化していないが土錘が４点出土している。

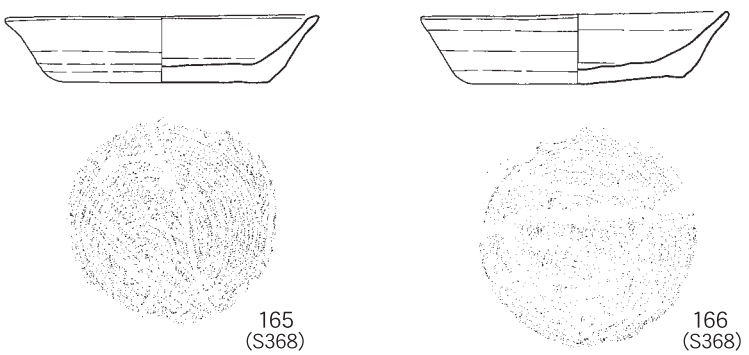
258号土坑【S258】（第77図）

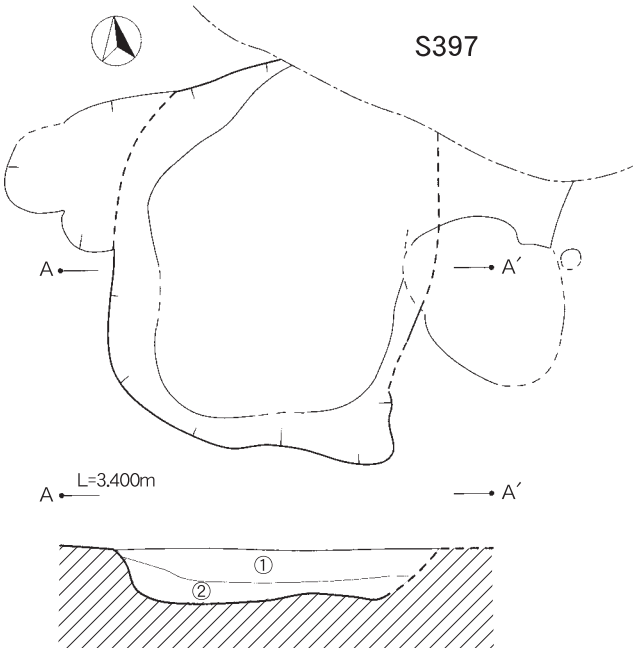
S258は西側に伸びた調査区に位置する99号掘立柱建物跡の柱穴に切られている。長軸1.40m、短軸

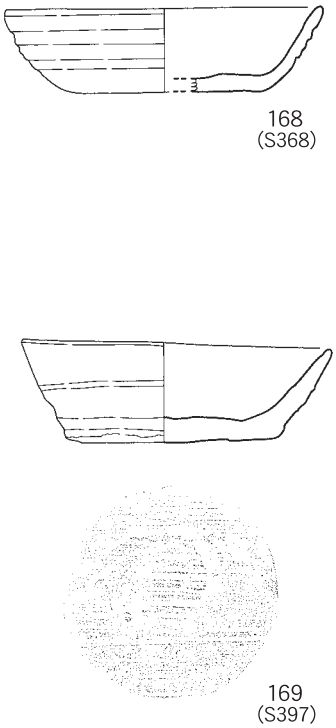


S368
①層　黒褐色粘質土(10YR2/2) ややしまりあり。1～2㎝ブロックの炭が多量に含まれる。
焼土は小さいが全体に広がる。褐色土(10YR4/4) の小さいブロックが全体に広がる。





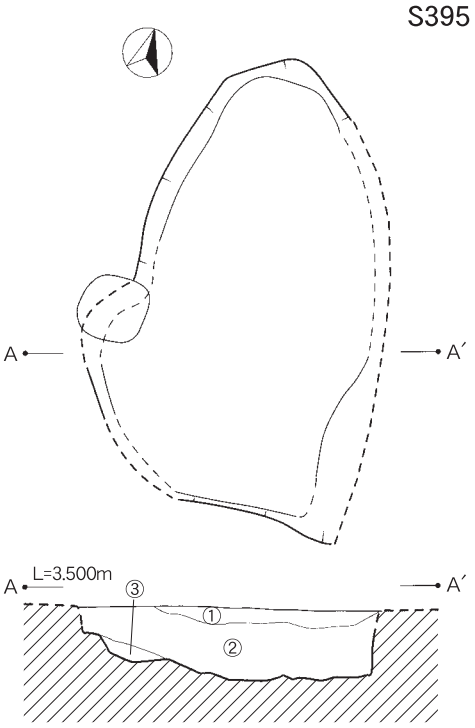




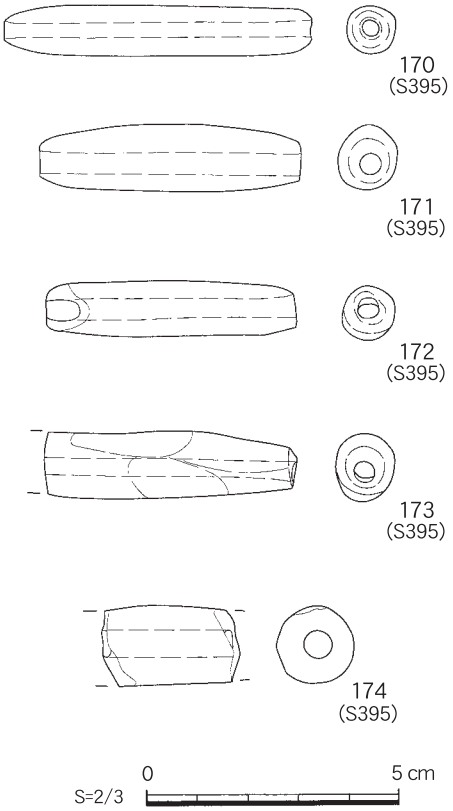
S397
①層　黒褐色粘質土(10YR3/1) しまり中。粘性弱。多くの土師質土器片を包含し、
炭がみられる。褐色のロームブロックがみられる。
②層　黒褐色砂質土(10YR3/1) しまり中。粘性弱。土色は①層に極似。　土質は砂を
多く含む。

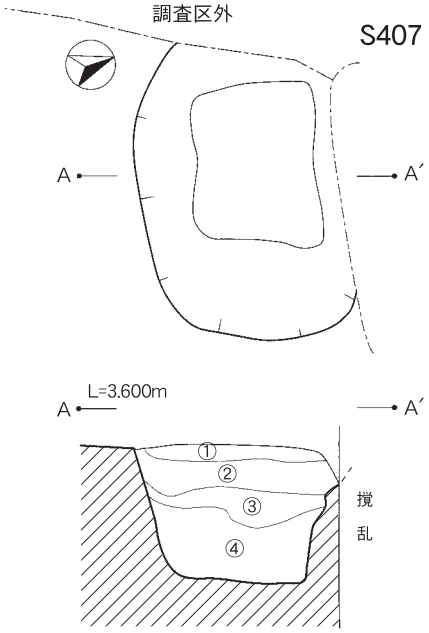
S=1/40　0　2m　　S=1/3　0　10cm

第75図　土坑（S368・397）実測図及び出土遺物実測図

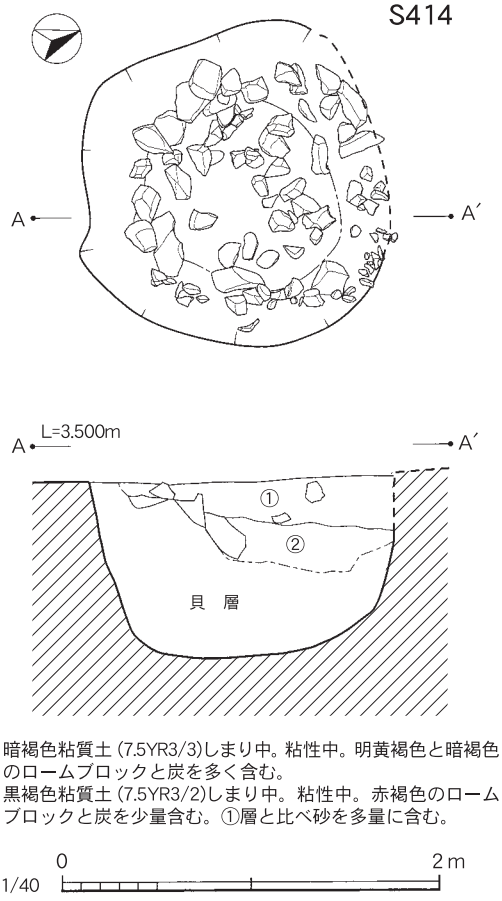


S395
①層　黒褐色粘質土(10YR3/2) しまり中。粘性弱。焼土痕と炭を多く含む。
②層　黒褐色粘質土(10YR3/1) しまり中。粘性中。褐色のロームブロックと炭を含む。
③層　黒褐色粘質土(10YR3/1) しまり中。粘性中。明褐色のロームブロックを含む。



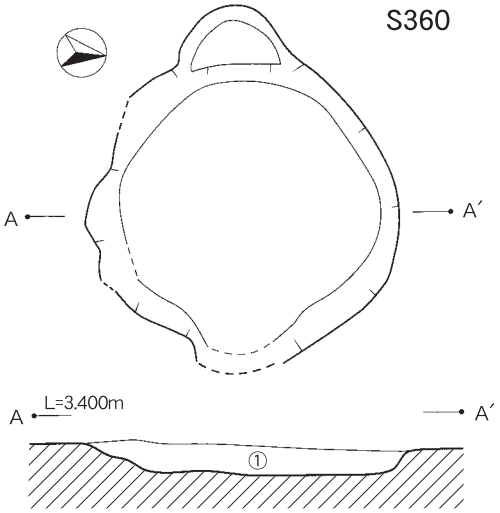


S407
①層　黒褐色粘質土(10YR2/2)　しまり中。粘質弱。少量の炭、明黄褐色のロームブロックを含む。
②層　黒褐色粘質土(10YR3/2)　しまり中。粘質中。①と同様のものを多量に含む。
③層　黒褐色粘質土(10YR3/1)　しまり中。粘質中。明黄褐色のロームブロック、炭が少量混じる。
④層　黒褐色粘質土(10YR3/1)　しまり中。粘質強。灰黄色の粘土を含む。

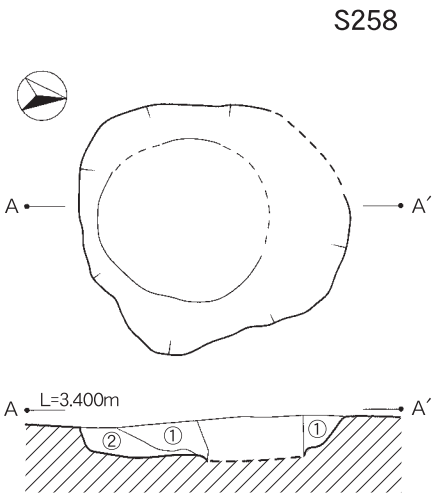


S414
①層　暗褐色粘質土 (7.5YR3/3)しまり中。粘性中。明黄褐色と暗褐色のロームブロックと炭を多く含む。
②層　黒褐色粘質土 (7.5YR3/2)しまり中。粘性中。赤褐色のロームブロックと炭を少量含む。①層と比べ砂を多量に含む。

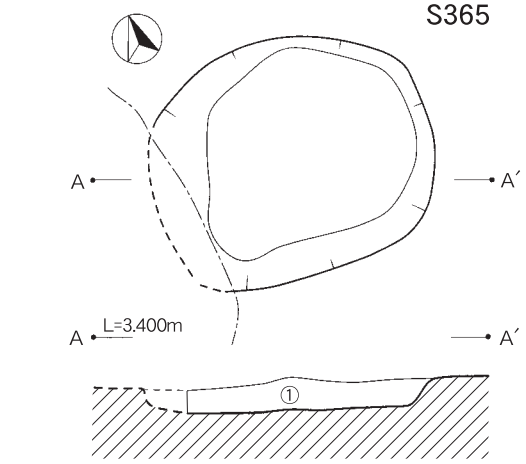
第76図　土坑（Ｓ395・407・414）実測図及び出土遺物実測図



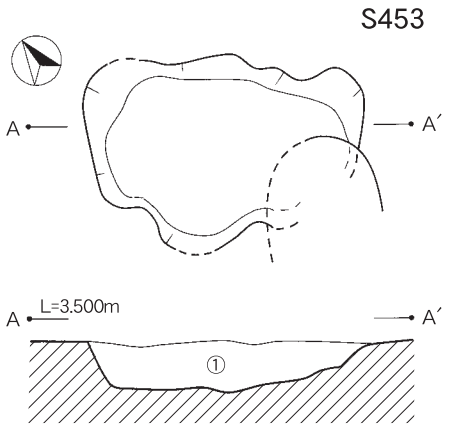
S360
①層　黒褐色粘質土(2.5YR3/1)　しまり中。粘性中。
　　黄灰色褐色のロームブロック(0.3㎝弱)を含む。



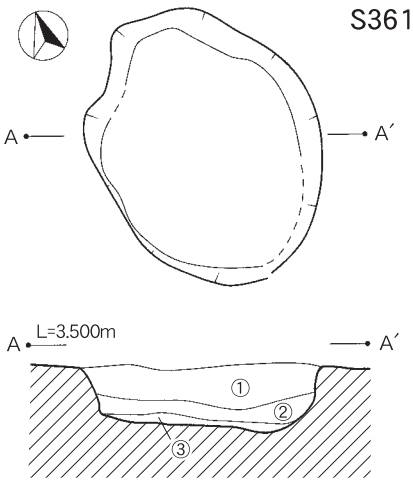
S258
①層　黒褐色粘質土(2.5YR3/1)　しまり中。粘性中。ベース土壌
　　は黒褐色　だが多量の炭の塊を含み青っぽい。焼土も含む。
②層　黒褐色粘質土(10YR3/2) しまり中。粘性中。①より少ない
　　が炭を含む。黄褐色のロームブロックを含む。



S365
①層　黒褐色粘質土(7.5YR3/1) しまり中。粘性中。 赤褐色の焼土
　　(8㎜程度) を多く含み、炭も多くみられる。マンガンが沈着。



S453
①層　黒褐色粘質土 (10YR3/2) しまり中。粘性弱。
　　明褐色のロームブロックと炭、焼土を含む。



S361
①層　黒褐色粘質土(10YR2/2) しまりあり。細～1㎝の焼土
　　ブロックを多量に含む。炭は少量。
②層　黒褐色粘質土(10YR2/2) やや粘質。緑黒(10G1.7/1)が
　　全体に広がる。①より焼土は少ないが大きいものが含
　　まれる。大きな礫出土。
③層　黒褐色粘質土(10YR2/2) ②より砂質。炭・焼土を少量、
　　黒褐色土 (10YR2/3) ブロックを含む。

第77図　土坑（S360・258・365・453・361）実測図

1.20m、深さ0.47mを測る。平面形は楕円形を呈する。

365号土坑【S365】（第77図）

S365は調査区の北端に位置する遺構である。長軸1.50m、短軸1.22m、深さ0.16mを測り、平面形は楕円形で覆土は単一層である。

453号土坑【S453】（第77図）

S453は414号土坑と132号掘立柱建物跡の間に位置する。長軸1.50m、短軸.05m、深さ0.28mを測り、平面形は不定形を呈する。覆土は単一層である。図化していないが土錘が１点出土している。

361号土坑【S361】（第77図）

S361は136号掘立柱建物跡の西側に隣接する。長軸1.80m、短軸1.32m、深さ0.37mを測り、平面形は不整方形で覆土は３層に分かれ、各層に焼土が含まれる。

⑸　不明遺構

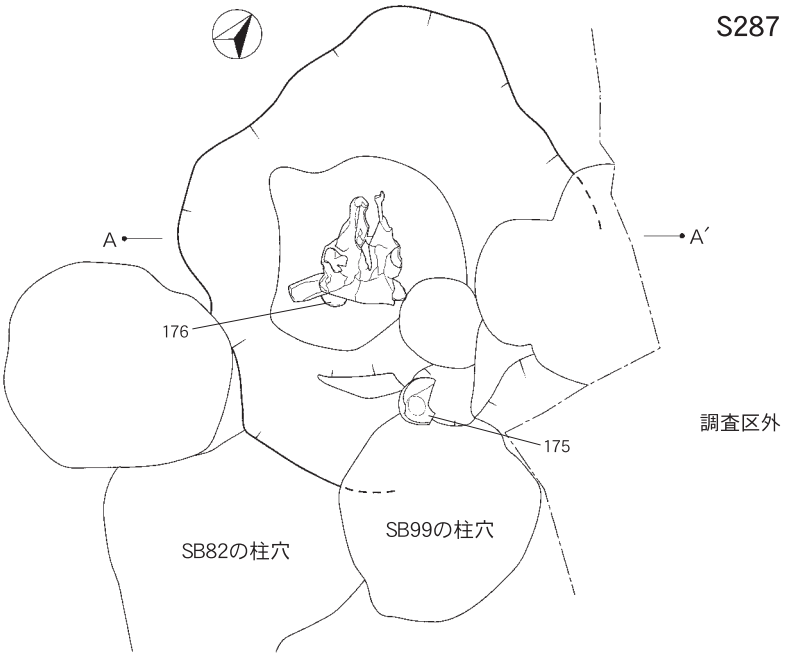
287号遺構【S287】（第78図）

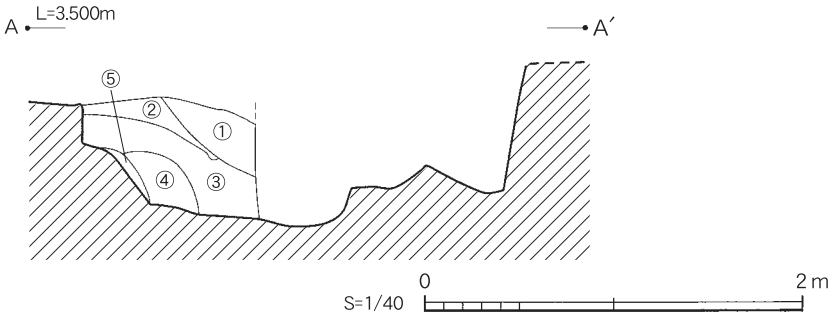
S287は西側に伸びる調査区の北端部に位置する不定形な遺構である。長軸1.00m、短軸0.72m、深さ0.18mを測る。撹乱および82号・99号掘立柱建物跡の柱穴等による切り合いがある。覆土の堆積は自然なものと考えられるが、獣骨が置かれる様に見つかった。その他に青磁や土師器の杯も出土している。明らかに周辺で確認されている土坑とは異なる用途が推定できる。175は青磁の大型椀で蓮弁文を施す。高台内側以外に釉を施している。つくりが丁寧である。龍泉窯系であろうと推定される。176は底部に糸切り痕のある土師器の杯で、遺構の底部で獣骨より下層で出土している。

なお、獣骨については、放送大学鹿児島センターの西中川駿先生に調査して頂いた。大きな角を有する頭蓋骨から雄の成牛と考えられること。骨格の計測値から日本在来牛である口之島野生化牛と類似するとの所見を現地にて受けている。遺構内に他の獣骨は観られなかった。

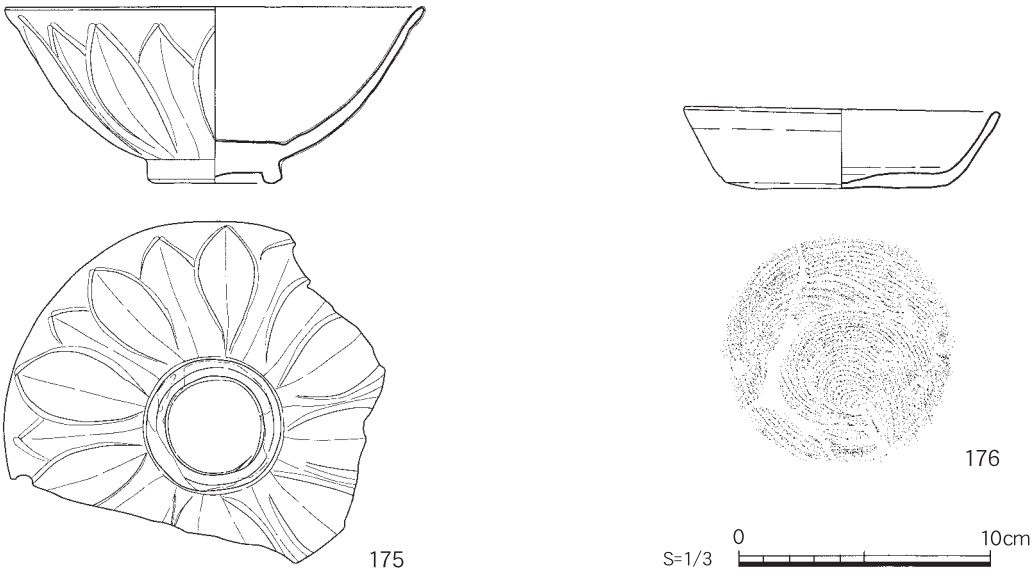
317号遺構【S317】（第79図）

S317は調査区の中に★印で示した位置に、人骨が発見された。土壙墓として認定するべきところだが、掘り方が明瞭ではなく、当時の所見によると遺構検出面に乗るように確認された為、「行き倒れ」の可能性もあり、不明遺構とする。なお人骨については、調査時に人類学ミュージアムの松下孝幸館長に指導をうけ、姿勢は仰向け成人男性と推定されている。

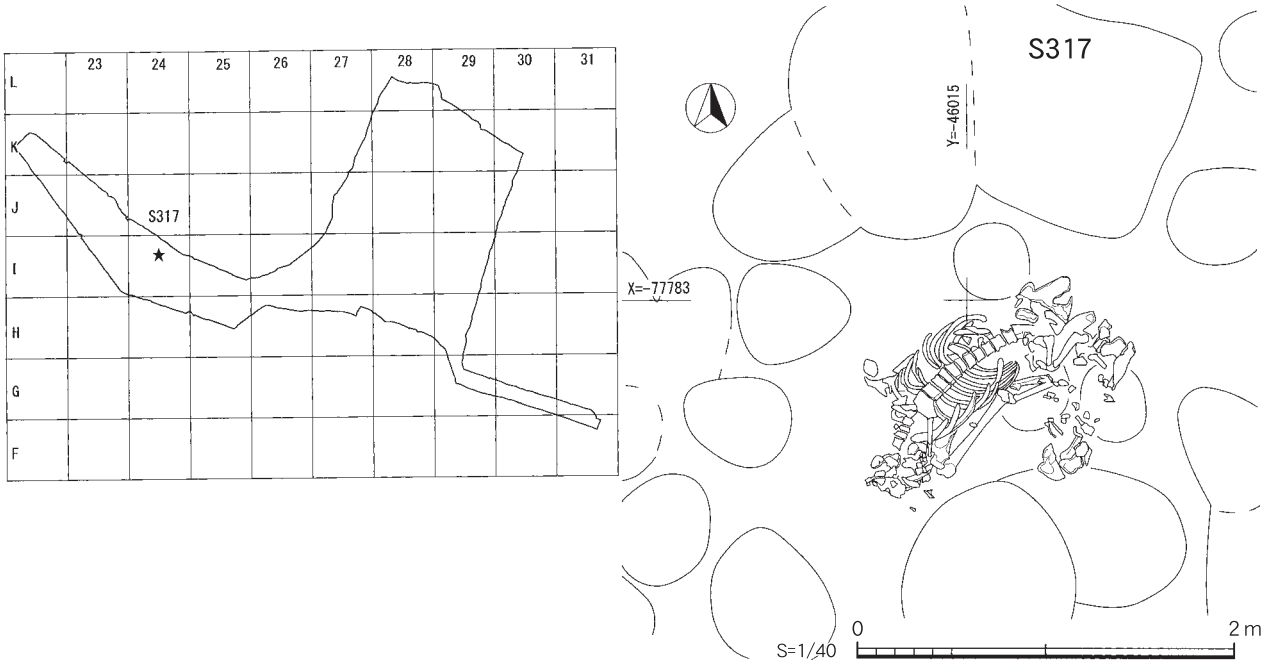




S287
①層　褐色粘質土(10YR4/6)　しまり中。粘性弱。Ⅵ層にⅦ層（暗褐色土）がブロック状に入る。塚状にもられたものがほう落か？
②層　褐色粘質土(10YR4/6)　しまり中。粘性中。基本的に①と同質のものであるが、ロームブロックを少量含む。
③層　黒褐色粘質土(10YR2/2)　しまり中。粘性中。獣骨を包含する層。　焼土を少量含む。
④層　黒褐色粘質土(10YR2/2)　しまり中。粘性弱。灰を少量含む。③と極めて酷似。しかし断面に獣骨がみられない。
⑤層　褐色粘質土(10YR4/6)　しまり強。粘質弱。Ⅳ層内ブロックが少量混じる。



第78図　不明遺構（Ｓ287）実測図及び出土遺物実測図



第79図　不明遺構（Ｓ317）実測図及び検出位置図

表16　Ｖａ区検出遺構一覧表　（単位:m）

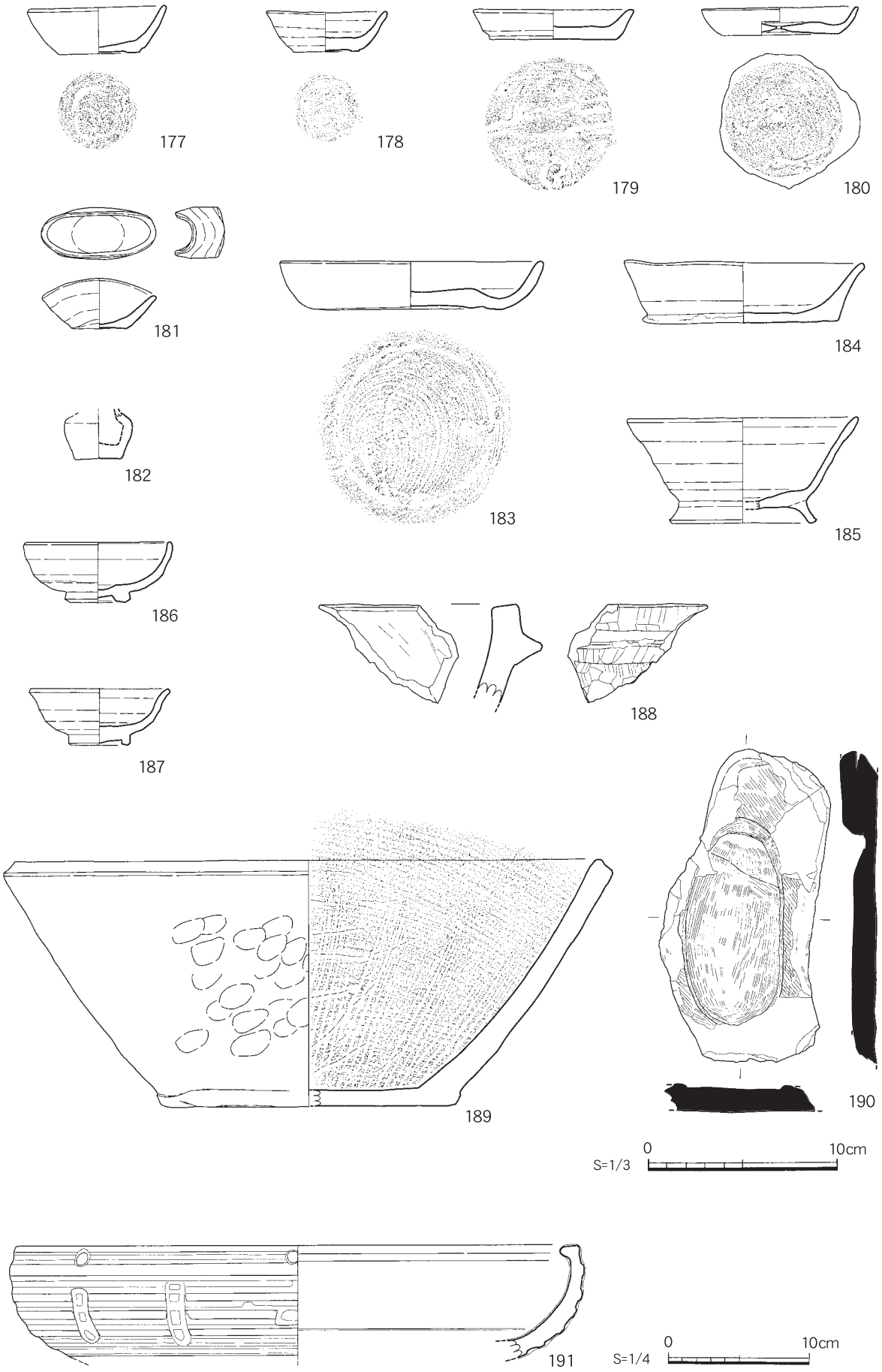
区	遺構番号	遺構名	長軸(長さ)	短軸(幅)	深さ	区	遺構番号	遺構名	長軸(長さ)	短軸(幅)	深さ
Ｖａ	Ｓ284	溝	3.56～	0.90	0.12	Ｖａ	Ｓ407	土坑	1.50～	1.08～	0.75
Ｖａ	Ｓ355	土坑	1.62	1.00	0.20	Ｖａ	Ｓ414	土坑	1.70	1.57	0.94
Ｖａ	Ｓ388	土壙墓	1.90	1.15	0.73	Ｖａ	Ｓ360	土坑	1.95	1.66	0.15
Ｖａ	Ｓ380	土壙墓	1.45	1.37	1.12	Ｖａ	Ｓ258	土坑	1.40	1.20	0.47
Ｖａ	Ｓ384	土坑	3.76	2.66	0.27	Ｖａ	Ｓ365	土坑	1.50	1.22	0.16
Ｖａ	Ｓ373	土坑	1.78	1.42	0.35	Ｖａ	Ｓ453	土坑	1.50	1.05	0.28
Ｖａ	Ｓ367	土坑	1.70	0.94	0.18	Ｖａ	Ｓ361	土坑	1.80	1.32	0.37
Ｖａ	Ｓ368	土坑	1.70	1.45	0.10	Ｖａ	Ｓ287	不明遺構	2.52	2.12～	0.58
Ｖａ	Ｓ397	土坑	2.0～	1.66	0.28	Ｖａ	Ｓ317	不明遺構	2.50	2.00	0.60
Ｖａ	Ｓ395	土坑	2.58	1.57	0.37						

３．その他

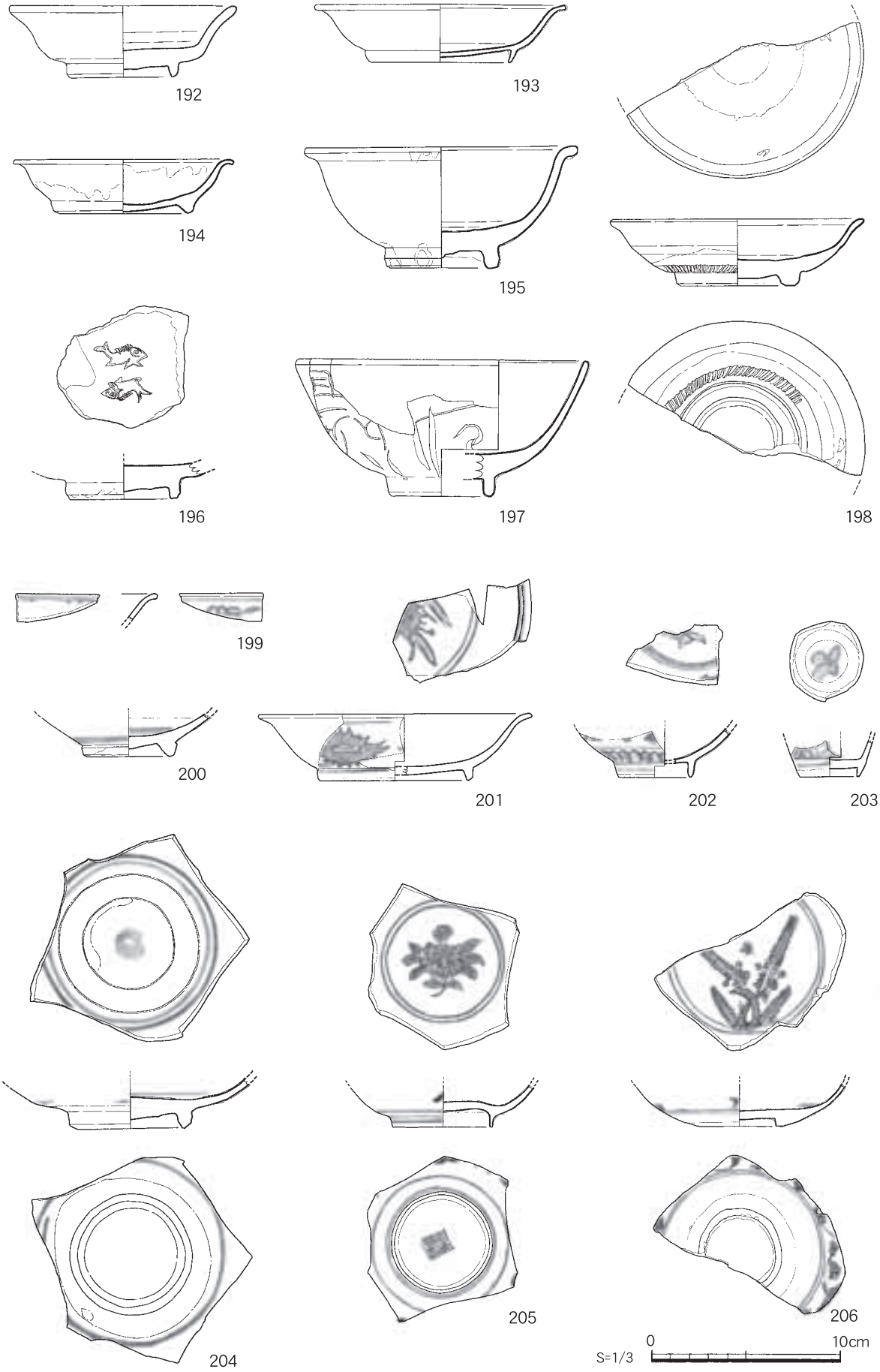
ここでは、２．遺構・遺物で遺構と共に述べられなかった遺物を概観する。なお、出土地点、法量、調整、色調、胎土等の詳細については、別表のとおりである。

Ｖａ区出土遺物（第80図～84図）

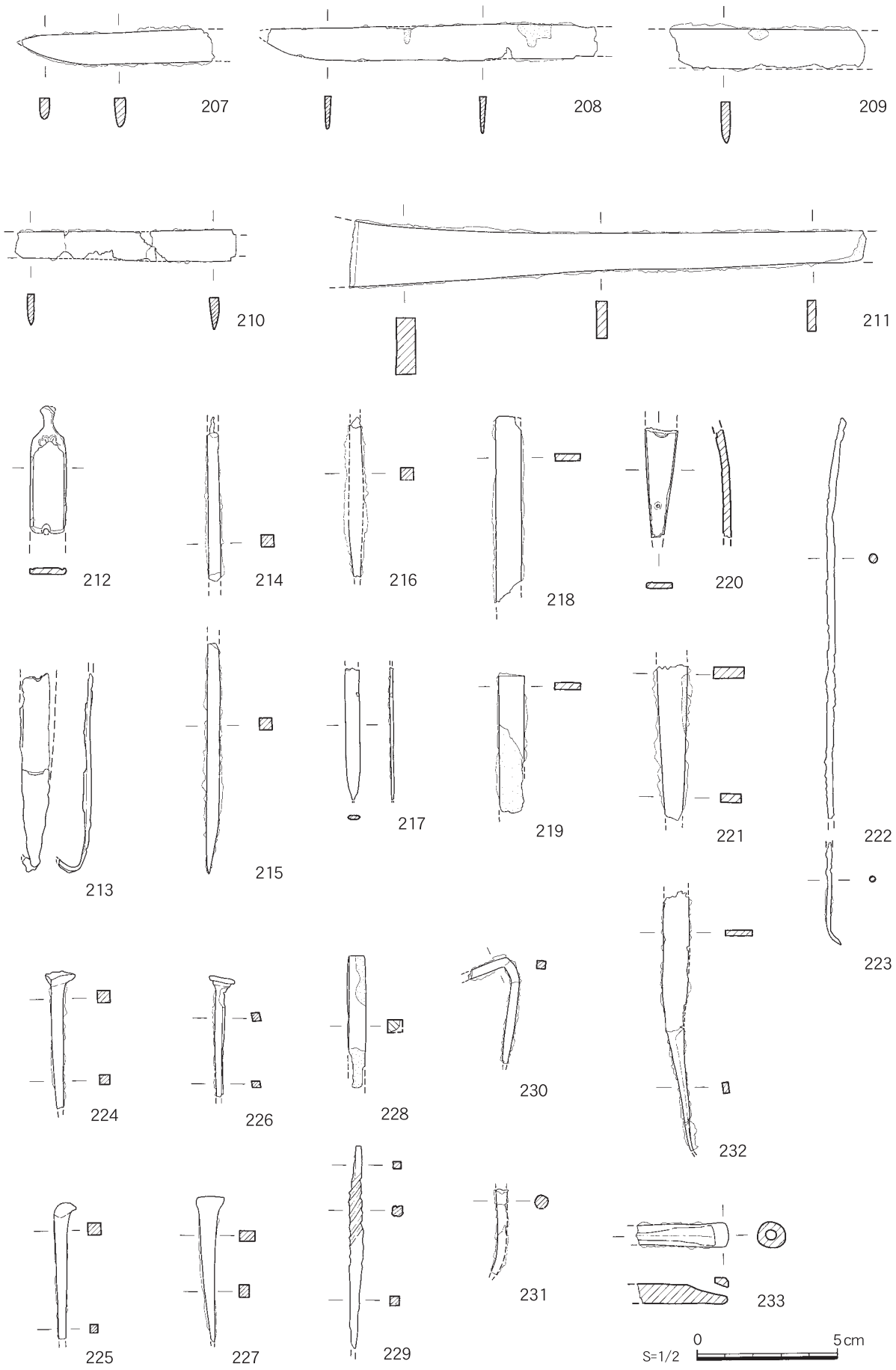
第80図は、土師器・瓦質土器・磁器等と硯である。177・178は土師器の小皿である。両者とも口縁端部にススが付着し、灯明皿と考えられる。179・180は土師器の皿で、179の底部は糸切りで、のち圧痕が残る。180は底部に１ヶ所穿孔がある。181は耳皿で両端部にススが付着している。182は胴部径3.8㎝のミニチュア土器で、土師器の壺である。回転糸切り底。183・184は土師器の杯で、183は底部に糸切り痕がのこる。184は厚く平らな底部をもつ。185は土師器の高台付の杯で、内外面にススが見られる。186・187は白磁で灰白色の小型の杯でつくりは丁寧である。186は外面中途までの施釉である。内面（見込み部）中央は凹みをもつ。187は高台外面まで施釉する。188は石鍋口縁部の一部で、ススが付着している。189は瓦質土器の擂鉢である。190は頁岩製の硯、191は青磁の皿である。



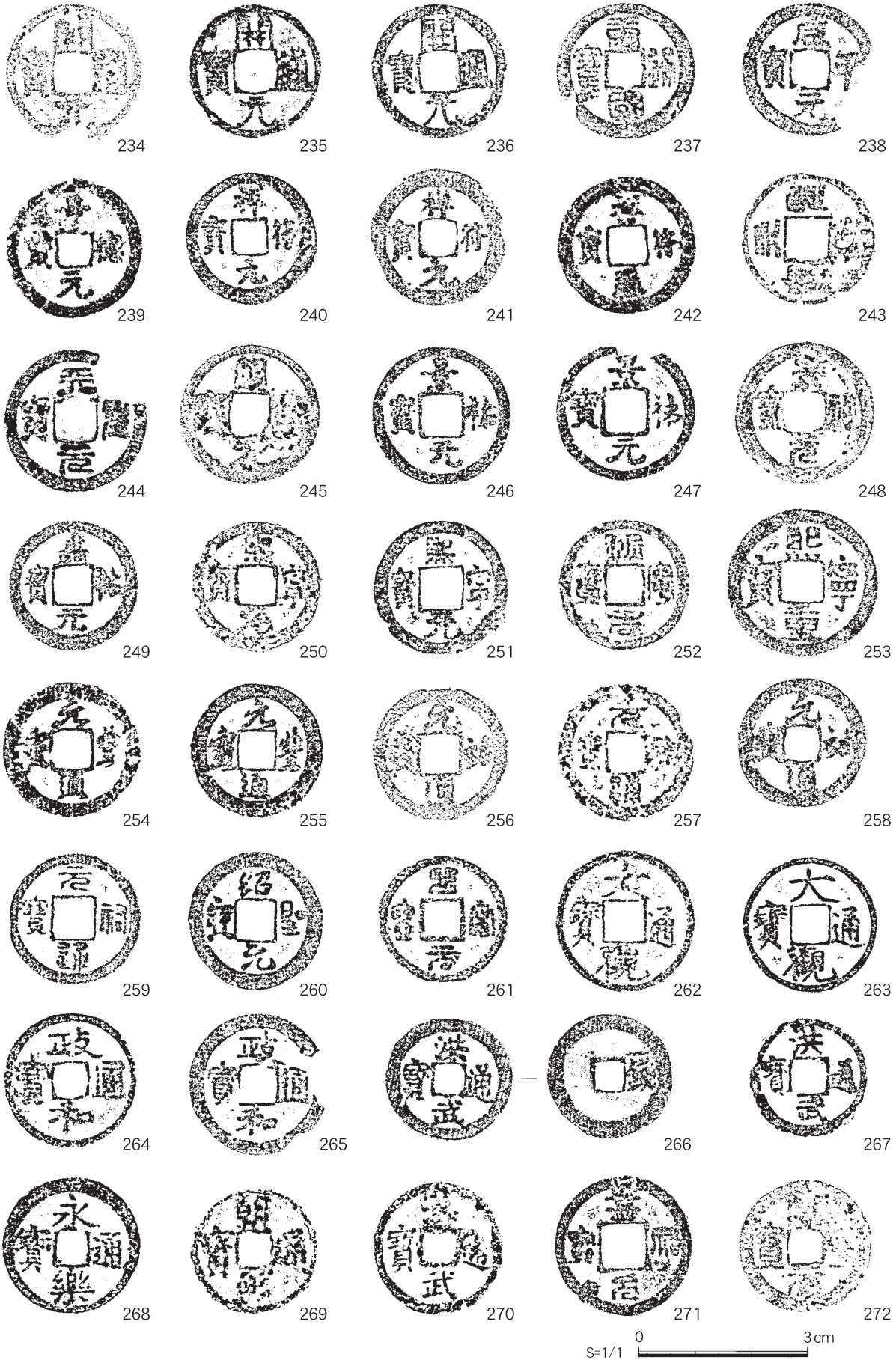
第80図　Ｖａ区出土遺物実測図（１）



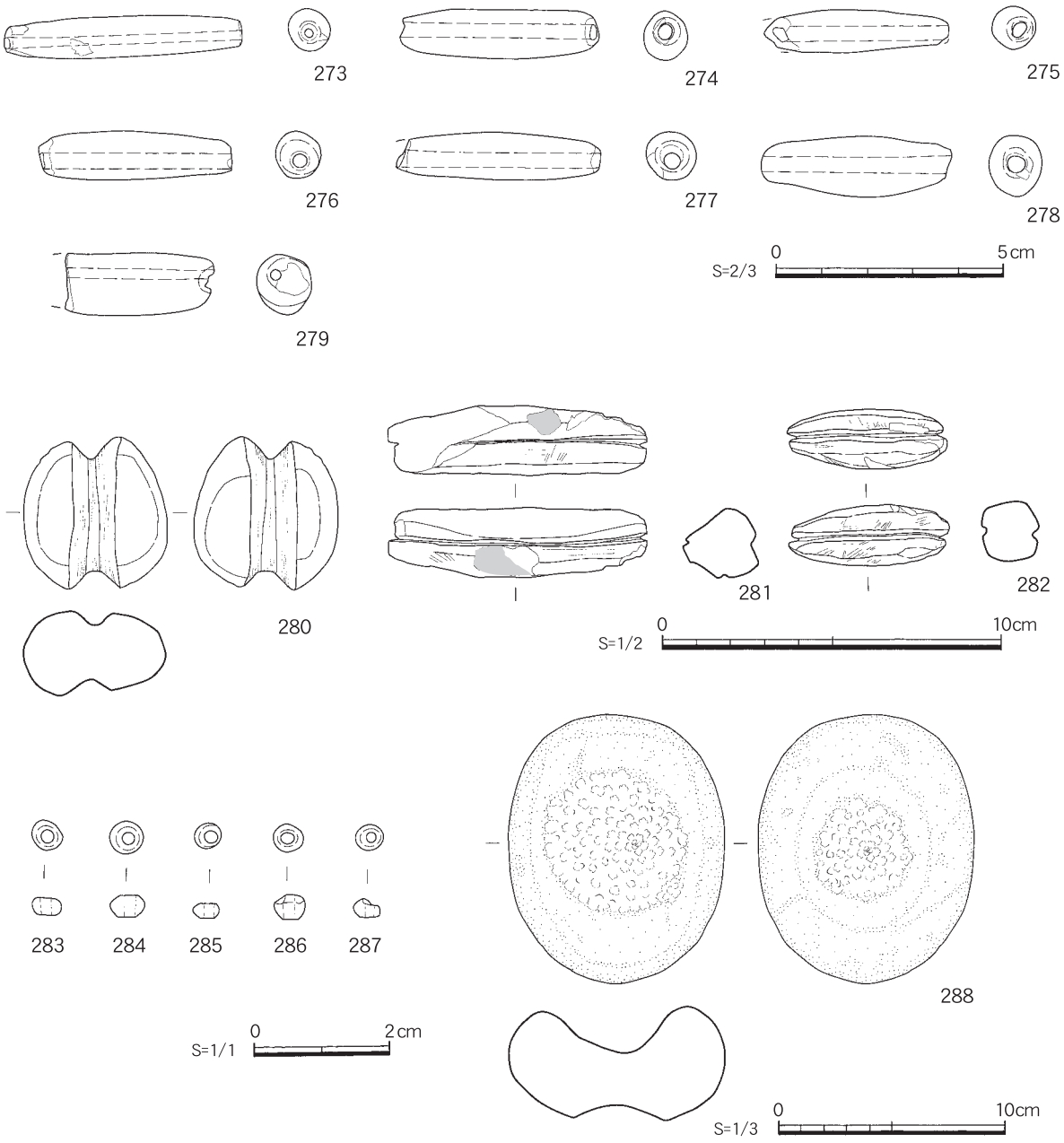
第81図　Ｖａ区出土遺物実測図（２）



第82図　Ｖａ区出土遺物実測図（３）



第83図　Ｖａ区出土遺物実測図（４）



第84図　Ｖａ区出土遺物実測図（５）

第81図は、磁器類である。192は青磁の椀である。高台内面以外に全て施釉する。体部は外反しながら直線的に立ち上がり、口縁端部は厚く丸みをもち重量感がある。193は白磁の杯である。体部は外反しながら立ち上がり、口縁端部は平らとなる。194も白磁の杯である。体部の立ち上がりは193と類似する。高台は外に拡がる。釉は内外面ともにかかるが、口縁端部に厚くかかっている。195は青磁椀である。高台内面以外に施釉し、口縁端部は外へ大きく開く。196は青磁椀の底部で、つくりは丁寧で見込には双魚文をもつ。197も青磁椀でつくりは丁寧である。釉は高台内側までかかる。外面にヘラ描き文を施す。体部は薄くほぼ直線的に立ち上がる。198は青磁の椀とした。体部は緩やかに外反しながら立ち上がり、口縁端部が外へ拡がる。外面高台より上位に工具痕が残る。施釉は外面途中までで、つくりは丁寧である。200は磁器杯の底部で鉄絵である。202は赤絵で椀の底部、203は磁器で猪口の底部で、口縁部は欠損している。204～206は染付の椀である。

第82図は、青銅器・鉄器類である。207～210は刀子である。207と208は刃部で、211は刃の茎部と思われる。212と213は青銅製の笄（こうがい）と考えられ、同一の物であろう。214と215は角棒状鉄製品で同一個体と考えられるが、用途は不明である。217は青銅製で、剣先部の可能性がある。218・219は板状鉄製品である。220は湾曲しており2ヶ所の穿孔途中の痕跡が残る。222と223も同一個体である。224～231は鉄製の釘である。224～226は釘頭を有するが、224・226は半円である。229はネジ釘であり、231のみが丸釘でその他は角釘である。232は鉄鏃の身部～茎部と思われる。233は用途不明である。

第83図の234～272は、銅銭である。Ｖａ区から出土したものは総数128枚である。その中から比較的残存状態の良い39枚の拓本と写真（図版144）を掲載した。種類は21種類が判明した。鋳造年は古いものから234～236で『開元通宝』武徳四年（621年）、237は『唐？國通宝』南唐（959年）、238は『咸平元宝』咸平元年（998年）、239は『景徳元宝』景徳元年（1004年）、240・241は『祥符元宝』祥符元年（1008年）、242は『祥符通宝』祥符元年（1008年）、243・244は『天聖元宝』天聖元年（1023年）、245は『明道元宝』明道元年（1032年）、246～248は『景祐元宝』景祐元年（1034年）、249は『嘉祐元宝』嘉祐元年（1056年）、250～252は『熙寧元宝』（1073年）、253は『熙寧重宝』熙寧六年（1073年）、254・255は『元豊通宝』元豊元年（1078年）、256～259は『元祐通宝』（1086年）、260は『紹聖元宝』紹聖元年（1094年）、261は『聖宋元宝』建中靖国元年（1101年）、262・263は『大観通宝』大観元年（1107年）、264・265は『政和通宝』政和元年（1111年）、266・267は『洪武通宝』洪武元年（1368年）で266は裏面に一銭の文字がある。268は『永楽通宝』永楽六年（1408年）、269は『朝鮮通宝』の世宋五年（1423年）のものまで多彩である。270～272は明確ではない。

第84図は、土錘・石錘・小玉類である。273～279はＶａ区の遺構外から出土した総数157点の土錘の内の７点である。長さも3.10～5.35㎝、幅0.70～2.90㎝、重さ1.60～19.60ｇ、孔径も3.00～5.00㎜と大小さまざまな土錘が出ている。出土位置は調査区全域にちらばり、ある地域に集中して発見されることは無いようだ。280～282は石錘である。280は凝灰岩製、281は石鍋の転用品でススが付着し282と共に滑石製である。283～287は調査区西側のグリッドから多く出土している。288は凹石である。安山岩製で両面中央に最深２㎝程度の深さをもつ。

第７節　Ｖｂ区の調査

１．遺構分布（第85図）

Ｖｂ区で検出した遺構は、溝跡１条、井戸跡２基、土坑15基である。なお、現地調査では、検出し掘削した柱穴や土坑は多数あったが、建物等を構成することはできなかった。柱穴を含めた遺構分布は、調査区西端及び南部に集中する。井戸が南端に存在し、溝は北半に折曲部を検出した。溝を境界に遺構の粗密が見られ、柱穴は、西端に多く存在している。

溝跡　S456
井戸跡　S374・479
土坑　S460・461・463・465・466・469・470・472・475・476・482・483・488・495・497

２．遺構・遺物

各遺構・遺物の詳細は第86図～第93図・表17のとおりである。以下は各遺構を概観する。

⑴　溝跡

456号溝跡【S456】（第86図）

S456は調査区の東上側から西下側に向かい、かぎ形に伸びる大きな溝ある。長さ49.5m以上、幅2.2～3.75m、深さ約0.50mを測り、断面形は浅い皿状を呈している。覆土は11層に分層される。この遺構からの出土遺物としては、289～291の土師器と292の内面に花文を有する青磁椀がある。また、293の長さ約19.5㎝の剣も出土している。289は皿である。５㎜程度の大きな長石を含み焼きも弱い。290・291は杯である。291は、焼成後と考えられる穿孔がある。また、図化していないが６点の土錘も出土している。

⑵　井戸跡

479号井戸跡【S479】（第88図）

S479は調査区の南西部に位置する、長軸2.20m、短軸2.00m、深さ0.75m以上を測るものである。平面形はほぼ円形となっており、石組みが施され、その中から残りはよくないが木枠が検出された。遺構も浅く遺物も少ないため、確定はできないが井戸跡としておく。図化していないが、２点の土錘が出土する。

374号井戸跡【S374】（第89図）

S374は調査区南端部に位置し、Ｖａ区とも一部共有するしっかりとした木枠を持つ井戸である。長軸4.35m、短軸4.00m、深さ0.85mを測る。木枠の中から写真図版145（Ｖｂ区出土遺物）に掲載した、木製の椀と木錘と杓子らしきものが出土した。

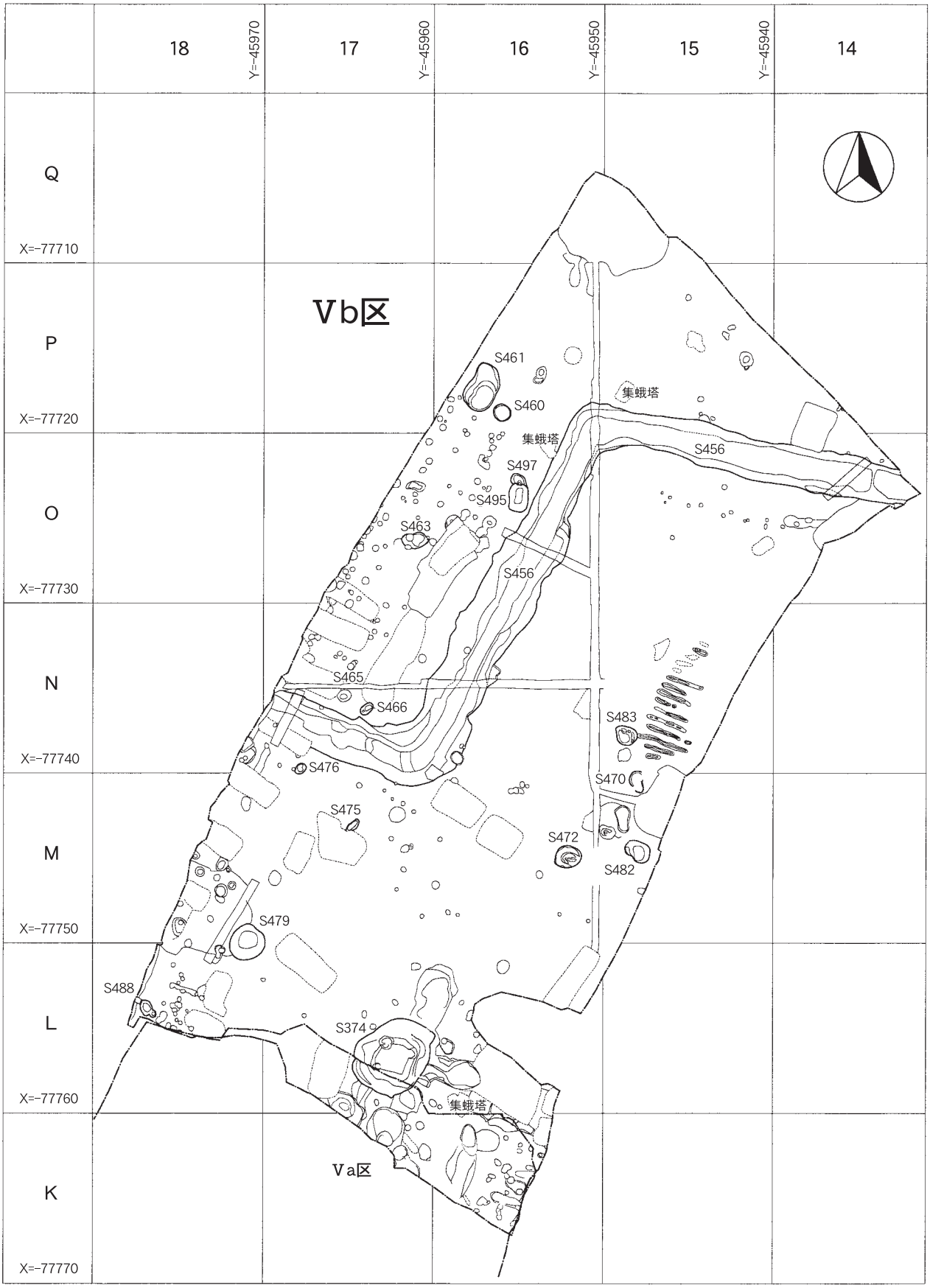
⑶　土坑

469号土坑【S469】（第90図）

S469は長軸0.83m、短軸0.78mを測り、平面形はほぼ円形を呈する。深さ0.23mと浅いが覆土は４層に分層される。最下層には、焼土が含まれていた。294・295は土師器の皿で、294には糸切りした底部に焼成後に加工したと思われる穿孔がある。296～297は土師器の杯で、296は風化著しいが糸切りと考えられる。297は糸切りの底部をもつ。

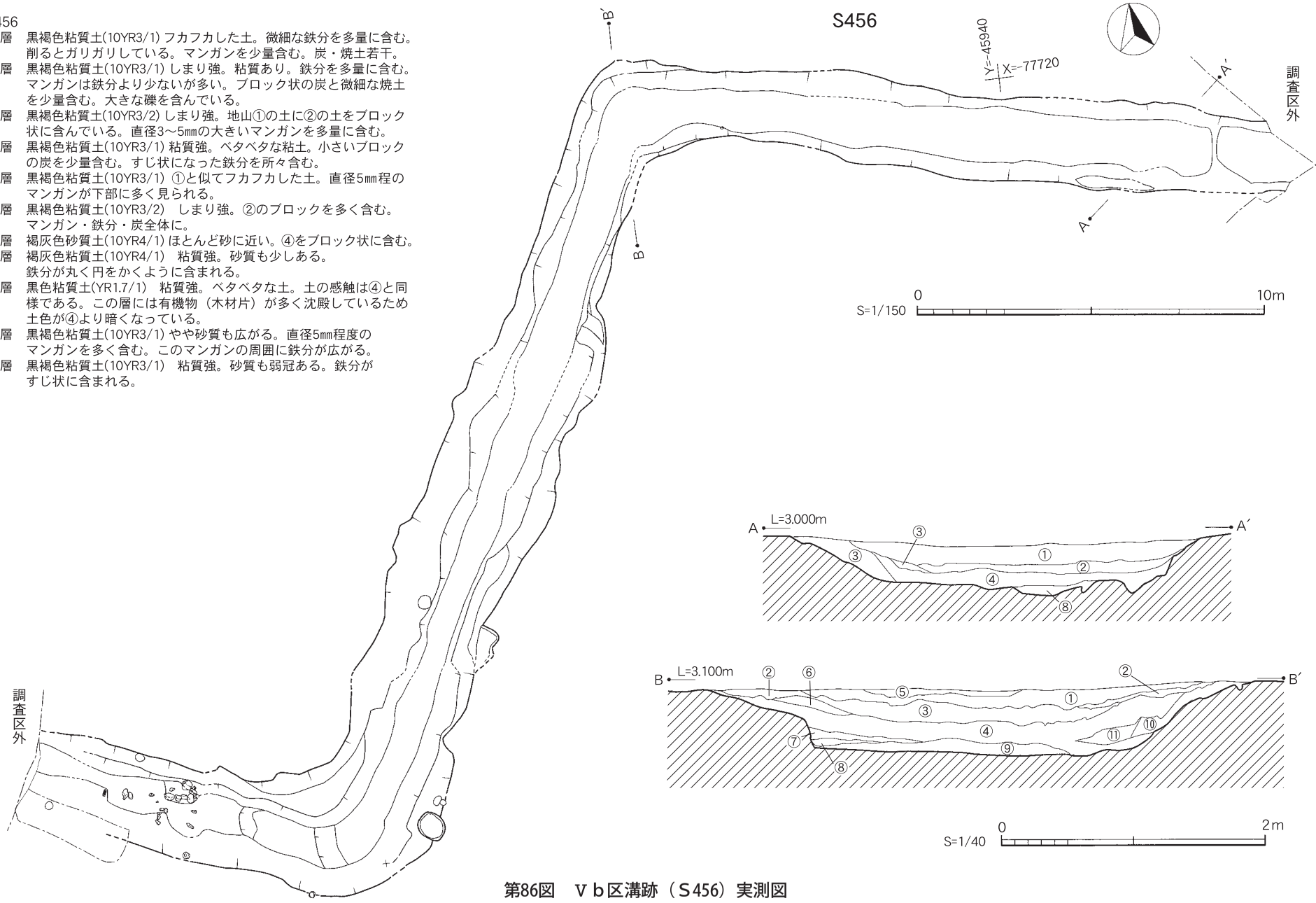
461号土坑【S461】（第90図）

S461は長軸2.80m、短軸1.60m、深さ0.28mを測り、南部に段を持ち深くなる。平面形は楕円形を呈する。覆土は２層に分層され、上層には焼土・炭が混じる。遺物は298で、糸切り痕の残る小型土師器

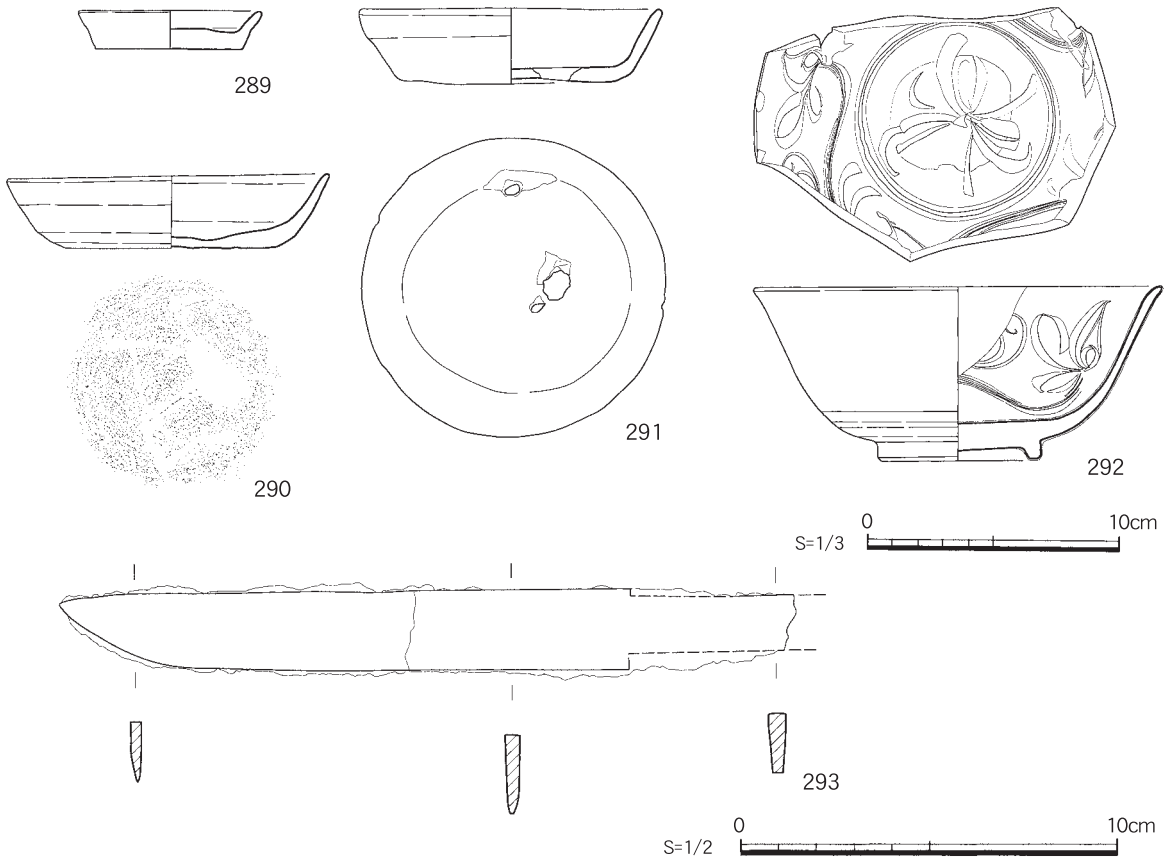


第85図　Ｖｂ区遺構配置図（S=1/350）

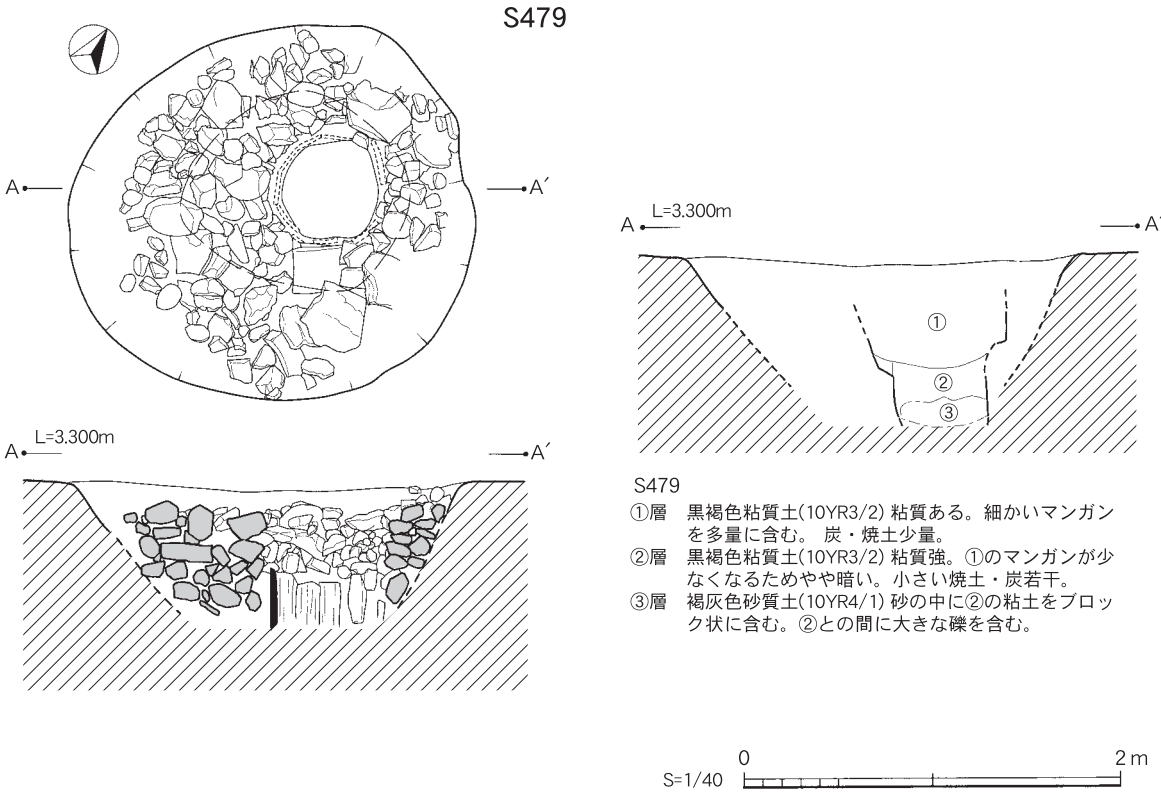
S456
①層　黒褐色粘質土(10YR3/1) フカフカした土。微細な鉄分を多量に含む。削るとガリガリしている。マンガンを少量含む。炭・焼土若干。
②層　黒褐色粘質土(10YR3/1) しまり強。粘質あり。鉄分を多量に含む。マンガンは鉄分より少ないが多い。ブロック状の炭と微細な焼土を少量含む。大きな礫を含んでいる。
③層　黒褐色粘質土(10YR3/2) しまり強。地山①の土に②の土をブロック状に含んでいる。直径3～5㎜の大きいマンガンを多量に含む。
④層　黒褐色粘質土(10YR3/1) 粘質強。ベタベタな粘土。小さいブロックの炭を少量含む。すじ状になった鉄分を所々含む。
⑤層　黒褐色粘質土(10YR3/1) ①と似てフカフカした土。直径5㎜程のマンガンが下部に多く見られる。
⑥層　黒褐色粘質土(10YR3/2)　しまり強。②のブロックを多く含む。マンガン・鉄分・炭全体に。
⑦層　褐灰色砂質土(10YR4/1) ほとんど砂に近い。④をブロック状に含む。
⑧層　褐灰色粘質土(10YR4/1)　粘質強。砂質も少しある。鉄分が丸く円をかくように含まれる。
⑨層　黒色粘質土(YR1.7/1)　粘質強。ベタベタな土。土の感触は④と同様である。この層には有機物（木材片）が多く沈殿しているため土色が④より暗くなっている。
⑩層　黒褐色粘質土(10YR3/1) やや砂質も広がる。直径5㎜程度のマンガンを多く含む。このマンガンの周囲に鉄分が広がる。
⑪層　黒褐色粘質土(10YR3/1)　粘質強。砂質も弱冠ある。鉄分がすじ状に含まれる。



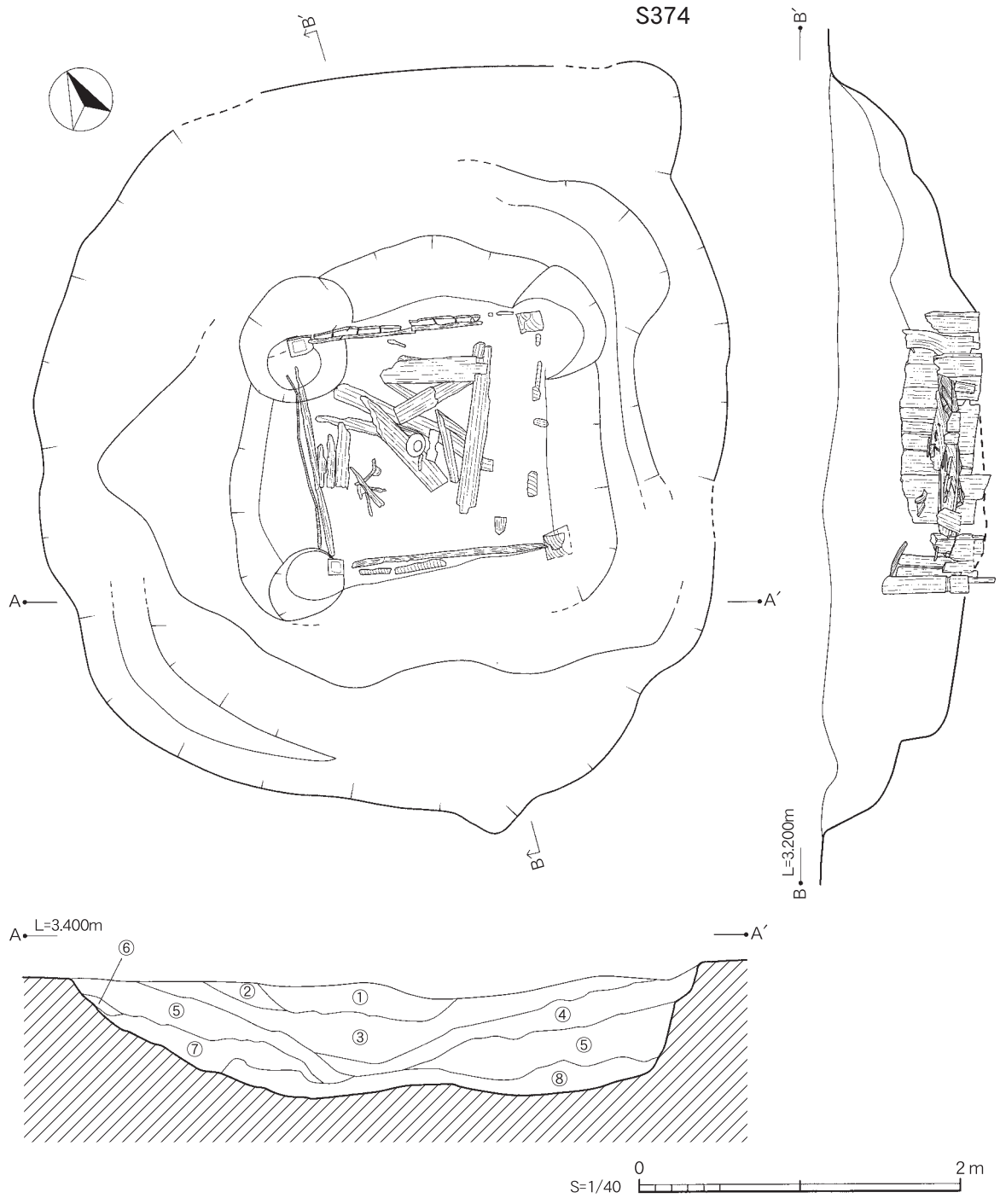
第86図　Ⅴb区溝跡（S456）実測図



第87図　溝跡（Ｓ456）出土遺物実測図



第88図　　Ｖｂ区井戸跡（Ｓ479）実測図



S374

①層　黒褐色粘質土(10YR3/1)　粘質あり。直径3～5㎜の大きいマンガンを 全体に焼土を若干含む。
②層　黒褐色粘質土(10YR3/1)　①より粘性強。焼土・炭若干。マンガンを含む。灰黄褐色土(10YR4/2)のブロックを含む。
③層　黒褐色粘質土(10YR3/1)　粘質強。1～2㎝程の礫が下部に多く含まれる。細かい炭を全体に、灰黄褐色土の小さいブロックを少量含む。すじ状になった鉄分を所々含む。
④層　黒褐色粘質土(10YR3/1)　フカフカした土。直径5㎜程のマンガンが下部に多く含まれる。灰黄褐色土の小さいブロックを全体に含む。
⑤層　黒褐色粘質土(10YR3/2)　しまり強。①のブロックを多く含む。マンガン・鉄分・炭全体に。
⑥層　褐灰色砂質土(10YR4/1)　ほとんど砂に近い。③をブロック状に含む。
⑦層　褐灰色粘質土(10YR4/1)　粘質強。砂質も少しある。 鉄分が丸く円をかくように含まれる。
⑧層　黒色粘質土(YR1.7/1)　粘質強。ベタベタな土。土の感触は③と同様である。この層には有機物（木材片）が多く沈殿しているため土色が③より暗くなっている。

第89図　井戸跡（S374）実測図

の杯である。風化は進んでいるもののつくりは丁寧である。

465号土坑【S465】（第90図）

S465は長軸0.80m、短軸0.70m、深さ0.20mを測り、平面形はほぼ円形である。覆土は、黒褐色粘質土の単一層である。

460号土坑【S460】（第90図）

S460は長軸1.06m、短軸0.98m、深さ0.27mを測り、平面形は円形を呈する。覆土掘り込みはほぼ垂直であり、底面も平らである。覆土は２層に分層できる。

463号土坑【S463】（第91図）

S463は長軸1.16m、短軸0.88m、深さ0.32mを測り、平面形はほぼ円形である。覆土は２層で、両層ともに焼土・炭を若干含む。

466号土坑【S466】（第91図）

S466は長軸0.88m、短軸0.52m、深さ0.28mを測り、東西に長い。覆土は２層に分かれる。

470号土坑【S470】（第91図）

S470は長軸1.30m、短軸0.58m、深さ0.18mを測り、平面形は楕円形を呈する。覆土は２層に分層できる。

472号土坑【S472】（第91図）

S472は長軸1.60m、短軸1.35m、深さ0.29mを測り、平面形は円形である。東へ二つの段を持ち落ちていく。覆土は４層に分層でき、上層には焼土・炭を含むが③層東側に炭のブロックが集中して見られた。

482号土坑【S482】（第91図）

S482は長軸1.58m、短軸1.00m、深さ0.33mを測り、平面形はほぼ円形を呈する。覆土は４層に分層でき、各層ともに粘性が強い。

483号土坑【S483】（第91図）

S483は長軸1.35m、短軸1.10mで、平面形は円形を呈する。深さ0.32mを測る。覆土は２層に分層できる。南へ緩やかに落ち、底部は若干の凹凸がある。

497・495号土坑【S497・495】（第92図）

S497は長軸0.83m、短軸0.60m以上、深さ0.13mを測り、495号土坑に切られる。覆土は灰黄褐色粘質土の単一層である。

S495は長軸1.70m、短軸1.10m、深さ0.28mを測り、平面形は楕円形。覆土は３層に分かれるが、大半を占める③層には、鉄分が多く含まれていた。

475号土坑【S475】（第92図）

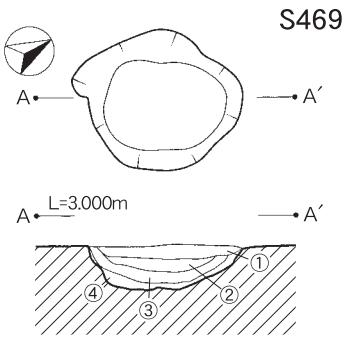
S475は長軸0.98m、短軸0.42m、深さ0.28mを測り、平面形は楕円形を呈する。覆土は３層に分かれ上層には炭が多く含まれる。

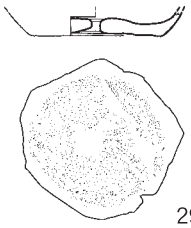
476号土坑【S476】（第92図）

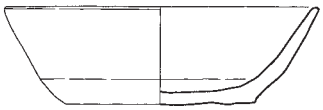
S476は長軸0.73m、短軸0.54m、深さ0.19mを測り、平面形は円形、断面形は逆三角形である。覆土は２層に分層できる。

488号土坑【S488】（第92図）

S488は長軸0.90m、短軸0.80m以上、深さ0.36mを測る。覆土は粘質土の単一層で、鉄分を多く含む。

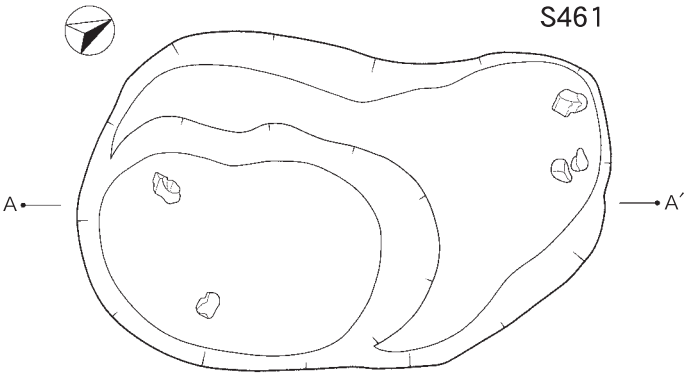


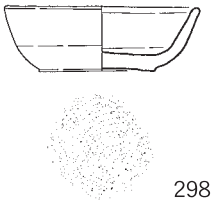


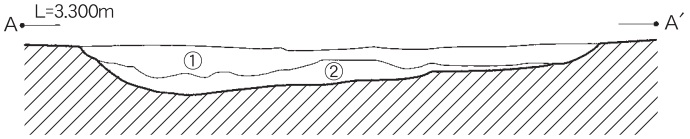


S469

①層　黒褐色粘質土(10YR3/1) しまり強。鉄分を多量に含む。
　　マンガンは南側に少量含む。
②層　黒褐色粘質土(10YR3/1) 粘質強。炭の大きなブロックが少量。
　　鉄分が多く含まれるが①程ではない。
③層　黒色土(N※1.5/0) 粘質あり。炭の層で遺物、小さい礫を多く含む。
④層　黒褐色粘質土(10YR3/1) 粘質強。③の炭をすじ状に含む。
　　焼土を少量含む。

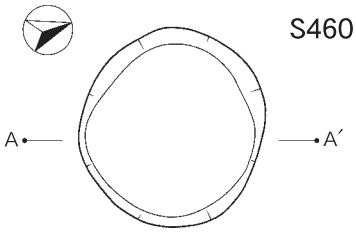


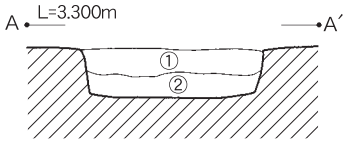


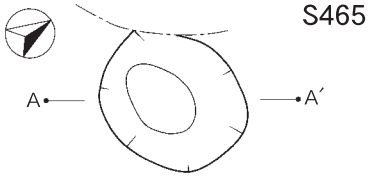


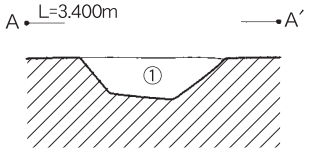
S461

①層　黒褐色粘質土(10YR3/2)　しまり強。焼土・炭を少量含む。
　　南側は小さい礫も多く含まれる。
②層　黒褐色粘質土(10YR3/2)　①よりしまり弱。鉄分とマンガンを
　　多量に含む。①よりもさらに小さい礫を含む。









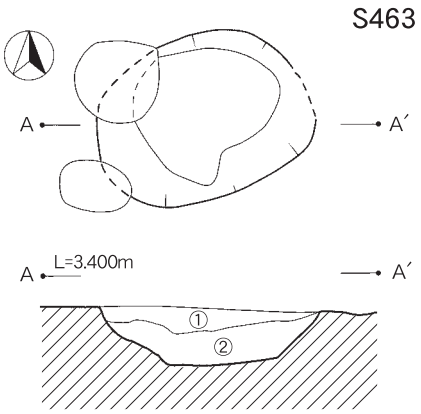
S465

①層　黒褐色粘質土(10YR3/1) 砂質が広がる。炭若干。
　　鉄分とマンガンが一緒になったブロックが全体に
　　含まれる。

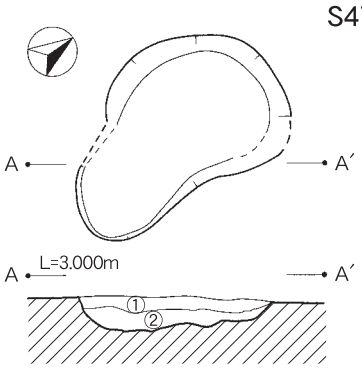
S460

①層　灰黄褐色粘質土(10YR4/2) しまりあり。礫を多く含む。
　　微細な鉄分・マンガンを多量に含む。微細な炭少量。
②層　灰黄褐色粘質土(10YR4/2)　粘質あり。礫を多く含む。
　　灰色粘土をすじ状に含む。 下は砂が広がる。

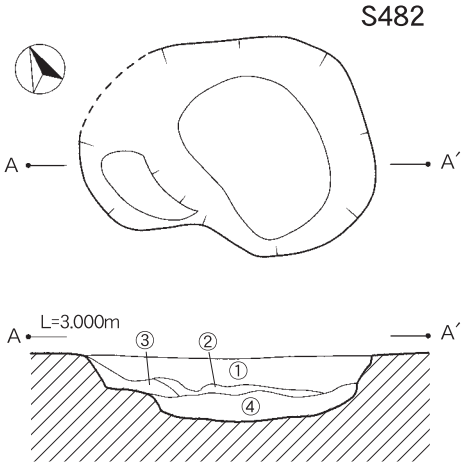
第90図　Ⅴｂ区土坑（Ｓ469･461･465･460）実測図及び出土遺物実測図



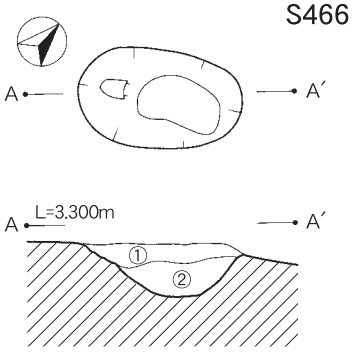
S463
①層　黒褐色粘質土(10YR3/2) しまり強。微細な炭・焼土若干。
　　マンガン・鉄分を多量に含む。
②層　黒褐色粘質土(10YR3/2)　やや粘質。炭・焼土若干。
　　①同様マンガン・鉄分を多量に含む。



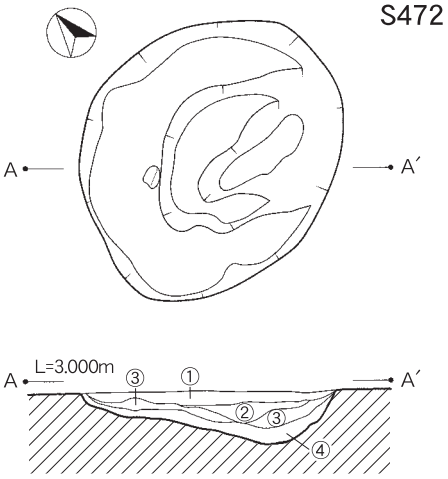
S470
①層　黒褐色粘質土(10YR3/1) しまり強。炭少量。
　　マンガン・鉄分が全体に広がる。
②層　黒褐色粘質土(10YR3/1) 粘質強。マンガンが
　　全体に含まれる。鉄分は量が少ない。



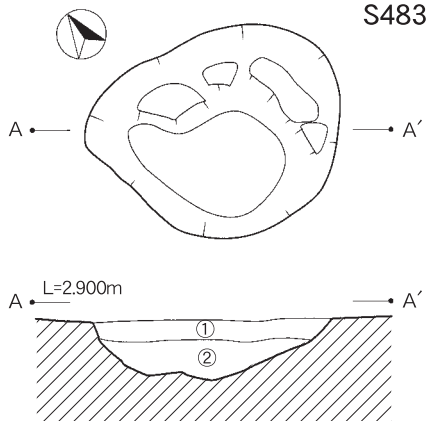
S482
①層　黒褐色粘質土(10YR3/1) 粘質強。マンガン・鉄分を多量に含む。
②層　黒褐色粘質土(10YR3/1) 粘質強。鉄分・マンガンを多量に含む。
　　地山の土のブロックを少量含む。
③層　黒褐色粘質土(10YR3/1) 粘質強。マンガンが全体に広がる。
④層　黒褐色粘質土(10YR3/1) ①～④中で最も粘質強。
　　地山の土が小さいブロック状に含まれる。



S466
①層　黒褐色粘質土(10YR3/1) しまり強。鉄分・マンガンが
　　全体に広がる。
②層　黒褐色粘質土(10YR3/1) 粘質あり。
　　細かいマンガンと鉄分がブロックになって含まれる。

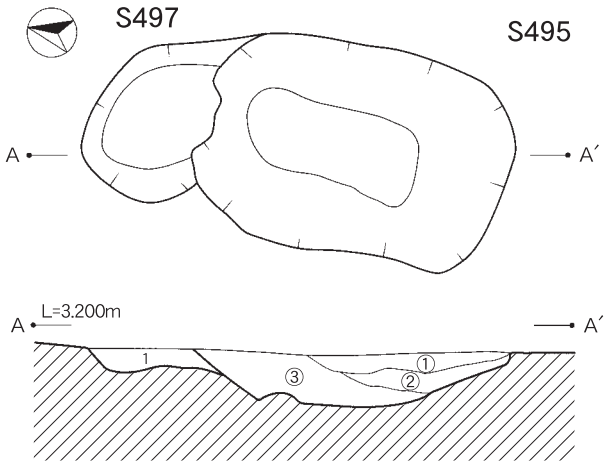


S472
①層　黒褐色粘質土(10YR3/1) しまり強。鉄分を多量に含む。
　　マンガンを少量含む。
②層　黒褐色粘質土(10YR3/1) やや粘質。 焼土・炭少量。
　　鉄分を多量に含むが①程多くない。
③層　黒褐色粘質土(10YR3/1) しまりあり。東側は特にブロッ
　　クの炭が多く広がる。
④層　黒褐色粘質土(10YR3/1) 粘質強。マンガンが全体に少量
　　含まれる。砂を含んだ地山の土がブロック状になって多
　　量に含まれる。炭若干。



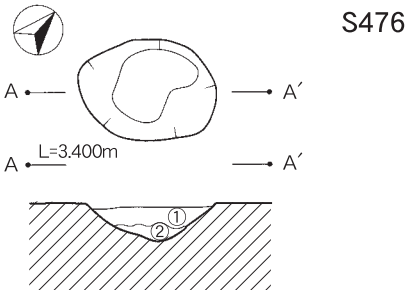
S483
①層　黒褐色粘質土(10YR3/2) 粘質あり。細かいマンガン・
　　鉄分を多量に含む。
②層　褐灰色粘質土(10YR4/1) 粘質強。すじ状に灰黄色土を
　　含む。細かい炭がまばらに広がる。

第91図　土坑（Ｓ463・466・470・472・482・483）実測図

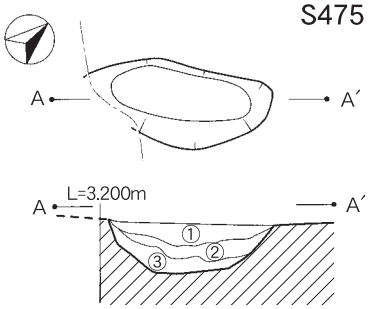


S497
1 層　灰黄褐色粘質土(10YR4/2)　しまり強。直径3～5㎜の
　　マンガンを多量に含む。 小さい礫を含む。

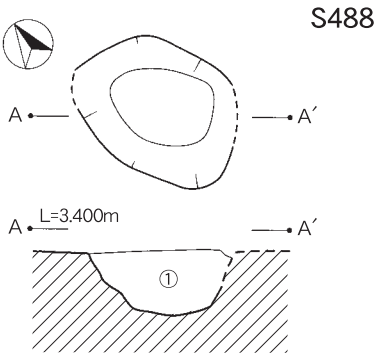
S495
①層　黒褐色粘質土(10YR3/2)　しまり強。細かいマンガン・鉄分
　　を多量に含む。
②層　黒褐色粘質土(10YR3/2)　粘質強。たてすじ状に粘土を含む。
　　青磁片を含む。
③層　黒褐色粘質土(10YR3/2)　粘質あり。直径5㎜くらいの大きい
　　鉄分を多量に含む。 小さい炭を若干。



S476
①層　黒褐色粘質土(10YR3/1) しまり強。直径3～5㎜のマンガン
　　を 全体に含む。 炭少量。
②層　黒褐色粘質土(10YR3/1)　やや粘質。下部は砂質が強い。
　　①よりも大きいマンガンを中央に多く含む。



S475
①層　黒褐色粘質土(10YR3/1) しまり強。細かい鉄分とマン
　　ガンが 全体に含まれる。焼土・炭少量含む。
②層　黒褐色粘質土(10YR3/1) しまり弱。5㎝程度の礫を含む。
　　炭が多量に含まれる。ブロックになった焼土を少量含む。
③層　黒褐色粘質土(10YR3/1) 粘質あり。砂質が広がる。
　　①同様の鉄分とマンガンを全体に含む。

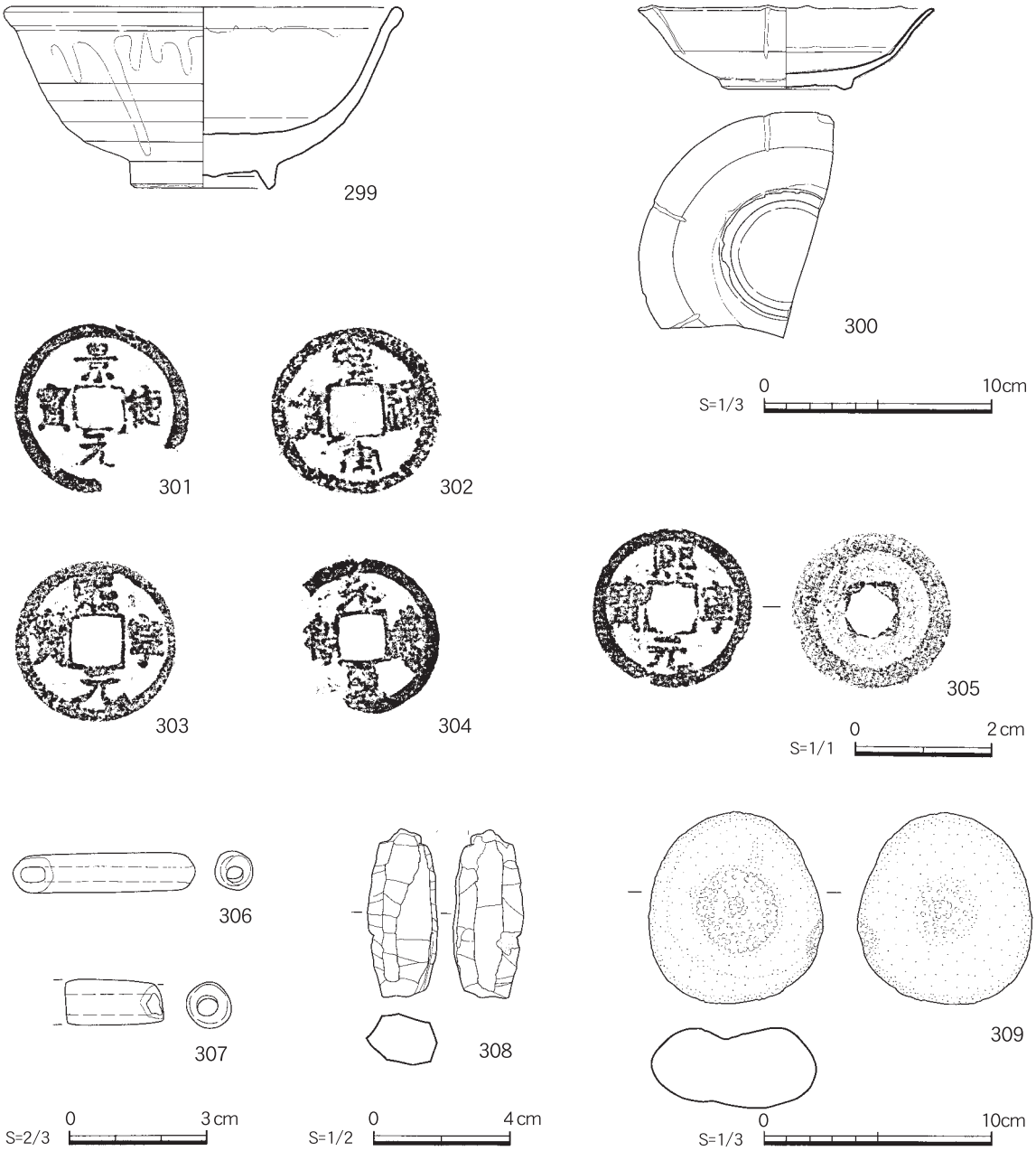


S488
①層　黒褐色粘質土(10YR3/2) 砂質強。大きな礫を多く含む。
　　細かいマンガン・鉄分を全体に含む。

第92図　土坑（S497・495・475・476・488）実測図

表17　Vb区検出遺構一覧表　　（単位：m）

区	遺構番号	遺構名	長軸(長さ)	短軸(幅)	深さ	区	遺構番号	遺構名	長軸(長さ)	短軸(幅)	深さ
Vb	S456	溝	49.5～	3.60	0.50	Vb	S470	土坑	1.30	0.58	0.18
Vb	S479	井戸	2.20	2.00	0.75	Vb	S472	土坑	1.80	1.35	0.29
Vb	S374	井戸	4.35	4.00	0.85	Vb	S482	土坑	1.58	1.00	0.33
Vb	S469	土坑	0.83	0.78	0.23	Vb	S483	土坑	1.35	1.10	0.32
Vb	S461	土坑	2.80	1.60	0.28	Vb	S497	土坑	0.83	0.60～	0.13
Vb	S465	土坑	0.80	0.70	0.20	Vb	S495	土坑	1.70	1.10	0.28
Vb	S460	土坑	1.06	0.98	0.27	Vb	S475	土坑	0.98～	0.42	0.28
Vb	S463	土坑	1.16	0.88	0.32	Vb	S476	土坑	0.73	0.54	0.19
Vb	S466	土坑	0.88	0.52	0.28	Vb	S488	土坑	0.90	0.80～	0.36



第93図　Ｖｂ区出土遺物実測図

３．その他

ここでは、２．遺構・遺物で遺構と共に述べられなかった遺物を概観する。なお、出土地点、法量、調整、色調、胎土等の詳細については、別表のとおりである。

Ｖｂ区出土遺物（第93図）

299は、陶器の椀である。内外面に釉薬垂れが見られ、体部はゆるやかに立ち上がる。削り出し高台でつくりは丁寧である。300は、青磁で皿としたものである。体部は外反しながらも直線的に立ち上がる。釉は高台・外面底部の一部にはかからない。口縁端部に輪花を有する。301～305は銅銭である。301は一部欠損するも『景徳元宝』景徳元年（1004年）鋳造で、302～304は鉄分包含層のPitから出土し302は『皇宋通宝』宝祐二年（1039年）鋳造、303は『熙寧元宝』元豊元年（1068年）鋳造、304は『元豊通宝』元豊元年（1078年）鋳造である。305は『熙寧元宝』である。306・307は土錘である。他に、図化していない物が19点出土している。308は滑石製の石錘で、石鍋の転用品らしくススが付着している。309は安山岩の凹石で、長さ8.5㎝、幅7.7㎝で、凹部最深0.6㎝である。

第８節　Ⅵ区の調査

１．遺構分布（第94図）

Ⅵ区で、確認した遺構は、掘立柱建物跡６棟、溝跡１条、井戸跡２基、土抗23基である。

なお、現地調査では、検出し掘削した柱穴や土坑は多数あったが、建物等を構成することは出来なかった。柱穴を含む遺構分布は、掘立柱建物跡は中央部と北側にあり、溝跡は南部に１条のみ、土坑は、南部と全体に分布する。

掘立柱建物跡	SB108・111・112・113・114・116
溝跡	S291
井戸跡	S290
土坑	S299・332・293・292・298・294・296・297・310・314・315・318・319・311・312・326・313・325・327・321・322・331・344

２．遺構・遺物

各遺構・遺物の詳細は第95図～第105図・表18・表19のとおりである。以下は各遺構を概観する。

⑴　掘立柱建物跡

108号掘立柱建物跡【SB108】（第95図）

SB108は調査区の中央部に位置する遺構で、３間×２間の側柱建物である。桁行方向はＮ5°Ｅで建物方向は南北である。一部のみ調査区外である。この遺構から、310の上部にヘラ記号のある須恵器の蓋が出土した。

111号掘立柱建物跡【SB111】（第95図）

SB111は調査区の中央部西に位置し、（１）間×２間の側柱建物である。建物全体の規模は西側が調査区外に柱穴が存在すると思われるので不明である。桁行方向はＮ45°Ｅでほぼ東西棟と推定する。

112号掘立柱建物跡【SB112】（第96図）

SB112は調査区の北部に位置する遺構で、３間×２間の側柱建物である。桁行方向はＮ87°Ｅで建物方向は、ほぼ東西棟である。

113号掘立柱建物跡【SB113】（第96図）

SB113は112号掘立柱建物とほぼ重なる様に建つ、３間×２間の側柱建物である。桁行方向はＮ85°Ｅでほぼ東西方向である。

116号掘立柱建物跡【SB116】（第97図）

SB116は調査区の中央部東に位置する。３間×（１）間の側柱建物で、桁行方向はＮ40°Ｅでほぼ東西方向である。遺構の東側が調査区外になるので、全体の規模は不明である。

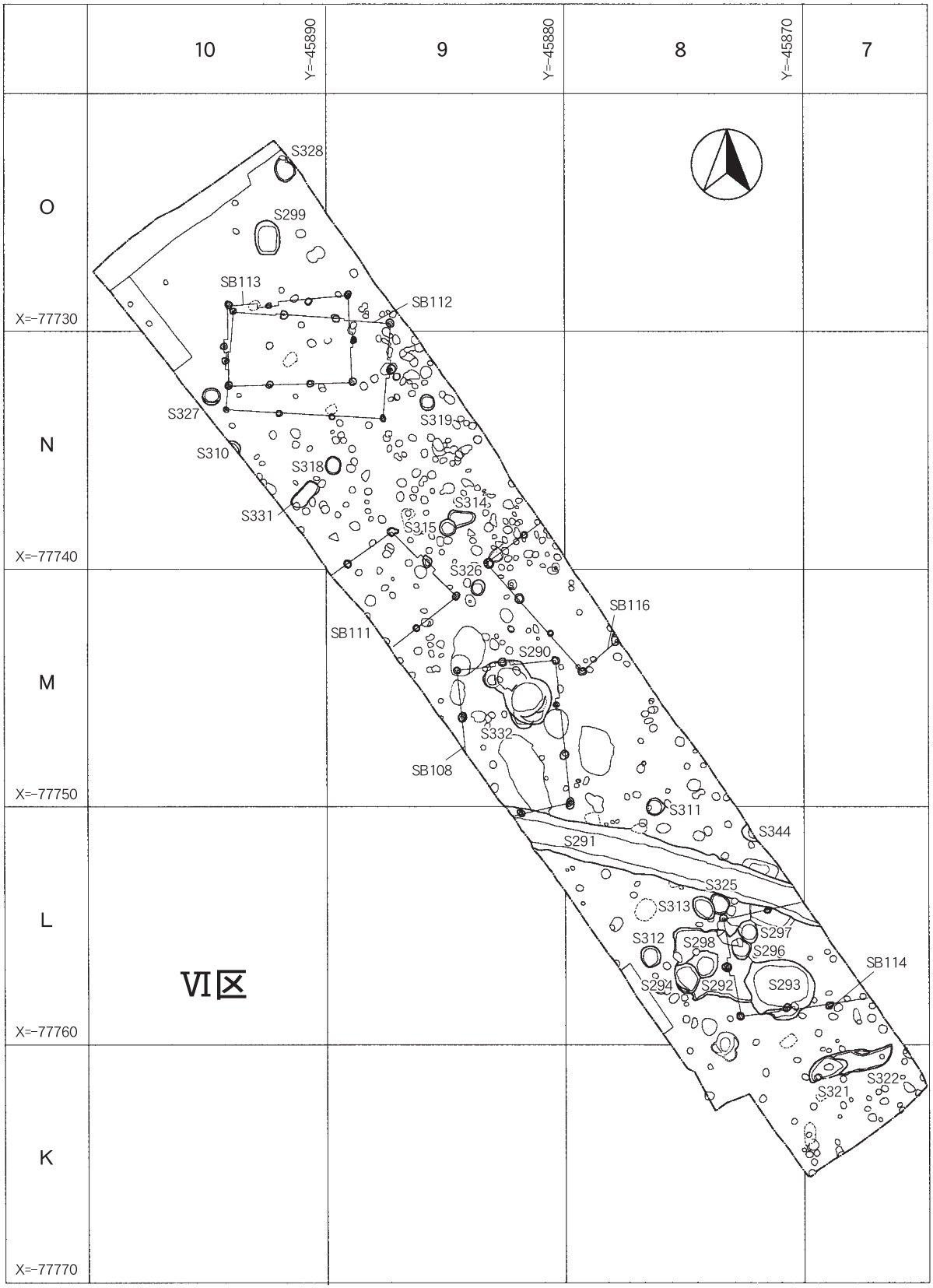
114号掘立柱建物跡【SB114】（第97図）

SB114は調査区の南東部に位置し、（２）間×２間の側柱建物であろう。東側が調査区外となる為、建物全体の規模不明である。桁行方向はＮ82°Ｅである。

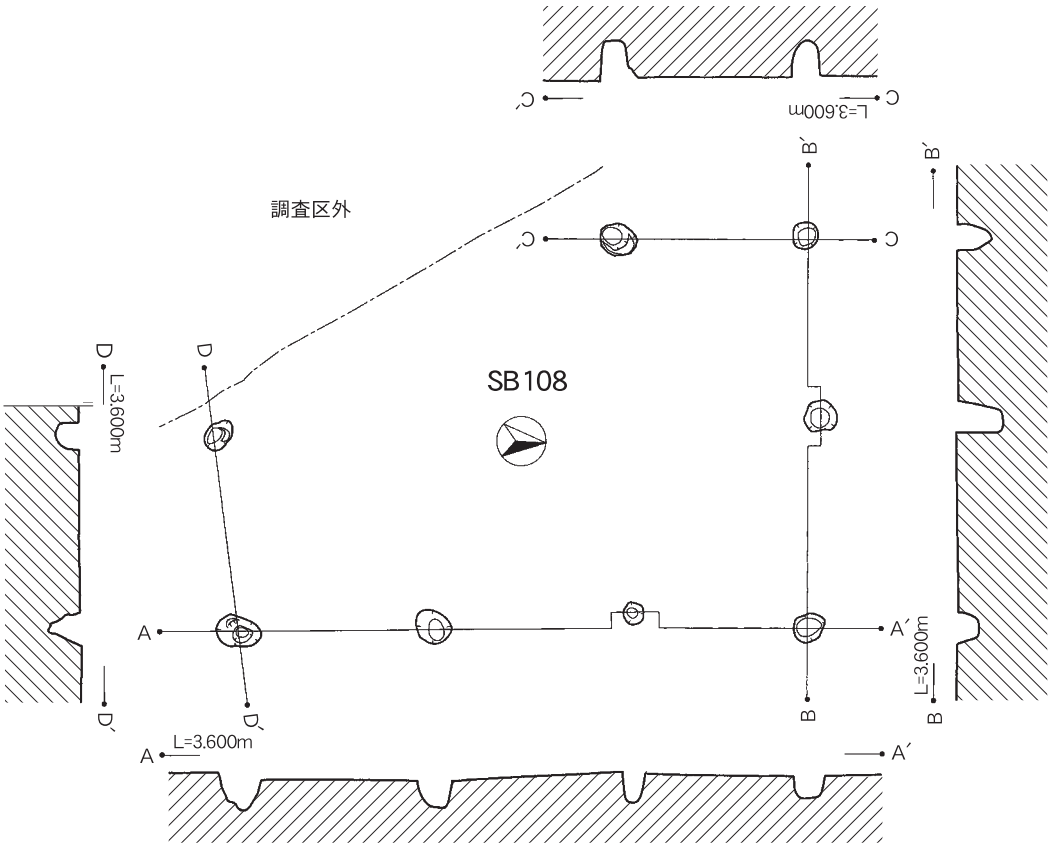
⑵　溝跡

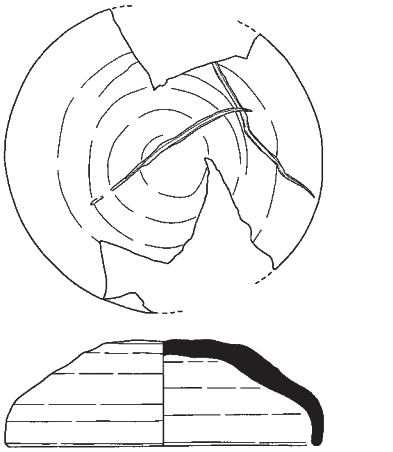
291号溝跡【S291】（第98図）

S291は調査区の中央部南で東西に伸びる遺構である。長さ12.12m以上、幅1.47m、深さ0.39mを測る。覆土は、５層に分層される。出土遺物は、311の高台付き杯と321の土錘である。また図化していないが、５点の土錘が出土している。



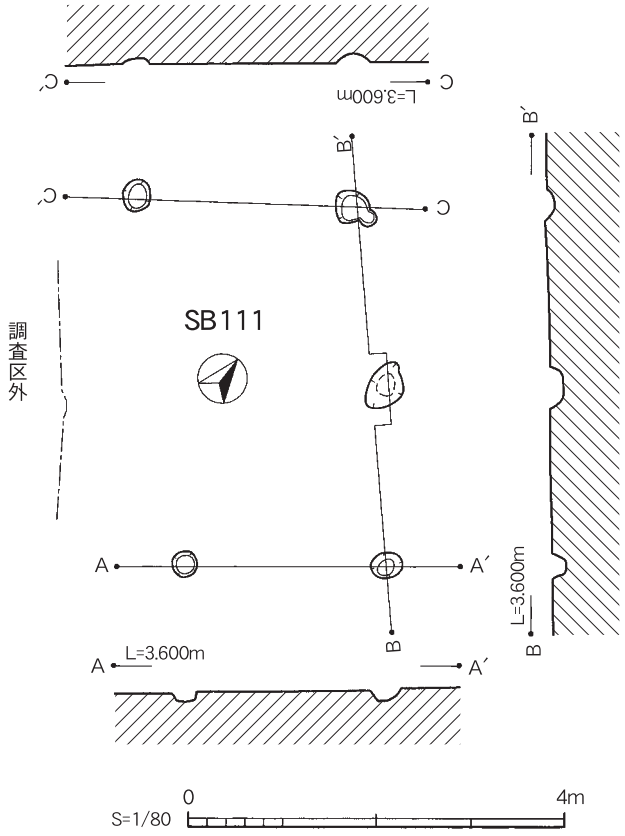
第94図　Ⅵ区遺構配置図（S=1/250）





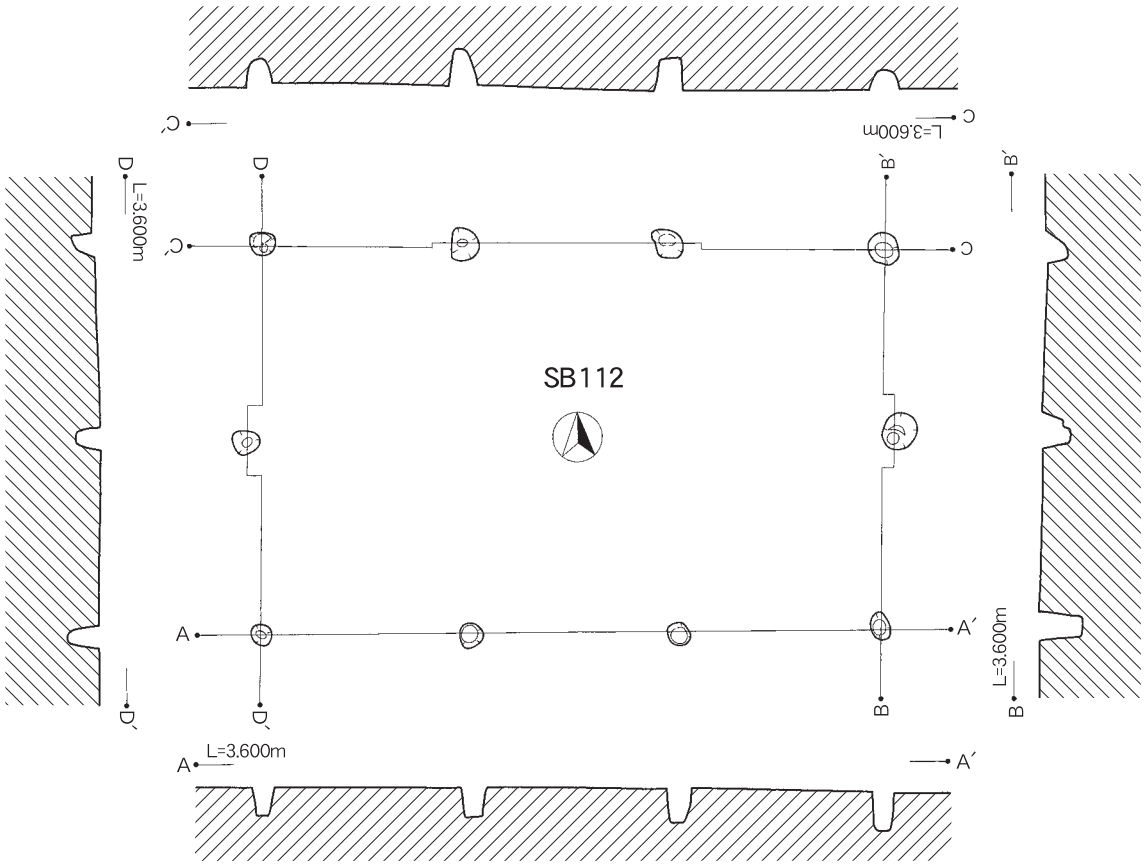
310
（SB108）

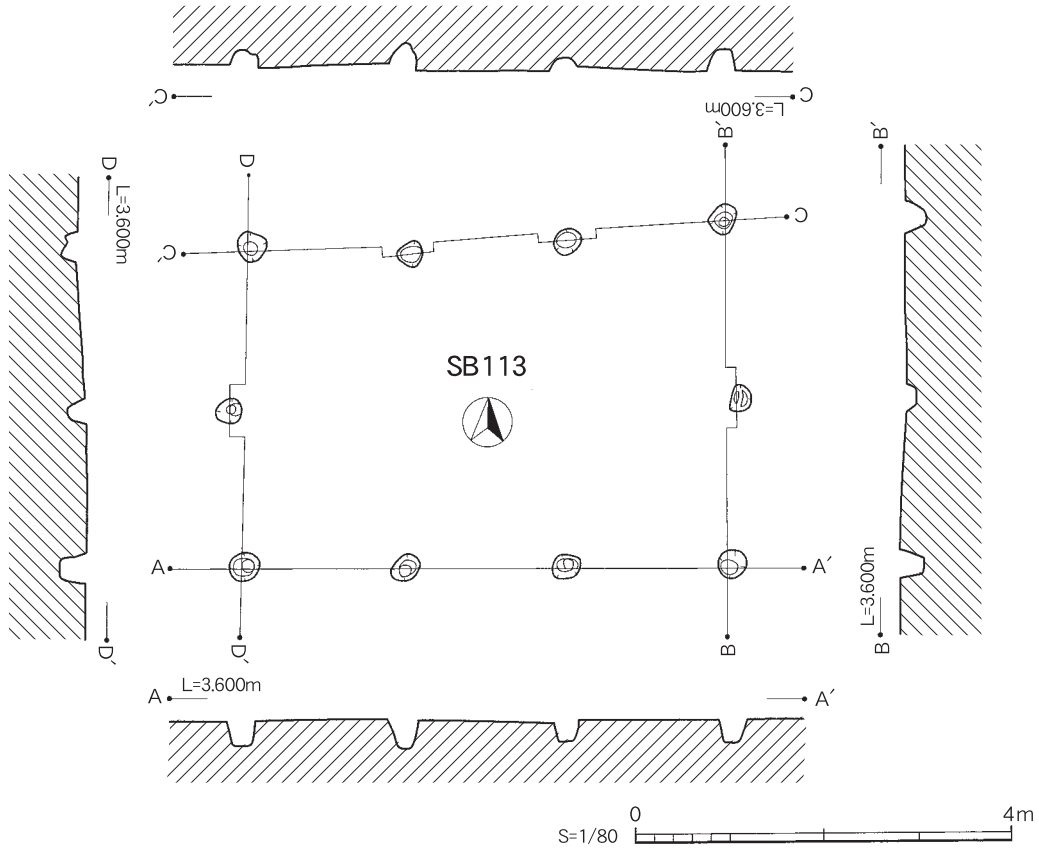
S=1/3　0　10cm



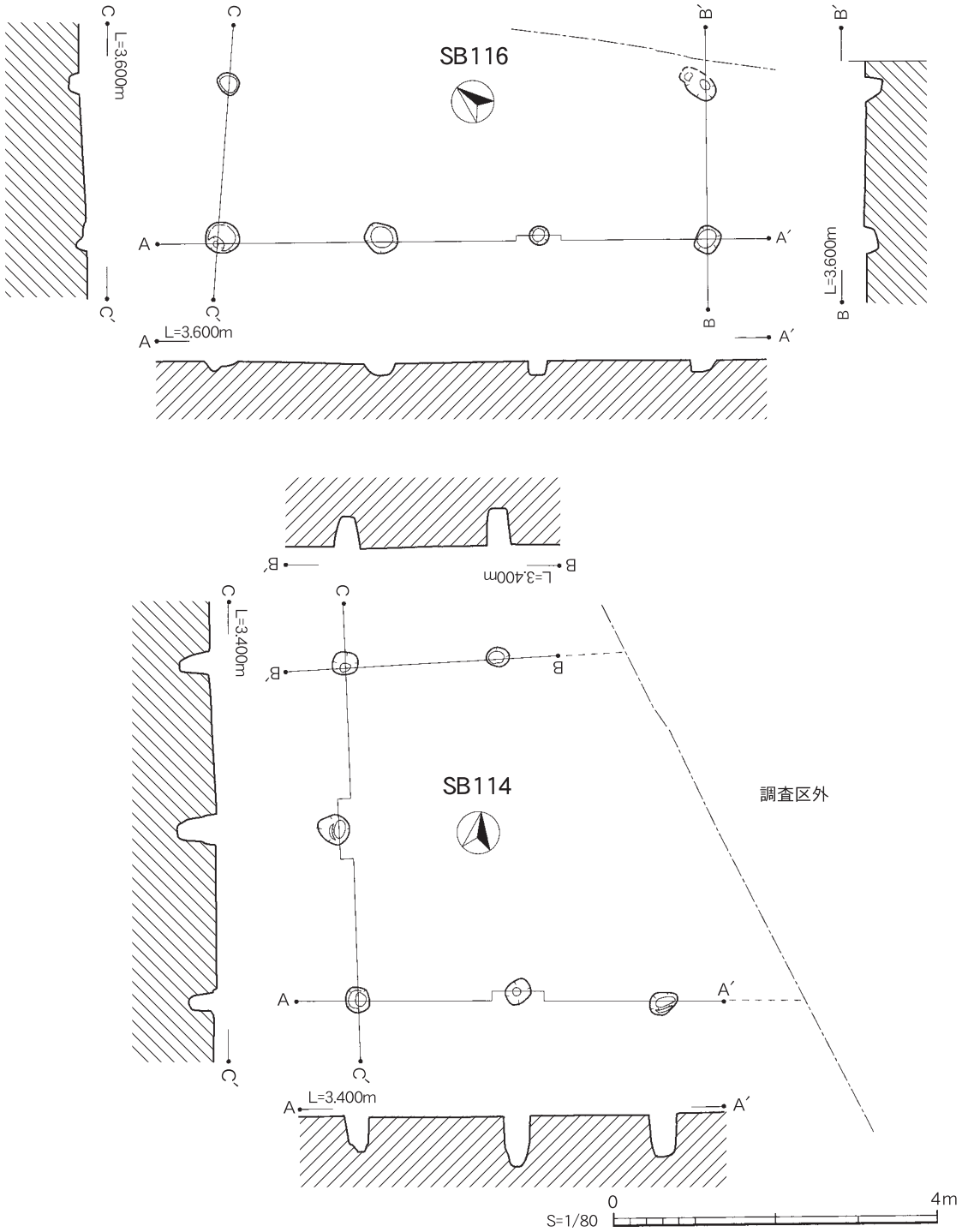
S=1/80　0　4m

第95図　Ⅵ区掘立柱建物跡（SB108・111）実測図及び出土遺物実測図





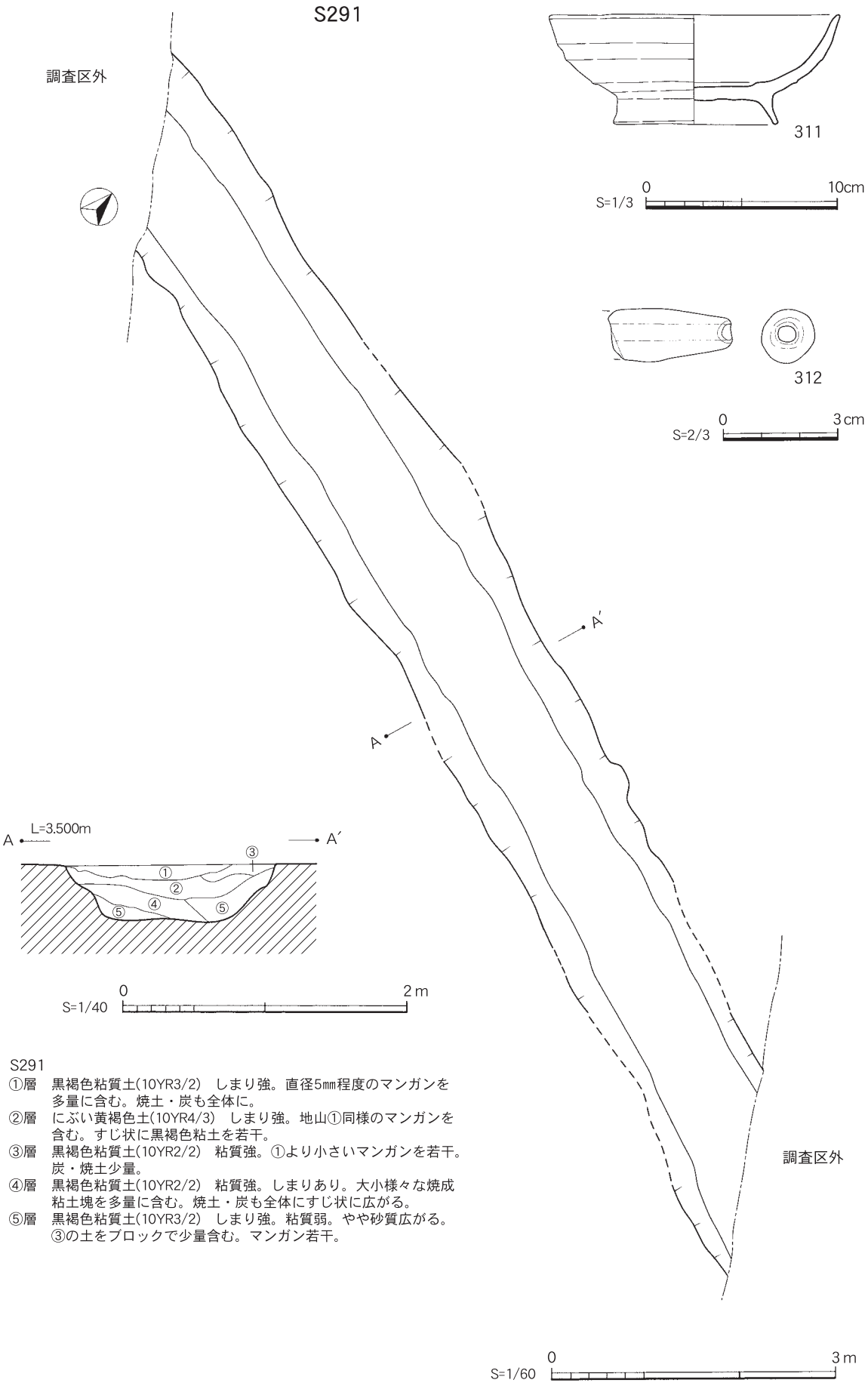
第96図　掘立柱建物跡（SB112・113）実測図



第97図　掘立柱建物跡（SB116・114）実測図

表18　Ⅵ区　掘立柱建物跡（SB）計測表

区	遺構番号	間数	桁長		梁長		向き	型式	方位	桁桁平均		梁間平均		柱穴直径	柱穴深さ
			m	尺	m	尺				m	尺	m	尺	cm	cm
Ⅵ	SB108	3×2	6.40	21.12	4.10	13.53	南北	側柱	N 5°W	2.12	7.00	2.05	6.77	24～46	16～50
Ⅵ	SB111	2×(1)	3.86	12.73	2.25	7.42	東西	側柱	N 45°E	1.93	6.37	2.22	7.33	26～38	8～16
Ⅵ	SB112	3×2	6.60	21.78	4.07	13.43	東西	側柱	N 87°W	2.20	7.26	2.03	6.70	24～40	26～46
Ⅵ	SB113	3×2	5.10	16.83	3.50	11.55	東西	側柱	N 85°E	1.70	5.61	1.75	5.78	27～34	10～32
Ⅵ	SB116	3×(1)	6.10	20.13	2.00	6.60	東西	側柱	N 40°W	2.03	6.70	2.00	6.60	13～40	13～20
Ⅵ	SB114	(2)×2	3.60	12.34	4.10	13.53	東西	側柱	N 82°E	1.87	6.17	2.05	6.77	28～42	34～62



S291
①層　黒褐色粘質土(10YR3/2)　しまり強。直径5㎜程度のマンガンを多量に含む。焼土・炭も全体に。
②層　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　しまり強。地山①同様のマンガンを含む。すじ状に黒褐色粘土を若干。
③層　黒褐色粘質土(10YR2/2)　粘質強。①より小さいマンガンを若干。炭・焼土少量。
④層　黒褐色粘質土(10YR2/2)　粘質強。しまりあり。大小様々な焼成粘土塊を多量に含む。焼土・炭も全体にすじ状に広がる。
⑤層　黒褐色粘質土(10YR3/2)　しまり強。粘質弱。やや砂質広がる。③の土をブロックで少量含む。マンガン若干。

第98図　Ⅵ区溝跡（Ｓ291）実測図及び出土遺物実測図

⑶　井戸跡

290号井戸跡【S290】（第99図）

S290は調査区の中央部に位置し、長軸3.19m、短軸0.88m、深さ0.66mを測る。覆土は11層に分かれ、素掘りの井戸ではないかと、推定される。この遺構からは、313の鉄鋤先が出土している。

⑷　土坑

332号土坑【S332】（第99・100図）

S332は290号井戸跡にほとんど切られている。長軸1.2m以上、短軸0.58m以上、深さ0.33mを測り、覆土は暗褐色粘質土の単一層である。出土遺物は、314・315の甕である。316は土錘で、図化していないが、もう１点出土している。

321・322号土坑【S321・322】（第101図）

S321と322は調査区の南端にあり一緒に検出された。S321は長軸1.63m、短軸0.88m、深さ0.17mを測り、S322は長軸2.30m以上、短軸は0.99m、深さ0.13mを測る。317は、S321から出土した土師器の杯である。

299号土坑【S299】（第101図）

S299は北端に位置する遺構である。長軸1.43m、短軸1.05m、深さ0.40mを測り、平面形は方形。この遺構からは319の滑石製の石錘が出土している。

292号土坑【S292】（第102図）

S292は調査区の南部にあり、291号溝跡の南側に位置する。長軸3.32m以上、短軸2.72mを測り、深さは0.10mを測り、覆土は黒褐色粘質土の単一層だが、小さな土坑に切られる。319の石錘が出土した。

293号土坑【S293】（第102図）

S293は292号土坑に隣接する遺構である。長軸2.88m、短軸2.50m、深さ0.42mを測る。平面形は楕円形を呈し、覆土は３層に分層される。

294・296号土坑【S294・296】（第102図）

S294・298は292号土坑の西南側を切る遺構である。径は1.10mと1.20m程度のほぼ円形を呈する。

297・298号土坑【S297・298】（第102図）

S296・297は292号土坑の北東側を切る遺構である。大きさ1.00m弱、深さは0.30m前後で、平面形はほぼ円形である。

313号土坑【S313】（第103図）

S313は292号土坑の北側にあり、長軸1.15m、短軸0.82m、深さ0.10mを測り、平面形は楕円形を呈し、覆土は単一層である。320はこの土坑から出土した土錘である。

325号土坑【S325】（第103図）

S325は313号土坑の隣接する遺構である。長軸0.83m、短軸0.81m、深さ0.13mを測り、ほぼ円形である。

311・344号土坑【S311・344】（第103図）

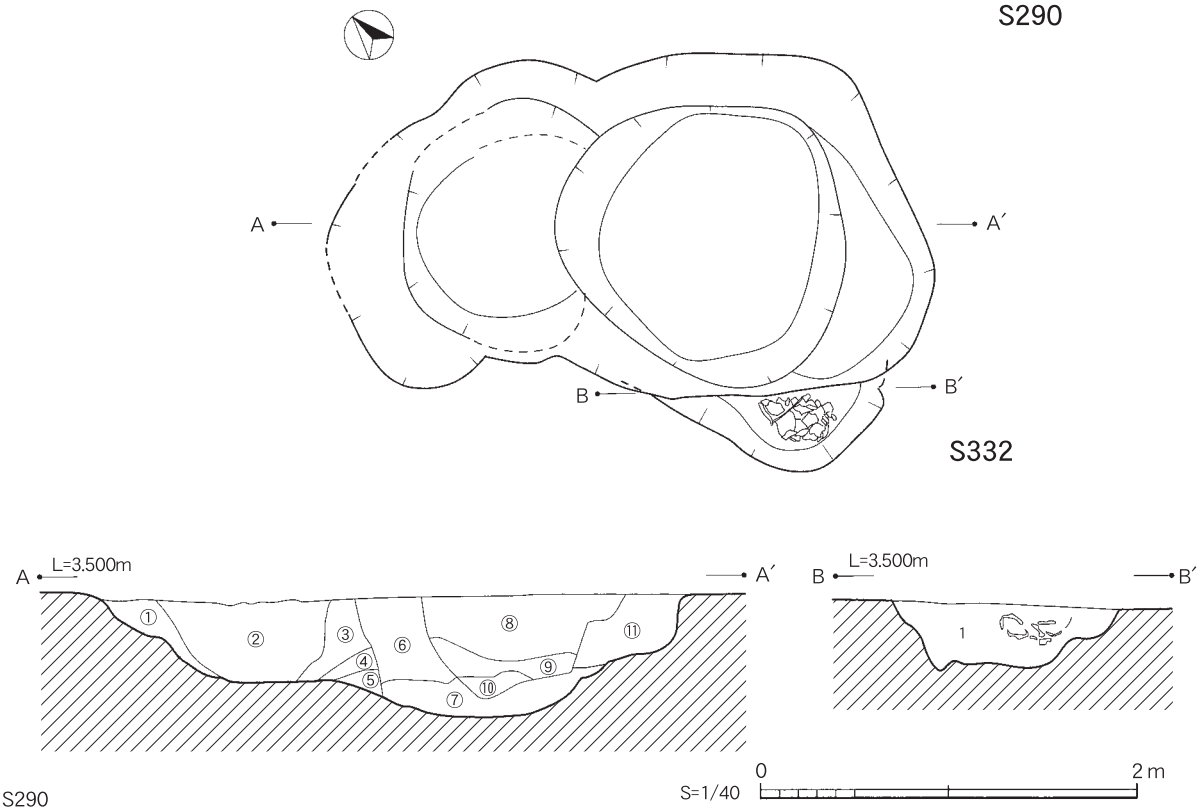
S311・344は291号溝跡の北側に位置し、平面形はほぼ円形で、２層に分層される。S344の東半分は調査区外にある。覆土は単一層である。

312号土坑【S312】（第103図）

S312は調査区の南部にあり、径9.00m前後の円形を呈する。覆土は単一層である。

314・315号土坑【S314・315】（第103図）

S314・315は調査区の中央部にある111号・116号掘立柱建物跡の間に位置する。S314はほぼ円形を呈

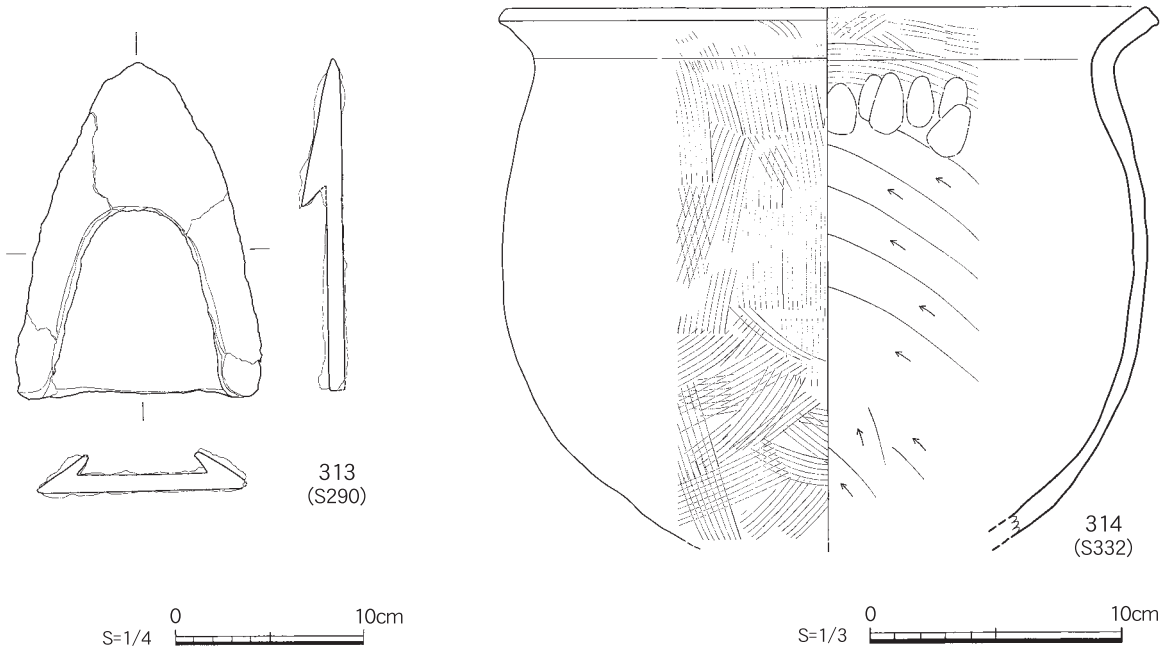


S290

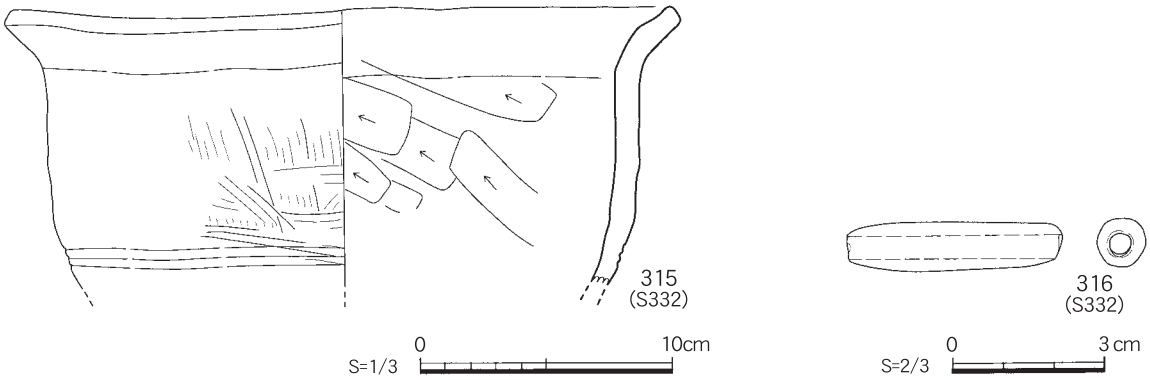
①層　灰黄褐色（10YR6/2）しまり中、粘性弱。水の影響を受けたと思われる。鉄分の沈着が見られる。量が多い。
②層　灰黄褐色（10YR6/2）しまり中、粘性中。①より少ないが鉄分の沈着が見られる。
③層　灰黄褐色（10YR6/2）しまり中、粘性中。極めて多量の鉄分を含む。
④層　灰黄褐色（10YR6/2）しまり中、粘性中。鉄分の沈着はあまりみられず少量の砂を含む。
⑤層　黄褐色（10YR5/6）しまり小、粘性強。鉄分を含む砂層。
⑥層　灰黄褐色（10YR6/2）しまり中、粘性弱。鉄分の沈着が均一に見られる。　砂を少量含む。
⑦層　褐灰色（10YR6/1）しまり中、粘性強。鉄分を含む粘土層。砂質強。
⑧層　灰白色（10YR7/1）しまり中、粘性弱。少量の鉄分と砂を含む。
⑨層　灰白色（10YR7/1）しまり中、粘性中。⑧とは粘性の違いのみ。
⑩層　灰色（10Y5/1）しまり中、粘性強。鉄分を含む粘土層。
⑪層　灰色（10Y5/1）しまり中、粘性中。鉄分を含む。粘質強。

S332

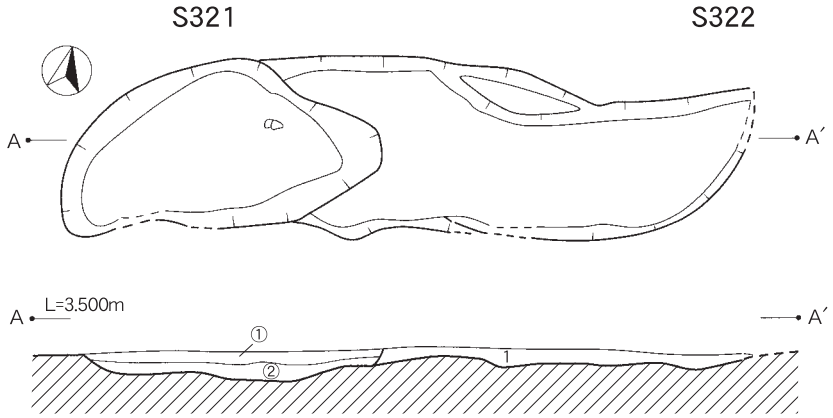
1層　暗褐色粘質土（10YR3/3）砂質強。特に下部が強く見られる。たてすじ状に黒褐色粘土を含む。
　　マンガンが全体に広がる。炭若干。



第99図　Ⅵ区井戸跡（Ｓ290）・土坑（Ｓ332）実測図及び出土遺物実測図（１）

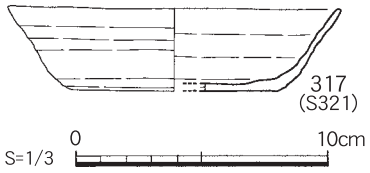


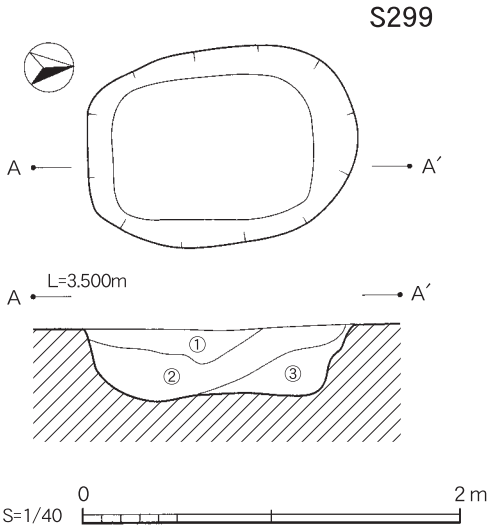
第100図　土坑（Ｓ332）出土遺物実測図（２）

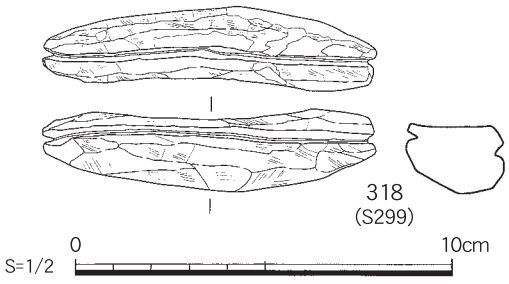


S321
①層　黒褐色粘質土(10YR3/2)　しまり強。小さい焼土・炭をまばらに含む。マンガン多量。
②層　黒褐色粘質土(10YR3/2)　①より土色はやや灰色に近い。粘質強。①同様マンガンが多いが大きさはやや小さめ。

S322
1 層　暗褐色粘質土(10YR3/3)　しまりあり。細かいマンガンを全体に含む。
　　黒褐色粘土をすじ状に含む。

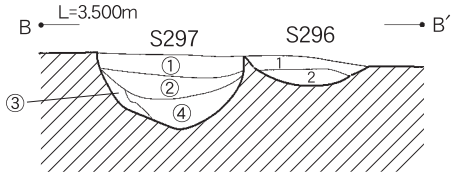






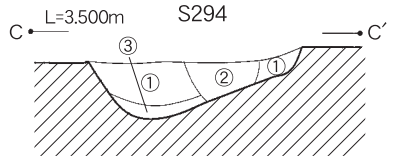
S299
①層　黒褐色粘質土(10YR3/2)　やや粘質。地山のブロックをまばらに含む。炭・焼土微量。マンガンを多量。
②層　暗褐色粘質土(10YR3/3)　しまりあり。地山の土に酷似しているが①をブロック状に含んでいる。炭・焼土微量。
　　①より小さいがマンガン多量。
③層　暗褐色粘質土(10YR3/3)　やや粘質。②と同様のマンガンを多量に含む。②より焼土・炭はやや多く含む。

第101図　土坑（Ｓ321･322･299）実測図及び出土遺物実測図



S296
1 層　黒褐色粘質土(10YR3/2) しまり強。直径5㎜程度のマンガンを多く含む。
2 層　黒褐色粘質土(10YR3/2) しまり強。小さいマンガンを全体に薄く。
　　地山の土の小さいブロックをまばらに含む。

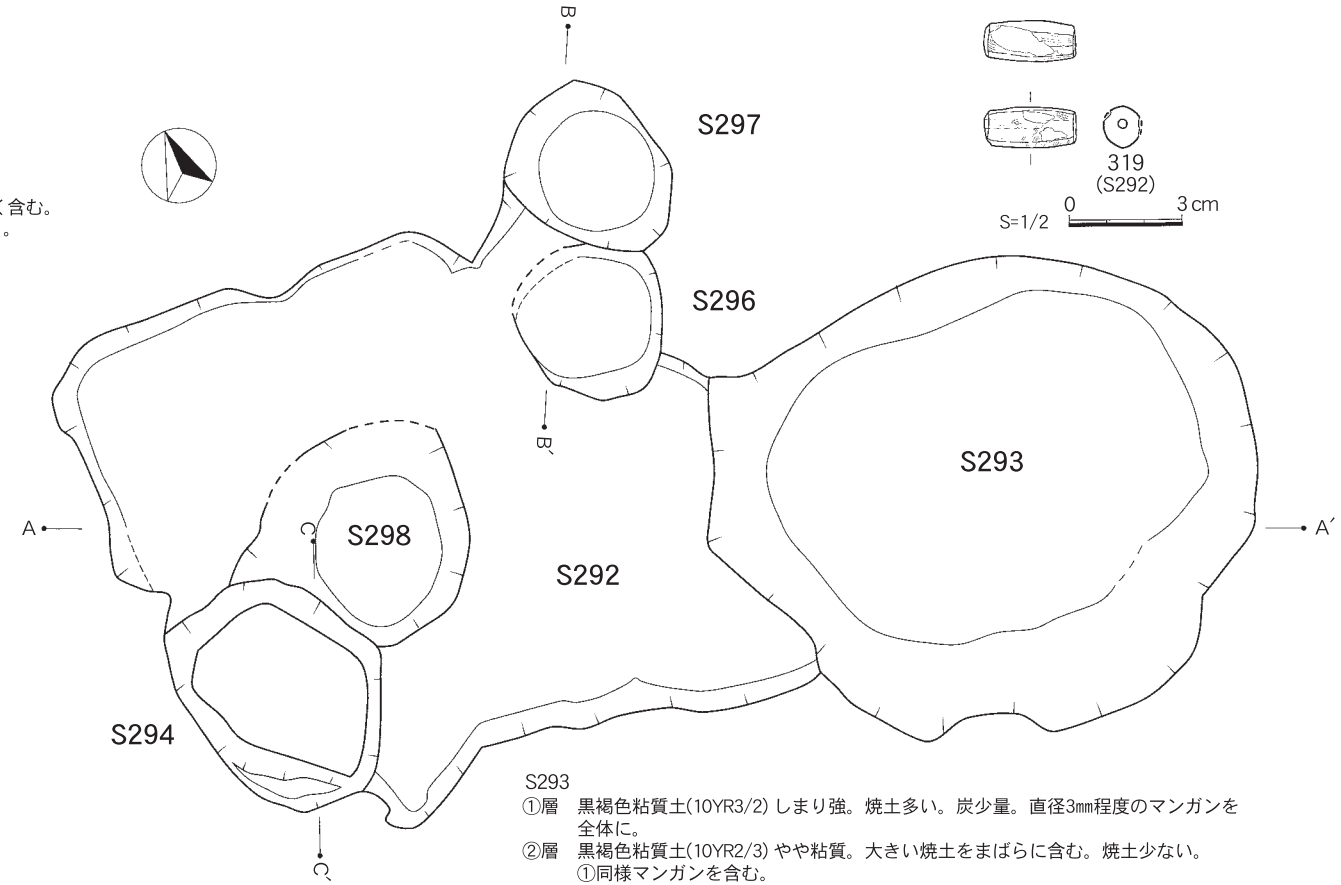
S297
①層　黒褐色粘質土(10YR2/2) しまりあり。焼土・炭を若干。
　　直径5㎜のマンガンを全体に。
②層　黒褐色粘質土(10YR3/2) しまり弱。やや粘質。小さい地
　　山のブロックを少量。炭若干。
③層　にぶい黄褐色粘質土(10YR4/3) しまり強。地山の土。黒
　　褐色粘土をすじ状に含む。
④層　黒褐色粘質土(10YR3/2) 粘質強。小さいマンガンを全体
　　に含む。炭少量。



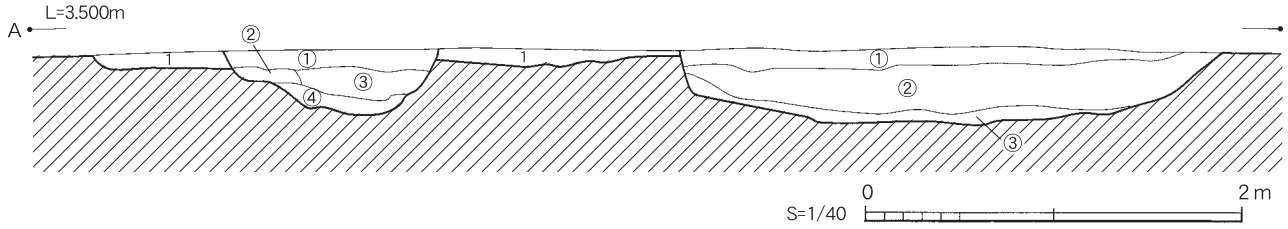
S294
①層　黒褐色粘質土(10YR3/2) しまりあり。やや粘質。直径3㎜程度
　　のマンガンを全体に含む。炭・焼土微量。
②層　黒褐色粘質土(10YR3/2)　①と同様のマンガンを全体に含む。
　　①よりしまりあり。
③層　黒褐色粘質土(10YR3/2) 粘質強。①よりもマンガン多量。焼土
　　微量に含む。

S292
1 層　黒褐色粘質土(10YR3/2)　しまり強。直径5㎜程度のマンガンを多く含む。

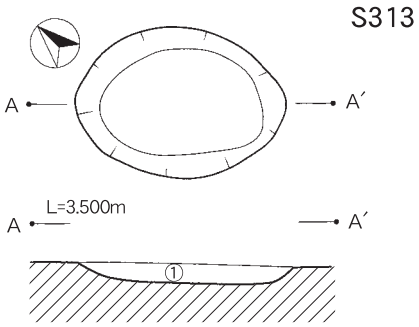
S298
①層　黒褐色粘質土(10YR3/2) しまり強。マンガンを
　　多量に含む。暗褐色粘土ブロック少量。
②層　暗褐色粘質土(10YR3/4) しまり強。地山の土。
　　黒褐色粘土をブロック状に含む。
③層　黒褐色粘質土(10YR3/2) しまり強。焼土若干。
　　①より少ないがマンガンを含む。
④層　黒褐色粘質土(10YR3/2)　やや粘質。③同量の
　　マンガンを含む。炭・焼土微量だが③より多い。

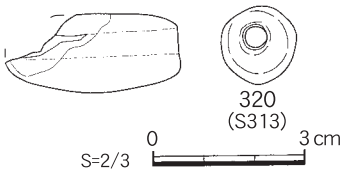


S293
①層　黒褐色粘質土(10YR3/2) しまり強。焼土多い。炭少量。直径3㎜程度のマンガンを
　　全体に。
②層　黒褐色粘質土(10YR2/3) やや粘質。大きい焼土をまばらに含む。焼土少ない。
　　①同様マンガンを含む。
③層　黒褐色粘質土(10YR3/1) 粘質強。灰土・炭を多量に含む。

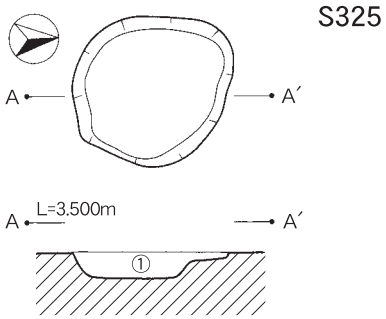


第102図　土坑（Ｓ292・293・294・296・297・298）実測図及び出土遺物実測図

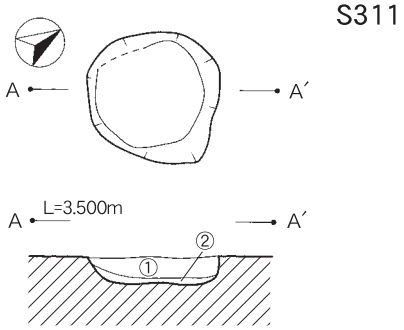




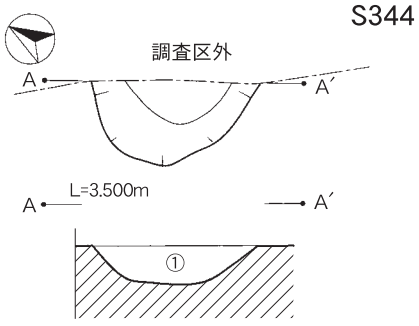
S313
①層　暗褐色粘質土(10YR3/3) しまり強。直径3㎜ほどのマンガンを多量に含む。
地山の土が下部にすじ状に広がる。焼土、炭、少量。



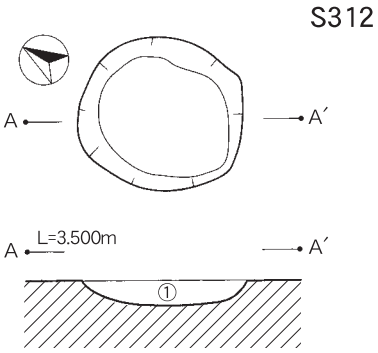
S325
①層　黒褐色粘質土(10YR3/2)　しまりあり。マンガンが全体に広がる。
炭はやや大きく少量含む。暗褐色土ブロック多量。



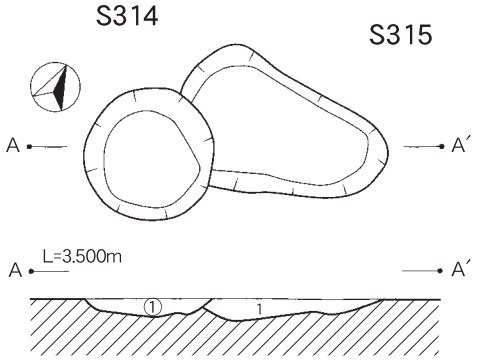
S311
①層　黒褐色粘質土(10YR2/3)　しまり強。大きめの炭・小さい焼土を多量に含む。マンガンも広がる。
②層　暗褐色粘質土(10YR3/3)　やや粘質。地山の土をブロック状に含む。炭・焼土は少量。



S344
①層　暗褐色粘質土(10YR3/3)　粘質弱。焼土・炭、少量。
マンガンが全体に含まれる。

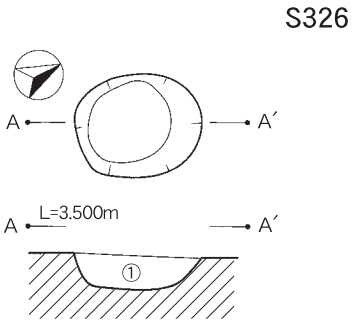


S312
①層　暗褐色粘質土(10YR3/3) しまり強。直径3㎜ほどのマンガンを多量に含む。地山の土が下部にすじ状に広がる焼土、炭、少量。

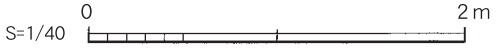


S314
①層　黒褐色粘質土(10YR3/2) しまりあり。直径3㎜のマンガンを多量に含む。焼土・炭は若干。

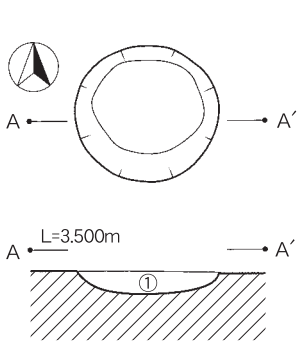
S315
1層　黒褐色粘質土(10YR3/2) しまりあり。直径3～5㎜ほどのマンガンを多量に含む。炭・焼土少量。下部に地山の土がすじ状に広がる。



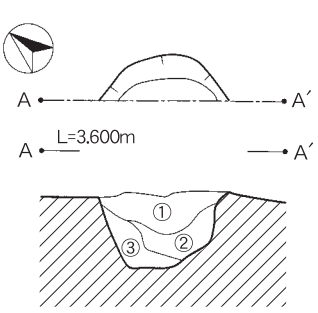
S326
①層　黒褐色粘質土(10YR2/2)　しまり強。マンガン直径5～3㎜のものも多量に小さい暗褐色土のブロックを若干。微細な炭、焼土。



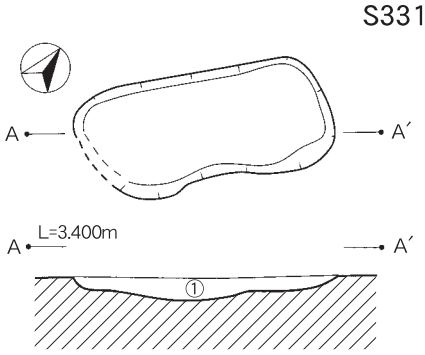
第103図　土坑（S313・325・311・344・312・314・315・326）実測図及び出土遺物実測図



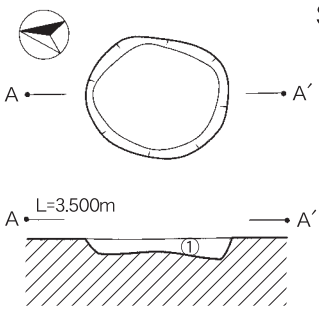
S327
①層　黒褐色粘質土(10YR2/2) しまり強。小さい炭を、中心部に多く含む。焼土は微細で少量。暗褐色土のブロックを全体に含む。



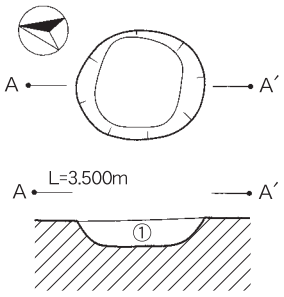
S310
①層　黒褐色粘質土(10YR3/1) しまり弱。大きいマンガンを全体に含む。
②層　黒褐色粘質土(10YR2/2) やや粘質。①よりマンガンは少量だが暗褐色土ブロックを若干含む。
③層　黒褐色粘質土(10YR2/2) 粘質強。②と同様のマンガンを含む。②より少ないが暗褐色土ブロックを含む。



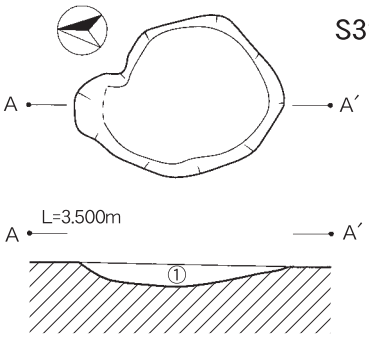
S331
①層　黒褐色粘質土(10YR3/2) 粘質強。しまりあり。直径5ミリほどのマンガンを多く含む。暗褐色粘土ブロックをまばらに含む。



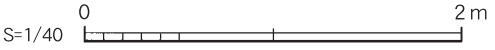
S318
①層　黒褐色粘質土(10YR3/2) しまりあり。直径3～5㎜マンガンを全体に含む。暗褐色土ブロックを若干。



S319
①層　黒褐色粘質土(10YR3/2) しまりあり。マンガンを全体に含む。炭・焼土を少量含む。



S328
①層　黒褐色粘質土(10YR3/2) しまりあり。やや砂質。マンガンを全体に含み暗褐色土ﾌﾞﾛｯｸを少量含む。



第104図　土坑（S327・310・331・318・319・328）実測図

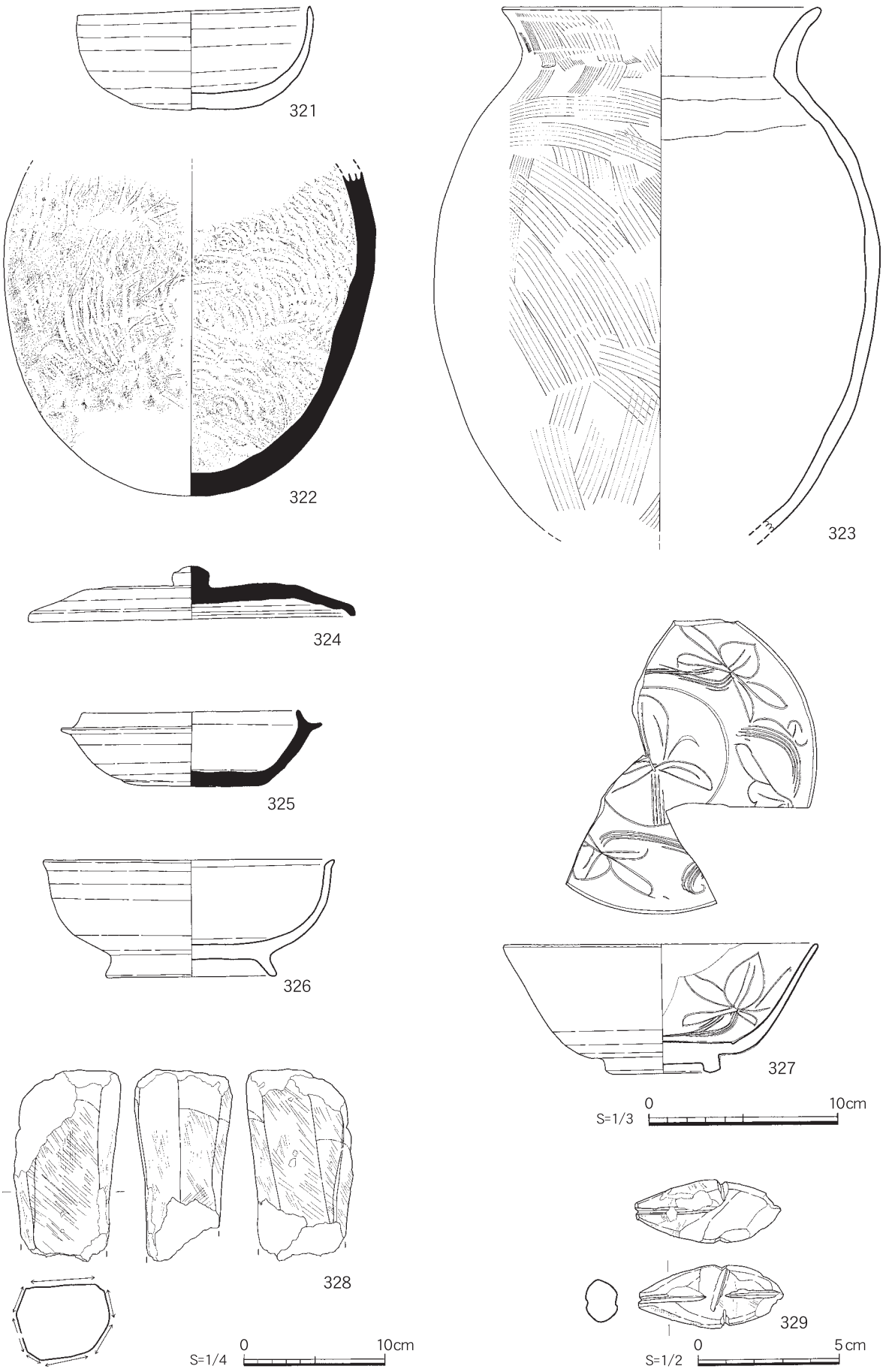
し、楕円形のS315を切る。覆土は単一層である。

326号土坑【S326】（第103図）

S326は調査区の中央部にあり、長軸0.70m、短軸0.55m、深さ0.18mを測り、平面形は円形である。覆土は黒褐色粘質土の単一層である。

327号土坑【S327】（第104図）

S327は調査区の北部の112号掘立柱建物跡の西側にあり、長軸0.78m、短軸0.77m、深さ0.11mを測り、



第105図　Ⅵ区出土遺物実測図

平面形は円形である。覆土は黒褐色粘質土の単一層である。

310号土坑【S310】（第104図）

S310は調査区の北側にあり、約半分は調査区外にある。長軸0.68m以上、短軸0.24m以上で、深さは0.42mと深く、覆土は３層に分かれる。

331号土坑【S331】（第104図）

S331は調査区の北側に位置し、長軸1.36m、短軸0.58m、深さ0.12mを測る。覆土は単一層である。

318号土坑【S318】（第104図）

S318は331号土坑の東側にあり、径0.70m前後を測り、平面形はほぼ円形、断面形も浅い皿状である。覆土は、黒褐色粘質土の単一層である。

319号土坑【S319】（第104図）

S319は調査区の北側にあり、平面形はほぼ円形、断面形も浅い皿状である。覆土は、黒褐色粘質土の単一層である。

328号土坑【S328】（第104図）

S328は調査区の北端に位置する。長軸1.14m、短軸0.85m、深さ0.20mを測る。覆土は黒褐色粘質土の単一層である。

３．その他

ここでは、２．遺構・遺物で遺構と共に述べられなかった遺物を概観する。なお、出土地点、法量、調整、色調、胎土等の詳細については、別表のとおりである。

Ⅵ区出土遺物（第105図）

321・323は、土師器の杯と甕である。322は須恵器の壺で、内面に同心円文の当て具痕と外面にタタキ痕が残る。324～326は須恵器の土器である。327は龍泉窯系の青磁の椀である。内面にヘラ描き文がある。328は天草砥石である。329は滑石製の石錘である。その他、図化していないが、総数62点の土錘がグリッドから出土される。しかし、完形は20点前後である。とくにＭ－９Ｇから14点が検出された。

表19　Ⅵ区検出遺構一覧表　（単位：m）

区	遺構番号	遺構名	長軸（長さ）	短軸（幅）	深さ	区	遺構番号	遺構名	長軸（長さ）	短軸（幅）	深さ
Ⅵ	S291	溝	12.12～	1.47	0.39	Ⅵ	S325	土坑	0.83	0.81	0.13
Ⅵ	S290	井戸	3.19	0.88	0.66	Ⅵ	S311	土坑	0.72	0.68	0.14
Ⅵ	S332	土坑	1.20～	0.58～	0.33	Ⅵ	S344	土坑	0.91	0.44～	0.18
Ⅵ	S321	土坑	1.63	0.88	0.17	Ⅵ	S312	土坑	0.92	0.82	0.14
Ⅵ	S322	土坑	2.30	0.99	0.13	Ⅵ	S314	土坑	0.71	0.69	0.10
Ⅵ	S299	土坑	1.43	1.05	0.40	Ⅵ	S326	土坑	0.70	0.54	0.18
Ⅵ	S292	土坑	3.32～	2.72	0.10	Ⅵ	S327	土坑	0.74	0.73	0.11
Ⅵ	S293	土坑	3.00	0.61	0.42	Ⅵ	S310	土坑	0.68～	0.24～	0.42
Ⅵ	S294	土坑	1.11	1.10	0.33	Ⅵ	S331	土坑	1.36～	0.58～	0.12
Ⅵ	S296	土坑	0.84	0.79	0.18	Ⅵ	S318	土坑	0.78	0.64	0.12
Ⅵ	S297	土坑	0.97	0.81	0.22	Ⅵ	S319	土坑	0.68	0.57	0.14
Ⅵ	S298	土坑	1.11	1.10～	0.31	Ⅵ	S328	土坑	1.14	0.85	0.20
Ⅵ	S313	土坑	1.15	0.82	0.10						

第4章　総　括

第1節　調査成果のまとめ

各調査区の調査成果の中で、遺構の主軸が判断できる掘立柱建物跡、柵列跡、溝跡の主軸に着目すると、大きく次の三つにわけることができる。A：北西～南東方向の主軸またはその方向と直交する主軸をもつ。B：Aより主軸が東側に振れるもの。C：北～南方向の主軸またはその方向と直交する主軸をもつ。このA～Cの分類を調査区ごとに見てみると下記のようになる。

Ⅰa区

A：掘立柱建物跡4棟（SB27～29・53）、柵列跡3基（SA6～8）、溝跡2条（S18・71）

B：掘立柱建物跡1棟（SB26）

C：掘立柱建物跡1棟（SB24）

Ⅲ区

A：掘立柱建物跡1棟（SB53）、柵列跡2基（SA18・20）

B：掘立柱建物跡1棟（SB48）

Ⅰb区

A：掘立柱建物跡8棟（SB12～15・19～21・23）、柵列跡2基（SA3・4）、溝跡2条（S20・21）

Ⅱ区・Ⅳb区

A：掘立柱建物跡3棟（SB37・69・78）、柵列跡3基（SA12・14・25）、溝跡3条（S112・115・226）

B：掘立柱建物跡1棟（SB68）

Ⅳa区

A：掘立柱建物跡1棟（SB79）、溝跡1条（S224）

Ⅴa区

A：掘立柱建物跡5棟（SB101・118・130・132・136）、溝跡1条（S284）

B：掘立柱建物跡4棟（SB82・92・99・124）

Ⅴb区

A：溝跡1条（S456）

Ⅵ区

A：掘立柱建物跡2棟（SB111・116）

B：溝跡1条（S291）

C：掘立柱建物跡4棟（SB108・112～114）

分類した結果を見ると、Aに分類した遺構が最も多く、44基である。Bに分類した遺構が8基、Cに分類した遺構が5基である。Aの主軸が振れたものがBであるので、両者には大きな時期差はないと考えられる。そのことから、AとBに分類した遺構が主流になると推定できる。全調査区を見ると、掘立柱建物跡の重複状況が最も多いのが4時期である。しかし、遺構の切り合い関係が明確に確認できていないので、遺構の前後関係が分からない。

これらの遺構の時期については、個別に判断できる資料がないため、出土した遺物から判断すると12世紀中葉から14世紀中葉と考えることができる。上記の分類の対象にした遺構の他に、井戸跡、土壙墓などが検出されており、今回発掘調査した部分は、中世の集落跡として位置づけることができる。

第２節　歴史的・地理的環境からみた遺跡の性格

今回の調査で確認した中世の集落跡の性格を判断するには、遺跡が立地する地域の歴史的環境、地理的環境から考察する必要がある。

遺跡が位置する芦北地域は古代から近世にかけての交通上の要衝であった。古代においては、「延喜式」駅路である「佐色駅」が設置されていた。当遺跡と隣接する花岡木崎遺跡からは、この駅に関連する文書木簡と考えられるものが井戸跡から出土している。木簡には「佐色」や駅制に係わる文字が確認されている（宮崎2009）。

近世になると、八代海（不知火海）に沿ってほぼ南北方向に薩摩街道が整備される。薩摩街道は、川尻（熊本市）・松橋（宇城市）・小川（宇城市）・八代（八代市）・日奈久（八代市）・田浦（芦北町）・佐敷（芦北町）・水俣（水俣市）を経て袋（水俣市）で薩摩国境になる。また、佐敷から東側に分岐した人吉街道も整備された。人吉街道は佐敷から東進し球磨川左岸に沿って一勝地までのぼり、渡利の渡しで右岸に渡り、中神を経て人吉城下に入る（松本他1999）。

肥後国内の近世舟路としては、慶安四年の「江戸江差し上げ候御帳の控」に37浦が記録されており、芦北郡には、日奈久浦、田浦、海浦、佐敷浦、津奈木浦、水俣浦、袋浦があげられている（松本他1999）。これらの中で、佐敷浦が当遺跡に近接した港である。

この佐敷浦を外港として利用したのは、近世の佐敷城跡（花岡城跡）の時期である。この佐敷城跡は当遺跡の西側にあり、佐敷川の流路が大きく北側に変化する地点の西側に近接している。近世佐敷城の城下町は城の東側に隣接して存在した。この城下町内をほぼ南北方向に薩摩街道が通っている。

中世期には近世街道とは異なるルートが想定されている。中世の薩摩街道は、潮の干満の影響を受けずに川の徒歩渡りが可能である現在の栫橋付近を南下するルートを推定してある。中世の人吉街道はこの栫橋付近で分岐し、佐敷東の城跡が立地する丘陵の裾部沿って北西～南東方向の伸びるルートを想定してある（鶴島2000）。

この中世人吉街道の想定ルートが伸びる方向と一致するのが上記１でまとめたＡに分類した遺構である。当遺跡の主流となるのがＡ・Ｂに分類した遺構であることから、中世人吉街道の伸びる方向を意識した主軸をもつ建物等が存在していたことになる。つまり、中世人吉街道に沿った集落であったと考えることができる。鶴島氏もこのルート沿いに中世の城下町を想定している（鶴島2000）。

集落全体を調査していないので、遺跡の全容は不明であるが、中世人吉街道沿いに、かなり大規模な集落が展開していたと推定できる。当遺跡の遺構の切り合い関係が明確でないため、Ｃに分類した遺構とＡ・Ｂに分類した遺構の前後関係が分からない。Ｃに分類した遺構は、中世人吉街道沿いに集落が展開した時期より前の時期または後の時期と推定できる。

ここで、課題となるのが佐敷東の城の築造時期と集落跡の時期の問題である。佐敷東の城は文献資料、遺構の特徴から築造時期を16世紀前半に比定してある（鶴島2000）。集落跡の時期は12世紀中葉から14世紀中葉と考えた。

佐敷東の城へ登り道は３ルートあり、各ルートの登り口に乙千屋・栫・宮浦の集落が存在している。その位置的な関係から、佐敷東の城に関係深い集落と考えることができる（鶴島2000）。これらの集落の成立時期が不明であるが、城の築造時期とほぼ同時期の16世紀前半頃と推定すれば、当遺跡で確認した集落はこれらの集落より先行する集落として考えることができる。城の登り口に展開された集落の中で、南西麓に存在する栫集落が両者の位置関係から、当遺跡と最も関係が深いと思われる。

引用参考文献

１．太宰府市教育委員会 2000『太宰府条坊跡ＸＶ―陶磁器分類編―』太宰府市の文化財　第49集
２．熊本県教育委員会2004『柳町遺跡Ⅱ』熊本県文化財報告　第218集
３．熊本県事典編集委員会編1982『熊本県大百科事典』
４．平凡社　1985 日本歴史地名体系44　『熊本県の地名』
５．熊本県教育委員会1978『熊本県の中世城跡』熊本県文化財報告書　第30集
６．芦北町教育委員会2004『佐敷城跡』芦北町文化財調査報告　第２集
７．阿蘇市教育委員会1996『阿蘇町文化財調査報告書　第４集』
８．南関町教育委員会2000『鷹ノ原城跡』南関町文化財調査報告書
９．芦北町教育委員会1977『芦北町誌』
10．熊本県教育委員会2000『祇園遺跡』熊本県教育委員会調査報告書　第188集
11．熊本県教育委員会2009『隈府土井ノ外遺跡』熊本県教育委員会調査報告書　第248集
12．熊本県教育委員会2010『上小田宮の前・養寺遺跡』熊本県教育委員会調査報告書第255集
13．宮崎敬士　2009「熊本・花岡木崎遺跡」『木簡研究』第31号
14．松本寿三郎、板楠和子、工藤敬一、猪飼隆明　1999『熊本県の歴史』　山川出版社
15．鶴島俊彦　2000「中世相良氏の佐敷城」『ひとよし歴史研究』人吉市教育委員会、人吉市文化財保護委員会

表20　花岡古町遺跡出土遺物観察表（１）

図版番号	遺物番号	器種	出土地点				法量（cm）			調整		色調		胎土	焼成	残存率
			地区	遺構	層位	取り上げ	口径	底径	器高	（内面）	（外面）	（内面）	（外面）			
9	1	杯（土師器）	Ⅲ区	SB53		Pit4,一括	（15.7）	（7.3）	3.2	回転ナデ	回転ナデ、ヘラ切り	浅黄橙 7.5YR8/3	淡橙 5YR8/3	長石	良好	1/2
9	2	杯（土師器）	Ⅲ区	SB48		Pit2	7.3	4.3	2.6	ナデ、ヨコナデ	ヨコナデ、ヘラきり離し	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	1㎜以下の雲母、長石、赤色粒、黒色粒	良	ほぼ完形
11	3	杯（土師器）	Ⅰa区	S18		一括	（10.5）	6.3	2,3	ヨコナデ	糸切り、ヨコナデ	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	1㎜以下の長石、雲母、赤褐色粒、黒色粒等	良好	3/4
12	4	杯蓋（須恵器）	Ⅰa区	S77		一括	（12.8）	－	5.0	回転ナデ、沈線状の工具痕	回転ナデ、回転ヘラケズリ、回転ヘラ切り、ヘラ描き文	灰白 2.5Y8/1	灰白 2.5Y8/2	石英と長石の微細粒を少量含み、粗い	良好	1/2
15	6	杯（土師器）	Ⅲ区	S169		No.1,一括	15.2	8.7	3.9	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕、板状圧痕	浅黄橙 7.5YR8/4	浅黄橙 7.5YR8/3	長石	良好	1/2
15	7	杯（土師器）	Ⅲ区	S137		一括	（12.6）	6.6	4.3	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	石英	良好	1/3
16	9	短頸壷（土師器）	Ⅲ区	S146,147		一括	（12.4）	－	11.2～	ケズリのちナデ、粘土重ね痕、ヨコナデ	タテハケメ痕、ナデ、ヨコナデ	橙 7.5YR7/6	橙 5YR7/6	1～3㎜の石英、長石、雲母、褐色粒	良好	約1/3
17	10	杯（瓦質土器）	Ⅲ区	S199		一括	11.8	5.0	4.05	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ、貼付高台	灰白 10YR8/2	橙 5YR7/6	1㎜以下の長石、石英、赤色粒と2㎜以下の雲母、3㎜以下の黒色粒子	良好	1/2
17	11	椀（瓦器）	Ⅲ区	S199		Pit1,一括	（15.8）	（5.3）	5.6	回転ナデ、ヘラミガキ	回転ナデ、ヘラミガキ	灰白 2.5Y8/2	淡黄 2.5Y8/3	長石と石英の微細粒、精緻	良好	1/2弱
20	12	蓋（須恵器）	Ⅰa区	E-5G	Ⅵ層	一括	（13.0）	－	4.1	回転ナデ	回転ナデ、ヘラケズリ	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	3㎜以下の白色粒子を少量含み、精緻	良好	1/3
20	13	模倣杯（土師器）	Ⅰa区	D-5G	2層	No.6,7	10.1	－	4.7	摩滅（ヨコナデ）	摩滅（ヨコナデ）	にぶい褐 7.5YR7/3	にぶい褐 7.5YR6/4	石英と角閃石	良好	4/5
21	15	皿（土師器）	Ⅲ区	B-5G		一括	（9.2）	（6.9）	1.3	回転ナデ	回転ナデ、ヘラ切り	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2	長石	良好	1/3
21	16	杯（土師器）	Ⅲ区	D-5G,C-5G		Pit5	（7.3）	（4.0）	2.8	ヘラケズリ後ナデ	ヘラケズリ後ナデ	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	1㎜以下の長石、雲母、角閃石、赤色粒、黒色粒	良	1/3
21	17	模倣杯（土師器）	Ⅲ区			一括	（11.3）	－	4.7	工具ナデ	工具ナデ	淡黄 2.5Y7/3	黄灰 2.5Y4/1	石英と長石	良好	2/3
21	18	杯蓋（土師器）	Ⅲ区			一括	（14.2）	－	5.0～	ナデ、ヨコナデ	ヘラケズリのちナデ	浅黄橙 7.5YR8/4	橙 7.5YR7/6	2㎜以下の石英を少量、長石の細粒	良好	約1/2弱
21	19	高杯（土師器）	Ⅲ区	A-3G.4G	Ⅸ層	Pit6	（13.8）	－	4.9～	ナデ、赤彩	ナデ、工具ナデ、赤彩	橙 5YR7/6	にぶい橙 5YR7/4	長石、石英、角閃石、赤色粒	良好	1/4
21	20	高杯（土師器）	Ⅲ区	A-3G.4G	Ⅸ層	一括	12.2	－	6.5～	工具ナデ	工具ナデ、指頭圧痕	浅黄橙 7.5YR8/4	浅黄橙 7.5YR8/4	長石、石英、赤色石	良好	上部2/3
21	21	高杯（土師器）	Ⅲ区	A-3G	Ⅸ層		14.4	－	6.4～	杯部調整不明、赤色顔料、脚部工具痕	調整不明、赤色顔料痕	橙 5YR6/8	橙 5YR7/6	1～7㎜の石英、1㎜位の長石、雲母、褐色粒	良好	ほぼ完形
21	22	杯蓋（須恵器）	Ⅲ区	B-5G	Ⅸ層		（10.6）	－	3.3	回転ナデ、仕上げナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ヘラ描き文	灰 N6/0	灰 N5/0	1㎜以下の石英と長石、精緻	良好	2/3
21	23	杯身（須恵器）	Ⅲ区			一括	（11.0）	（5.0）	3.7	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ切り	灰白 7.5Y7/1	灰 10Y6/1	3㎜以下の長石と2㎜以下の石英	良好	口縁部3/8
21	24	高台付杯（瓦質土器）	Ⅲ区	B-5G		一括	15.4	6.7	5.9	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ、高台貼付	淡黄 2.5Y8/3	淡黄 2.5Y8/3	精緻	良好	3/4
21	25	椀（黒色土器）	Ⅲ区	B-5G		No.6	（16.6）	－	4.8～	ハケメのち内黒、ヨコナデのち黒色	ケズリのちナデ、ヨコナデのち黒色	黒 N2/	にぶい橙 7.5YR6/4	長石の細粒、ガラス片	良好	約1/2

表21　花岡古町遺跡出土遺物観察表（２）

図版番号	遺物番号	器種	出土地点				法量（cm）			調整		色調		胎土	焼成	残存率
			地区	遺構	層位	取り上げ	口径	底径	器高	（内面）	（外面）	（内面）	（外面）			
21	26	皿（白磁）	Ⅲ区	B-4G		Pit3	10.3	4.0	2.7	蛇の目釉剥ぎ（カンナ痕・離れ砂）、沈線、施釉	回転ヘラケズリ（カンナ痕）、沈線、ケズリ出し高台、施釉	灰白 5Y7/1	灰白 5Y7/1	1㎜以下の黒色粒子、精緻	良好	3/4
25	37	皿（土師器）	Ⅰb区	SB19		Pit12	8.1	6.4	1.4	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	浅黄橙 7.5YR8/3	浅黄橙 7.5YR8/4	長石と赤色粒	良好	完形
26	38	杯（土師器）	Ⅰb区	SB21		Pit7	12.2	8.2	3.8	回転ナデ	ヘラ切り（左）、回転ナデ	橙 5YR7/6	橙 5YR7/6	長石細粒、2㎜以下の石英、雲母、赤色粒	良好	ほぼ完形
30	39	杯（土師器）	Ⅰb区	S22		一括	(8.4)	1.5	6.8	ヨコナデ	ヨコナデ、糸切り	橙 5YR7/6	橙 5YR6/6	2㎜程度の黒色粒、赤褐色粒、長石	良好	2/3
31	40	皿（土師器）	Ⅰb区	S2		一括	(9.0)	7.2	1,9	ヨコナデ	糸切り、ヨコナデ	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2	1,5㎜以下の長石、石英、黒曜石	良	3/4
31	41	杯（土師器）	Ⅰb区	S3		No.6,9	(12.9)	10.5	2.85	ナデ	ナデ	にぶい橙 YR7/4	にぶい橙 YR7/4	4.5㎜以下の赤褐色粒、角閃石、石英、長石、石など	良好	口縁部分が4/5欠損
31	42	皿（白磁）	Ⅰb区	S10		①	11.6	8.2	2.1	回転ナデ、施釉	回転ナデ、回転ヘラ切り、施釉	灰白 10Y8/1	灰白 10Y8/1	精緻	良好	2/3
32	44	皿（土師器）	Ⅰb区	S8		一括	8.4	3.0	1.7	ヨコナデ	ヨコナデ、糸切り	橙 5YR7/6	橙 5YR7/7	1㎜以下の角閃石、石英、長石、黒曜石、赤褐色粒、砂粒	良好	口縁部分1/3欠損
32	45	摺鉢（瓦質土器）	Ⅰb区	S52		一括	(18.7)	20.4	(9.5)	タテヨコ方向ハケ目・ヨコ方向にハケ目調整	タテ方向ハケ目、ハケ目後ナデ	灰白 10Y8/1	灰 5Y6/1・N6/	2㎜以下の角閃石、石英、黒色粒、石など含む	良	1/2
34	47	皿（土師器）	Ⅰb区	S34,48		一括	8.4	7.6	1.15	ナデ	ナデ、糸切り	浅黄橙 10YR8/6	浅黄橙 10YR8/4	1㎜以下の角閃石、雲母、赤褐色粒、石など含む	良	ほぼ完形
34	48	皿（土師器）	Ⅰb区	S45		一括	7.9	6.1	1.3	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕のち圧痕	褐灰 10YR1/5	黄橙 10YR8/6	長石と角閃石	良好	完形
34	49	杯（土師器）	Ⅰb区	S34		一括	13.1	8.2	2.95	ナデ（磨滅している）	糸切りのちナデ	浅黄橙 10YR8/4	褐灰 10YR4/1	2㎜以下の石英、長石、赤褐色粒黒色粒、砂粒	良好	ほぼ完形
34	50	椀（青磁）	Ⅰb区	S45		③	(15.2)	4.8	6.2	施釉（貫入）	回転ナデ、蓮弁文、施釉（貫入）	オリーブ灰 10Y5/2	オリーブ灰 10Y5/2	精緻	良好	底部完存
34	51	摺鉢（瓦質土器）	Ⅰb区	S34,S45		一括	26.2	10.3	11.1	ハケメ、ヨコナデ	ハケメ、ケズリ、ナデ、ヨコナデ、指頭圧痕	灰 N6/0	灰 N6/0	1㎜以下の小石を少量	良好	9/10
35	52	皿（土師器）	Ⅰb区	S48		No.2	7.9	6.4	1.8	ヨコナデ	ヨコナデ、糸切り	にぶい橙 5YR7/4	橙 5YR7/6	1㎜以下の長石、雲母、赤色粒、黒色粒	良	ほぼ完形
35	53	皿（土師器）	Ⅰb区	S48		一括	7.8	6.3	1.5	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	にぶい橙 7.5YR7/3	にぶい橙 7.5YR7/4	長石と角閃石	良好	完形
40	55	皿（土師器）	Ⅰb区	H-8G		Pit1	7.8	5.9	1.2	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 5YR7/8	橙 5YR7/6	長石、角閃石、赤色粒	良好	完形
40	56	皿（土師器）	Ⅰb区	I-8G		No.1	9.0	1.7	7.5	ヨコナデ	ヨコナデ、糸切り	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/3	赤褐色粒（2㎜以下多く含む）、黒色粒	良	ほぼ完形
40	57	皿（土師器）	Ⅰb区	S37		一括	9.0	7.4	1.3	ヨコナデ	ヨコナデ、糸切り	にぶい橙 7.5YR7/4	橙 7.5YR7/6	1㎜以下の長石、雲母、赤色粒、黒色粒	良	3/4
40	58	杯（黒色土器）	Ⅰb区	F-5G		Pit14 15	(10.8)	—	2.7	ミガキ	ミガキ、ヘラ起こし	黒 N2/0	黒 N2/0	石英と長石	良好	2/3
40	59	杯身（須恵器）	Ⅰb区	H-8G	Ⅱ層		10.0	—	4.6	回転ナデ、線刻？	回転ナデ、ヘラケズリのちナデ、タタキと思われる工具痕	にぶい黄橙 10YR7/2	にぶい橙 5YR7/4	1㎜以下の長石、石英、赤色粒	良好	完形
40	60	椀（黒色土器）	Ⅰb区	F-6G		Pit24, 一括	(15.4)	7.2	5.5	ナデ、ヨコナデ	ヘラケズリのちナデ、ヨコナデ、貼り付け高台	暗灰 N3/	暗灰 N3/	密	良好	約2/3

表22　花岡古町遺跡出土遺物観察表（３）

図版番号	遺物番号	器種	出土地点				法量（cm）			調整		色調		胎土	焼成	残存率
			地区	遺構	層位	取り上げ	口径	底径	器高	（内面）	（外面）	（内面）	（外面）			
40	61	杯身（土師器）	Ⅰb区	H-7G	2層		11.8	6.3	4.7	回転ナデのちナデ	回転ナデ、回転ヘラ切りのち　ナデ	橙 5YR7/6	橙 5YR7/6	7㎜以下の石英と3㎜以下の赤色砂粒	良好	ほぼ完形
40	62	蓋（須恵器）	Ⅰb区	H-7G	Ⅱ層		（11.1）	－	4.8～	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ	灰白 7.5Y7/1	灰 N4/0	1㎜以下の石英と長石、精緻	良好	1/2
40	63	𤭯（須恵器）	Ⅰb区	H-7G	Ⅱ層		胴部径 9.7	－	6.2～	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ、沈線	灰白 N7/0	灰白 N7/0	4㎜以下の長石と石英を多量	良好	3/4
40	64	杯蓋（須恵器）	Ⅰb区	H-7G	Ⅱ層	No.1	11.75	－	4.1	回転ナデ、仕上げナデ	回転ナデ、回転ヘラ切り	灰白 7.5Y8/2	灰白 7.5Y8/2	4㎜以下の石英と5㎜以下の長石	良好	3/4
45	72	杯（土師器）	Ⅱ区	S108		一括	（12.5）	（10.0）	2.7	ナデ	ヨコナデ、糸切り	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/4	3㎜以下の長石、石英、角閃石、赤色粒、黒色粒	良	3/4
45	73	杯（土師器）	Ⅱ区	S112		No.2	（13.1）	（8.1）	3.4	ヨコナデ	ヨコナデ	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	1.5㎜以下の長石、角閃石、雲母、赤色粒、黒色粒	良	1/3
46	74	杯（土師器）	Ⅱ区	S115		一括	8.3	7.1	1.3	ナデ	ヨコナデ、糸切り	橙 5YR7/6	橙 5YR7/6	1㎜以下の長石、雲母、角閃石、赤色粒、黒色粒	良	3/4
46	75	杯（土師器）	Ⅱ区	S115		No.1	（12.0）	3.2	7.0	ヨコナデ	ヨコナデ、糸切り	橙 5YR7/8	橙 5YR7/8	1㎜以下の赤褐色粒、黒色粒	良好	2/3
47	76	杯（土師器）	Ⅱ区	S110		No.4	9.8	7.0	3.0	ナデ	ヨコナデ、糸切り	浅黄橙 7.5YR8/3	浅黄橙 7.5YR8/3	1㎜以下の長石、雲母、赤色粒、黒色粒	良	完形
47	77	杯（土師器）	Ⅱ区	S110		No.2,9	15.6	10.0	3.7	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	浅黄橙 7.5YR8/6	浅黄橙 7.5YR8/4 橙 5YR7/6	1㎜以下の石英、赤色粒	良好	4/5
47	78	杯（内黒土器）	Ⅱ区	S110		No.7 一括	14.3	9.1	3.2	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	灰褐 7.5YR5/2	にぶい 7.5YR7/3	1㎜以下の長石、石英、赤色粒と多量の黒色粒子、精緻	良好	ほぼ完形
47	79	杯（土師器）	Ⅱ区	S110		No.5	（14.5）	（9.8）	3.0	ナデ、ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切り	浅黄橙 7.5YR4/1	浅黄橙 7.5YR8/3	1.5㎜以下の長石、雲母、赤色粒、黒色粒	良	1/3
48	80	杯（土師器）	Ⅱ区	S99		一括	（9.3）	7.3	1.8	ナデ	ヨコナデ、糸切り、黒斑あり	にぶい橙 7.5YR7/3	にぶい橙 7.5YR7/4	2㎜以下の長石、雲母、赤色粒、黒色粒	良	3/4
48	81	杯（土師器）	Ⅱ区	S105		一括	12.5	3.1	6.5	ヨコナデ	ヨコナデ、糸切り	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	1㎜以下の角閃石、長石	良好	ほぼ完形
52	83	杯（土師器）	Ⅳb区	S230		一括	12.4	9.0	3.2	ヨコナデ	ヨコナデ	橙 5YR7/6	橙 5YR7/6	赤褐色粒多く含む2㎜程の黒色粒、雲母、長石、角閃石	良	ほぼ完形
52	84	皿（土師器）	Ⅳb区	S230		一括	8.6	6.9	1.5	ヨコナデ	ヨコナデ、糸切り	にぶい橙 10YR7/4	にぶい橙 10YR7/3	赤褐色粒、長石、砂粒	良	ほぼ完形
52	85	皿（土師器）	Ⅳb区	S230		一括	8.7	7.7	1.45	ナデ	ナデ、糸切り	橙 5YR7/6	橙 5YR7/6	2.5㎜以下の石英、黒色粒、赤褐色粒、長石	良好	3/4
52	86	皿（土師器）	Ⅳb区	S230		一括	8.5	7.0	1.6	ナデ	ヨコナデ、糸切り	橙 5YR7/6	橙 5YR7/6	1㎜以下の長石、雲母、角閃石、赤褐色粒、黒色粒	良	ほぼ完形
52	87	杯（土師器）	Ⅳb区	I-6G		一括	（12.6）	7.5	3.3	ナデ	ナデ、糸切り	橙 5YR7/6	橙 5YR7/6	2㎜以下長石、石英、黒色粒他含む	良好	1/2
52	88	杯（土師器）	Ⅳb区	S230		一括	（12.3）	（8.3）	2.9	ナデ、ヨコナデ	ヨコナデ、糸切り	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/3	1㎜以下の長石、雲母、赤色粒、黒色粒	良	1/2
53	90	皿（土師器）	Ⅳb区	S213		No.8	8.8	7.0	1.6	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	にぶい黄橙 10YR7/2	褐灰 10YR5/1 にぶい黄橙 10YR7/4	1㎜以下の長石、石英、角閃石	良好	完形

表23　花岡古町遺跡出土遺物観察表（4）

図版番号	遺物番号	器種	出土地点				法量（cm）			調整		色調		胎土	焼成	残存率
			地区	遺構	層位	取り上げ	口径	底径	器高	（内面）	（外面）	（内面）	（外面）			
53	91	皿（土師器）	Ⅳb区	S213		No.6	8.7	7.4	1.7	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	浅黄橙 7.5YR8/4	浅黄橙 7.5YR8/4	1㎜以下の長石、石英、赤色粒	良好	完形
53	92	皿（土師器）	Ⅳb区	S213		No.7	9.4	8.0	1.7	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	褐灰 7.5YR5/1	淡赤橙 2.5YR7/4 にぶい橙 7.5YR7/4	4㎜以下の石英、2㎜程度の角閃石、雲母	良好	完形
53	93	皿（土師器）	Ⅳb区	S213		No.4	8.8	7.1	1.3	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、糸切り痕	浅黄橙 7.5YR8/3	にぶい橙 7.5YR7/4	1㎜以下の長石、石英、赤色粒	良好	2/3
53	94	皿（土師器）	Ⅳb区	S213		No.5	9.0	8.3	1.6	回転ナデ、ナデ	回転ナデ	浅黄橙 7.5YR8/4	浅黄橙 7.5YR8/4	長石、赤色粒	良好	完形
53	95	椀（青磁）	Ⅳb区	S213		No.3	17.2	5.6	7.4	回転ナデのちヘラ描き文様、施釉（貫入）	回転ナデ、施釉（貫入）	オリーブ黄 7.5Y6/3	オリーブ黄 7.5Y6/3	精緻	良好	完形
55	97	杯（土師器）	Ⅱ区	I-6G		Pit2	8.4	6.9	1.4	ナデ	ヨコナデ、糸切り	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	1㎜以下の長石、雲母、赤色粒、黒色粒	良	ほぼ完形
55	98	杯（土師器）	Ⅱ区	I-5G		No.13	12.3	6.2	3.8	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	淡黄橙 7.5YR8/4	淡黄橙 7.5YR8/4	石英、輝石	良好	3/4
55	99	皿（土師器）	Ⅱ区	K-6G		Pit3	8.4	1.55	7.2	ナデ	糸切り、板状圧痕あり	にぶい橙 10YR7/3	にぶい橙 10YR7/3	赤褐色粒、黒色粒	良	ほぼ完形
55	100	杯（土師器）	Ⅱ区	H-5G		一括	（11.15）	（6.1）	3.55	ナデ、指頭圧痕	ナデ、糸切り	橙 5YR7/6	橙 5YR7/6	石英、角閃石、赤褐色粒、砂粒、黒色粒	良好	1/4
55	101	杯（土師器）	Ⅱ区	H-5G		No.41	（12.4）	（6.1）	3.55	ナデ	ヘラケズリ後ナデ	浅黄橙 7.5YR8/4	浅黄橙 7.5YR8/4	3㎜以下の赤褐色粒、石英、黒色粒他含む	良好	1/2強
55	102	杯（土師器）	Ⅱ区	H-5G		No.17	（12.4）	4.8	6.9	ヨコナデ	ヨコナデ、ヘラきり？	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 5YR7/4	赤褐色粒、3㎜程度もあり大きめの石多く含む	良	2/3
55	103	椀（土師器）	Ⅱ区	I-5G		No.32,52	（12.8）	—	6.0～	回転ナデ	ナデ、回転ナデ、回転ヘラケズリ	にぶい褐 7.5YR6/3	灰褐 7.5YR6/2	2㎜程度の石英、長石と1㎜程度の角閃石、8㎜の赤色粒	良好	2/3
55	104	椀（土師器）	Ⅱ区	I-5G		No.30	—	—	6.0～	ミガキ	ナデ、ケズリ	暗灰 N5/0	灰白 7.5YR8/1	長石細粒、雲母、角閃石	良好	4/5
55	105	杯（土師器）	Ⅱ区	I-5G		No.6	13.1	—	2.9～	ミガキ	ナデ、貼り付け高台（欠損）	黒 7.5YR2/1	浅黄橙 7.5YR8/4	2.5㎜以下の石英、1㎜以下の長石と角閃石を多量	良好	ほぼ完形
55	106	甕（土師器）	Ⅱ区	用水路			（16.4）	—	23.2～	ヨコナデ、ケズリ、指頭圧痕	ハケメ、ヨコナデ	にぶい黄橙 10YR7/2	橙 7.5YR7/6	1㎜程度の長石と3㎜以下の石英	良好	1/4
55	107	甕（土師器）	Ⅱ区	H-5G			（26.5）	—	15.7～	ヨコナデ、ケズリ	ハケのちナデ	明褐灰 7.5YR7/1	橙 5YR7/6	1㎜程度の長石と石英、2㎜程度の角閃石	良好	1/8
55	108	高台付杯（須恵器）	Ⅱ区	I-5G		No.21,22	（14.8）	8.0	3.9	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、高台貼付のちヨコナデ	灰白 10YR8/1	灰白 10YR8/2	長石、角閃石、石英	良好	1/2
55	119	蓋（須恵器）	Ⅱ区				（11.6）	—	3.6	回転ナデ、仕上げナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ（左）	灰 N6/0	灰 N6/0	3㎜以下の多量の石英、2㎜以下の長石	良好	1/2
55	110	蓋（須恵器）	Ⅱ区				（13.1）	—	4.2～	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ（右）	灰白 N8/0	灰白 N8/0	長石細粒、1㎜以下の角閃石を少量	良好	1/4
55	111	杯身（須恵器）	Ⅱ区				（11.7）	—	3.8～	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ（左）	灰白 5Y8/1	灰白 7.5Y7/1	3㎜以下の石英、2㎜以下の長石を多量	良好	1/4
56	112	小型壷（須恵器）	Ⅱ区	I-6G		一括	（11.4）	—	8.5～	回転ナデ	ナデ、回転ナデ、タテハケメのち回転カキメ、線刻、ひねり痕	灰 N5/	灰 N6/	長石の細粒	良好	約1/5

表24　花岡古町遺跡出土遺物観察表（５）

図版番号	遺物番号	器種	出土地点				法量（cm）			調整		色調		胎土	焼成	残存率
			地区	遺構	層位	取り上げ	口径	底径	器高	（内面）	（外面）	（内面）	（外面）			
56	113	坩（須恵器）	Ⅱ区	Ⅰ-6G、J-6G		一括	(8.65)	(8.8)	6.4～	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ	明褐灰 7.5YR7/1	褐灰 7.5YR6/1	石英と長石の微細粒を少量含む、精緻	良好	1/4
56	114	高杯（須恵器）	Ⅱ区					9.6	6.9～	回転ナデ、絞り痕	回転ナデ	灰白 N7/0	灰白 N7/0	長石細粒	良好	脚部のみ、7/8
57	120	模倣杯（土師器）	Ⅳb区	H-6G			(11.8)	8.5	4.9	回転ナデ、仕上げナデ	回転ナデ、ヘラ切り、工具痕	灰白 2.5Y8/2	浅黄橙 10YR8/3	長石と角閃石の微細粒と3㎜以下の石英、精緻	良好	3/4
57	121	模倣杯（土師器）	Ⅳb区	H-6G	Ⅸ層	No.104	11.5	－	4.2	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	石英、長石	良好	1/2強
57	122	鉢（土師器）	Ⅳb区	H-6G	Ⅶ.Ⅷ層	No.58, 78	15.5	－	8.5～	ナデ、ヨコナデ	ヘラケズリのち赤色顔料のちミガキ痕	橙 5YR6/6	にぶい橙 5YR6/4	長石の細粒と4㎜位の石英、雲母	良好	約4/5
57	123	杯身（須恵器）	Ⅳb区	G-5G	Ⅵ層		(11.4)	－	3.3～	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ（左）	灰 N5/0	灰 N5/0	0.5㎜以下の長石、1㎜以下の石英	良好	1/5
57	124	杯身（須恵器）	Ⅳb区	I-7G	Ⅸ層		(11.0)	(7.9)	3.9	回転ナデ、仕上げナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ヘラ記号	灰 7.5Y6/1	灰 5Y5/1	2㎜以下の長石と微細粒の石英を少量含み、精緻	良好	1/2
57	125	蓋（須恵器）	Ⅳb区	H-6G	Ⅸ層		10.0	6.6	5.2	回転ナデ、仕上げナデ	回転ナデ、ヘラ記号	灰 N6/0	灰 N5/0	長石と石英の微細粒を少量含み、精緻	良好	1/2
57	126	杯蓋（須恵器）	Ⅱ区、Ⅳb区	I-6G一括, H-6G	Ⅷ層	No.61	(12.4)	－	4.5	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ヘラ記号	灰 N6/0	灰 N6/0	3㎜以下の多量の長石と1㎜以下の石英	良好	2/3
57	127	椀（白磁）	Ⅳb区	H-6G	Ⅳ層		17.9	6.1	6.7	ヘラ描き文、施釉（貫入）	回転ナデ、回転ヘラケズリ、施釉	灰白 5Y7/1	灰白 5Y7/1	精緻	良好	1/3
61	134	蓋つまみ（青磁）	Ⅳa区	S235			－	1.3	2.0	ナデ	ナデ、施釉	明緑灰 7.5GY7/1	明緑灰 7.5GY7/1	精緻	良好	ほぼ完形
62	135	杯身（須恵器）	Ⅳa区	E-4G	Ⅸ層	No.21	14.2	9.2	4.3	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ	明オリーブ灰 2.5GY7/1	明オリーブ灰 2.5GY7/1	1㎜以下の長石と微細粒の角閃石、精緻	良好	ほぼ完形
62	136	高杯（須恵器）	Ⅳa区	E-4G	Ⅸ層		(12.5)	受け部径 (14.8)	9.8～	回転ナデ	回転ナデ、回転カキメ、ナデ	灰N6/ オリーブ黒 5Y3/1	灰 N6/	1㎜以下の石英、長石、灰色粒	良好	約1/4
62	137	壷（土師器）	Ⅳa区	E-3G			－	－	22.5～	ケズリ、工具ナデ	ハケメ	にぶい橙 5YR6/4	にぶい橙 7.5YR7/4	1㎜程度の長石と石英	良好	頸部～胴部
62	138	壷（土師器）	Ⅳa区	E-3G		No.2,4,5, 11,13,16	(18.8)	最大胴部径 28.6	22.6～	ハケメのちナデ、粘土重ね痕	ハケメのちナデ、ヨコナデ	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	1㎜以下の長石、石英、雲母、褐色粒	良好	約1/5
64	139	小皿（土師器）	Ⅴa区	SB99		Pit4	(6.7)	1.8	4.5	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切り	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	1㎜未満の白色粒、黒色粒	良好	3/4
69	140	小皿（土師器）	Ⅴa区	S284		No.2	8.5	1.2	7.1	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切り	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	1㎜未満の石英、長石等、密	良好	ほぼ完形
69	141	小皿（土師器）	Ⅴa区	S284		No.12	8.4	6.9	1.25	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	にぶい橙 5YR7/4	橙 5YR7/6	長石、赤色粒	良好	ほぼ完形
69	142	杯（土師器）	Ⅴa区	S284		No.2	(12.0)	3.4	9.1	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切り	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	5㎜程度の褐色粒、2㎜程度の黒色粒	良好	3/4
69	143	杯（土師器）	Ⅴa区	S284		No.1	(13.7)	3.8	9.6	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切り	にぶい橙 5YR6/4	にぶい橙 5YR6/4	精緻	良好	1/2
69	144	小皿（土師器）	Ⅴa区	S355		No.2	8.0	1.5	7.0	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切り　粘土があまり波状になっている	にぶい橙 7.5YR7/3	にぶい橙 7.5YR7/3	密	良好	完形
69	145	小皿（土師器）	Ⅴa区	S355		No.1	9.1	2.4	8.3	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切り	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	密	良好	完形

表25　花岡古町遺跡出土遺物観察表（6）

図版番号	遺物番号	器種	出土地点				法量（cm）			調整		色調		胎土	焼成	残存率
			地区	遺構	層位	取り上げ	口径	底径	器高	（内面）	（外面）	（内面）	（外面）			
70	146	皿（青磁）	Ⅴa区	S388		No.18	13.0	5.5	2.8	回転ナデのち櫛描き、ヘラ描き文様、施釉（貫入）	回転ナデ、回転ヘラ切り、施釉（貫入）	灰オリーブ 5Y6/2	灰オリーブ 5Y6/2	精緻	良好	完形
71	147	椀（青磁）	Ⅴa区	S388		No.17	16.8	4.8	7.4	回転ナデのち櫛描き、ヘラ描き文様、施釉	回転ナデのち櫛描き文様、回転ヘラ切り、施釉	灰白 7.5Y7/2	灰白 7.5Y7/2	精緻	良好	完形
71	148	椀（青磁）	Ⅴa区	S388		No.6	16.8	4.8	6.9	回転ナデのち櫛描き、ヘラ描き文様、施釉	回転ナデのち櫛描き文様、回転ヘラケズリ、施釉	灰オリーブ 5Y6/2	灰オリーブ 5Y6/2	精緻	良好	完形
72	149	皿（土師器）	Ⅴa区	S388		No.2	9.2	8.0	1.8	回転ナデ、工具痕	回転ナデ、糸切り痕	浅黄橙 7.5YR8/3	にぶい黄橙 10YR7/2	長石細粒、雲母、褐色粒	良好	完形
72	150	皿（土師器）	Ⅴa区	S388		No.7	9.4	7.4	1.6	回転ナデ、工具痕	回転ナデ、糸切り痕	浅黄橙 7.5YR8/4	浅黄橙 7.5YR8/4	2㎜以下の石英、1㎜以下の長石、赤色粒	良好	完形
72	151	皿（土師器）	Ⅴa区	S388		No.3	9.2	8.0	1.7	回転ナデ、ナデ、工具痕	回転ナデ、糸切り痕	橙5YR6/6 浅黄橙 7.5YR8/4	橙5YR6/6 浅黄橙 7.5YR8/4	1㎜程度の長石、赤色粒	良好	完形
72	152	皿（土師器）	Ⅴa区	S388		No.10,8	9.5	7.8	1.6	回転ナデ、工具痕	回転ナデ、糸切り痕	浅黄橙 7.5YR8/4	橙 7.5YR7/6	1㎜以下の長石、雲母、褐色粒	良好	完形
72	153	皿（土師器）	Ⅴa区	S388		No.9	10.0	8.0	2.7	回転ナデ、工具痕	回転ナデ、糸切り痕	にぶい黄橙 10YR7/2	浅黄橙 7.5YR8/3	1㎜以下の長石、赤色粒	良好	完形
72	154	皿（土師器）	Ⅴa区	S388		No.1	9.1	7.7	2.8	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	浅黄橙 7.5YR8/6	浅黄橙 7.5YR8/3	2㎜以下の石英、長石細粒、雲母、赤色粒	良好	完形
72	155	皿（土師器）	Ⅴa区	S388		No.4	9.6	8.0	2.7	回転ナデ、工具痕	回転ナデ、糸切り痕	浅黄橙 7.5YR8/4	浅黄橙 10YR8/3	1㎜以下の長石、角閃石、雲母を少量含む	良好	2/3
72	156	皿（土師器）	Ⅴa区	S388		No.5	9.7	8.2	2.8	回転ナデ、工具痕	回転ナデ、糸切り痕	浅黄橙 7.5YR8/3	浅黄橙 7.5YR8/3	1㎜以下の長石、雲母、褐色粒	良好	2/3
74	157	小皿（土師器）	Ⅴa区	S373		No.1	8.0	4.9	2.1	ヨコナデ	ヨコナデ、糸切り（摩滅）	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	長石、雲母、角閃石、黒色粒、褐色粒	良	ほぼ完形
74	158	小皿（土師器）	Ⅴa区	S384		ベルト一括	8.0	5.4	1.7	回転ナデのちナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 5YR7/6	橙 5YR7/6	石英、長石、赤色砂粒	良好	3/4
74	160	小皿（土師器）	Ⅴa区	S367		No.1	(6.9)	1.2	6.0	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切り	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	1㎜未満の雲母、長石、石英、角閃石等	良好	1/2
74	161	杯（土師器）	Ⅴa区	S367		No.1,2	11.8	3.1	9.3	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切り	にぶい橙 10YR7/3	にぶい橙 10YR7/4	2㎜以下の石英、1㎜以下の長石、角閃石等	良好	3/4
75	162	小皿（土師器）	Ⅴa区	S368		No.2	(7.8)	1.2	6	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切り	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR6/4	1㎜以下の赤褐色粒、長石、黒色粒等	良好	4/5
75	163	小皿（土師器）	Ⅴa区	S368		No.20	7.7	1.7	6.2	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切り	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	1㎜以下の赤褐色粒を多く他に1㎜未満の角閃石、長石等	良好	ほぼ完形
75	164	杯（土師器）	Ⅴa区	S368		No.18	12.3	8.0	2.7	ヨコナデ	ヨコナデ、糸切り（摩滅）	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	1㎜以下の赤褐色粒、黒色粒、砂粒	良	ほぼ完形
75	165	皿（土師器）	Ⅴa区	S368		No.7,12	12.3	8.2	2.7	ナデ	ヨコナデ、糸切り	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	1㎜以下の長石、角閃石、雲母、黒色粒	良	ほぼ完形
75	166	杯（土師器）	Ⅴa区	S368		No.4	12.0	8.6	2.9	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕、板状圧痕	橙 5YR7/6	橙 5YR7/6	1㎜以下の白色・黒色粒子と多量の赤色粒	良好	4/5
75	167	杯（土師器）	Ⅴa区	S368		No.1	(12.3)	(8.8)	2.8	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 5YR6/6	橙 7.5YR7/6	1㎜以下の白色粒子を少量含み、精緻	良好	2/3
75	168	杯（土師器）	Ⅴa区	S368		No.57	(12.5)	(7.5)	2.7	ナデ	ヨコナデ、糸切り（摩滅）	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	1㎜以下の長石、雲母、角閃石、褐色粒、黒色粒	良	1/2

表26　花岡古町遺跡出土遺物観察表（７）

図版番号	遺物番号	器種	出土地点				法量（cm）			調整		色調		胎土	焼成	残存率
			地区	遺構	層位	取り上げ	口径	底径	器高	（内面）	（外面）	（内面）	（外面）			
75	169	杯（土師器）	Ⅴa区	S397		No.3	(12.1)	4.1	8.5	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切り、部分的に砂粒が露出	にぶい橙 5YR6/4	にぶい橙 5YR6/4	1㎜未満の長石、石英等。密	良好	3/4
78	175	椀（青磁）	Ⅴa区	S287, K-24G		Pit29	16.4	4.7	7.0～	回転ナデ、ヘラ描文、施釉	回転ヘラケズリ、蓮弁文、施釉	オリーブ灰 10Y6/2	オリーブ灰 10Y6/2	精緻	良好	約2/3
78	176	杯（土師器）	Ⅴa区	S287			12.3	8.7	3.35	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 5YR7/6	橙 5YR7/6	2㎜の角閃石と1㎜以下の石英、長石、黒色粒子、精緻	良好	ほぼ完形
80	177	灯明皿（土師器）	Ⅴa区	I-22G		一括	7.2	4.3	2.4	ヨコナデ	ヨコナデ、糸切り痕	浅黄橙 2.5YR8/4	にぶい橙 5YR7/4	長石と石英	良好	ほぼ完形
80	178	灯明皿（土師器）	Ⅴa区	I-22G		一括	6.2	3.5	2.2	回転ナデのちナデ	回転ナデ、糸切り痕	灰白 5YR8/2	にぶい黄橙 7.5YR7/4	石英と長石	良好	ほぼ完形
80	179	皿（土師器）	Ⅴa区	西		一括	8.2	6.7	1.6	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕のち圧痕	浅黄橙 7.5YR8/6	浅黄橙 7.5YR8/6	石英、赤色粒	良好	4/5
80	180	皿（土師器）	Ⅴa区			一括	(8.1)	(6.2)	1.4	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	橙 5YR7/6	橙 5YR7/6	石英と長石	良好	1/2
80	181	耳皿（土師器）	Ⅴa区	I-22G		Pit59	2.1	2.6	2.6	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	にぶい橙 5YR7/4	にぶい橙 .5YR7/4	長石、石英、角閃石	良好	ほぼ完形
80	182	壷（土師器）	Ⅴa区	I-17G		Pit45	－	2.5	2.4～	工具ナデ	ナデ、糸切り痕	灰黄褐 10YR6/2	灰黄褐 10YR6/2	長石、石英、角閃石	良好	胴部完存
80	183	杯（土師器）	Ⅴa区	J-17G		No.3	13.6	10.1	1.5	ナデ、回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕	淡黄 2.5Y8/3	淡黄 2.5Y8/3	1㎜以下の長石、石英、角閃石	良好	5/6
80	184	杯（土師器）	Ⅴa区	G-16.17G		No.3	12.5	10.1	3.4	回転ナデ、ヨコナデ	回転ナデ	浅黄橙 7.5YR8/4	浅黄橙 10YR8/4	2㎜以下の石英、長石、赤色粒	良好	ほぼ完形
80	185	高台付杯（土師器）	Ⅴa区	I-20G		一括	(12.1)	(7.4)	5.6	回転ナデ	回転ナデ、貼付高台	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/3	1㎜以下の長石、石英を少量含む、精緻	良好	約1/2
80	186	杯（白磁）	Ⅴa区			一括	(7.5)	(2.9)	3.2	施釉	回転ヘラケズリ、ケズリ出し高台、施釉	灰白 5Y8/2	灰白 5Y8/2	精緻	良好	1/4
80	187	杯（白磁）	Ⅴa区	H-20G		一括	(7.2)	(3.0)	3.0	施釉	ケズリ出し高台、施釉	灰白 7.5Y8/1	灰白 7.5Y8/1	1㎜以下の黒色粒子を少量含み、精緻	良好	1/3
80	189	摺鉢（瓦質土器）	Ⅴa区	I-22G		一括	(30.8)	(14.8)	13.1	擂り目（6本単位）、ヨコナデ	ヨコナデ、工具ナデ、指頭圧痕	灰白 2.5Y7/1	灰黄 2.5Y7/2	石英、長石、角閃石	良好	1/4
80	191	鉢（青磁）	Ⅴa区	J-23G	Ⅳ層		(29.6)	－	6.0～	回転ナデ、施釉	回転ナデ、施釉	灰オリーブ 7.5Y5/3	灰オリーブ 7.5Y5/3	精緻	良好	口縁部1/6
81	192	杯（青磁）	Ⅴa区	Ⅰ-23G		Pit8	11.9	5.4	3.9	施釉	ケズリ出し高台、施釉	オリーブ灰 10Y6/2	オリーブ灰 10Y6/2	1㎜以下の長石、石英を少量含む、精緻	良好	3/4
81	193	杯（白磁）	Ⅴa区	K-23G		Pit13	(13.0)	7.5	3.1	回転ナデ、施釉	回転ナデ、施釉	灰白 2.5GY8/1	灰白 2.5GY8/1	精緻	良好	2/3
81	194	杯（白磁）	Ⅴa区	H-22G		Pit18	11.3	7.1	2.7	回転ナデ、施釉	回転ナデ、施釉	灰白 5Y8/1	灰白 5Y8/1	白色で精緻	良好	ほぼ完形
81	195	椀（青磁）	Ⅴa区	H-19.20G		床直	(14.2)	5.6	6.4	施釉	ケズリ出し高台、施釉	灰白 10Y7/2	灰白 10Y7/2	1㎜以下の長石、石英、赤色粒を少量含む、精緻	良好	2/3
81	196	椀（青磁）	Ⅴa区	K-18G			－	(5.7)	1.9～	回転ナデのち双魚文、施釉	回転ナデ、回転ヘラ切り、ケズリ出し高台、施釉	明オリーブ灰 5GY7/1	明オリーブ灰 5GY7/1	精緻	良好	底部のみ、3/8
81	197	椀（青磁）	Ⅴa区	I-23G		Pit1	(15.0)	(5.3)	7.2	回転ナデ、施釉	回転ヘラケズリ、ヘラ描き文、施釉、ケズリ出し高台	明オリーブ灰 5GY7/1	明オリーブ灰 5GY7/1	精緻	良好	1/3

表27　花岡古町遺跡出土遺物観察表（８）

図版番号	遺物番号	器種	出土地点				法量（cm）			調整		色調		胎土	焼成	残存率
			地区	遺構	層位	取り上げ	口径	底径	器高	（内面）	（外面）	（内面）	（外面）			
81	198	椀（青磁）	Ⅴa区	H-22G		Pit21	（13.0）	（6.0）	3.6	回転ナデ、施釉（貫入）、蛇ノ目釉剥ぎ	回転ナデ、回転ヘラケズリ、工具圧痕、施釉（貫入）	灰白 5Y7/2	灰白 5Y7/2	精緻	良好	1/2弱
81	199	皿（磁器）	Ⅴa区	I-18G		一括	－	－	1.5～	回転ナデ	回転ナデ	灰白 7.5Y8/1	灰白 7.5Y8/1		良好	1/6以下
81	200	椀（磁器）	Ⅴa区	I-13.22G	Ⅴ層		－	4.3	2.3～	回転ナデ、鉄絵、施釉（貫入）	回転ナデ、回転ヘラケズリ、鉄絵、施釉（貫入）	灰白 2.5Y8/1	灰白 10Y7/1	精緻	良好	1/2
81	201	皿（磁器）	Ⅴa区	I-17G		一括	14.1	7.8	3.45	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ	灰白 7.5Y8/1	灰白 7.5Y8/1		良好	1/5以下
81	202	椀（磁器）	Ⅴa区	J-17G		一括	－	3.8	2.6～	回転ナデ	回転ナデ、ケズリ出し高台	灰白 N8/1	灰白 N8/1		良好	1/8
81	203	猪口（磁器）	Ⅴa区	J-23G	Ⅳ層		－	3.1	1.9～	回転ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ、回転ヘラケズリ	灰白 N8/1	灰白 N8/1		良好	1/3
81	204	椀（染付）	Ⅴa区	I-22G	Ⅳ層		－	5.7	2.6～	施釉（貫入）、蛇ノ目釉剥ぎ	回転ナデ、回転ヘラケズリ、施釉（貫入）	明オリーブ灰 2.5GY7/1	明オリーブ灰 2.5GY7/1	精緻	良好	底部完存
81	205	椀（染付）	Ⅴa区	東ソデ立合			－	5.2	2.3～	施釉（染付）	回転ナデ、施釉（染付）	明青灰 10BG7/1	明青灰 10BG7/1	精緻	良好	1/3
81	206	椀（染付）	Ⅴa区	J-23G	Ⅳ層		－	3.8	2.3～	施釉（染付）	回転ヘラケズリ、施釉（染付、貫入）	明青灰 10BG7/1	明青灰 10BG7/1	精緻	良好	1/2
87	289	皿（土師器）	Ⅴb区	S456		一括	（8.4）	6.9	1.8	ヨコナデ	ヨコナデ	黄橙 7.5YR7/8	黄橙 7.5YR7/8	5㎜大の長石、1㎜大の長石数個含む	良	3/4
87	290	杯（土師器）	Ⅴb区	S456	4層		12.7	8.5	3.0	回転ナデ	回転ナデ、糸切り痕のちナデ、板状圧痕	浅黄橙 10YR8/3	にぶい黄橙 10YR7/3	1㎜以下の黒色・赤色粒と5㎜の褐色？粒子、精緻	良好	4/5
87	291	杯（土師器）	Ⅴb区	S456		No.13	12.0	8.4	3.1	ヨコナデ	ヨコナデ	橙 7.5YR7/6	にぶい橙 7.5YR7/4	赤褐色粒（4㎜大含む）雲母、黒色粒、長石	良	完形
87	292	椀（青磁）	Ⅴb区	S456		No.12	（16.2）	6.2	6.9	ヘラ描き文、施釉（貫入）	回転ナデ、回転ヘラケズリ、施釉（貫入）	オリーブ灰 10Y6/2	オリーブ灰 10Y6/2	精緻	良好	1/3
90	294	皿（土師器）	Ⅴb区	S469		No.11, 26	（6.7）	5.2	0.9～	回転ナデのちナデ	回転ナデ、糸切り痕	にぶい橙 5YR7/4	にぶい橙 5YR7/4	石英と長石	良好	1/2
90	295	杯（土師器）	Ⅴb区	N-15G			（7.4）	5.7	1.5	ナデ、ヨコナデ	ヨコナデ、糸切りか？（磨滅している）	にぶい橙 10YR7/4	橙 7.5YR7/6	1㎜以下の長石、雲母、角閃石、褐色粒、黒色粒	良	2/3
90	296	杯（土師器）	Ⅴb区	N-15G		No.8	（12.4）	7.4	3.9	ヨコナデ	ヨコナデ、糸切り（磨滅している）	橙 5YR6/6	橙 7.5YR7/6	1㎜以下の長石、雲母、角閃石、褐色粒、黒色粒	良	2/3
90	297	杯（土師器）	Ⅴb区	N-15G		No.1	（11.9）	（7.2）	3.9	ヨコナデ	ヨコナデ、糸切り	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	3㎜以下の長石、石英、雲母、赤色粒、黒色粒	良	1/3
90	298	杯（土師器）	Ⅴb区	P-16G		1層	7.6	4.6	2.6	ヨコナデ	ヨコナデ、糸切り	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	1㎜以下の長石、角閃石、雲母、赤色粒、黒色粒	良	ほぼ完形
93	299	椀（陶器）	Ⅴb区			No.22	（16.8）	5.8	8.0	施釉	ケズリ出し高台、施釉	灰白 7.5Y7/2	灰白 7.5Y7/2	1㎜以下の長石、石英を少量含み、精緻	良好	4/5
93	300	皿（青磁）	Ⅴb区	N-18G		一括	（12.8）	（5.0）	3.6	回転ナデ、ヘラ描文、施釉	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ヘラ描き文、施釉	灰白 2.5GY8/1	灰白 2.5GY8/1	精緻	良好	2/5
95	310	蓋（須恵器）	Ⅵ区	SB108	Ⅷ層	Pit5	12.2	－	4.2	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ	灰白 N7/0	灰白 N7/0	2㎜以下の長石と石英、精緻	良好	2/3
98	311	高台付杯（黒色土器）	Ⅵ区	S291		一括	（15.2）	6.1	8.0	ヨコナデ、内黒	ヨコナデ、板状圧痕	黒 2.5Y2/1	橙2.5YR6/6 にぶい橙 7.5YR6/4	1㎜未満の白色粒、雲母等	良好	2/3

表28　花岡古町遺跡出土遺物観察表（９）

図版番号	遺物番号	器種	出土地点				法量（cm）			調整		色調		胎土	焼成	残存率
			地区	遺構	層位	取り上げ	口径	底径	器高	（内面）	（外面）	（内面）	（外面）			
99	314	甕（土師器）	Ⅵ区	S332		No.3,5	25.2	－	21.0～	ハケメ、ケズリ、指頭圧痕	ハケメ、ナデ	淡黄 2.5YR8/3	淡黄 2.5YR8/3	1㎜程度の長石、石英と2㎜以下の雲母と赤色粒、3㎜以下の角閃石	良好	3/4
100	315	甕	Ⅵ区	S332		No.1,6	(26.1)	－	11.1	ケズリ、ヨコナデ	ヨコナデ、不定方向ハケ目調整	黄橙 10YR7/4	黄橙 10YR7/4	3㎜以下の長石、雲母、角閃石、黒色粒、褐色粒	良	口縁部1/3
101	317	杯（須恵器）	Ⅵ区	S321		No.4,9	(13.0)	3.3	(8.0)	ナデ	ナデ	灰白 2.5Y7/1	灰白 2.5Y7/1	1㎜未満の白色粒を所々	良好	1/2弱
105	321	杯（土師器）	Ⅵ区	M-9G	Ⅹ層	No.12	12.3	6.8	5.3	回転ナデ	回転ナデ、ヘラ切り	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	石英と赤色砂粒	良好	ほぼ完形
105	322	壷（須恵器）	Ⅵ区	M-9G		No.2,4,10,15,19	－	－	17.0～	同心円風当て具痕、ナデ、指頭圧痕	タタキ	灰 N5/	灰 N4/	長石粒と黒色粒を少量含む	良好	胴部～底部
105	323	甕（土師器）	Ⅵ区	L-8G		No.2,4,5	16.8	－	27.7～	ナデ、ヨコナデ、ケズリ、粘土重ね痕	ハケメのちナデ、ヨコナデ	橙 5YR6/6	にぶい橙 7.5YR6/4 橙 2.5YR6/6	1～5㎜位の石英とその他の砂利を多量	良好	約2/3
105	324	杯蓋（須恵器）	Ⅵ区	O-10G	Ⅵ層	一括	(17.0)	－	2.8	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ	灰 N5/0	灰 N5/0	1㎜以下の長石と石英の微細粒、精緻	良好	約1/4
105	325	杯身（須恵器）	Ⅵ区	N-9G	Ⅹ層		11.3	7.7	4.1	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ切り	灰白 N7/0	灰白 N7/0	石英と長石の微細粒を少量含み、精緻	良好	ほぼ完形
105	326	椀（土師器）	Ⅵ区	L-8G		一括	15.2	8.8	6.3	回転ナデ、ミガキ	回転ナデ、回転ヘラケズリのちナデ、貼付高台	灰白 10YR8/2	にぶい黄橙 10YR7/2	1㎜以下の長石、石英、赤色粒、精緻	良好	完形
105	327	椀（青磁）	Ⅵ区	N-9G		Pit2	16.3	5.1	7.0	ヘラ描き文、施釉（貫入）	回転ナデ、回転ヘラケズリ、施釉（貫入）	灰オリーブ 7.5Y5/2	灰オリーブ 7.5Y5/2	精緻	良好	3/5

表29　花岡古町出土石器観察表

図版番号	遺物番号	器種	石材	出土地点				法量（cm）						残存率
				地区	遺構	層位	取り上げ	長さ	幅	孔上	孔下	厚さ	重さ（g）	
14	5	石錘	滑石	Ⅰa区	S68			6.35	2.2			2.7	54.51	完形
16	8	石錘	滑石	Ⅲ区	S131			9.6	2.9			3.1	110.37	ほぼ完形
22	30	石錘	滑石	Ⅲ区	A-3G	1a層		7.3	3.5			2.0	52.91	一部欠損
22	31	石錘	滑石	Ⅲ区	B-4G			(3.5)	1.8			(1.1～)	111.06	1/2以下
36	54	石鍋	滑石	Ⅰb区	S49			－	－			器高6.1～	84.50	一部
40	65	硯	頁岩	Ⅰb区	F-6G	Pit36		10.9	8.0			1.4	182.30	ほぼ完形
40	68	石錘	滑石	Ⅰb区			一括	5.9	8.3	0.7	0.6	1.6	98.85	完形
40	69	石錘	滑石	Ⅰb区	清掃		一括	7.3	1.1			2.2	39.48	完形
40	70	石錘未製品	凝灰岩	Ⅰb区	G-7G		一括	6.0	5.2			2.8	75.22	完形
52	89	石鍋転用品	滑石	Ⅳb区	S230			8.6	7.4	1	0.9	1.4	135.24	完形
56	117	石錘	滑石	Ⅱ区	J-7G		No.5	7.0	1.85			2.0	32.45	ほぼ完形
56	118	石錘	滑石	Ⅱ区	I-5.6G	Pit4		10.3	2.1			2.5	65.36	完形
57	129	石錘	滑石	Ⅳb区			一括	6.75	1.8			1.7	28.68	ほぼ完形
57	130	砥石	砂岩	Ⅳb区	I-7G	Ⅸ層	№11	16.3～	5.2			3.4	478.45	一部欠損
57	131	磨製石斧	頁岩	Ⅳb区	H-6G	Ⅳ層	一括	15.7	6			3.9	478.45	一部欠損
57	132	磨製石斧	頁岩	Ⅳb区	F.G－4.5G	Pit9		10.0	5.2			3.3	238.84	一部欠損
80	188	石鍋	滑石	Ⅴa区	I-22.23G	埋1層	北G	－	－			器高5.3～	88.43	一部
80	190	硯	頁岩	Ⅴa区	G-15G			16.5	8.9			1.9	328.30	ほぼ完形
84	280	石錘	凝灰岩	Ⅴa区	G-16.17G	埋1層	南西G	4.5	4.2			2.5	45.66	完形
84	282	石錘	滑石	Ⅴa区	J-18G			4.75	1.8			1.7	19.09	ほぼ完形
84	281	石錐	滑石	Ⅴa区	廃土			7.6	2.1			2.2	48.04	完形
84	288	凹石	安山岩	Ⅴa区	G-16G			11.9	9.6			5.0	723.30	完形
93	308	石錘	滑石	Ⅴb区	包含層		一括	5.0	2.05			1.5	22.10	完形
93	309	凹石	安山岩	Ⅴb区	N-16G	Ⅶ層		8.5	7.7			3.5	353.98	完形
101	318	石錘	滑石	Ⅵ区	S299			8.9	2.2			2.6	73.61	ほぼ完形
102	319	石錘	滑石	Ⅵ区	S292		②	2.45	1.1			1.0	4.30	ほぼ完形
105	328	砥石	天草砥石	Ⅵ区	M-9G	Pit4		13.6～	6.9			6.7	762.40	一部欠損
105	329	石錘	滑石	Ⅵ区			一括	5.15	2.25			1.3	19.00	一部欠損

表30　花岡古町出土鉄器観察表

図版番号	遺物番号	出土地点				遺　物		法　量				残存度
		区	遺構	層位	取り上げ	器種	部位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	
20	14	Ⅰa区	D-5	Ⅱ層	No.8	耳環		2.85	2.9	0.75～0.9	3.97	4/5
22	27	Ⅲ区	C-5	pit7		不明		3.5	3.8	0.1	3.29	剥片
22	28	Ⅲ区	D-6			長頸鏃		(6.2)	(1.1)	0.4～0.7	11.31	欠損
22	29	Ⅲ区	B-4	pit15		板状鉄製品		(8.2)	1.4	0.3	12.04	欠損
31	43	Ⅰb区	S3			棒状鉄製品？楔		10.05	0.7	0.8	16.46	完形
33	46	Ⅰb区	S34		No.1	鉄剣	身部～茎部	29.5	19.3	0.4～0.65	139.24	ほぼ完形
40	66	Ⅰb区		北西層		棒状鉄製品		(5.0)	(0.6)	(0.4)	5.40	破片
40	67	Ⅰb区		北西層		長頸鏃	関部	(7.9)	(1.0)	(0.45)	7.25	破片
51	82	Ⅳb区	S228、I-6	Ⅸ層		手鎌	刀部	(14.2)	2.9	0.2～0.45	37.81	9/10
53	96	Ⅳb区	S213		No.9	剣		30.6	2.8	0.55	168.91	完形
56	115	Ⅱ区	I-6	pit3		鉄		(8.5)	1.0	0.55	13.38	9/10
56	116	Ⅱ区	H・I-5？	古墳面		鉄包丁？　手鎌		10.30	2.85	0.15	11.43	ほぼ完形
61	133	Ⅳa区	S234	埋1層		刀子	刀部～茎部	(9.5)	0.85～1.5	0.3～0.4	14.24	不明
82	207	Ⅴa区	J-18	pit70		刀子	刃部	(6.8)	(1.1)	(0.5)	11.01	不明
82	208	Ⅴa区	J-23	Ⅳ層		刀子	刃部	(11.8)	1.3	0.2	9.32	2/3
82	209	Ⅴa区	J-24	Ⅳ層		刀子		(6.9)	1.4	0.35	13.06	2/3
82	210	Ⅴa区	K-24	pit3		刀子		7.85	1.15	0.3	5.20	4/5
82	211	Ⅴa区	G-16.17	5層		刀？	茎部	(18.4)	2.4	0.3～0.7	97.75	不明
82	212	Ⅴa区	K-24	Ⅳ層		青銅笄		(4.55)	1.3	0.2	5.86	1/3
82	213	Ⅴa区	J-17	pit123		青銅笄		(7.1)	1.1	0.1～0.2	6.78	1/3
82	214	Ⅴa区	G-16？			角棒状鉄製品		(5.8)	(0.45)	(0.45)	7.29	不明
82	215	Ⅴa区	G-16？			角棒状鉄製品		(8.2)	(0.45)	(0.45)	4.72	不明
82	216	Ⅴa区	SB121	pit4		鉄製品		(5.7)	(0.5)	(0.45)	5.61	不明
82	217	Ⅴa区	J-23	Ⅳ層		青銅剣	剣先部	(4.65)	0.45	0.15	1.81	不明
82	218	Ⅴa区	I-23	Ⅳ層		板状鉄製品		(6.6)	0.9	0.25	5.61	不明
82	219	Ⅴa区	I-23	Ⅳ層		板状鉄製品		(5.0)	(0.9)	0.25	3.64	不明
82	220	Ⅴa区	K-24	pit4		不明		(3.9)	1.2	0.2	4.51	不明
82	221	Ⅴa区	J-18	Ⅳ層掘り下げ				(5.5)	(1.05)	(0.35)	8.37	不明
82	222	Ⅴa区	H-19.20	埋1層				(14.2)	0.3	0.3	3.91	ほぼ完形
82	223	Ⅴa区	H-19.20	埋1層				(3.6)	0.2	0.2	0.50	ほぼ完形
82	224	Ⅴa区	K-17	Ⅳ層		釘		(4.9)	0.45	0.45	3.29	9/10
82	225	Ⅴa区	J-23	pit5		釘（方形）		(5.8)	0.5	0.45	3.49	9/10
82	226	Ⅴa区	I-17	pit46		釘（方形）		(4.3)	0.35	0.3	2.88	9/10
82	227	Ⅴa区	I-23	Ⅳ層		鉄釘		(5.2)	(0.6)	0.4	3.56	9/10
82	228	Ⅴa区	I-23	Ⅳ層		鉄釘		(4.7)	(0.7)	0.45	4.36	4/5
82	229	Ⅴa区	I-23	Ⅳ層		ネジ釘（方形）		(7.2)	0.5	0.35	3.03	9/10
82	230	Ⅴa区	G-16			釘（方形）		(3.8)	0.3	0.3	1.09	不明
82	231	Ⅴa区	G-16			釘（丸形）		(3.5)	0.45	0.5	0.72	不明
82	232	Ⅴa区	G-16			鉄鏃？	身部～茎部	(9.3)	0.25～0.95	0.2～0.45	4.76	不明
82	233	Ⅴa区	J-24	pit1		不明		3.3	0.9	0.7～1.0	6.42	不明
87	293	Ⅴb区	S456	2層	No.2	剣		(19.5)	1.6～2.2	0.4～0.45	70.45	9/10
99	313	Ⅵ区	S290			鉄鋤先		刃部長 17.5	身部幅 13.1	身部厚 2.1	854.00	完形

表31　花岡古町遺跡出土玉類観察表

図版番号	遺物番号	種類	出土地点			色調	材質	法量				残存度
			区	遺構	層位			径（㎜）	厚さ（㎜）	孔径（㎜）	重量（g）	
22	36	玉	Ⅲ区					10.0	6.0	3.5	1.26	完形
57	128	勾玉	Ⅳb区	H-6G	Ⅸ層		ガラス製	長さ22.0〜	幅8.5	2.5	0.10	2/3
84	283	玉	Ⅴa区	J-24G	Ⅳa層			4.5	2.5	2.1	0.21	完形
84	284	小玉	Ⅴa区	I-22G				5.0	3.3	2.0	0.03	完形
84	285	小玉	Ⅴa区	I-20G	ー			4.0	2.5	2.0	0.06	完形
84	286	小玉	Ⅴa区	G-16G	Ⅳa層	青色	ガラス製？	4.8	3.6	2.0	0.04	完形
84	287	小玉	Ⅴa区	I-22G	Ⅳb層	緑色		4.0	2.8	1.5	3.06	完形

表32　花岡古町遺跡出土土錘観察表

図版番号	遺物番号	種類	出土地点			色調	胎土	法量				残存度
			区	遺構	層位			径（㎜）	厚さ（㎜）	孔径（㎜）	重量（g）	
76	170	土錘	Ⅴa区	S395	一括	にぶい黄橙10YR7/3	0.5㎜以下の砂粒	4.60	0.70	2.00	2.82	完形
76	171	土錘	Ⅴa区	S395	一括	にぶい黄橙7.5YR7/4	0.5㎜以下の砂粒	3.90	1.00	3.00	3.45	完形
76	172	土錘	Ⅴa区	S395	一括	灰白7.5YR7/1	砂粒	3.80	0.80	3.00	2.19	ほぼ完形
76	173	土錘	Ⅴa区	S395	一括	浅黄橙7.5YR8/6	0.5㎜以下の砂粒を多く含む	(4.30)	1.00	2.50	3.32	約3/4
76	174	土錘	Ⅴa区	S395	一括	にぶい黄橙10YR7/2	0.5㎜以下の砂粒	(2.10)	1.15	3.50	2.44	約1/3
84	273	土錘	Ⅴa区	J-18G	ー	橙5YR7/6浅黄橙7.5YR8/3	角閃石、雲母、褐色粒	5.25	0.95	2.00	4.23	ほぼ完形
84	274	土錘	Ⅴa区	I-23G	Pit1	明褐色7.5YR7/1	0.5㎜以下の砂粒	4.40	1.05	3.00	4.56	完形
84	275	土錘	Ⅴa区	H-22G	ー	にぶい黄橙7.5YR7/3	0.5㎜以下の砂粒	(4.10)	0.95	3.00	2.73	約3/4
84	276	土錘	Ⅴa区	G-16G	北側トレンチ	浅黄橙10YR8/4	0.5㎜以下の砂粒	4.30	1.10	3.00	4.36	ほぼ完形
84	277	土錘	Ⅴa区	I-17G	ー	にぶい黄橙10YR7/3	長石細粒、角閃石、雲母	4.50	1.10	3.50	4.83	ほぼ完形
84	278	土錘	Ⅴa区	I-23G	ー	灰白10YR8/2	砂粒	4.20	1.30	3.50	6.18	完形
84	279	土錘	Ⅴa区	G-16	北側トレンチ	にぶい黄橙7.5YR7/4	0.5㎜以下の砂粒を多く含む	(3.30)	1.30	2.50	6.71	約2/3
93	306	土錘	Ⅴb区	一括	Ⅲ層	にぶい褐7.5YR6/3	0.5㎜以下の砂粒を含む	(4.00)	0.85	3.20	2.95	約3/4
93	307	土錘	Ⅴb区	一括	Ⅲ層	灰黄2.5YR6/2	0.5㎜以下の砂粒を含む	(2.20)	1.00	4.00	1.99	約1/2
98	312	土錘	Ⅵ区	S291	①4層	にぶい橙5YR7/4	0.5㎜以下の砂粒を含む	(3.30)	1.40	4.00	5.69	約2/3
100	316	土錘	Ⅵ区	S332	No.4	灰白2.5Y8/2	細粒	4.30	1.00	4.50	3.61	完形
103	320	土錘	Ⅵ区	S313	ー	灰白5Y8/1	砂粒	3.40	1.50	4.00	6.18	約2/3

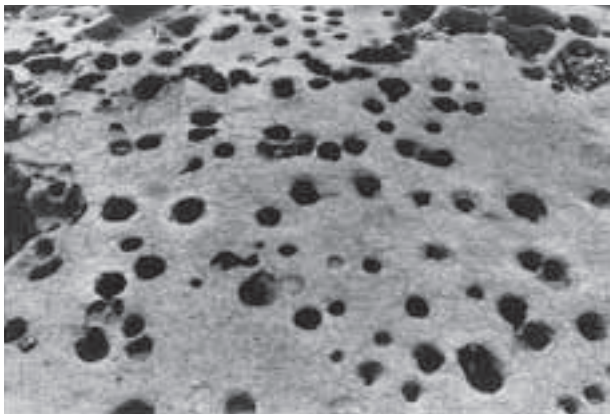
表33　花岡古町出土古銭観察表

図版番号	遺物番号	出土地点					法量		残存	銭貨名
		区	遺構	グリッド	取り上げ	層位	径(㎜)	重量(g)		
22	32	Ⅲ区		C-5	西側		23.38	3.15	完形	銅銭（洪武通宝）
22	33	Ⅲ区				一括	22.81	2.92	完形	銅銭（洪武通宝）
22	34	Ⅲ区		C-5	pit5		25.02	2.70	完形	銅銭（永楽通宝）
22	35	Ⅲ区		C-5	pit6	一括	22.95	2.60	完形	銅銭（朝鮮通宝）
42	71	Ⅳb区		G-5	pit7		24.07	1.76	ほぼ完形	銅銭（太平通宝）
56	119	Ⅱ区		J-6	pit24		22.91	1.81	4/5	銅銭（熙寧元宝）
73	―	Ⅴa区	S380			一番下	23.4	0.9	ほぼ完形	銅銭　字は摩滅で不明
73	―	Ⅴa区	S380			床直	23.00	1.73	完形	銅銭　字は摩滅で不明
74	159	Ⅴa区	S384			床直	23.19	1.63	完形	銅銭（治平元宝）4枚癒着
83	234	Ⅴa区		I-22.23	pit8-(1)		24.23	2.77	ほぼ完形	銅銭（開元通宝）
					pit8-(2)		21.19	0.64	2/3	破片と接合するも状態不良
					pit8-(3)		20.71～	0.94	1/3	
83	235	Ⅴa区		I-23	pit23		23.65	2.35	完形	銅銭（開元通宝）
83	236	Ⅴa区		J-23	pit23		24.07	2.95	完形	銅銭（開元通宝？）
83	237	Ⅴa区		H-20	pit9		24.44	2.21	ほぼ完形	銅銭（唐?國通宝）
83	238	Ⅴa区		I-20	pit4		23.72	1.91	4/5	銅銭（咸平元宝）
83	239	Ⅴa区		I-22			25.26	2.70	完形	銅銭（景徳元宝？）
83	240	Ⅴa区		I-20	pit29		23.34	2.85	完形	銅銭（祥符元宝）
83	241	Ⅴa区		J-17		Ⅳ層掘り下げ	24.50	2.38	完形	銅銭（祥符元宝）
83	242	Ⅴa区		J-17	pit126		24.55	2.52	完形	銅銭（祥?符通宝）
83	243	Ⅴa区		I-23	pit-(1)		23.8	2.61	完形	銅銭（天聖元宝）？
					pit3-(2)	西トレンチ	14.63	0.22	1/2	貨銭のかけら
83	244	Ⅴa区				廃土中	25.12	2.02	ほぼ完形	銅銭（天聖元宝）
83	245	Ⅴa区		J-23		Ⅳ層	24.71	2.68	完形	銅銭（明道?元宝）
83	246	Ⅴa区		J-23		Ⅳ層	24.61	2.85	完形	銅銭（景祐元宝）
83	247	Ⅴa区				廃土中	24.72	2.31	ほぼ完形	銅銭（景祐元宝）
83	248	Ⅴa区		I-23			24.75	2.66	完形	銅銭（景祐元宝）？
83	249	Ⅴa区		J-23			22.91	1.97	完形	銅銭（嘉祐元宝）
83	250	Ⅴa区		I-22.23	pit2		23.52	3.02	完形	銅銭（熙寧元宝）
83	251	Ⅴa区		J-17		Ⅳ層掘り下げ	23.91	2.92	完形	銅銭（熙寧元宝）
83	252	Ⅴa区		J-23		Ⅳ層	23.32	2.53	完形	銅銭（熙寧元宝）？
83	253	Ⅴa区		H-20	pit3		26.84	2.63	完形	銅銭（熙寧重宝）
83	254	Ⅴa区		I-23			24.27	2.61	完形	銅銭（元豊通宝）
83	255	Ⅴa区		J-17		掘り下げ	23.85	2.21	完形	銅銭（元豊通宝）
83	256	Ⅴa区		I-19	西グリッド		24.05	3.81	完形	銅銭（元祐通宝）
83	257	Ⅴa区		I-23		Ⅳ層	24.17	7.95	完形	銅銭（元祐通宝）3枚癒着
83	258	Ⅴa区		J-16			23.31	2.62	完形	銅銭（元祐通宝）
83	259	Ⅴa区		J,K-23.24	pit5		23.66	3.51	完形	銅銭（元祐通宝）
83	260	Ⅴa区		K-16		Ⅳ層	24.94	1.97	完形	銅銭（紹聖元宝）
83	261	Ⅴa区		I-22	pit1		22.61	2.60	完形	銅銭（聖宋元宝）
83	262	Ⅴa区		H-22			25.11	3.76	完形	銅銭（大観通宝）
83	263	Ⅴa区		J-23	pit	埋1層	23.94	2.65	完形	銅銭（大観通宝）
83	264	Ⅴa区	S283		北グリッド	埋2層	23.57	3.19	完形	銅銭（政和通宝）
83	265	Ⅴa区		I-22	pit59		24.99	1.92	4/5	銅銭（政和通宝）
83	266	Ⅴa区		J-23		Ⅳ層	22.36	3.51	完形	銅銭（洪武通宝）裏に字（一銭）あり
83	267	Ⅴa区		K-17		Ⅳ層	20.93	1.56	ほぼ完形	銅銭（洪武通宝）
83	268	Ⅴa区		I-22			24.14	3.05	完形	銅銭（永楽通宝）
83	269	Ⅴa区		J-23			22.32	2.06	完形	銅銭（朝鮮通宝）
83	270	Ⅴa区		I-23		Ⅳ層一括	23.22	2.21	完形	銅銭（○武通宝）
83	271	Ⅴa区		J-23	pit87		24.95	3.00	完形	銅銭（洪？○元宝）？
83	272	Ⅴa区		I-22		Ⅳ層	23.91	3.36	完形	銅銭（○○元宝？）
93	301	Ⅴb区		O-16		No.3	25.65	1.82	4/5	銅銭（景徳元宝）一部欠損
93	302	Ⅴb区		M-18	pit-(2)	鉄分包含層	24.69	1.79	完形	銅銭（皇宋通宝）
	303	Ⅴb区			pit-(1)		23.72	2.62	完形	銅銭（熙寧元宝）
	304	Ⅴb区			pit-(3)		23.37	1.69	3/4	銅銭（元豊？通宝）一部欠損
93	305	Ⅴb区		O-16		No.1	23.45	2.43	完形	銅銭（熙寧元宝）

写　真　図　版

図版１　Ｉａ区・Ｉｂ区　全景写真

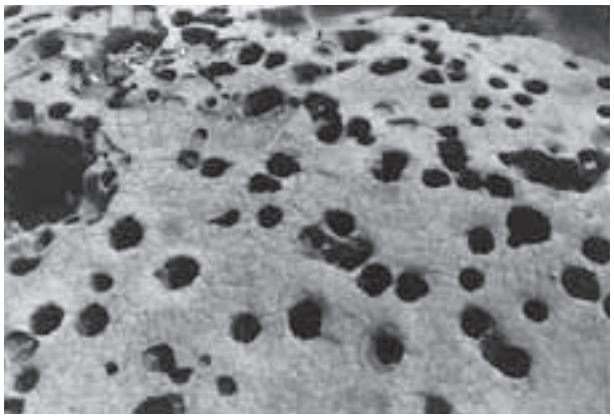
図版２　Ｉａ区掘立柱建物跡（SB24）完掘状況（東から）



図版３　SB26完掘状況（北から）

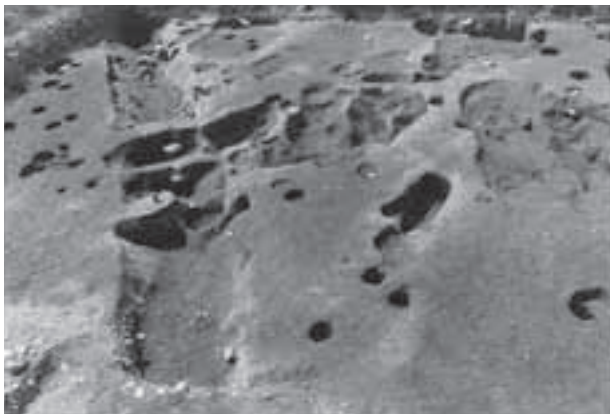
図版４　SB27完掘状況（東から）

図版５　SB28完掘状況（北から）

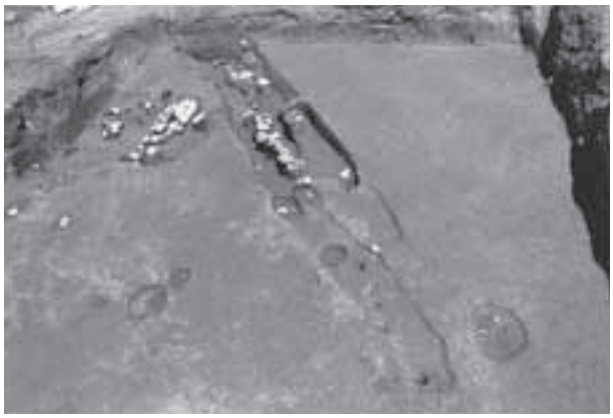


図版６　SB29完掘状況（北から）

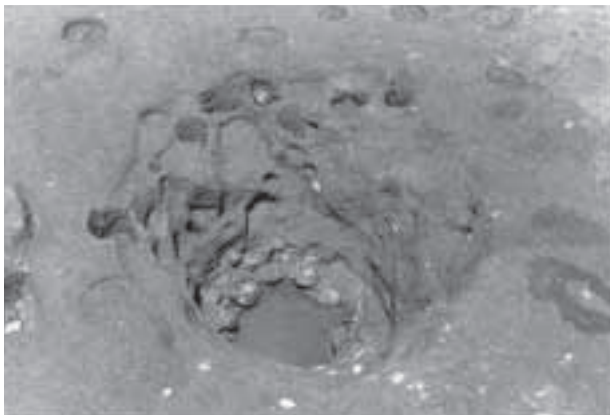
図版７　柵列跡（SA06）完掘状況（北から）



図版８　SA07完掘状況（北から）



図版９　溝跡（S18）出土状況（東から）



図版10　井戸跡（S65）完掘状況（東から）

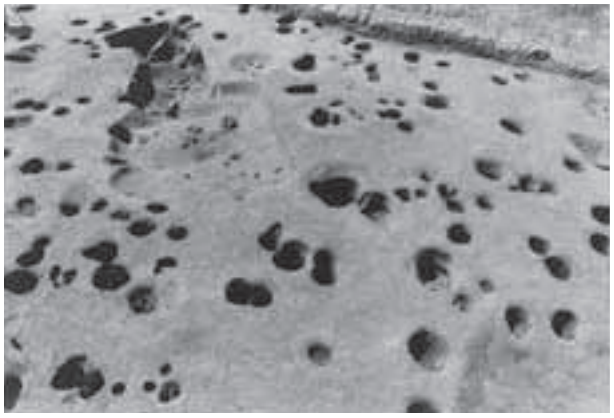
図版11　土坑（S68）土層断面（東から）

図版12　溝跡（S71）土層断面（南から）

図版13　土坑（S87・88）土層断面（東から）

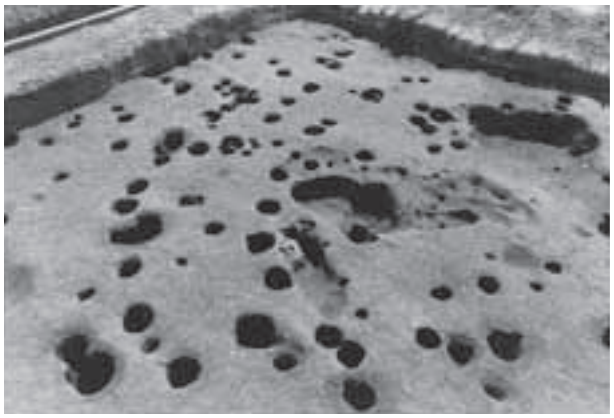
図版14　Ⅰb区掘立柱建物跡（SB12）完掘状況（西から）

図版15　SB13完掘状況（東から）



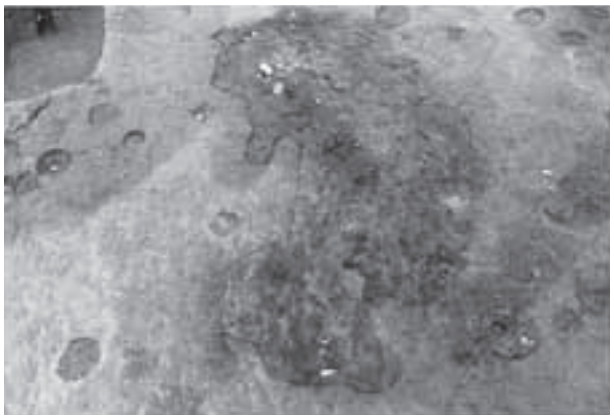
図版16　SB19完掘状況（北から）

図版17　SB21完掘状況（北から）

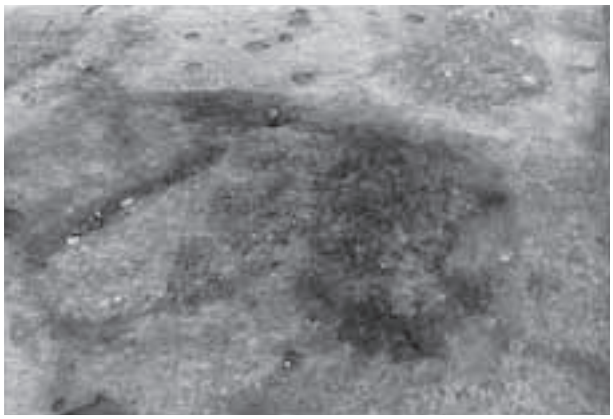


図版18　SB23完掘状況（西から）

図版19　柵列跡（SA03・04）完掘状況（西から）



図版20　土坑（S２）検出状況（北から）



図版21　S３検出状況（東から）

図版22　S10完掘状況（南から）

図版23　S８・50・52出土状況（西から）

図版24　S30・34・36・37・45・46・48出土状況（西から）

図版25　S34遺物出土状況（北から）

図版26　S48遺物出土状況（北から）

図版27　S７・49出土状況（南から）

図版28　S22出土状況（南から）

図版29　S12・31・32・33出土状況（北から）

図版30　Ⅱ区　全景写真

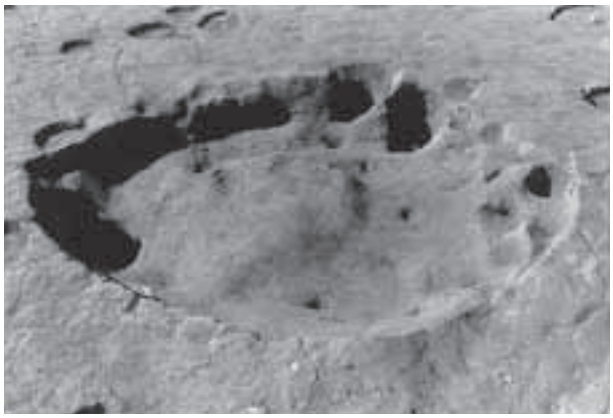
図版31　掘立柱建物跡（SB37）完掘状況（北西から）

図版32　SB78完掘状況（北東から）

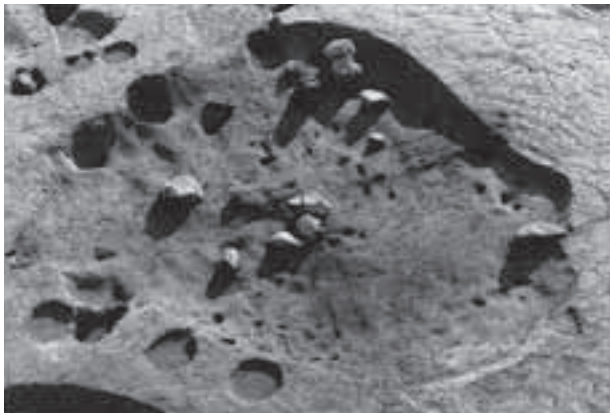
図版33　Ⅳｂ区掘立柱建物跡（SB69）完掘状況（東から）

図版34　SB68完掘状況（南東から）

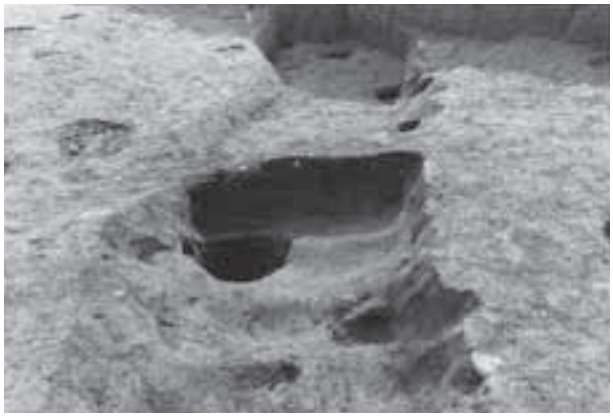
図版35　柵列跡（SA25）完掘状況（北東から）



図版36　土坑（S99）完掘状況（北から）



図版37　S105完掘状況（北から）



図版38　S108土層断面（北西から）

図版39　S110土層断面（南西から）

図版40　S112土層断面（北東から）

図版41　S113土層断面（北東から）

図版42　Ⅲ区　全景写真

図版43　掘立柱建物跡（SB48）完掘状況（北西から）

図版44　SB53完掘状況（北から）

図版45　柵列跡（SA18・20）完掘状況（西から）

図版46　土坑（S137）完掘状況

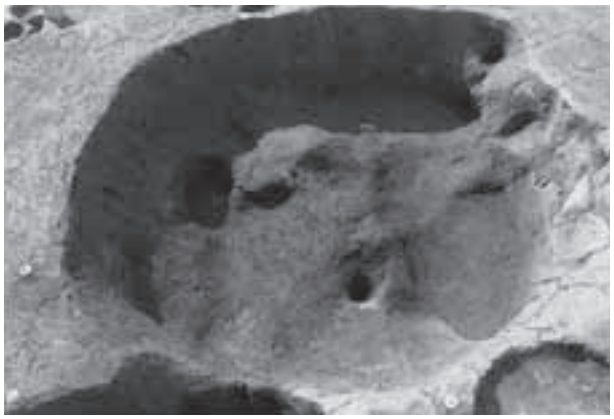
図版47　S147完掘状況（南西から）

図版48　S150完掘状況（北西から）

図版49　S152完掘状況

図版50　S162完掘状況（北から）

図版51　土壙墓（S169）人骨出土状況



図版52　土坑（S181）完掘状況（北から）

図版53　S199土層断面

図版54　Ⅳａ区・Ⅳｂ区　全景写真

図版55　Ⅳａ区掘立柱建物跡（SB79）完掘状況（南東から）

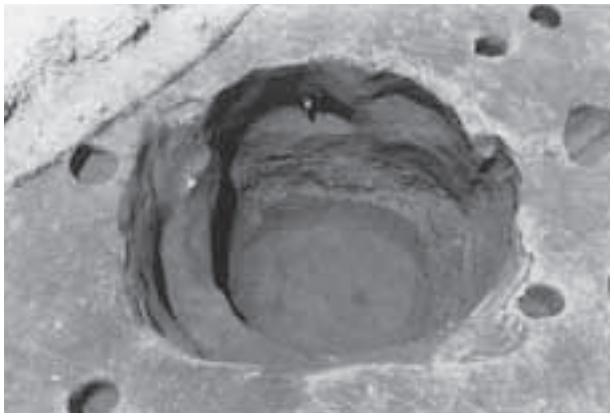
図版56　土坑（S234）完掘状況（南から）

図版57　S235完掘状況（南から）

図版58　S239・246完掘状況（北から）

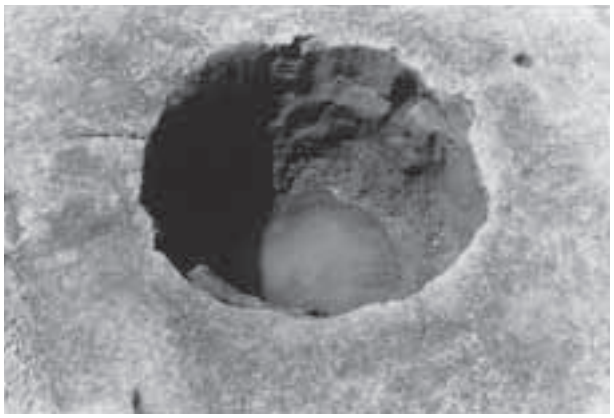
図版59　Ⅳｂ区井戸跡（S228）遺物出土状況（南から）

図版60　S228遺物出土状況（西から）



図版61　S228完掘状況（東から）

図版62　S230遺物出土状況（南西から）



図版63　S230完掘状況（東から）

図版64　土坑（S213）土層断面（北東から）

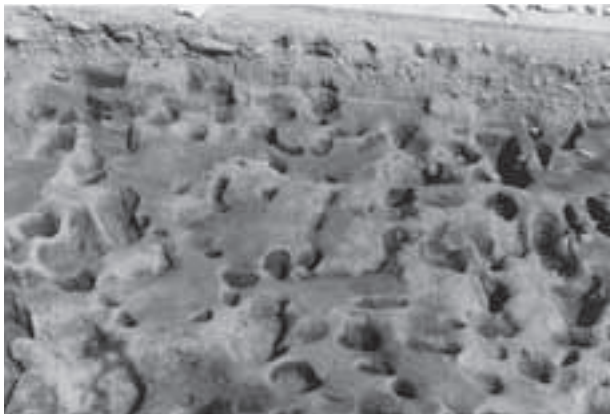
図版65　S213遺物出土状況（北東から）

図版66　S232土層断面（西から）

図版67　Ｖａ区　全景写真

図版68　掘立柱建物跡（SB82）完掘状況（南西から）

図版69　SB92完掘状況（南東から）



図版70　SB99完掘状況（南から）

図版71　SB101完掘状況（北から）

図版72　SB130完掘状況（東から）

図版73　SB132完掘状況（南から）

図版74　SB136完掘状況（西から）

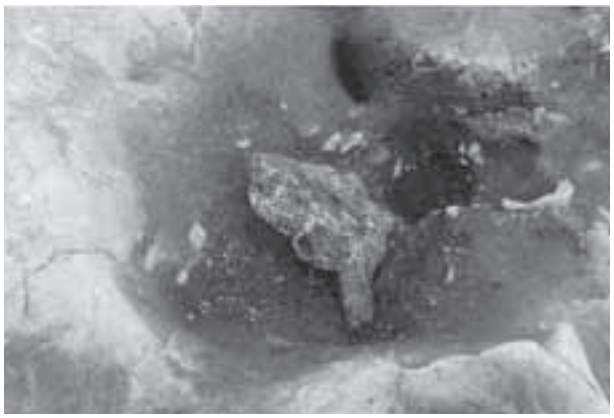
図版75　土壙墓（S388）遺物出土状況（北から）

図版76　S388検出状況（東から）

図版77　S388人骨出土状況（東から）

図版78　S380遺物出土状況（北から）

図版79　S380完掘状況（東から）



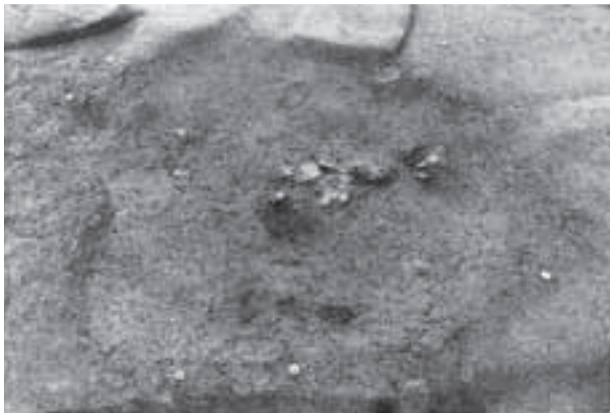
図版80　不明遺構（S287）牛頭出土状況（南から）

図版81　S287土層断面（東から）

図版82　S317人骨出土状況（北から）

図版83　土坑（S355）遺物出土状況（南から）

図版84　S367土層断面（南から）



図版85　S368遺物出土状況（北から）

図版86　S384・385・373遺物出土状況（南東から）

図版87　S397土層断面（西から）

図版88　Ｖｂ区　全景写真

図版89　井戸跡（S374）遺物出土状況（南から）

図版90　S374木枠検出状況（東から）

図版91　S374木枠検出状況（北から）

図版92　S374土層断面

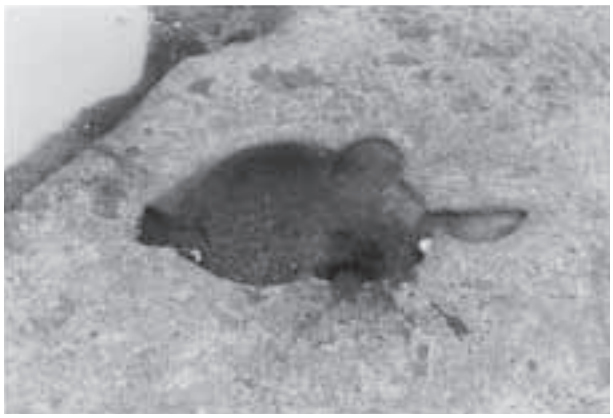
図版93　S479検出状況（南から）

図版94　S479土層断面（南東から）

図版95　S479主体部検出状況（東から）

図版96　S479半裁状況

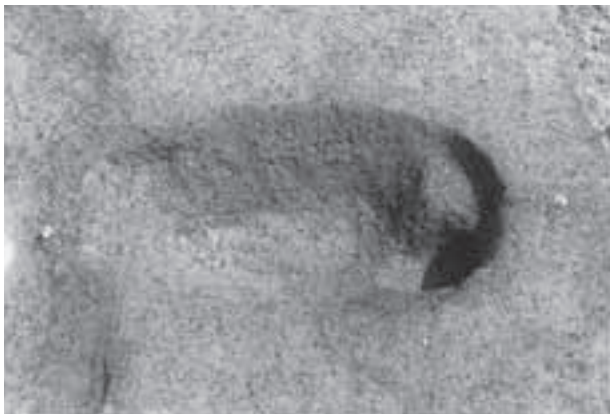
図版97　土坑（S461）完掘状況（西から）



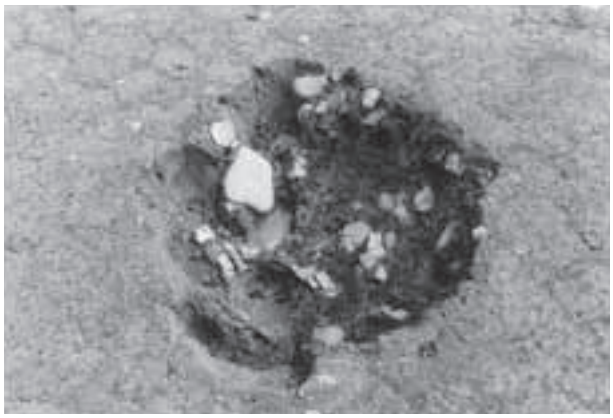
図版98　S463完掘状況（北から）

図版99　溝跡（S456）土層断面（1）（南東から）

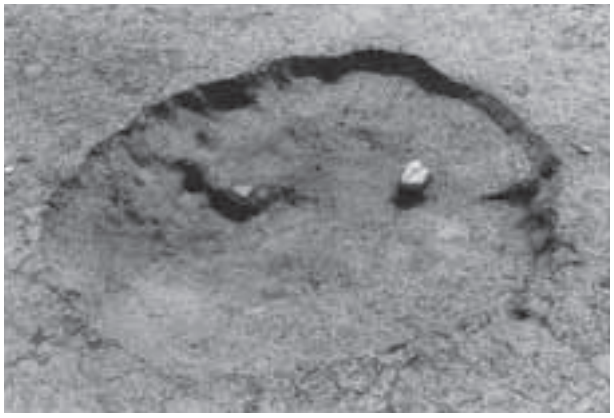
図版100　S456土層断面（2）（西から）



図版101　土坑（S466）完掘状況（西から）



図版102　S469遺物出土状況（南から）



図版103　S472完掘状況（北から）

図版104　S475完掘状況（南から）

図版105　S482土層断面（北西から）

図版106　S483完掘状況（南から）

図版107　S488完掘状況（北から）

図版108　S495・497完掘状況（東から）

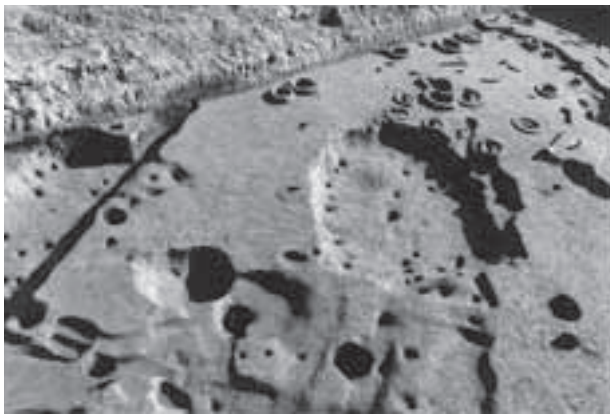
図版109　Ⅵ区　全景写真

図版110　掘立柱建物跡（SB108）完掘状況（北西から）

図版111　SB111完掘状況（北西から）

図版112　SB112完掘状況（北東から）

図版113　SB113完掘状況（北東から）



図版114　SB114完掘状況（西から）

図版115　SB116完掘状況（南西から）

図版116　井戸跡（S290）土層断面（南から）

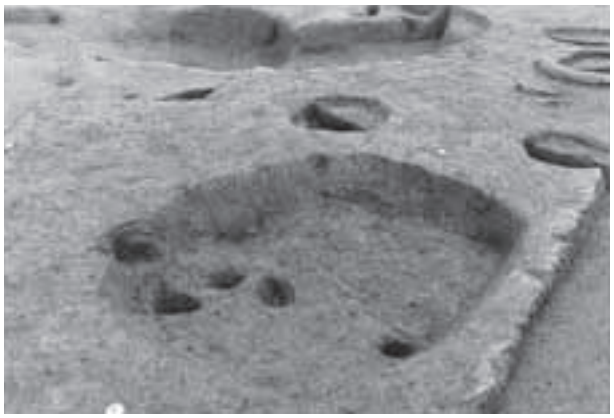
図版117　溝跡（S291）遺物出土状況（東から）

図版118　土坑（S292・293・298）土層断面（南東から）

図版119　S292～298完掘状況（南から）

図版120　S299完掘状況（北西から）

図版121　S313完掘状況（東から）



図版122　S312完掘状況（南西から）

図版123　S314・315完掘状況（北東から）

図版124　S319完掘状況（南から）

図版125　S325土層断面（東から）

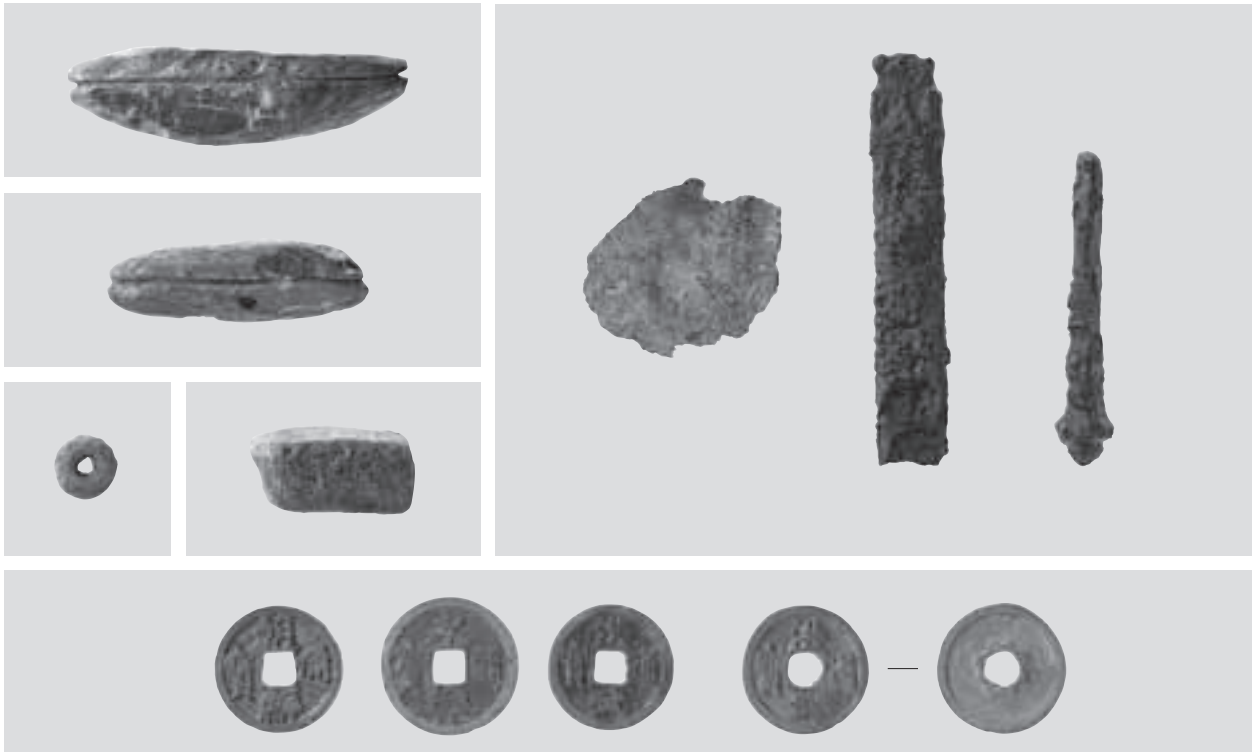
図版126　S326完掘状況（北西から）

図版127　S327完掘状況（東から）

図版128　S328完掘状況（南西から）

図版129　S344土層断面・完掘状況（西から）

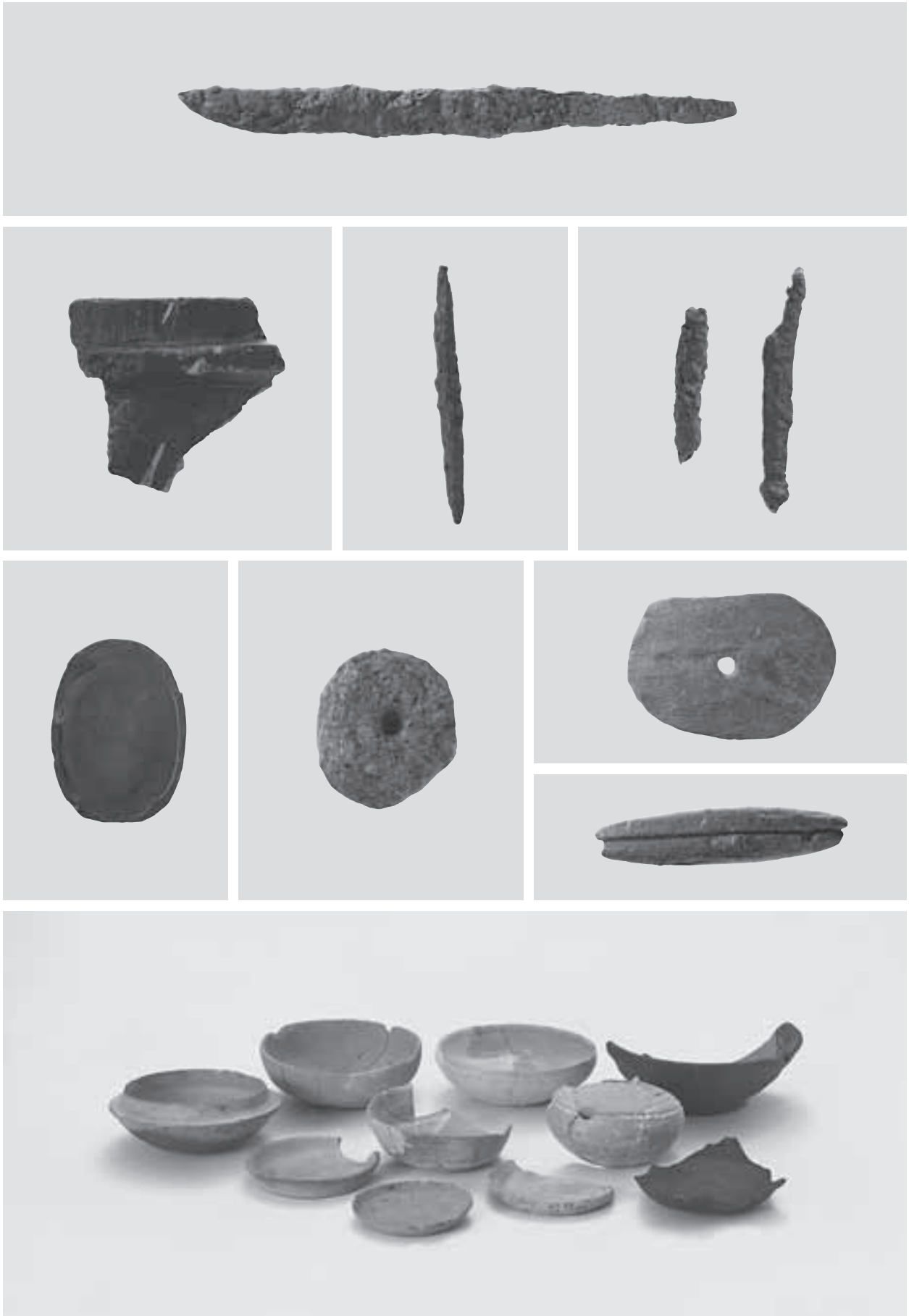
図版130　Ⅰa区出土遺物



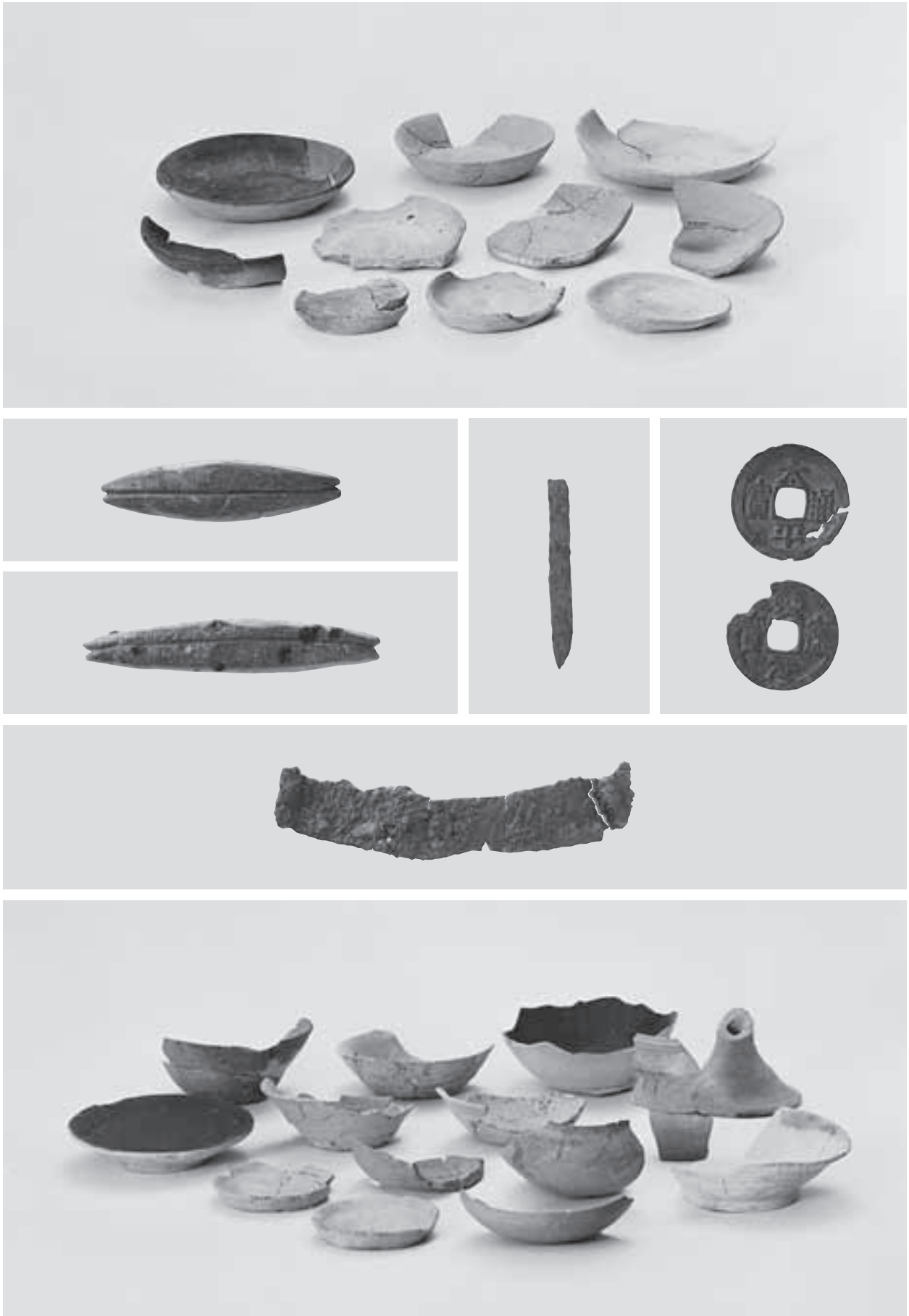
図版131　Ⅲ区出土遺物（1）

図版132　Ⅲ区出土遺物（２）

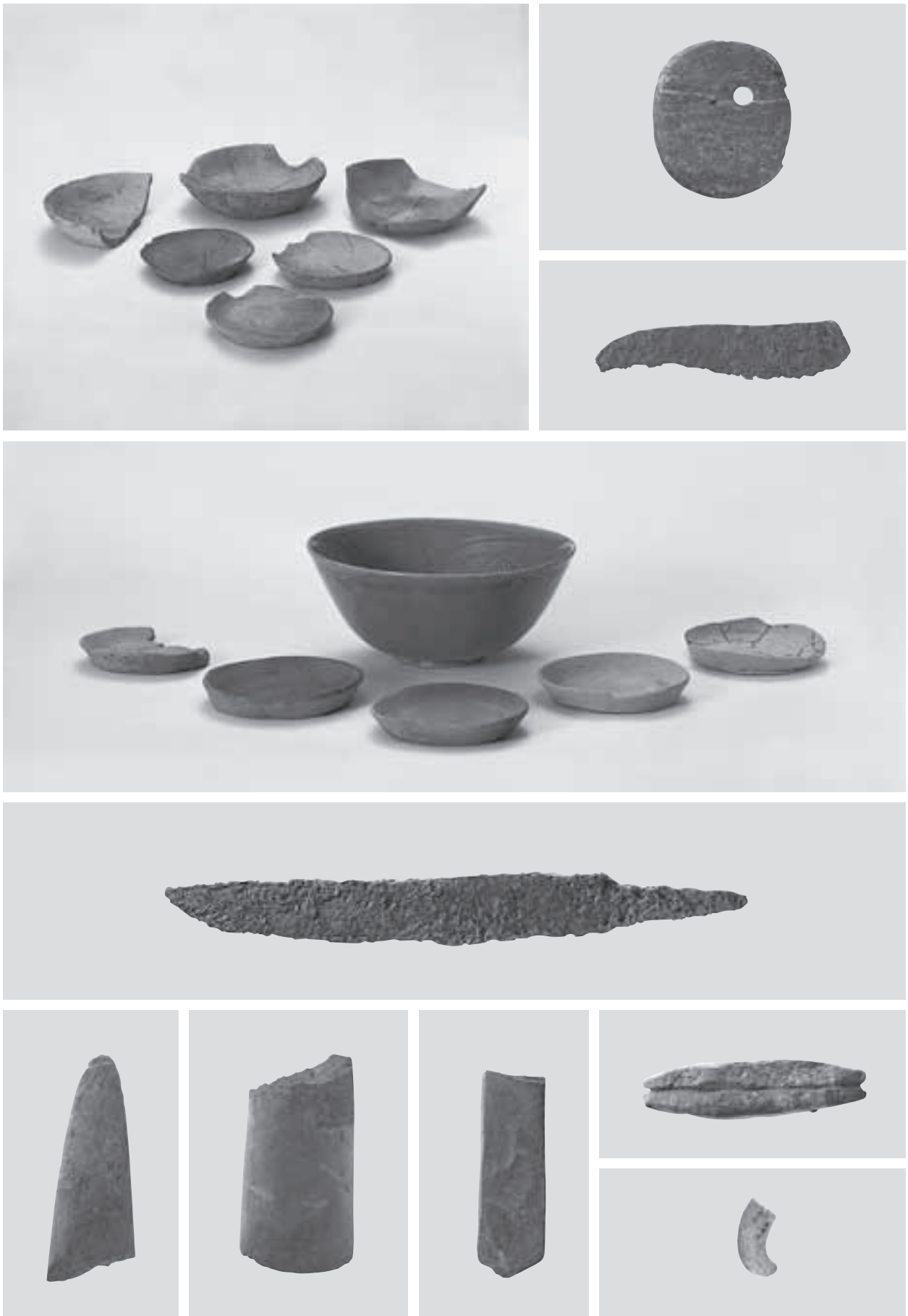
図版133　Ⅰｂ区出土遺物（１）



図版134　Ⅰb区出土遺物（2）

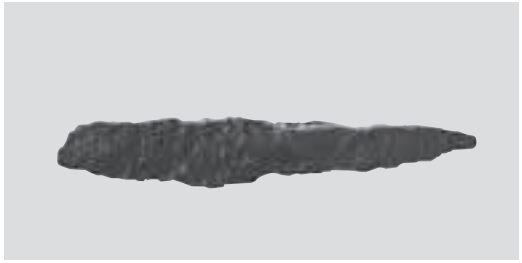


図版135　Ⅱ区出土遺物



図版136　Ⅳｂ区出土遺物（１）

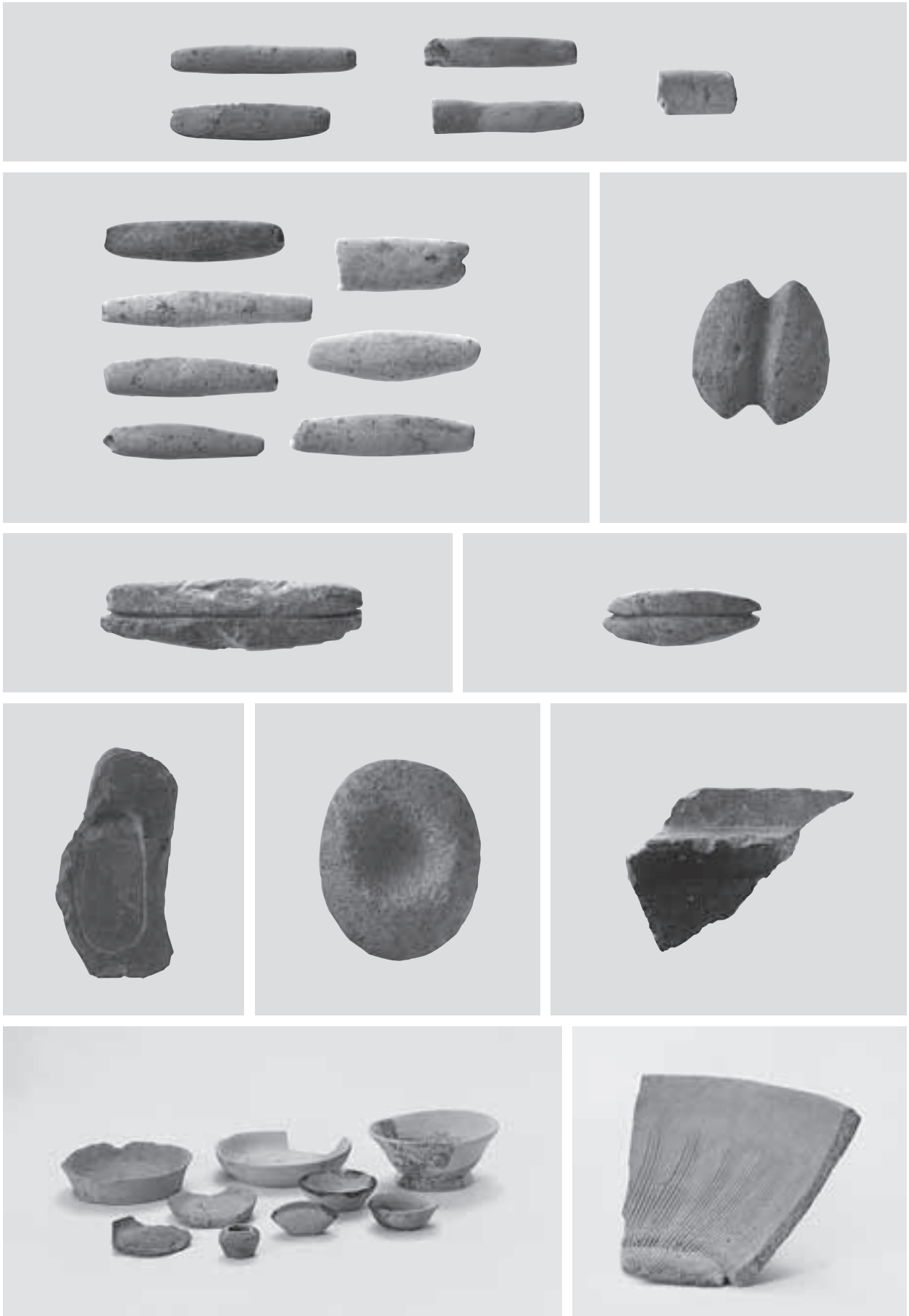
図版137　Ⅳｂ区出土遺物（２）



図版138　Ⅳａ区出土遺物

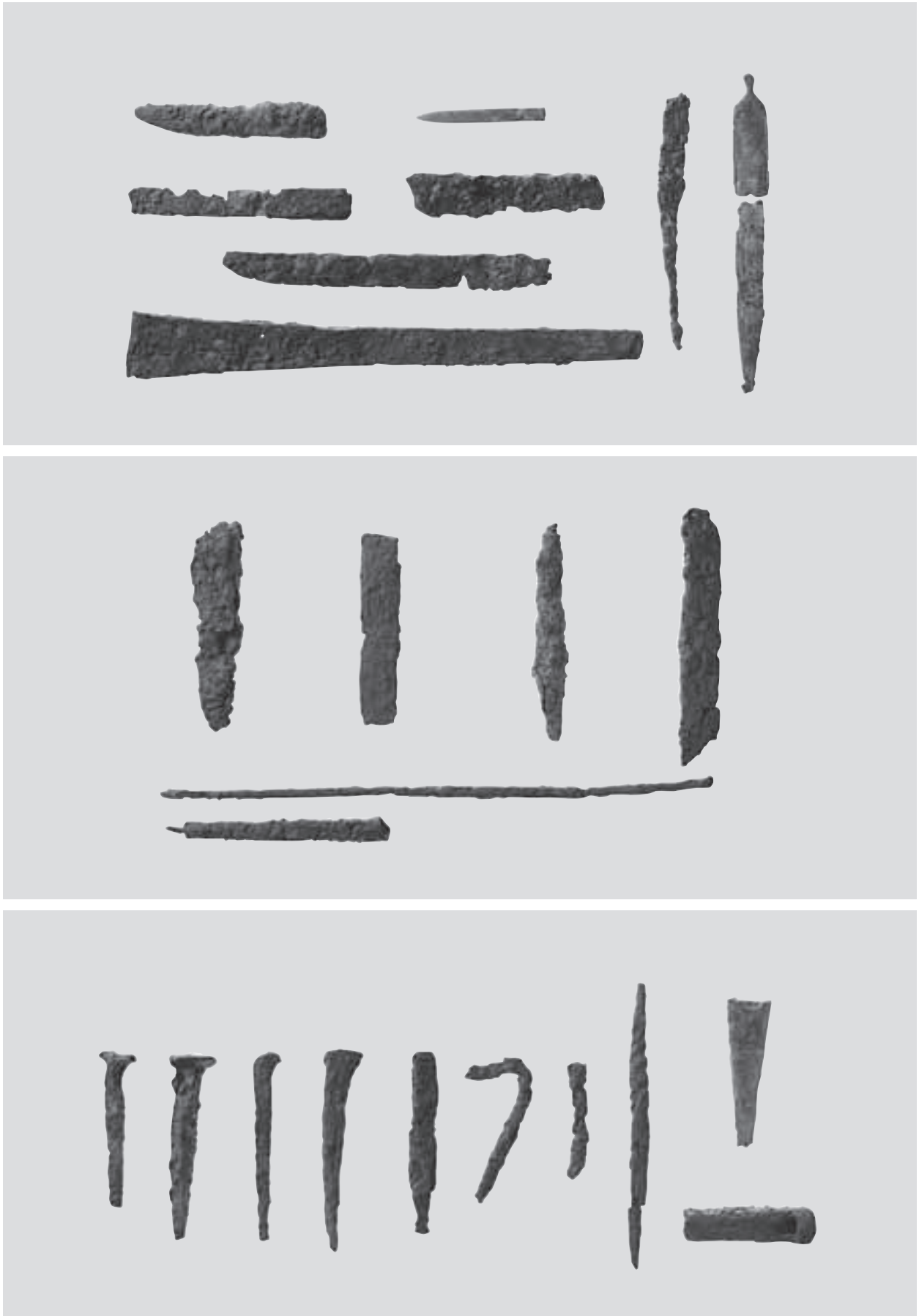
図版139　Ⅴａ区出土遺物（１）

図版140　Ⅴa区出土遺物（2）

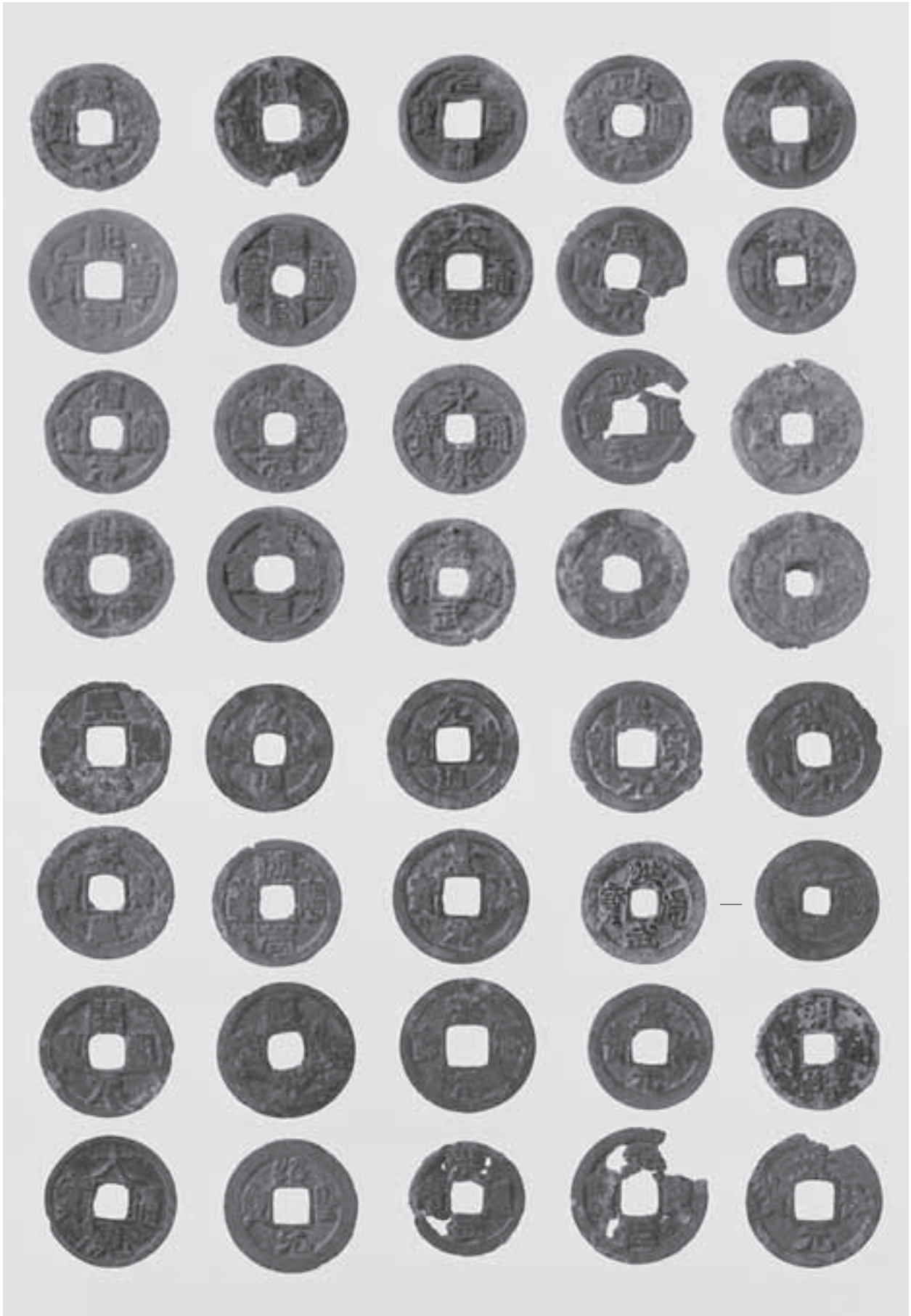


図版141　Ｖａ区出土遺物（３）

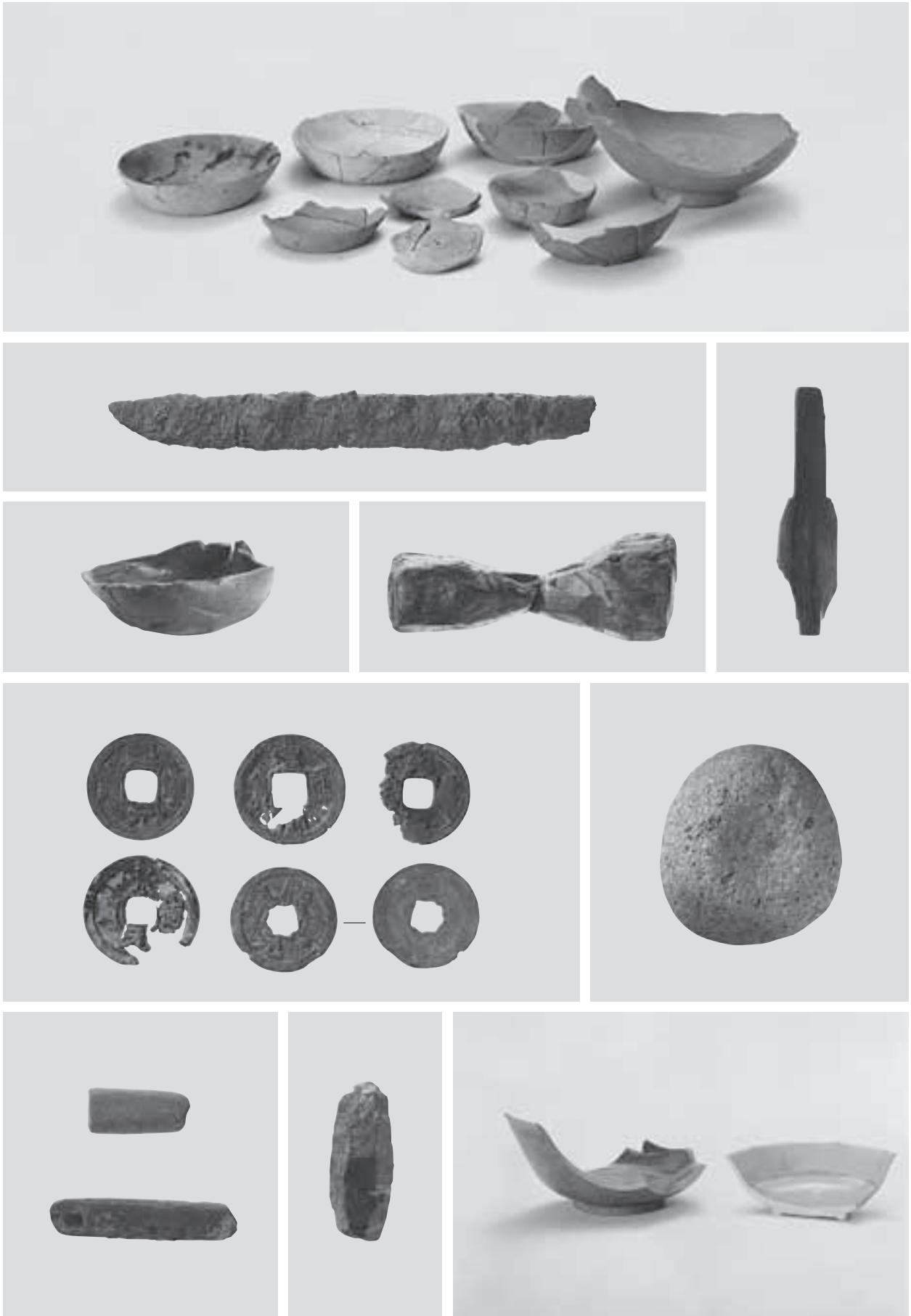
図版142　Ⅴａ区出土遺物（４）



図版143　Ｖａ区出土遺物（５）



図版144　Ｖａ区出土遺物（６）



図版145　Ｖｂ区出土遺物

図版146　Ⅵ区出土遺物

あ と が き

南九州西回り自動車道計画に伴う芦北球磨線緊急地方道路整備事業のために、平成15年度から17年度で埋蔵文化財発掘調査が行われました。整理作業は18年度に開始したものの、担当者不在と、整理中断等の中、やっと花岡古町遺跡の報告書が完成しました。

報告書にとりまとめることができたのは、ひとえに暑い時も寒い時も発掘作業をしていただいた方々、また、暖かく見守って下さった地域の皆様、整理作業に携わってくださった多くの方々の努力の賜物です。

本当にありがとうございました。

【発掘調査作業に携わった方々】

浅田テル子、浅野光太郎、浅野光廣、井川文子、今里光江、内園茂人、内塚久代、内塚諭、宇戸トメヨ、宇戸ユミ、浦田勝紀、漆下寿美子、岡本俊二、岡本信一、小川春雄、川野義治、川野絹子、川野和子、川村ミサヨ、川村良助、佐竹重信、佐竹直美、佐竹二三四、白上真也、城迫潤一、杉村ツギエ、栂ユウ子、高瀬仁幸、高田美加、竹永照子、田口智広、立杉ミチル、立岡貞芳、田中克則、田端京子、塚本志保、土井政巳、徳永毅、鳥居ミヨコ、中村正史、中滝キクエ、永野絵里、成田清美、成田眞樹、野口千代子、松崎由香里、橋本マツ、平生裕二、平藪ハスミ、前樫政信、前坂國秀、馬把菜々美、蓑田真弓、宮島孝子、宮田敏子、元山マサヨ、本山千代子、守山和男、山下美智子、山田光徳、山田康廣、吉田義之

（以上、敬称略、五十音順）

【整理作業に携わった方々】

川井田久子、興梠富貴子、瀬口絹代、髙松孝子、手嶋裕子、府内博子、松本直枝、松本裕子、宮崎典子、鍋島望、吉武知佐子

（以上、敬称略・五十音順）

報 告 書 抄 録

ふ り が な	はなおかふるまちいせき
書　　名	花岡古町遺跡
副 書 名	芦北球磨線緊急地方道路整備事業に伴う埋蔵文化財調査
シ リ ー ズ名	
シリーズ番号	第273集
編 集 者	西住欣一郎、廣田静学、木村元浩
編 集 機 関	熊本県教育委員会
所 在 地	〒862-8609　熊本市水前寺６丁目18番１号
発 行 年 月 日	2012年３月23日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
はなおかふるまちいせき 花岡古町遺跡	くまもとけんあしきたぐんあしきたまち おおあざはなおか　あざたけした 熊本県葦北郡芦北町 大字花岡字竹下385-9	43482	038	32度 18分 4.9秒	130度 30分 35.1秒	2003．５．27 ～ 2005．10．28	約6,380㎡	芦北球磨線 緊急地方道 路整備事業 に伴う埋蔵 文化財調査

所収遺跡名	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
花岡古町遺跡	中世	掘立柱建物跡 柵列跡 土壙墓 溝跡 井戸跡 土坑 不明遺構	土師器 陶磁器 須恵器 瓦質土器 石製品 青銅製品 古銭	花岡古町遺跡は、不知火海に注ぐ佐敷川の下流、近世佐敷城と中世佐敷城東の城の間の狭小な平地にあります。ここは、薩摩街道と相良往還の合流点であり、古くから陸海の交通の要所となっていました。調査で輸入陶磁器や古銭が多量に出土し、遺構も掘立柱建物が密集して検出されている。

熊本県文化財調査報告　第273集

花岡古町遺跡

芦北球磨線緊急地方道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

発行年月日　平成24年３月23日

編集・発行　熊本県教育委員会
〒862-8609　熊本市水前寺６丁目18番１号
TEL 096（333）2707

印　　刷　コロニー印刷
〒860-0051　熊本市二本木３丁目12番37号
TEL 096（353）1291

発 行 者：熊本県
所　　属：教育庁文化課
発行年度：平成23年度

この電子書籍は、熊本県文化財調査報告第 273 集を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名： 花岡古町遺跡
発行：熊本県教育委員会
〒862-8609　熊本市中央区水前寺 6 丁目 18 番 1 号
電話： 096-383-1111
URL：http://www.pref.kumamoto.jp/
電子書籍制作日：2015 年 12 月 8 日